



ヘルメスの翼に

— 小樽商科大学 F D 活動報告書 —

第 8 集

目 次

はじめに

— 学 部 編 —

第 1 章 F D 活動報告 (学部教育開発部門)

第 2 章 平成 21 年度「授業改善のためのアンケート」集計結果と分析

第 3 章 卒業生・企業に対する本学評価アンケートの結果

— 大学院商学研究科 (アントレプレナーシップ専攻) 編 —

第 4 章 F D 活動報告 (専門職大学院教育開発部門)

第 5 章 平成 21 年度「授業評価アンケート」集計結果と分析

— 大学院商学研究科 (現代商学専攻) 編 —

第 6 章 F D 活動報告 (大学院教育開発部門)

小樽商科大学教育開発センター

(2010 年度)

まえがき

本報告書「ヘルメスの翼に―小樽商科大学FD活動報告書―第8集」は、平成21年度における教育開発センターのFD活動をまとめたものです。

本学におけるFD活動は、平成12年度より教育課程改善委員会のもとに設置されたFD専門部会を実施主体として活動を続けてきました。その後、本学におけるFD活動を組織的に展開するために、教育課程改善委員会を発展的に解消しその機能を継承する教育開発センターが平成16年4月に設置されました。

平成19年度に教育開発センターの組織が改編され、FD活動は、学部におけるFD活動を「学部教育開発部門」が、大学院現代商学専攻におけるFD活動を「大学院教育開発部門」が、また、ビジネススクール（専門職大学院）である大学院アントレプレナーシップ専攻におけるFD活動は「専門職大学院教育開発部門」が実施主体となり展開されています。

FD活動を通じてより質の高い教育を実現するために、本学教職員、学生、関係者の忌憚のないご意見を教育開発センターにいただければ幸いです。

本報告書の表題「ヘルメスの翼に」は、本学の学章（シンボルマーク）「ヘルメスの翼に一星」がら取ったものです。本学ホームページによると、学章について次のように説明されています。

この学章「ヘルメスの翼に一星」は、商業神ヘルメスの翼の上にある一星が、北の大地から英知の光を放つ様子をあらわしたものです。下のリボンには、1910年の創立とOtaru University of Commerceの頭文字が示されています。

ヘルメス(Hermes)は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術などの神とされています。ローマではマーキュリー(Mercury)と呼ばれています。ヘルメスは2匹の蛇がからみついた翼の杖をもち、伝令の神として世界を飛翔しています。一星は、本学の前身である小樽高等商業学校以来、本学のシンボルとして用いられてきました。「北に一星あり。小なれどその輝光強し。」と謳われた本学の伝統を象徴しています。

FD活動を通じてより質の高い教育が実現でき、それによってヘルメスの翼に輝く一星がより強く光り輝くことを願って、本報告書の表題を「ヘルメスの翼に」としました。

本報告書は「学部教育開発部門」、「大学院教育開発部門」及び「専門職大学院教育開発部門」が中心となって作成したもので、作成するにあたってご協力をいただいた本学学務課をはじめとする関係教職員 みなさんに謝意を表します。

平成23年3月

学部教育開発部門（平成 21 年度）

- 部門長 荻野富士夫（一般教育等）
- 委員 大矢繁夫（教育開発センター長、教育担当副学長）
- 委員 金 鎔基（学部教務委員会委員長）
- 委員 角野 浩（経済学科）
- 委員 中浜 隆（商学科）
- 委員 片桐由喜（企業法学科）
- 委員 平沢尚毅（社会情報学科）
- 委員 鈴木将史（言語センター）
- 委員 辻 義人（教育開発センター）

専門職大学院教育開発部門（平成 21 年度）

- 部門長 奥田和重（アントレプレナーシップ専攻）
- 委員 李 濟民（アントレプレナーシップ専攻長）
- 委員 出川 淳（アントレプレナーシップ専攻）
- 委員 篠本智之（アントレプレナーシップ専攻）
- 委員 堺 昌彦（アントレプレナーシップ専攻）

大学院教育開発部門（平成 21 年度）

- 部門長 平井 進（経済学コース）
- 委員 渡辺和夫（現代商学専攻長）
- 委員 船津秀樹（大学院教務委員長）
- 委員 穴沢 眞（国際商学コース）
- 委員 石黒匡人（企業法学コース）
- 委員 石井利昌（社会情報コース）
- 委員 中川喜直（コース共通科目）
- 委員 ショーン・クランキー（言語センター）
- 委員 辻 義人（教育開発センター）

はじめに

教育開発センター長 大矢 繁夫

小樽商科大学のFD活動報告書「ヘルメスの翼に」第8集（平成21年度版）をお届けします。本学にFD専門部会が設置されたのは平成12年であり、それ以来着実にFD活動に取り組んできました。そして、平成19年度と20年度に大学院と学部それぞれにおける“FD活動の義務化”が設置基準に盛り込まれるとともに、これを受けて本学は新たに、平成19年度より大学院現代商学専攻のFD部門を独立させ、全体として、学部、専門職大学院、大学院の3つのFD部門を擁することになりました。今回の報告書も、前回同様にこの3部門の報告から構成されます。

平成20年度は、通常の「授業改善のためのアンケート」を休み、「知の基礎系アンケート」に取り組みましたが、21年度は元に戻り、「授業改善のためのアンケート」を実施しました。その分析と考察が、数量的分析や定性的分析等を含み、本報告書第2章で行われています。

学部FD部門では、平成21年11月から22年1月にかけて、卒業生及びその就職先を対象にしてアンケート調査を実施しました。卒業生に対しては、本学で受けた教育をどのように評価しているか、就職先に対しては、本学出身者をどのように評価しているか、ということ調査する目的で行ったものです。このアンケートは、新たな試みであり、本報告書の第3章がこの調査結果を扱っています。

本報告書第4章と第5章は、専門職大学院アントレプレナーシップ専攻におけるFD活動の報告と「授業評価アンケート」の集計結果および分析を載せています。

大学院現代商学専攻では、平成21年度、大学院学生ならびに科目担当教員に対して、学習・研究活動や指導をめぐる諸問題についてのアンケートを実施しました。その結果は第6章に載せられています。

国立大学法人は、平成22年度から第2期中期目標・計画の期間に入っています。本学の、学部と2つの大学院専攻がともに、「北の一星の輝光」をより強めることができるように、3分野のFD活動がいっそう充実していくよう願ってやみません。

目 次

まえがき

はじめに.....教育開発センター長 大 矢 繁 夫

一学 部 編一

第1章 FD活動報告

| | | |
|---------|------------------------------------|----|
| 1. 1 | 学部教育開発部門の活動状況..... | 1 |
| 1. 1. 1 | 学部教育開発部門の活動..... | 1 |
| 1. 1. 2 | 研修会等の実施..... | 1 |
| | (1)新任教員研修会の実施..... | 1 |
| | (2)FDワークショップ ^o の実施..... | 1 |
| 1. 1. 3 | 平成21年度「授業改善のためのアンケート」の実施..... | 2 |
| 1. 1. 4 | 卒業生・企業に対する本学評価アンケートの実施..... | 2 |
| 1. 1. 5 | FD活動報告書「ヘルメスの翼に」第7集の発行..... | 2 |
| 1. 1. 6 | 学科単位での授業改善の取組..... | 2 |
| 1. 1. 7 | FDコラム..... | 10 |

第2章 平成21年度「授業改善のためのアンケート」集計結果と分析

教育開発センター助教 辻 義人

| | | |
|---------|-------------------------|--|
| 2. 1 | 調査の概要..... | |
| 2. 1. 1 | 調査目的..... | |
| 2. 1. 2 | 調査方法..... | |
| 2. 1. 3 | 質問項目の構成..... | |
| 2. 2 | アンケート結果と考察..... | |
| 2. 2. 1 | 基礎集計..... | |
| 2. 2. 2 | 数量的分析の結果と考察..... | |
| 2. 2. 3 | 定性的分析の結果と考察..... | |
| 2. 3 | 総合考察..... | |
| 2. 3. 1 | 授業改善アンケートの項目検証..... | |
| 2. 3. 2 | クラスサイズとアンケート結果との関連..... | |
| 2. 3. 3 | 授業改善に向けて得られた知見..... | |
| 2. 3. 4 | 本調査の問題点・今後の課題..... | |
| 2. 4 | 本調査の結論..... | |

第3章 卒業生・企業に対する本学評価アンケートの結果

教育開発センター助教 辻 義人

| | | |
|-------|--------------------|-------|
| 3.1 | 調査の目的と概要 | |
| 3.2 | 卒業生を対象としたアンケート | |
| 3.2.1 | 回答者の属性 | |
| 3.2.2 | 回答者の所属する業種 | |
| 3.2.3 | 本学の教育活動に対する満足度 | |
| 3.2.4 | 本学での学習を通して身につけた能力 | |
| 3.2.5 | 本学での学習を通して身につけた能力 | |
| 3.2.6 | 本学の学習活動と社会生活への貢献 | |
| 3.2.7 | 卒業生を対象とした調査の考察 | |
| 3.2.8 | 卒業生を対象とした調査の結論 | |
| 3.3 | 就職先を対象としたアンケート調査 | |
| 3.3.1 | 回答者の属性 | |
| 3.3.2 | 回答者の所属する業種 | |
| 3.3.3 | 就職先による本学卒業生の印象 | |
| 3.3.4 | 本学出身者の採用の際に重視した項目 | |
| 3.3.5 | 本学卒業生の優れていると思われる資質 | |
| 3.3.6 | 就職先を対象とした調査の考察 | |
| 3.3.7 | 就職先を対象とした調査の結論 | |
| 3.4 | 総合考察 | |
| 3.5 | 本調査の結論 | |

－ 大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 －

第4章 FD活動報告

| | | |
|-------|--------------------------|-------|
| 4.1 | 専門職大学院教育開発部門の活動状況 | |
| 4.1.1 | 専門職大学院教育開発部門の活動 | |
| 4.1.2 | 研修会の開催状況 | |
| 4.1.3 | 授業評価等の実施状況 | |
| | (1) 平成21年度「授業評価アンケート」の実施 | |
| | (2) 教員相互の授業参観の実施 | |
| | (3) 教員による自己評価の実施 | |
| 4.1.4 | FD活動報告書「ヘルメスの翼に」第7集への掲載 | |

第5章 平成21年度「授業評価アンケート」集計結果と分析

専門職大学院教育開発部門長 教授 奥田 和重

| | | |
|-------|-----------------------------|-------|
| 5.1 | 質問項目 | |
| 5.2 | アンケートの集計結果 | |
| 5.3 | アンケート分析 | |
| 5.3.1 | 「教員の教授法について」の分析 | |
| 5.3.2 | 「自由記述欄」の分析 | |
| 5.4 | 成績評価 | |
| 5.4.1 | 履修者数と単位取得者数 | |
| 5.4.2 | 取得単位数とGPA | |
| | 付録Ⅰ 平成16年度から平成21年度までの評価値の推移 | |
| | 付録Ⅱ 自由記述 | |
| 5.5 | 自己評価 | |

－ 大学院商学研究科現代商学専攻専攻 編－

第6章 FD活動報告

| | | |
|-------|----------------------|-------|
| 6.1 | 大学院教育開発部門の活動状況 | |
| 6.1.1 | 大学院教育開発部門の活動 | |
| 6.1.2 | 「大学院FDアンケート」集計結果について | |

第1章 FD 活動報告
(学部教育開発部門)

第1章 FD 活動報告

1. 1 学部教育開発部門の活動状況

1. 1. 1 学部教育開発部門の活動

平成 21 年度の学部教育開発部門会議は 7 回開催された。主な審議内容は以下のようである。

- (1) FDに関する研究 テーマ：「知の基礎系の教育効果の検証」
- (2) FD活動報告書 「ヘルメスの翼に（第7集）」の発行
- (3) 新任教員研修の一環としての「教員相互の授業参観」の実施
- (4) FDコラムの学報への掲載
- (5) FDワークショップの実施 「知の基礎系科目は学生に何をもたらしたか？」
- (6) 学科単位での授業改善の取組について
- (7) 平成 21 年度「授業改善のためのアンケート」の実施について
- (8) 小樽商科大学卒業生及び就職先企業への「小樽商科大学の評価に関するアンケート」の実施について

1. 1. 2 研修会等の実施

(1) 新任教員研修会の実施

- ・平成 21 年度に実施した新任教員研修会の内容は次のとおりである。

日時 平成 21 年 4 月 2 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分

場所 事務棟第 2 会議室・3 号館 104 講義室ほか

参加者 新任教員 7 名

- ・研修内容

講演 1) 山本学長

「小樽商科大学の現状と課題」

講演 2) 大矢教育担当副学長

「小樽商科大学の教育課程について」

「本学の FD 活動について」

講義室機器説明会（説明者 奥田副学長）

(2) FDワークショップの実施

学部教育開発部門は、平成 21 年 12 月 9 日に、本学教職員を対象に「知の基礎系科目は学生に何をもたらしたか？ -本学の初年次教育に対する教員の期待と現実-」（報告者：

教育開発センター（辻 義人助教）をテーマにFDワークショップを開催した。

1. 1. 3 平成 21 年度「授業改善のためのアンケート」の実施

平成 21 年度の「授業改善のためのアンケート」は、平成 19 年度にアンケート項目の見直しと改訂をおこなったスリム化したアンケートによって、458 科目を対象に実施された。

平成 21 年度「授業改善のためのアンケート」集計結果と分析は第 2 章に掲載している。

1. 1. 4 卒業生・企業に対する本学評価アンケートの実施

小樽商科大学で学んだことの教育効果を検証するため、小樽商科大学卒業生（3 年前に卒業した学生）及び卒業生の就職先に対して「小樽商科大学の評価に関するアンケート」を実施した。

卒業生・企業に対する本学評価アンケートの集計結果は第 3 章に掲載している。

1. 1. 5 FD活動報告書「ヘルメスの翼に」第 7 集の発行

FD活動報告書「ヘルメスの翼に」第 7 集は、FD専門部会が平成 20 年度に活動した内容をまとめたもので、平成 22 年 3 月に出版され、本学関係部署、教員、学生に配付している。

1. 1. 6 学科単位での授業改善の取組

平成 18 年度より、授業改善への取組みは主として学科単位で推進され、各学科の意向に沿った形で、趣向を凝らした授業改善の取組が展開されている。学部教育開発部門では、年度当初に取組計画書を、年度末に報告書を提出してもらい、集約のうえ報告内容を公表し、次年度の計画に役立ててもらっている。

以下に、平成 21 年度の各学科等の授業改善の報告内容を掲載する。

○経済学科

経済学科は、これまで積極的に授業改善につながる取り組みを進めてきたが、今年度も同様に授業改善の取り組みを以下の通り推進してきた。

1. 基幹科目一年次配当の「経済学入門Ⅰ」「経済学入門Ⅱ」に関する検討会を、今年度の講義終了後の平成 22 年 2 月 17 日（水）に実施した。

出席者 平成21年度経済学入門Ⅰ担当 鵜沢秀教授
平成21年度経済学入門Ⅱ担当 和田良介教授
平成22年度経済学入門Ⅰ担当予定者 中村健一准教授
経済学入門Ⅱ担当予定者 横田宏治教授
経済学科学部教育開発部門委員 角野浩教授

・本検討会は次の目的を達成するために実施した。

1) 新入生向け経済学概論に相当する科目の講義内容の平準化のため。

2) 「経済学入門Ⅰ」「経済学入門Ⅱ」は例年担当者が交代するが、交代することにより、授業内容および授業水準が変化しないように、経済学科で取り決めた基準の再確認を行った。

具体例：共通化したテキストの採択、マークシート方式の期末試験の実施。

3) 次年度授業担当者が、前年度授業担当者から授業実施時に発生した問題点を引き継ぐことにより、次年度の授業を円滑に進めることができるようにした。

具体例：採択中のテキスト（スティグリッツ入門経済学 第3版）の再検討が必要である事を確認した。

2. 新任教官向け授業参観、授業検討会を下記の通り実施した。

・新任教官向け授業参観について

授業科目：中級マクロ経済学 担当：横田 宏治 先生

実施日時：平成21年6月29日（月） 12:50～14:20

実施場所：2号館3階MH1教室

・授業検討会日時、場所

実施日時：平成21年6月29日（月） 14:30～15:30

実施場所：2号館3階MH1教室

検討内容：講義の準備、プロジェクター等の機器を用いた講義の進行等で、受講学生を考慮した方法などの担当教官：横田宏治教授からの説明と、新任教官：小島直樹准教授、水島淳恵准教授、劉慶豊准教授との質疑応答などを行った。

3. 定期試験の過去の問題の公表について

- ・経済学科として公表の場を設けることを平成16年度第10回学科会議で決定しているが、この合意に基づき、定期試験過去問題の公表を行った。

具体例：経済学科ホームページ上に掲載し、学生が閲覧可能とした。

4. 授業改善の取り組みの対外発信

- ・平成20年度授業改善のためのアンケート結果の客観評価部分を、例年通り学園便りに掲載した。

具体例：小樽商科大学 学園便り GAKUEN DAYORI, 22 DECEMBER 2009, No. 157 発行において、『2008年度 経済学科授業評価』として、「授業改善のためのアンケートの概略」および「経済学科の科目別集計結果」を掲載した。

○商学科

平成21年5月21日付けの「商学科での授業改善の取り組みについての実施計画書」に基づいて、今年度に商学科は下記のとおり実施した。

1. 学部カリキュラムにかかわる意見交換会

日時：平成22年2月17日（水）12時40分～13時45分

場所：1号館（研究棟）会議室A

意見交換会では、平成21年3月23日開催の学部・大学院合同教授会で報告された「小樽商科大学の将来構想に関する中間まとめ（案）」のなかで、今年度中に将来構想委員会が再度検討し、提示するであろう学部カリキュラム案をふまえて、以下の点について検討する予定であった。

中期的な視点から商学科の学部カリキュラムのあり方について、具体的には各講座に設置されている授業科目の名称と数、授業科目と担当教員の関連性、単位数、配当年次など現行の学部カリキュラムを全体的に見直し、改善の方向性と内容について検討する。

しかし今年度、将来構想委員会は「小樽商科大学の将来構想に関する中間まとめ（案）」のなかの財務と人事について重点的に検討し、学部カリキュラムについてはほとんど検討しなかった。そこで意見交換会では、平成21年3月23日開催の学部・大学院合同教授会で報告された「小樽商科大学の将来構想に関する中間まとめ（案）」のなかの学部カリキュラム案について、①コア科目（「経営学原理」「統計学」「簿記」の3科目）を設置する必要性、商学科教員が「経営学原理」と「簿記」を担当する場合の問題点、②商学科にかかわるプログラムであ

る「経営と組織」を中心に、商学科教員がプログラムを通じて授業科目を提供する場合に生じうる問題点、などについて意見交換を行った。

○企業法学科

本学科は以下のような取り組みを年度当初に掲げたところである。1年間の取り組みを以下に報告する。

1 試験問題の公表

「企業法学科は不合格率が高く、昨年の後期期末試験ではその実態を踏まえて不可率 40%以下にすることを、努力目標とすることで合意を得たところである。

このようにいたった背景の一つには、教員が提供する講義が学生の水準に一定程度合致し、適切なものであれば、そして、試験が常識的なものであれば、通常の学生がまじめに勉強した結果は試験合格であろうという判断があったかと思われる。

今年度は定期試験の問題を学科内で公表することを授業改善計画のひとつとして掲げたい。その意図は授業と整合しない試験問題、非常識な(難しすぎる、授業とはまったく関係ない、など)問題を教員同士がチェックしあうというところにある。

だからといって学生に点を稼がせてあげる問題を設けることなどを許容することは当然であり、教員の裁量を否定するように運用されないことが重要であると思われる。

*上記取り組みは現時点では、未実施である。今後の課題としたい。

2 試験不合格率が 40%

回答をよせた教員らの試験結果のうち、不合格率は別紙の通りである。なお、不合格率は「不合格者÷実際に受験した学生」で算定している。

概ね 40%を下回る結果となっており、当初の目的を達成したと評価しうる。40%を超える科目は2つだけである。

64%の不可率となった科目については担当教員からその事情を聞いた。それによると、事前に出題内容を教える、最終講義では答案の書き方を指導するなど、きめ細かい授業を行なったにもかかわらず、学生の得点状況があまりにも低く、対応のすべがなかったとのことであった。

2009年度の集計に当たり、履修者数も明らかにすることとした。履修者数が対象学生数に比べて著しく少ない講義については、その理由を考えるなど、今後、なんらかの対応・検討が必要であると思われる。

また、夜間主コースは履修者が少ない傾向にあり、他学科の履修状況を勘案しながら、講義

自体のみならず、カリキュラム編成に関して全学科的な検討が必要であると思われる。

企業法学科 不可率一覧 2009年度

| 教員名 | 科目名 | 履修者数 | 試験受験者数 | 不可率 |
|-----|---------|--------------|--------|-----|
| A | 行政法Ⅰ 昼 | 96 | 87 | 21% |
| | 行政法Ⅰ 夜 | 31 | 23 | 26% |
| B | 行政法Ⅱ 昼 | 52 | 43 | 35% |
| | 法学 夜 | 29 | 26 | 31% |
| C | 社会保障法 昼 | 87 | 78 | 20% |
| | 社会保障法 夜 | 34 | 21 | 0% |
| D | 民事手続法 昼 | 26 | 15 | 33% |
| | 民事手続法 夜 | レポートにつき試験不実施 | | |
| E | 商法Ⅰ 昼 | 135 | 116 | 43% |
| F | 国際経済法 昼 | 73 | 60 | 13% |
| | 国際法 昼 | 89 | 75 | 12% |
| G | 民法基礎Ⅰ 昼 | 230 | 199 | 64% |
| | 民法Ⅳ 昼 | 91 | 72 | 26% |
| H | 知的財産法 昼 | 64 | 52 | 10% |
| | 知的財産法 夜 | 11 | 9 | 0% |
| I | | | | |
| J | 商法Ⅱ 昼 | 90 | 80 | 36% |
| | 商法Ⅱ 夜 | 11 | 8 | 25% |
| K | 民法Ⅱ 昼 | 106 | 81 | 26% |
| L | 民法Ⅲ 昼 | 87 | 55 | 35% |
| | 民法Ⅰ 夜 | 31 | 25 | 24% |
| M | | | | |
| N | | | | |

○社会情報学科

1. 公開授業（兼新任教員研修）

予定していたが実施できなかった。これは平成 22 年度計画として繰り越す。

2. 自己評価アンケートの実施と結果

対象者：社会情報学科に所属し授業を担当した教員 16 名

実施日：平成 22 年 3 月 9 日～3 月 19 日

内容は次のとおり。

(1) 質問項目①～⑦に対する自己評価

「自身が今年度担当した講義全体について評価してください」

- ① 授業の準備は十分でしたか？
- ② 黒板などの字や図は見やすかったですか？
- ③ 話し方（マイク）は聞き取りやすかったですか？
- ④ 教材（テキスト等）を効果的に使用しましたか？
- ⑤ 視聴覚機器（OHP 等）を効果的に使用しましたか？
- ⑥ 授業内容を理解しやすいように配慮しましたか？
- ⑦ 授業内容への関心を高めるように工夫しましたか？

(2) 自由意見記入

「良かった点，要改善点，特筆すべき事項を記入してください」

自己評価アンケート結果は以下のとおり。

下図では，上記の質問項目①～⑦は設問 1～設問 7 としている。

回答者：13 名

(1) 質問項目に対する自己評価結果

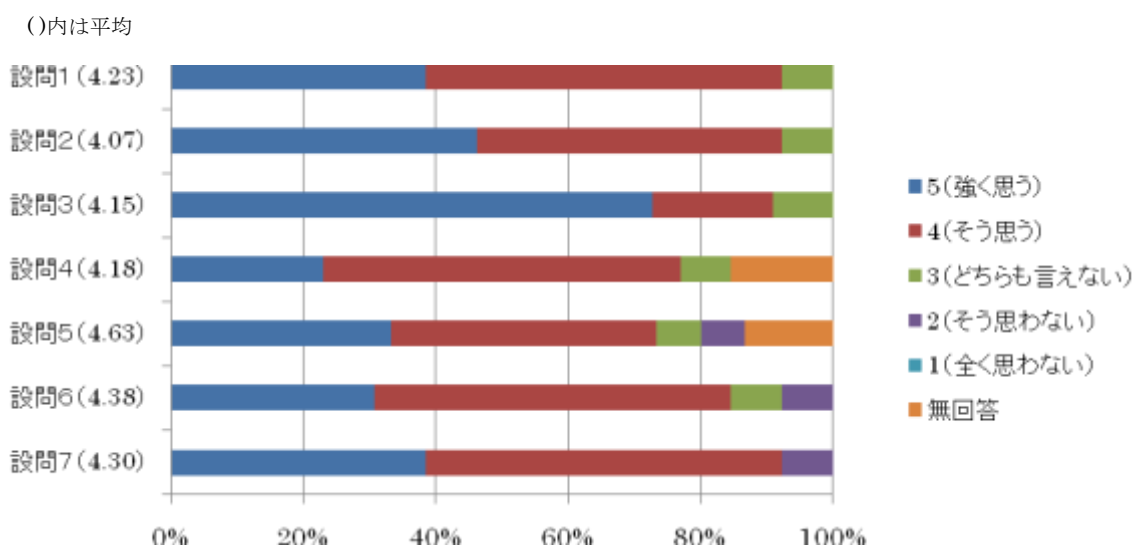


図 アンケート集計結果

(2) 自由意見記入結果

- ・ 話し方について、速いと感じる学生がいたことから、来年度の講義においては、「ゆっくり」、「重要な点は繰り返し」、話すよう改善していきたい。
- ・ 授業改善は、個人単位で個人が行うべきものである。
- ・ 演習込みの講義のあり方（講義時間、単位数）を議論すべきと考えます。講義に使用する資料の用意が、いつもギリだった。もっと余裕を持って用意すべきだったと思う（学生さんの予習のことも考えれば）。それから、黒板の使い方が下手だった。大事なことを消す羽目になったり等、計画的に使えていなかった。でもまあ、興味を喚起するという意味では、伝えるべきことは伝えられたのではないかと思う。
- ・ レポートを課すことによって、学生の文章作成能力の脆弱さ、コピペに対する問題意識の欠如を痛感した。演習等を通じて、基本的な社会人として態度、スキルを習得する場が必要に思われる。

3. カリキュラム改善の実施

昨年度に見直した学科カリキュラムに従って、下記科目を今年度に開講した。

- ・ 新設科目（1科目）
システム戦略論
- ・ 科目名変更と内容改善（2科目）
プロジェクトマネジメント基礎、実践プロジェクトマネジメント

○一般教育等

一般教育等においては、第2回学科会議において、平成21年度の取り組みとして「授業改善のための検討会議」を学科会議の終了後に行うことを決定した。結果として計3回の検討会議が行われた。

第一回（6月24日開催）

テーマ：一般教育等の将来構想について

出席者：久保田・中村・宝福・荻野・西永・片岡・兼岩・花輪・中川・菅原・上野・岡部・杉山

内容：将来構想ワーキンググループの将来構想案を受け、今後の一般教育等におけるカリキュラムの在り方や研究指導の方向性等に関して意見交換を行った。

第二回（7月29日開催）

テーマ：基礎ゼミナールの運営について

出席者：久保田・中村・荻野・片岡・兼岩・花輪・中川・菅原・上野・岡部・杉山

内容：基礎ゼミナールの運営（選考方法や成績評価）、現在の問題点、教育効果を向上させる工夫等について意見交換を行った。

第三回（2月18日開催）

テーマ：成績評価基準について

出席者：久保田・中村・片岡・兼岩・八木・上野・菅原・杉山

内容：成績評価の方法について、平成20年度の一般教育における成績評価の分布を参照しながら意見交換を行った。絶対評価と相対評価のメリットとデメリット、GPAとの関係等が議論された。

今年度は学科会議の審議内容が多かったため、それに時間をとられ例年に比してやや少ない開催数となった。しかし、行われた会議においては、テーマに関する意見交換が活発になされ、今後の授業改善に資するところは多かったと考えられる。

○言語センター

1. 平成20年度成績分布表について7月1日の言語センター会議で、検討した。特に問題点は認められなかった。
2. 平成21年12月12日第22回小樽商科大学教職研究会への参加。
3. 第2マルチメディアLLを設置した。
4. 3月11日、日本語ボランティア勉強会・講演への参加

5. 語学 Self-study e-Learning についての継続的検討

1. 1. 7 FDコラム

平成 13 年度から FD 広報として学報及び教育開発センターのホームページに「FD コラム」を掲載している。平成 21 年度に掲載した FD コラムは以下の通りである。

総合科目 II b のあり方 ～統一テーマと複数担当者～

—学報第 365 号(H21.9)掲載—

企業法学科 片桐由喜

平成 21 年度前期に、いわゆる初年次教育に位置づけられる総合科目 II b のコーディネーターを担当し、同科目の構成・担当者、講義環境、講義進行方法、学生の反応把握、等々について反省することが多い。

本年度の総合科目 II b は、統一テーマ「企業における法と倫理」を定め、複数の外部講師と本学の教員が 1 回ずつ、各自の職業や専門領域に基づいて講義をするという形式をとった。

講義折り返し時点で 1 度、また最後の試験で「もっとも印象に残っている講義はどれか、その理由とあわせて書きなさい」と言う設問を通して、学生からの意見・感想を聞いたところ、大変興味深く、傾聴に値する指摘が少なくなかった。講義折り返し地点での意見に対し、対応可能な措置は直ちに実行し、最後の試験における回答は次年度の改善点としたい。

以下には、学生からの指摘について 4 つほど紹介したい。

最初に、講義そのものの内容ではなく、講義を受ける際の外的環境についての指摘である。それは第一に、教室の広さに対する不満である。当初、多数の履修者を想定して大講義室を割り当てたが、実際は 150 名程度であった。そのため、学生達は講師との距離を遠くに感じ、講義への参加意識が希薄になったと思われる。履修者数に応じた適切な講義空間を用意することの必要性を強く感じた。なお、これは教室変更をもって対応した。

第二に、一部学生の不適切な受講態度、それに厳しく対処しない教員らに対する不快感や不満である。150 名は大人数講義に分類され、講義中に静謐を保ち、全員に誠実な受講態度をとらせることは容易なことではない。私語、携帯電話操作、「内職」、居眠りは、オリエンテーション時に厳しく禁じても、なくなる。一部学生の不適切な受講態度により、教員らの声が聞き取れない、うるさいといった不満、さらには、外部講師の講義時に、無礼な姿勢で居眠りをしている学生がいることで、当該講師が不愉快な思いをするのではないかと案ずる学生の苦

情などがある。

これは、教室管理の問題であり、教員は各自の講義中に、まじめな学生を不愉快にさせないために、講義を妨害・停滞させる学生に対し強い指導力を発揮することが強く求められる。また、外部講師の時には、コーディネーターが後ろに控えているだけではなく、講義前にこれらの講師らと十分な打ち合わせを行い、講義進行を工夫・配慮することが必要であると考えている。

次に、内容に関する指摘である。一つは、講義内容が講師間で重複することが多い、講師間でどのようなことを講義するかを事前に打ち合わせをして、整合性、連続性のある講義展開してほしいという意見である。重複は外部講師や各教員に、講義内容について一任したことの当然の結果である。学生の指摘はもともとであり、初年次教育であることを考慮すれば、単なるオムニバス形式の講義ではなく、知識や思考方法が蓄積されるような講義展開を検討する必要があるであろう。

もう一つは双方向的な講義進行、つまり講義中に教員らが学生に質問をしたり、事前レポートに対するコメントを学生に返す、さらに詳しく質問するスタイルがもっとあってほしいという指摘である。これを実践した外部講師や教員の授業が、強く印象に残ると多くの学生が回答している。このような講義スタイルを個々の教員、ましてや外部講師に必ず実践することを求めることは困難であるにせよ、考慮すべき検討課題であると考えている。

ヤマアラシの授業改善ジレンマ ～FD・SDとの適切な距離を保つ～

—学報第 368 号(H21.12)掲載—

教育開発センター助教 辻 義人

ここ数年、大学における教育の質保証に対する注目が高まっている。この概念は決して難解なものではなく、その根本は極めてシンプルである。この概念に求められていることは、以下の間に答えることに他ならない。「大学ではどのような内容をどのように教えているんですか？ そして学生はどんな能力を身につけられるんですか？」

大学における教育の質保証と、FD・SD活動（教育機関としての質の向上）とは、切り離せない関係にある。大学教育の質を保証するためには、その取り組みについての検証が必要である。つまり、大学教育の質保証を目標とすれば、FD・SD活動は、その達成手段と位置づけられる。

このような背景から、最近では、多くのFD・SD活動の実践・報告が行われている。ここ

で、特に授業改善に関する報告を概観したとき、その活動の方向性には一定の規則が見られる。一方は、理想的な授業を想定し、その実現を目指す「接近の授業改善」であり、もう一方は、望ましくない授業を想定し、それを避ける「回避の授業改善」である。以下に、それぞれの特徴を述べる。

「接近の授業改善」

望ましい授業形態や資料を参考として、それに近づけるための自発的改善を促す。

メリット：優れた授業を参考に、各教員の好みに合った改善手法を取り入れることができる。

デメリット：学問分野が異なる場合、授業改善の手がかりが得られにくい。

「回避の授業改善」

望ましくない授業展開を参考とし、それを避けるための自制を促す。

メリット：これまで気づかなかった問題点を把握し、意図的に回避できるようになる。

デメリット：講師が自らの授業を客観的に捉えられていることが前提となる。

「接近の授業改善」については、本学はもちろん、多くの教育機関において、多様な形態で実施されている。具体的には、ベストティーチャー賞や、教員間における授業の相互見学、授業評価アンケートの分析などが挙げられる。

その一方、「回避の授業改善」に関する報告例は限定的である。その中で、山形大学高等教育研究企画センターでは「あっとおどろく大学授業NG集」を作成している。これは、学生が望まない授業のあり方を取り上げ、その再現VTRをウェブで公開する試みである。複数のテーマが紹介されているが、個別のテーマは見やすくユーモラスにまとめられており、大変参考になる資料である。これは私見であるが、逆の観点から「あっと驚く大学生NG集」を作成することで、社会人基礎力（経済産業省、2007）の育成が促進されることが予想される。

さて、現在のように、授業改善に関する資料が豊富に得られる状況は、望ましいものである。しかし、授業改善の手がかりが豊富になったために、その適切な選択が難しくなりつつある。例えば、「ゆっくりとした授業ペースによる学生理解の促進」に注目すると、過度に早い授業ペースと同様、過度に遅い授業ペースでも、学生の理解度が低下することが報告されている（柳沢ら、2009）（注1）。この結果は、授業改善の実践例を模倣するのではなく、その実践例に基づき、自らの授業形態に合わせる必要があることを示している。

教育効果の向上を目指す取組みは、それ自体が非常に価値のあるものである。しかし、授業改善は目標ではなく、あくまで教育効果の向上の手段と捉えられるべきである。多様な授業改善の取組みが報告されている現在、大学には教育効果を見据えた授業改善の精選が求められて

いる。ただ教育改善の取組みに近づくだけではなく、適切な距離感を保ち、その教育効果を吟味した上での新たなアプローチが必要であるといえよう。

【参考資料】

経済産業省（2007） 今日から始める社会人基礎力の育成と評価～将来のニッポンを支える若者があふれ出す！～，平成19年度 産業競争力強化人材育成事業「社会人基礎力育成・評価手法の開発等」

山形大学高等教育研究企画センター（2009） あつと驚く大学授業NG集，学生主体型授業開発共有FDプロジェクト

柳沢昌義・國松美菜帆・福間加代子（2009） 授業における講師の話速と学生の理解度に関する研究，日本教育工学会研究報告集，Vol.09-3，87-94

（注1）柳沢らは、学習者が心地よいと感じるテンポ（パーソナルテンポ）に注目し、その早さの程度が学習者の理解度に与える影響について検討した。その結果、パーソナルテンポの早さの程度間において、理解度に統計的な差は見られなかった。しかし、学習者の理解度には、講師の話す速度だけではなく、両者のパーソナルテンポの調和、声質や話し方の「間」など、多様な要因が関連している可能性が示された。

大規模科目において学生は何を期待するのか－2009年度前期 授業改善アンケートより－

－学報第370号(H22.2)掲載－

教育開発センター助教 辻 義人

これまでの授業改善のためのアンケート結果より、学生の履修人数が増えるほど、その科目のアンケート評定値が低下しやすいことがわかっている。ここで、現時点における最新データ(2009年度前期)を用いた、履修者数とアンケート評定値との関連の検討を行った。科目履修者数の多少によって、アンケート評定値はどのように異なるのだろうか？ 特に、履修者数が多い科目において、学生は何を求めているのだろうか？

今回の分析では、2009年前期に実施した「授業改善のためのアンケート」の結果を用いた。調査対象は、アンケートを実施・回収した180科目であった。科目ごとの平均回答数は45.5件であった(最大=271件、最小=3件)。各項目の評定値の平均値などを以下に示す(表1)。

表1 2009年前期：授業改善のためのアンケート集計結果

| | 設問1 | 設問2 | 設問3 | 設問4 | 設問5 | 設問6 | 設問7 | 回答数 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.05 | 4.02 | 4.04 | 4.00 | 4.04 | 3.92 | 4.16 | 4550 |
| SD | 0.36 | 0.49 | 0.49 | 0.45 | 0.48 | 0.43 | 0.43 | 4351 |
| 最大値 | 4.88 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 4.94 | 5.00 | 4.88 | 271 |
| 最小値 | 2.70 | 2.75 | 2.60 | 2.60 | 2.40 | 2.00 | 1.60 | 3 |

調査対象：2009年前期に開講された180科目

次に、各科目から得られたアンケート回答数に基づき、開講科目を小・中・大規模の3つに分類した。小規模科目は0～49人の129科目、中規模科目は50～99人の28科目、大規模科目は100人以上の23科目であった。各規模のアンケート評定値を、以下に示す(表2、図1)。

表2 科目規模別のアンケート評定値

| | 事前情報 (シラバス) | 理解を促す工夫 | 説明や指示内容 | 教材や資料 | 学生への適切な対応 | 私語・遅刻者の対応 | 学習環境 |
|-------|----------------|---------|---------|-------|-----------|-----------|------|
| 小規模科目 | 4.06 | 4.07 | 4.06 | 3.84 | 4.09 | 4.00 | 4.24 |
| 中規模科目 | 3.97 | 3.84 | 3.93 | 3.76 | 3.95 | 3.79 | 4.04 |
| 大規模科目 | 4.10 | 3.92 | 3.97 | 3.98 | 3.85 | 3.61 | 3.81 |
| 全平均 | 4.05 | 4.02 | 4.04 | 4.00 | 4.04 | 3.92 | 4.16 |

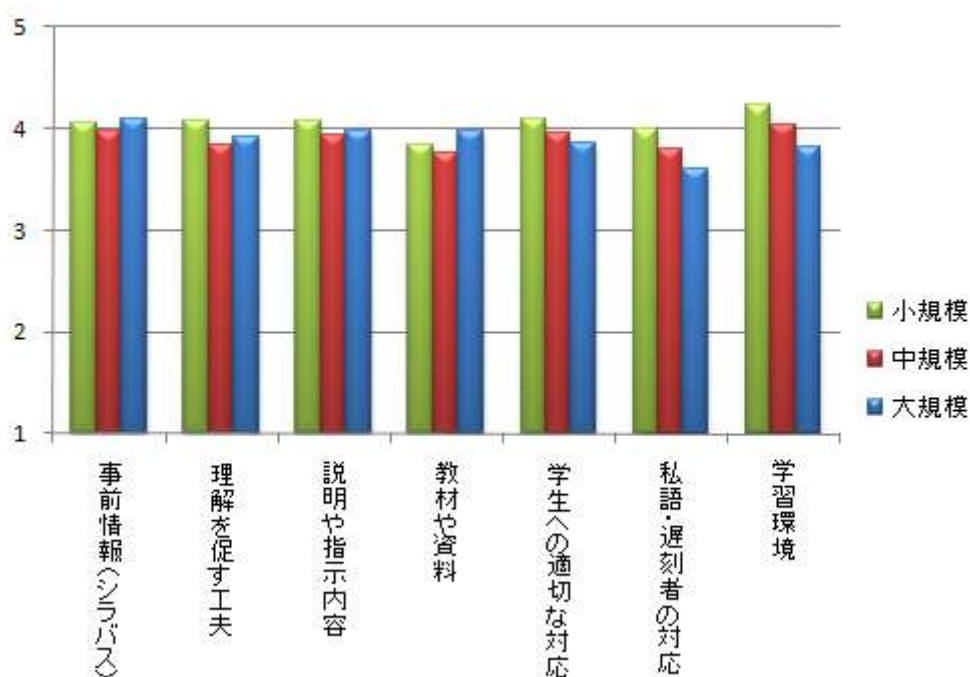


図1 科目規模別のアンケート評定値

この集計結果より、主に以下の3点の結果が読み取れる。

- (1) 全ての規模、項目において、概ね4(やや満足)に近い評価が得られた。
- (2) 項目1~4(事前情報・理解を促す工夫・説明や指示内容・教材や資料)では、科目規模間によって、さほどの評定値の変化は見られない。
- (3) 項目5~7(学生への対応・私語や遅刻者への対応・学習環境)については、科目規模が大きいほど、評価が低くなる傾向がある。

ここで、項目1~4は授業理解度に関する項目群、項目5~7は授業満足度に関する項目群と位置づけられる。

授業の理解度と満足度に関連して、授業評価に関する先行研究では、学生は「理解できたから満足する」ことが知られている。逆に、「満足できたから理解する」ことはありえない。本分析の結果は、大規模科目において「理解できたが満足できない」科目が生じている可能性を示している。

大規模科目には、小・中規模には見られない特有の問題が多いことが予想される。例えば、座れる座席がない。黒板やスクリーンが遠くて資料が読めない。周囲がうるさくて講師の発言が聞こえない。わからなくても質問できない。私語や遅刻者が多く集中できない。他にも、多様な問題があるだろう。

では、このような大規模科目の問題に対して、どのような対処が必要であろうか。上述のように、大規模科目には多様な問題があるため、全ての問題を一度に解決することは不可能である。そのため、一つ一つの問題に、個別に対処する姿勢が必要となる。

例えば、大規模科目で学生が質問できない点について、ミニットペーパーやシャトルペーパーなどを用いた意見や感想の収集が効果的であろう(シャトルペーパーの実践事例は、FDコラムNo.18に掲載)。この方法は、学生の理解度を簡単に調査できる点においても有効である。

また、私語や遅刻者による授業への悪影響については、毅然とした対応が求められる。今回は数値データのみを分析対象としているが、大規模科目における自由記述では、私語や遅刻者に関する意見が多数寄せられている。それらのほとんどは、教員に対して厳しい注意を望むものである。

これらのことから、今回の分析結果を簡単にまとめると、以下の通りとなる。

- (1) 学生は、アンケート項目における測定項目の全般について、概ね満足している。
- (2) 授業理解度については、科目規模の大小に関わらず、さほどの違いは見られない。一方、授業満足度については、大規模科目ほど評価が低下する傾向がある。
- (3) 大規模科目の問題に対して、個別の取組み(教員と学生の意見交換、私語や遅刻者への適切な対応など)が求められている。

大規模科目の問題を解決することは容易ではない。しかし、現在、多くの大学や教育機関における授業改善の取組みが報告されており、参考となりうる取組みも見受けられる。今後、FD コラムでは、これらの取組みを紹介するとともに、学内での取組みにも注目・紹介したい。

(追記)

本分析の対象は、各科目の回答者数であり、履修者数ではない。今後、各科目におけるアンケートの回収率と関連した、より詳細な検討が必要である。

第2章 平成21年度「授業改善のためのアンケート」集計結果と分析

第2章 平成21年度「授業改善のためのアンケート」集計結果と分析

教育開発センター助教 辻 義人

2.1 調査の概要

2.1.1 調査目的

本学では、FD (Faculty Development) 活動の一環として、「授業改善のためのアンケート (以下、授業改善アンケート)」を実施している。本学開講科目において、学生はどのように学習し、どのように評価を行っているのだろうか。授業改善アンケートでは、それぞれの科目に対する学生の評価や、望ましい点・改善案などを収集し、各科目の教員にフィードバックを行う。このフィードバックを通して、本学の各科目における授業改善が行われることが期待される。

一般的に、大学の授業において、学生が教員に対して授業に対する意見を表明する機会は、きわめて限定的である。その理由として、以下の2点が考えられる。第一に、学生と教員との社会的なパワーバランスによる問題である。学生が教員に対して、授業の内容や進行に意見することは、その学生に不利益をもたらす可能性がある。教員が自分自身の教育技能の向上を意図し、広く学生からの意見を募っている場合、学生は安心して授業改善のための手掛かりを教員に伝えることができるだろう。しかし、実際には、そのような立場を明確に表明している教員は決して多くはない。また、その方法としても、シャトルペーパーやミニットペーパーなど、学生が教員に意見をフィードバックしやすい手段を用意しておく必要がある。この点において、学生が教員に対して意見を伝えることは困難であるといえる。第二に、学生の授業に対する無関心である。これは、前者のように不利益を回避するために意見を表明しないのではなく、授業に対する期待がないことから生じる問題である。学生の目的が、新たな知識や技能の獲得ではなく、ただ単位を取得することのみである場合、その授業の良し悪しは学生にとって関係のないこととして扱われる。そのために、教員がどのような教育活動を行ったところで、学生からのレスポンスが得られないことが考えられる。これは、学生と教員の両者にとって、非常に不幸な状態といえる。

本学の授業改善アンケートでは、学生は、匿名で教員の授業に対する意見を表明することができる。教員は得られた意見に基づき、さらに教育効果の高い活動への手掛かりを得ることができる。このプロセスは、本学開講科目の教育効果を向上させるために、必要不可欠なものであるといえるだろう。

2. 1. 2 調査方法

授業改善アンケートは、前期と後期の終了時期に、全科目を対象に実施される。アンケート用紙を各教員に渡し、各授業における配布を依頼する。配布されたアンケートは、いったん教員が回収を行い、その後、科目を履修している学生が学務課に提出することとなっている。この手続きは、授業改善アンケートにおける学生の匿名性を守るために設定されたものである。どの学生がどのような評価をしたかについては、教員は一切知ることができない。

収集されたデータは、科目ごとに集計され、教員に結果がフィードバックされる。このとき、全科目における平均評定値とパーセンタイル得点を併記することによって、教員は自分自身の担当科目の評価を相対的に把握することが可能となる。

2. 1. 3 質問項目の構成

授業改善アンケートの目的は、科目を履修した学生の評価に基づき、各教員が自らの教育活動の改善に資する手掛かりを得ることである。そのためには、学生から十分な情報を獲得する必要がある。

ここで、十分な情報を得る指針として、二つの方向性が考えられる。第一に、アンケートの質問項目を増やす方法である。一人一人から十分に意見を収集することを通して、授業改善に資する深いデータが得られる。第二に、より多くの学生の回答を収集すること、すなわち、アンケートの回収率を向上させることである。ここで、アンケートの回収率を向上させるためには、回答に際して必要な負荷を軽減させる必要がある。これにはアンケート項目の削減が必要であり、より洗練された少数の項目のみに絞ったアンケート構成が求められる。

このことを受けて、平成 19 年度に授業評価アンケートの質問項目の改訂が行われた。その結果、授業改善アンケートは、数量的項目が 7 項目、定性的項目が 2 項目の 9 項目に絞られた。数量的項目については、いずれも 5 件法で回答するものであった（5：強くそう思う、4：ややそう思う、3：どちらともいえない、2：あまりそう思わない、1：全くそう思わない）。なお、定性的項目については、授業の望ましい点を記載するとともに、問題点とそれに対する改善案を記入する方法に改められた。これは、学生の「理不尽な不満や中傷」による教員のバーンアウトを防止することが目的としたものである。

平成 21 年度においても、平成 19 年度に改訂されたアンケート項目を利用した。以下に、数量的項目と定性的項目、合わせて 9 項目を示す。また、実際に配布したアンケート票を、図 1 に示す。

《数量的項目》

- 1) シラバスやオリエンテーションから、事前に十分な情報が得られた。
- 2) 学生の理解を促す工夫（授業形態や内容など）が見られた。
- 3) 教員の説明や指示内容は、明確であった。
- 4) 教材や資料（板書、スライド、プリントなど）の提示が適切であった。
- 5) 学生への対応（質問への回答、進度の調節など）が適切であった。
- 6) 授業中の私語や遅刻者への対処が適切であった。
- 7) 授業に適した教室環境（人数、広さ、温度など）であった。

《定性的項目（自由記述）》

- 8) この授業の良かった点や、優れた点を記入してください。
- 9) この授業に対して「こうすれば望ましい」という意見があれば記入してください。

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、教員が授業改善の手がかりを得ることを目的としたものです。回答結果は成績評価には全く関係ありませんので、あなたの率直な意見を記入してください。

回答は5段階評価です。あてはまる数字をマルで囲んでください。また、この授業で良かった点、ならびに改善例について、自由記述欄に記入してください。

授業の科目名と担当教員名を記入してください。

科目名:

担当教員名:

【 回答の指針 】

- 5 強くそう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 全くそう思わない

上記の授業について、以下の質問に回答してください。

- | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1) シラバスやオリエンテーションから、事前に十分な情報が得られた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 学生の理解を促す工夫(授業形態や内容など)が見られた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 教員の説明や指示内容は、明確であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) 教材や資料(板書、スライド、プリントなど)の提示が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) 学生への対応(質問の回答、進度の調節など)が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 授業中の私語や遅刻者への対処が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) 授業に適した教室環境(人数、広さ、温度など)であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

8) この授業の良かった点や優れた点を記述してください。

9) この授業に対して、「こうすれば望ましい」という意見があれば記入してください。

図1 授業改善のためのアンケート (配布用紙)

2.2 アンケート結果と考察

アンケートの基礎集計、数量的分析と定性的分析の結果を、以下に示す。

2.2.1 基礎集計

(1) アンケート調査の実施率・回収率

平成21年度における開講科目数は、459科目であった。そのうち、昼間コースは378科目であり、夜間主コースは81科目であった。まず、全学におけるアンケート調査の実施率と回収率を示す(表1、図2)。また、昼間コース、夜間主コースにおける結果を示す(表2～表3)。

表1 アンケート調査の実施率・回収率(全学の結果)

| コース | 科目分類 | 開講科目数 | 実施科目数 | 実施率 | 履修者数 | 回収数 | 回収率 |
|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全体 | 共通科目 | 102 | 79 | 77.5% | 13109 | 4643 | 35.4% |
| | 外国語科目 | 178 | 148 | 83.1% | 5488 | 3600 | 65.6% |
| | 学科科目 | 145 | 115 | 79.3% | 16279 | 5492 | 33.7% |
| | 専門共通科目 | 14 | 12 | 85.7% | 332 | 158 | 47.6% |
| | 教職共通科目 | 20 | 16 | 80.0% | 449 | 234 | 52.1% |
| | 合計 | 459 | 370 | 80.6% | 35657 | 14127 | 39.6% |

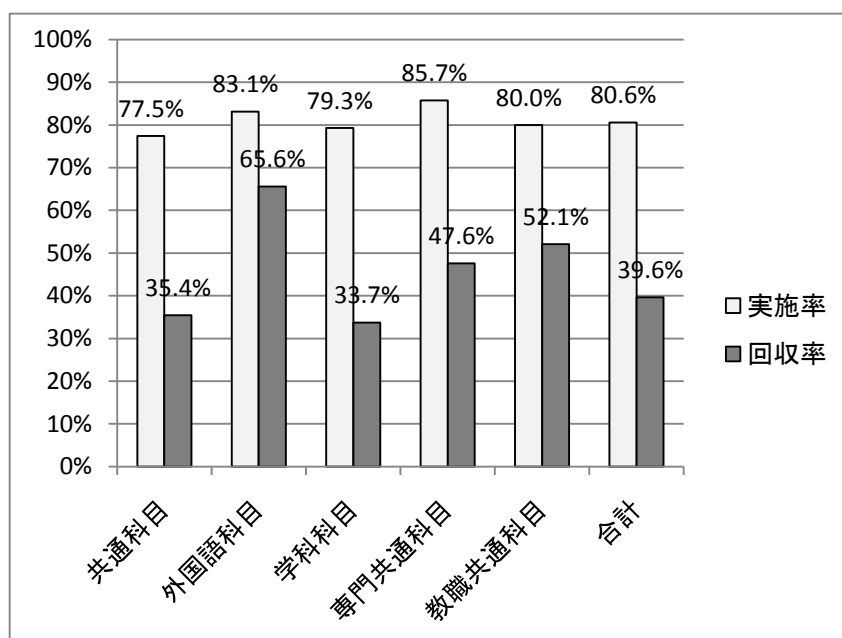


図2 アンケート調査の実施率・回収率(全学の結果)

表2 アンケート調査の実施率・回収率（昼間コース）

| コース | 科目分類 | 開講科目数 | 実施科目数 | 実施率 | 履修者数 | 回収数 | 回収率 |
|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 昼間 | 共通科目 | 82 | 65 | 79.3% | 12046 | 4189 | 34.8% |
| | 外国語科目 | 159 | 134 | 84.3% | 4988 | 3293 | 66.0% |
| | 学科科目 | 106 | 83 | 78.3% | 15051 | 4860 | 32.3% |
| | 専門共通科目 | 11 | 10 | 90.9% | 229 | 121 | 52.8% |
| | 教職共通科目 | 20 | 16 | 80.0% | 449 | 234 | 52.1% |
| | 合計 | 378 | 308 | 81.5% | 32763 | 12697 | 38.8% |
| ----- | | | | | | | |
| | 学科ごとの集計 | 開講科目数 | 実施科目数 | 実施率 | 履修者数 | 回収数 | 回収率 |
| | 経済学科 | 24 | 22 | 91.7% | 4229 | 1141 | 27.0% |
| | 商学科 | 29 | 23 | 79.3% | 4462 | 1592 | 35.7% |
| | 企業法学科 | 22 | 16 | 72.7% | 2356 | 818 | 34.7% |
| | 社会情報学科 | 31 | 22 | 71.0% | 4004 | 1309 | 32.7% |
| | 合計 | 106 | 83 | 78.3% | 15051 | 4860 | 32.3% |

表3 アンケート調査の実施率・回収率（夜間主コース）

| コース | 科目分類 | 開講科目数 | 実施科目数 | 実施率 | 履修者数 | 回収数 | 回収率 |
|-------|---------|-------|-------|--------|------|------|-------|
| 夜間 | 共通科目 | 20 | 14 | 70.0% | 1063 | 454 | 42.7% |
| | 外国語科目 | 19 | 14 | 73.7% | 500 | 307 | 61.4% |
| | 学科科目 | 39 | 32 | 82.1% | 1228 | 632 | 51.5% |
| | 専門共通科目 | 3 | 2 | 66.7% | 103 | 37 | 35.9% |
| | 合計 | 81 | 62 | 76.5% | 2894 | 1430 | 49.4% |
| ----- | | | | | | | |
| | 学科ごとの集計 | 開講科目数 | 実施科目数 | 実施率 | 履修者数 | 回収数 | 回収率 |
| | 経済学科 | 8 | 8 | 100.0% | 309 | 158 | 51.1% |
| | 商学科 | 11 | 10 | 90.9% | 431 | 272 | 63.1% |
| | 企業法学科 | 11 | 9 | 81.8% | 297 | 122 | 41.1% |
| | 社会情報学科 | 9 | 5 | 55.6% | 191 | 80 | 41.9% |
| | 合計 | 39 | 32 | 82.1% | 1228 | 632 | 51.5% |

まず、各科目におけるアンケートの実施率に注目すると、全学において80.6%の科目で授業改善アンケートが実施されていることがわかる。平成18年度の実施率が79.0%、平成19年度の実施率が82.1%であったことから、平成21年度の実施率は、ほぼ例年通りの水準であったといえる（なお、平成20年度は授業改善アンケートが実施されていない）。

次に、全体のアンケート回収率に注目する。平成 21 年度のアンケート回収率は、39.6%であった。これまでのアンケート回収率との比較を行うと、ほぼ例年と同様であるといえる（図 3）。平成 17 年度の 31.6%を除くと、例年 40%程度の回収率で推移していることが示された。この数値は、学生 10 人中、4 名しか回答していないことを示すものであり、決して十分な回収率とはいえない。この点について、より回収率を向上させるための工夫が必要であるといえるだろう。

| | |
|----------|--------|
| 平成 14 年度 | 36.7% |
| 平成 15 年度 | 41.0% |
| 平成 16 年度 | 44.4% |
| 平成 17 年度 | 31.6% |
| 平成 18 年度 | (実施せず) |
| 平成 19 年度 | 39.0% |
| 平成 20 年度 | (実施せず) |
| 平成 21 年度 | 39.6% |

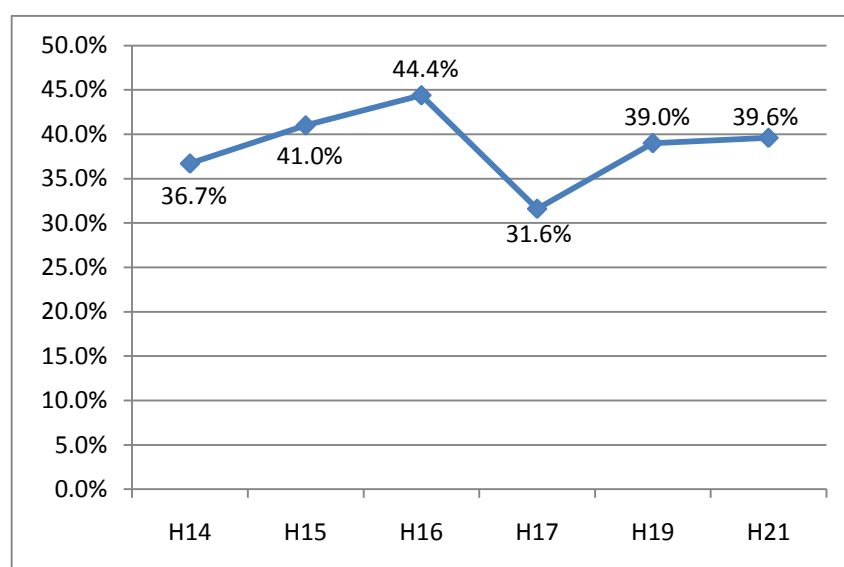


図 3 授業改善アンケート回収率の推移（平成 14 年度～平成 21 年度）

(2) 質問項目への回答傾向 (全体・学科ごと)

授業改善アンケートを構成する各項目について、全学でどのような回答傾向が見られたのだろうか。ここで、各項目に対する評定値 (平均値、標準偏差、最高点、最低点、各パーセンタイル得点) の集計を行った。以下に結果を示す (表 4、図 4)。

表 4 各質問項目への回答傾向 (全学データ)

| | 平均値 | 標準偏差 | 最高点 | 最低点 | 90%ile | 75%ile | 50%ile | 25%ile | 10%ile |
|-------|------|------|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 事前情報 | 4.09 | 0.36 | 4.95 | 2.70 | 4.50 | 4.33 | 4.15 | 3.91 | 3.59 |
| 理解の工夫 | 4.07 | 0.50 | 5.00 | 2.33 | 4.67 | 4.45 | 4.11 | 3.75 | 3.43 |
| 説明と指示 | 4.09 | 0.50 | 5.00 | 2.00 | 4.67 | 4.48 | 4.13 | 3.79 | 3.43 |
| 教材や資料 | 4.03 | 0.47 | 5.00 | 1.60 | 4.60 | 4.35 | 4.06 | 3.73 | 3.45 |
| 適切な対応 | 4.09 | 0.48 | 5.00 | 2.40 | 4.67 | 4.45 | 4.13 | 3.80 | 3.47 |
| 私語や遅刻 | 3.97 | 0.42 | 5.00 | 2.00 | 4.49 | 4.24 | 4.00 | 3.72 | 3.45 |
| 教室環境 | 4.17 | 0.39 | 5.00 | 1.60 | 4.62 | 4.41 | 4.21 | 3.94 | 3.71 |

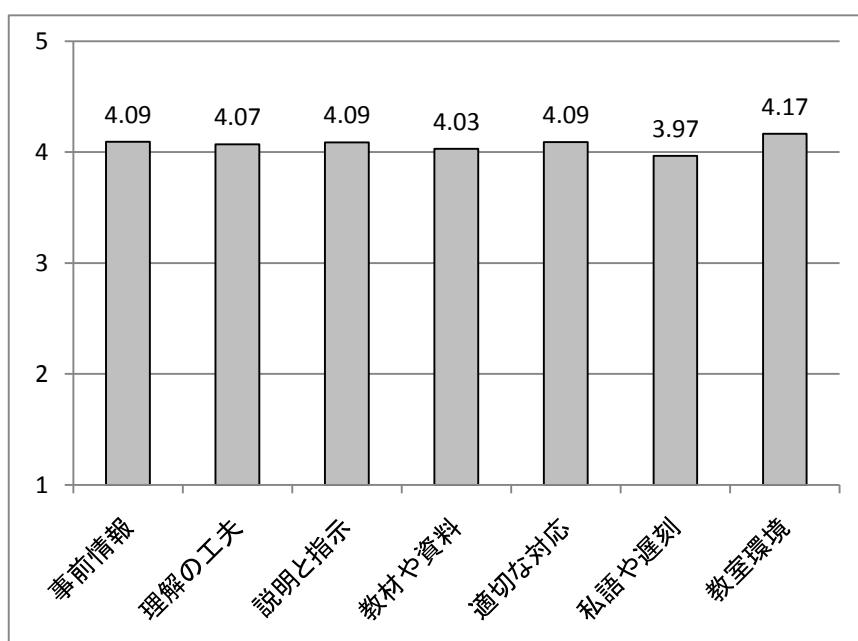


図 4 各質問項目に対する平均評定値 (全学)

「私語や遅刻」に関する 1 項目を除き、いずれの項目も評定値が 4 を超えていることが示された。この結果は、本学の学生は、開講されている科目に概ね満足していることを示すものである。ただし、前節におけるアンケートの回収率と合わせて考えたとき、ある程度授業に満足している 40% の学生のみがアンケートに回答していた可能性が考えられる。この点について、より詳細な検討が必要と考えられる。

次に、履修コースと科目分類間における回答傾向の違いに注目する。昼間・夜間主コースにおいて、各質問項目の回答傾向にはどのような違いが見られるのだろうか。また、科目分類間において、回答傾向の違いが見られるのだろうか。この点について、集計を行った結果を示す（表5、図5）。

表5 履修コースと科目分類間における回答傾向の比較

| コース | 科目 | 設問1 | 設問2 | 設問3 | 設問4 | 設問5 | 設問6 | 設問7 | 全項目 |
|-----|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 昼間 | 共通科目 | 4.14 | 4.14 | 4.17 | 3.98 | 4.14 | 3.99 | 4.09 | 4.06 |
| | 外国語科目 | 4.03 | 4.04 | 4.04 | 3.98 | 4.03 | 4.05 | 4.21 | 4.00 |
| | 学科科目 | 4.10 | 3.99 | 4.03 | 4.02 | 4.01 | 3.79 | 4.08 | 4.11 |
| | 専門共通科目 | 4.27 | 4.31 | 4.26 | 4.20 | 4.44 | 4.05 | 4.52 | 4.44 |
| | 教職共通科目 | 4.34 | 4.52 | 4.48 | 4.50 | 4.46 | 4.24 | 4.51 | 4.29 |
| | 全体 | 4.10 | 4.08 | 4.09 | 4.03 | 4.09 | 3.97 | 4.17 | 4.08 |
| 夜間主 | 共通科目 | 3.89 | 3.76 | 3.77 | 3.70 | 3.85 | 3.71 | 3.82 | 4.12 |
| | 外国語科目 | 4.03 | 4.12 | 4.10 | 4.04 | 4.22 | 4.01 | 4.28 | 4.14 |
| | 学科科目 | 4.14 | 4.10 | 4.17 | 4.19 | 4.19 | 4.00 | 4.19 | 3.79 |
| | 専門共通科目 | 4.08 | 3.93 | 3.94 | 3.91 | 3.97 | 3.80 | 3.98 | 3.95 |
| | 教職共通科目 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 全体 | 4.06 | 4.02 | 4.06 | 4.04 | 4.11 | 3.93 | 4.12 | 4.05 |

注：夜間主コースでは教職共通科目は開講されていない

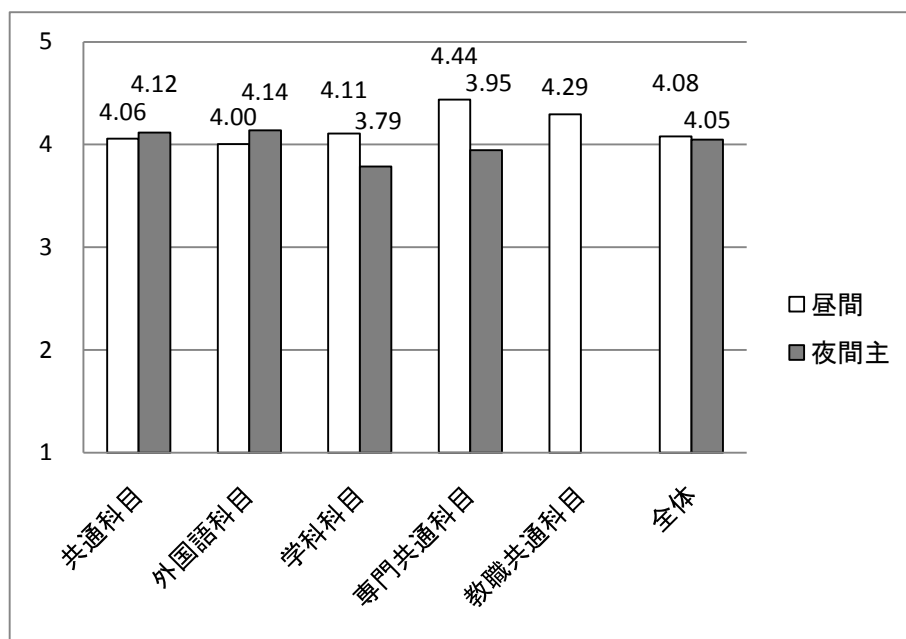


図5 履修コースと科目分類間における回答傾向の比較

この結果より、履修コース、ならびに科目分類間において、授業改善アンケートの評定値には、さほど大きな違いが見られないことが示された。

(3) アンケート構成の検証

アンケート調査を行った際、得られたデータを適切に分析し、論理的な考察を行う必要があるのは言うまでもない。しかし、それ以前の問題として、そのアンケートは目的とする内容に対して適切な質問項目であったかどうかを確認する必要がある。アンケートを構成する文章は適切であったか、回答者に過度の負担を強いていないか、回答傾向が顕著に異なっている項目はなかったかなど、多様な観点からアンケート項目の良し悪しを検討することによって、より適切な結果の解釈が可能となる。このことから、①天井効果の危険性の検討、②信頼性分析による検討、これらを行った。

①天井効果の危険性の検討

天井効果 (Ceiling Effect) とは、測定したい内容に対して不適切な質問項目を設定することにより生じる回答の歪みを示すものである。例えば、大学生に対して、小学生向けのテストを実施したとすると、ほとんどの大学生は満点となることが予想される。そのため、平均値はほぼ満点となり、得点の散らばりを示す指標 (分散・標準偏差など) も、きわめて小さな値となる。このような得点の歪みは、天井効果と呼ばれている。なお、その逆の現象として、床効果 (Floor Effect) が知られている。これは、大学生を対象としたテストを小学生に実施した場合などに生じるものである。この場合、大学生を対象としたテストは小学生には難しすぎるため、ほとんど回答できないことが予想される。このように、天井効果や床効果などの回答の歪みが発生すると、アンケートやテストの結果の解釈がきわめて困難になる。そのため、天井効果や床効果が発生している項目についてチェックを行い、解釈の際には除外する必要がある。

平成 21 年度における授業改善アンケートの結果を確認したとき、各項目の平均値は概ね 4 に近い数値となっている。このことから、床効果の危険性はないものと考え、天井効果の危険性の検討を実施した。なお、天井効果の危険性を判断する基準として、質問項目の平均値と標準偏差の値を加算し、その値が質問項目数を超えるかどうかを用いられる。本アンケートでは、1~5 で回答するように作成されていたことから、平均値と標準偏差を加算して 5 を超える項目に、天井効果が発生していた危険性が認められる。検討の結果より、いずれの項目にも天井効果の危険性は認められないことが示された (表 6)。ただし、いくつかの項目において 4.5 以上の値が得られていることから、継続的に天井効果の危険性の検討を実施する必要があるものと考えられる。

表 6 天井効果の危険性の検討

| | 平均値 | 標準偏差 | 判定値 |
|-------|------|------|------|
| 事前情報 | 4.09 | 0.36 | 4.45 |
| 理解の工夫 | 4.07 | 0.50 | 4.57 |
| 説明と指示 | 4.09 | 0.50 | 4.59 |
| 教材や資料 | 4.03 | 0.47 | 4.50 |
| 適切な対応 | 4.09 | 0.48 | 4.57 |
| 私語や遅刻 | 3.97 | 0.42 | 4.38 |
| 教室環境 | 4.17 | 0.39 | 4.56 |

②信頼性分析による検討

アンケート調査を実施する際、そのアンケート自体の良し悪しを調査する必要がある。その基準として、信頼性と妥当性が挙げられる。信頼性とは、複数回の調査を繰り返したときに、安定して同じ結果を得られるかどうかの指標である。妥当性とは、目的に対して正しい測定を行っているかどうかの指標である。例えば、ある学生の身長を測定したいときに、体重計を用いて体重を測定することは、目的と方法とが一致していない。身長を測定したいとき、きちんと身長計を用いて、妥当な測定を行っているかチェックする必要がある。ただし、信頼性については計算によって数量的な基準が得られるのに対し、妥当性については数量的な基準を設けることはできない。この点について、妥当性の厳密なチェックは困難であるといえるだろう。

ここでは、本アンケートを構成する項目の信頼性のチェックを行う。信頼性を測定する方法として、再テスト法や折半法などが挙げられるが、ここではクロンバックの α を用いた数量的検討を実施する。クロンバックの α の値が1に近ければ近いほど、その質問項目の信頼性が高いことがわかる。検討の結果、アンケート全体の信頼性係数として0.87の値が得られた(表7)。一般的に、クロンバックの α が0.8を超えているとき、十分な信頼性があると判断することができる。さらに、各項目を除外した場合のクロンバックの α を計算したところ、著しく値が上昇する項目も見られなかった。このことから、平成21年度の授業改善アンケートには十分な信頼性があり、安定した結果が得られているものといえる。

表 7 クロンバックの α による信頼性分析

| | クロンバックの α |
|-----------|------------------|
| 全体の信頼性係数 | 0.87 |
| 問1を除外した場合 | 0.85 |
| 問2を除外した場合 | 0.83 |
| 問3を除外した場合 | 0.83 |
| 問4を除外した場合 | 0.87 |
| 問5を除外した場合 | 0.84 |
| 問6を除外した場合 | 0.85 |
| 問7を除外した場合 | 0.87 |

2. 2. 2 数量的分析の結果と考察

アンケート調査の基礎集計に続き、授業改善に資するデータについての分析を行った。分析の観点として、以下の5つを設定した。(1) 質問項目間の相関、(2) 履修者数と各質問項目の相関、(3) 科目全体評価の高低間における評定値の比較、(4) 授業規模の大小間における質問項目の評定値の比較、(5) 科目全体評価と授業規模との関連性。それぞれの分析結果と考察を以下に示す。

(1) 質問項目間の相関分析

授業改善アンケートは、数量的項目7項目と定性的項目(自由記述)2項目から構成されている。ここで、数量的項目の間にもどのような関連性があるのかについて、相関分析を行った。全科目における相関分析表、ならびに、各科目分類の相関分析表を以下に示す(表8~13)。なお、相関係数は-1から1までの値であり、±0.8以上の強い相関が見られた部分に網掛けを行っている。

表8 質問項目間の相関分析(全学での結果)

| | 事前情報 | 理解の工夫 | 説明と指示 | 教材や資料 | 適切な対応 | 私語や遅刻 | 教室環境 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事前情報 | 1.000 | | | | | | |
| 理解の工夫 | 0.768 | 1.000 | | | | | |
| 説明と指示 | 0.786 | 0.929 | 1.000 | | | | |
| 教材や資料 | 0.734 | 0.867 | 0.883 | 1.000 | | | |
| 適切な対応 | 0.733 | 0.885 | 0.887 | 0.800 | 1.000 | | |
| 私語や遅刻 | 0.580 | 0.719 | 0.677 | 0.571 | 0.697 | 1.000 | |
| 教室環境 | 0.477 | 0.508 | 0.483 | 0.431 | 0.553 | 0.555 | 1.000 |

表9 質問項目間の相関分析(共通科目)

| | 事前情報 | 理解の工夫 | 説明と指示 | 教材や資料 | 適切な対応 | 私語や遅刻 | 教室環境 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事前情報 | 1.000 | | | | | | |
| 理解の工夫 | 0.756 | 1.000 | | | | | |
| 説明と指示 | 0.772 | 0.944 | 1.000 | | | | |
| 教材や資料 | 0.725 | 0.879 | 0.907 | 1.000 | | | |
| 適切な対応 | 0.705 | 0.892 | 0.908 | 0.833 | 1.000 | | |
| 私語や遅刻 | 0.607 | 0.762 | 0.792 | 0.650 | 0.810 | 1.000 | |
| 教室環境 | 0.550 | 0.472 | 0.555 | 0.521 | 0.615 | 0.557 | 1.000 |

表 10 質問項目間の相関分析（外国語科目）

| | 事前情報 | 理解の工夫 | 説明と指示 | 教材や資料 | 適切な対応 | 私語や遅刻 | 教室環境 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事前情報 | 1.000 | | | | | | |
| 理解の工夫 | 0.739 | 1.000 | | | | | |
| 説明と指示 | 0.744 | 0.896 | 1.000 | | | | |
| 教材や資料 | 0.708 | 0.857 | 0.889 | 1.000 | | | |
| 適切な対応 | 0.710 | 0.854 | 0.860 | 0.776 | 1.000 | | |
| 私語や遅刻 | 0.580 | 0.656 | 0.537 | 0.487 | 0.600 | 1.000 | |
| 教室環境 | 0.400 | 0.486 | 0.399 | 0.370 | 0.489 | 0.561 | 1.000 |

表 11 質問項目間の相関分析（学科科目）

| | 事前情報 | 理解の工夫 | 説明と指示 | 教材や資料 | 適切な対応 | 私語や遅刻 | 教室環境 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事前情報 | 1.000 | | | | | | |
| 理解の工夫 | 0.797 | 1.000 | | | | | |
| 説明と指示 | 0.832 | 0.951 | 1.000 | | | | |
| 教材や資料 | 0.735 | 0.860 | 0.850 | 1.000 | | | |
| 適切な対応 | 0.761 | 0.907 | 0.897 | 0.784 | 1.000 | | |
| 私語や遅刻 | 0.624 | 0.788 | 0.783 | 0.633 | 0.794 | 1.000 | |
| 教室環境 | 0.554 | 0.577 | 0.561 | 0.406 | 0.613 | 0.566 | 1.000 |

表 12 質問項目間の相関分析（専門共通科目）

| | 事前情報 | 理解の工夫 | 説明と指示 | 教材や資料 | 適切な対応 | 私語や遅刻 | 教室環境 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事前情報 | 1.000 | | | | | | |
| 理解の工夫 | 0.749 | 1.000 | | | | | |
| 説明と指示 | 0.753 | 0.943 | 1.000 | | | | |
| 教材や資料 | 0.731 | 0.762 | 0.870 | 1.000 | | | |
| 適切な対応 | 0.710 | 0.885 | 0.893 | 0.864 | 1.000 | | |
| 私語や遅刻 | 0.514 | 0.736 | 0.689 | 0.588 | 0.627 | 1.000 | |
| 教室環境 | 0.052 | 0.377 | 0.312 | 0.301 | 0.458 | 0.171 | 1.000 |

表 13 質問項目間の相関分析（教職共通科目）

| | 事前情報 | 理解の工夫 | 説明と指示 | 教材や資料 | 適切な対応 | 私語や遅刻 | 教室環境 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事前情報 | 1.000 | | | | | | |
| 理解の工夫 | 0.883 | 1.000 | | | | | |
| 説明と指示 | 0.863 | 0.977 | 1.000 | | | | |
| 教材や資料 | 0.852 | 0.973 | 0.976 | 1.000 | | | |
| 適切な対応 | 0.873 | 0.970 | 0.963 | 0.966 | 1.000 | | |
| 私語や遅刻 | 0.787 | 0.781 | 0.809 | 0.775 | 0.777 | 1.000 | |
| 教室環境 | 0.712 | 0.628 | 0.593 | 0.620 | 0.646 | 0.536 | 1.000 |

ここで、全学における相関分析に注目すると、いくつかの項目に 0.8 を超える強い正の相関が見られている。なかでも、[理解の工夫] については、[説明と指示 (わかりやすさ)] [教材や資料 (見やすさ)] [適切な対応 (質問に対する回答)] など、多くの項目との正の相関があることが示された。また、他のほとんどの項目で 0.5 を超える相関係数が見られており、これらの項目間は相互に関連している。この結果は、学生は開講科目に対して総合的な視点から捉えており、一つの項目のみが突出して高いことは、きわめて珍しいケースであることを示していると考えられる。

(2) 履修者数と各質問項目の相関分析

次に、各科目の履修者数と、各質問項目との関連性に注目する。履修者数の多少は、各質問項目に関連しているのだろうか。また、もし関連しているのであれば、どのような影響を及ぼしているのだろうか。

全学を対象としたデータ (360 科目) について、履修者数と各質問項目の相関分析を実施した結果を以下に示す (表 14)。その結果より、全ての項目において、有意な負の相関が見られた。この結果は、各科目の履修者数が多いほど、学生の評価が低下する傾向を示している。なかでも、[私語や遅刻 ($r=-0.44$)] と [教室環境 ($r=-0.34$)] において中程度の負の相関が見られている。これは、大人数科目においては、学生の私語や遅刻者に対する対応が困難であること、また、学習に適した教室環境が望まれていることを示している。なお、[事前情報] については、有意であるとはいえ、その相関係数はほとんど無相関であることを示している。このことから、シラバスや授業のオリエンテーションを除き、履修者数の多い科目においては、授業改善アンケートでは低い評価が見られやすいことがわかる。特に履修者数が多い科目について、授業運営上の工夫・研究が求められているといえるだろう。

表 14 履修者数と各質問項目の相関分析 (全学データ)

| | 履修者数 | 有意水準 |
|-------|-------|---------|
| 事前情報 | -0.13 | $p<.05$ |
| 理解の工夫 | -0.28 | $p<.01$ |
| 説明と指示 | -0.23 | $p<.01$ |
| 教材や資料 | -0.21 | $p<.01$ |
| 適切な対応 | -0.29 | $p<.01$ |
| 私語や遅刻 | -0.44 | $p<.01$ |
| 教室環境 | -0.34 | $p<.01$ |
| 全項目 | -0.32 | $p<.01$ |

調査対象=360科目

(3) 科目全体評価の高低間における評定値の比較

授業改善アンケートでは、数量的項目調査の7項目の平均点を算出することで、その科目全体の総合的な評価としている。ここで、各科目の総合的な評価の高低間において、各質問項目の評定値がどのように異なっているのか、調査・分析を行った。なお、各科目の総合的な評価の基準として、33パーセンタイル得点、66パーセンタイル得点を設定し、低評価群、中間群、高評価群とした。各質問項目について、一要因分散分析を行ったところ、全ての質問項目において主効果が認められた。そこで、さらに多重比較を実施したところ、全項目において[高評価群>中間群>低評価群]の結果が得られた(表15、図6)。この結果は、授業改善アンケートでは、個別の質問項目のみが突出して高いケースは少なく、評価の低い科目は全体的に低いこと、また、評価の高い科目は全体的に高い事を示している。このことから、学生は個別の項目ごとの改善を望んでいるのではなく、質問項目全般にわたる改善を望んでいることが伺える。

表 15 科目全体の高低間における評定値の比較

| | 低評価群 | 中間群 | 高評価群 | 有意水準 | 多重比較 |
|-------|------|------|------|---------|-------|
| 事前情報 | 3.73 | 4.15 | 4.38 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 理解の工夫 | 3.53 | 4.09 | 4.57 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 説明と指示 | 3.54 | 4.13 | 4.57 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 教材や資料 | 3.57 | 4.06 | 4.48 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 適切な対応 | 3.59 | 4.11 | 4.55 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 私語や遅刻 | 3.61 | 3.95 | 4.32 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 教室環境 | 3.90 | 4.16 | 4.43 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 全項目 | 3.64 | 4.09 | 4.47 | $p<.01$ | 低<中<高 |
| 科目数 | 118 | 119 | 123 | | |

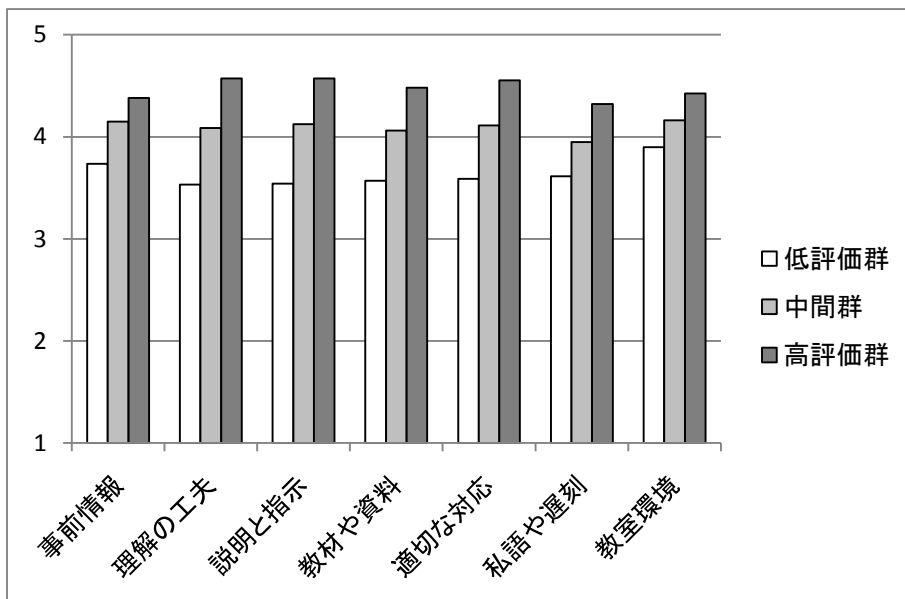


図 6 科目全体の高低間における評定値の比較

(4) 授業規模間における各質問項目の評定値の比較

授業の規模の大小間において、各質問項目の評定値はどのように異なるのだろうか。この点について、33 パーセンタイル、66 パーセンタイルを基準に、科目の規模の群分けを行った。その結果、小規模科目は 113 科目、中規模科目は 121 科目、大規模科目は 126 科目であった。各質問項目について、一要因分散分析、ならびに多重比較を行った結果、[事前情報] 以外の全項目において主効果が認められた(なお、事前情報についても、有意傾向が認められている)。

分析の結果より、ほぼ全ての質問項目において、小規模科目の評価が高いことが示された(表 16、図 7)。その理由として、小規模科目においては、教員の目が教室全体に届きやすく、学生の理解度に応じた授業が行いやすいこと、また、私語や遅刻者に対する対応について、大規模科目に比べて用意であることが考えられる。なお、特に [適切な対応] において、特徴的な回答傾向が見られている。[適切な対応] とは、学生からの質問に対して適切に回答しているか、また、適切な進行ペースが守られているかに関する質問項目である。この項目の分析結果では、小規模科目のみ評価が高く、中規模～大規模科目においては評価に違いが見られなかった。上述のように、小規模科目では、個別の学生に対する対応が可能であるが、およそ 30 人以上の中規模科目となると、それが困難になることを示すものといえる。

表 16 授業規模間における各質問項目の評定値の比較

| | 小規模科目 [1~28人] | 中規模科目 [29~54人] | 大規模科目 [55~356人] | 有意水準 | 多重比較 |
|-------|------------------|-------------------|--------------------|-----------|-----------|
| 事前情報 | 4.15 | 4.08 | 4.05 | $p < .10$ | なし |
| 理解の工夫 | 4.24 | 4.09 | 3.90 | $p < .01$ | 大 < 中 < 小 |
| 説明と指示 | 4.22 | 4.10 | 3.96 | $p < .01$ | 大 < 中 < 小 |
| 教材や資料 | 4.16 | 4.02 | 3.93 | $p < .01$ | 大 < 中 < 小 |
| 適切な対応 | 4.26 | 4.08 | 3.94 | $p < .01$ | 大 = 中 < 小 |
| 私語や遅刻 | 4.19 | 3.99 | 3.74 | $p < .01$ | 大 < 中 < 小 |
| 教室環境 | 4.33 | 4.16 | 4.02 | $p < .01$ | 大 < 中 < 小 |
| 全項目 | 4.22 | 4.08 | 3.94 | $p < .01$ | 大 < 中 < 小 |
| 科目数 | 113 | 121 | 126 | | |

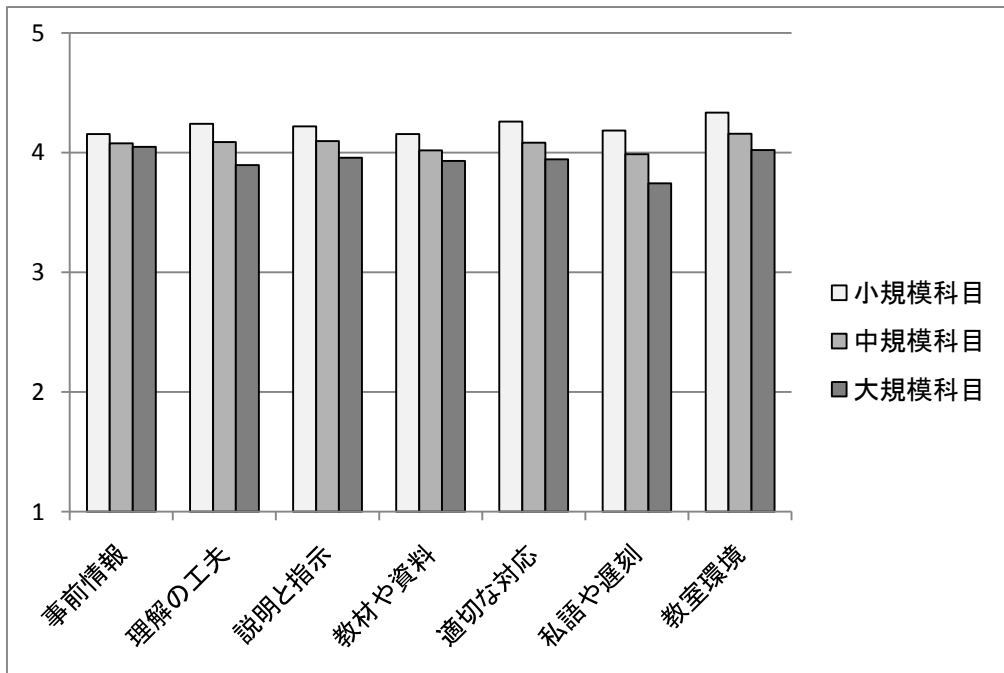


図7 授業規模間における各質問項目の評定値の比較

(5) 科目全体評価と授業規模間との関連性

これまで、科目全体評価と授業改善アンケートの評定値、また、授業規模と授業改善アンケートの評定値に注目し分析を行ってきた。その結果より、授業改善アンケートにおいては、個別の項目が突出して高いケースは少ないこと、また、授業規模が大きいほど、授業改善アンケートの評価は低下することが示された。これらのことから、科目全体評価と授業規模について、ある程度の関連性が示されたといえるだろう。

ここでは、より詳細にデータ検証を行う。科目全体評価と授業規模について、それぞれ 33 パーセンタイル、66 パーセンタイルを基準として、その頻度を集計した。その結果より、小規模科目においては高評価の科目が多く、大規模科目においては低評価の科目が多いことが示された（表 17、図 8）。この結果は、前節の分析（4）における結果と同様の傾向を示している。今後、大規模科目における望ましい授業運営のあり方について、検討を行う必要があるものと考えられる。

表 17 科目全体評価と授業規模間との関連性

| | 低評価 | 中間 | 高評価 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小規模 | 28 | 21 | 64 | 113 |
| 中規模 | 32 | 51 | 38 | 121 |
| 大規模 | 58 | 47 | 21 | 126 |
| 合計 | 118 | 119 | 123 | 360 |

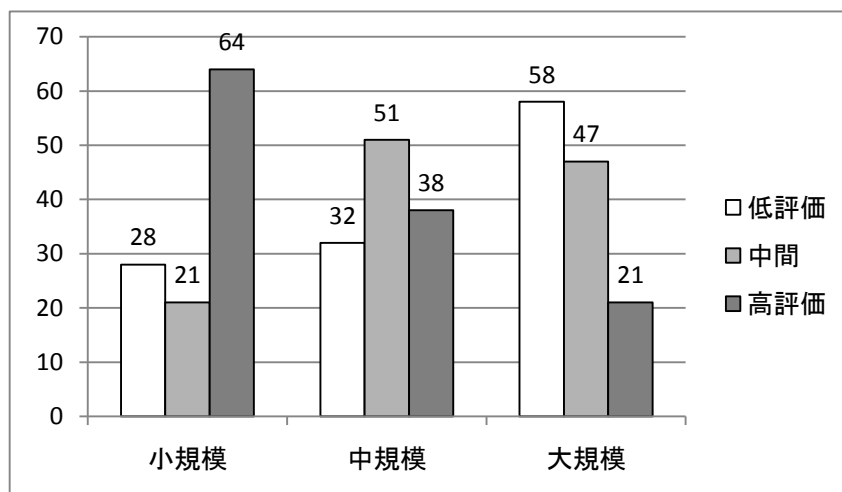


図 8 科目全体評価と授業規模間との関連性

2. 2. 3 定性的分析の結果と考察

(1) 自由記述の記入率

授業改善アンケートにおいては、数量的調査に加えて、定性的調査（自由記述）を行い、「優れた点」と「改善案」の意見を収集している。定性的項目による調査は、データの収集や分析に際して多くの手間が必要となる一方で、直接的に授業改善の指針が得られる点において、貴重な項目であるといえるだろう。ここで、授業改善アンケートにおける学生の記入率に注目する。どの程度の学生が、優れた点や改善案の記入を行ったのだろうか。集計結果を、以下に示す（表 18、図 9～10）。

表 18 自由記述（優れた点・改善案）の記入率

| | 回収数 | 優れた点 | 記入率 | 改善案 | 記入率 |
|----|-------|------|-------|------|-------|
| 前期 | 8186 | 4253 | 52.0% | 2667 | 32.6% |
| 後期 | 5954 | 3220 | 54.1% | 1863 | 31.3% |
| 合計 | 14140 | 7473 | 52.9% | 4530 | 32.0% |

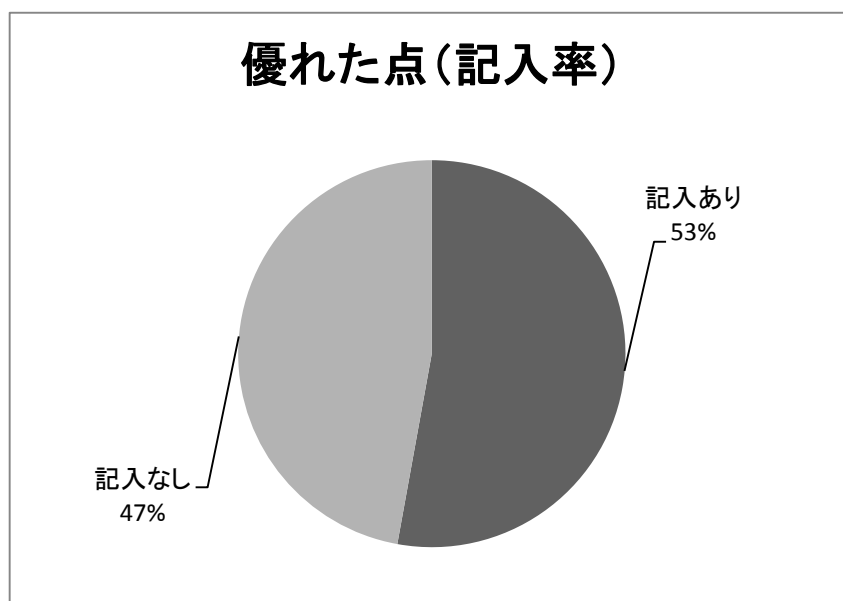


図 9 自由記述（優れた点）アンケート記入率

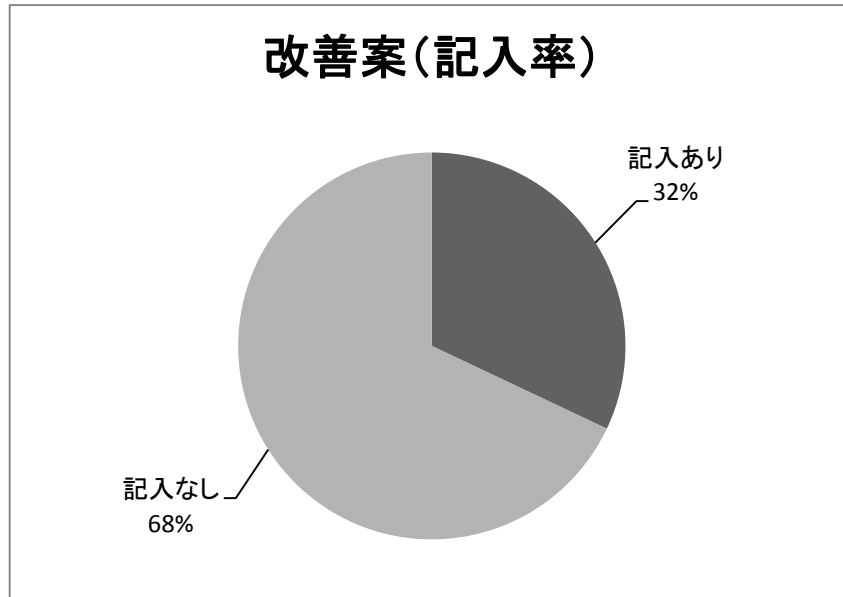


図 10 自由記述（改善案）アンケート記入率

分析の結果より、優れた点については、回答者の半数以上の 53%が記入していることが示された。その一方、改善案については、回答者の 32%が記入していることが示された。教員にとって、授業内容に関するフィードバックが得られる機会は少ない。ここで、授業改善アンケートにおいて、学生からの直接的なフィードバックは、授業改善に際して貴重な手掛かりとなることが予想される。

また、平成 19 年度のアンケート項目の改訂において、授業の「改善案」の質問方法についても変更されている。以前は、「授業の悪かった点」について記載するものであったが、教員からは多くの不評が寄せられていた。どう考えても学生自身に非があるにも関わらず、教員の責任としている意見など、教員のやる気を失わせる意見が多かった。そのため、質問する方法を「悪かった点」ではなく、「こうすれば、よりよくなる方法」を質問する方法に変更したのである。この結果より、教員にとっては、いわれのない非難を受ける機会が減少し、より効果的な授業改善の手掛かりが得られるようになっている。なお、「改善案」に関する記入割合は 32%であり、多くの意見が記入されている。

教員が授業改善のための指針を得るためにも、今後とも、「優れた点」と「改善点」について、現在の形式で調査を行う必要があるものと考えられる。

(2) 「優れた点」に関する記述の分析

授業改善アンケートにおいて、各科目の「優れた点」について定量的調査を行った。収集された自由記述について、テキストマイニングを実施した。なお、テキストマイニングの実施にあたっては、ジャストシステム社のテキストマイニングソフト「トラスティア」を用いた。

各単語の出現頻度に注目し、名詞、形容詞、動詞の出現頻度の分析を実施した。その結果より、10位までの頻出単語を以下に示す（表19、図11～13）。

表19 「優れた点」における単語出現頻度（名詞・形容詞・動詞）

| 順位 | 名詞 | 頻度 | 形容詞 | 頻度 | 動詞 | 頻度 |
|----|------|------|-------|------|------|-----|
| 1 | 授業 | 1161 | わかる | 1014 | できる | 540 |
| 2 | 点 | 854 | 良い | 956 | ある | 514 |
| 3 | 先生 | 731 | 楽しい | 486 | 思う | 467 |
| 4 | 説明 | 528 | よい | 415 | する | 418 |
| 5 | 話 | 357 | 多い | 259 | なる | 371 |
| 6 | スライド | 344 | 分かる | 245 | 出来る | 203 |
| 7 | プリント | 333 | 面白い | 243 | 説明する | 198 |
| 8 | 内容 | 320 | おもしろい | 221 | 聞ける | 169 |
| 9 | 英語 | 295 | 丁寧だ | 216 | 教える | 169 |
| 10 | 人 | 246 | 見る | 172 | 使う | 167 |

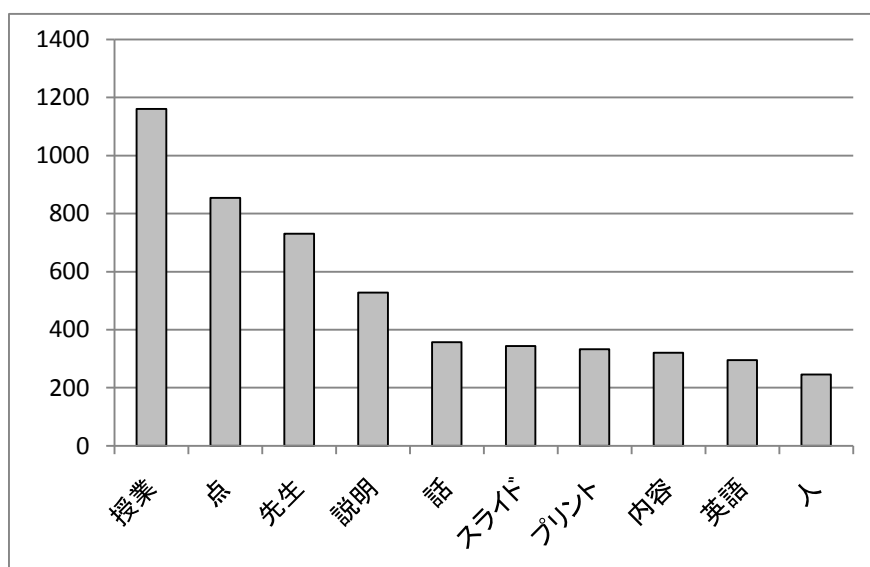


図11 「優れた点」における単語出現頻度（名詞）

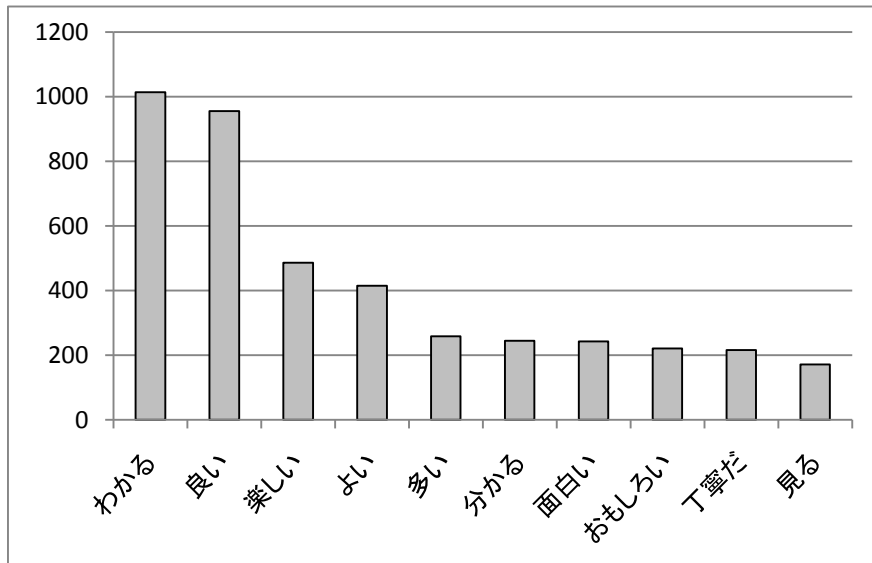


図 12 「優れた点」における単語出現頻度（形容詞）

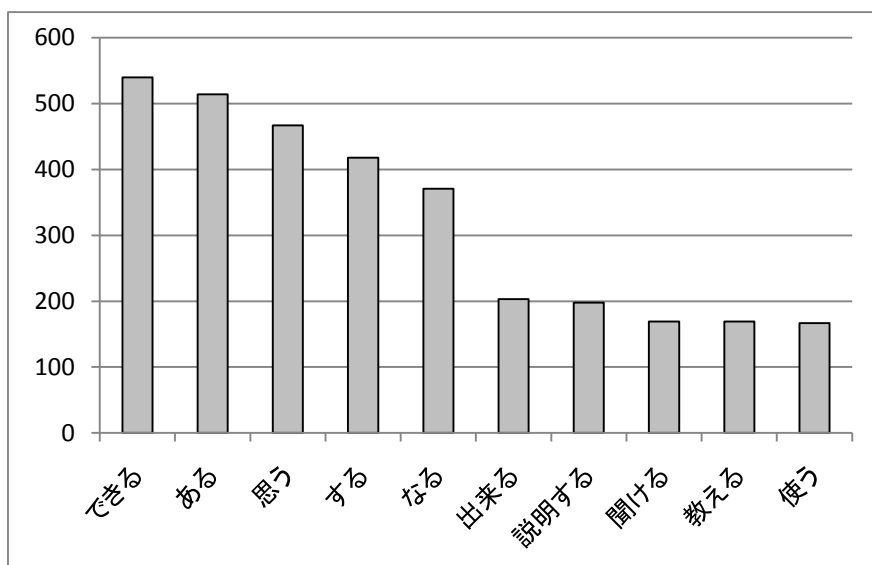


図 13 「優れた点」における単語出現頻度（動詞）

「優れた点」に関する単語出現頻度の分析を通して、授業に関する特徴的な単語が抽出されていることが示された。名詞においては「説明」「話」「スライド」「プリント」などが多く挙げられている。これは、授業のわかりやすさに直結する項目であるといえるだろう。次に、形容詞における特徴的な単語として「わかる（分かる）」「楽しい」「おもしろい（面白い）」「丁寧だ」などが挙げられる。この結果は、学生の授業に求める要素と捉えられるだろう。学生は、授業内容を理解し、学問に対して楽しさが感じられる授業について、優れていると評価することが示された。また、動詞における特徴的な単語として「できる（出来る）」「する」「なる」

などの、具体性の高い単語が多かった。この点について、大学の授業においては、特に抽象的な概念を扱うことが多いことが考えられる。一般的に、抽象的な事柄を学ぶ場合には、それが現実的な場面においてどのように役立っているのか、あるいは、現実場面における類似した事例は何か、これらと関連付けることによって、成績が向上することが知られている。このことから、抽象的な事例をそのまま扱うのではなく、現実場面における活用事例などと合わせて説明することで、学生の理解度が向上することが予想される。

次に、各単語がどのような場面（係り受け）で出現したかに注目する。以下に、「名詞＋形容詞」、「名詞＋動詞」で出現した頻度を示す（表 20、図 14～15）。

表 20 「優れた点」に関する係り受け出現頻度

| 順位 | 名詞＋形容詞 | 頻度 | 名詞＋動詞 | 頻度 |
|----|-----------|-----|--------|-----|
| 1 | 説明＋わかりやすい | 216 | 話＋聞く | 114 |
| 2 | 説明＋丁寧 | 106 | ため＋なる | 66 |
| 3 | 先生＋優しい | 105 | 授業＋受ける | 64 |
| 4 | 授業＋わかりやすい | 92 | 興味＋持つ | 43 |
| 5 | 授業＋楽しい | 85 | 英語＋話す | 37 |
| 6 | 授業＋よい | 72 | 質問＋答える | 28 |
| 7 | 先生＋面白い | 68 | 身＋つく | 28 |
| 8 | スライド＋見やすい | 68 | 授業＋進める | 27 |
| 9 | 説明＋分かりやすい | 61 | 力＋つく | 26 |
| 10 | 人＋色々 | 60 | 点＋聞く | 26 |

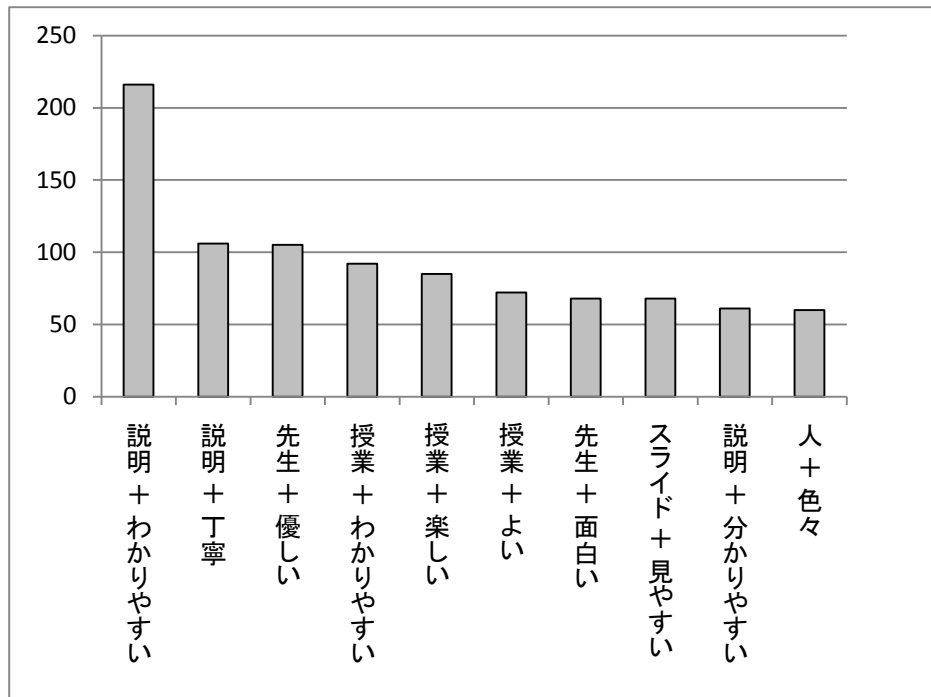


図 14 「優れた点」における係り受け出現頻度（名詞＋形容詞）

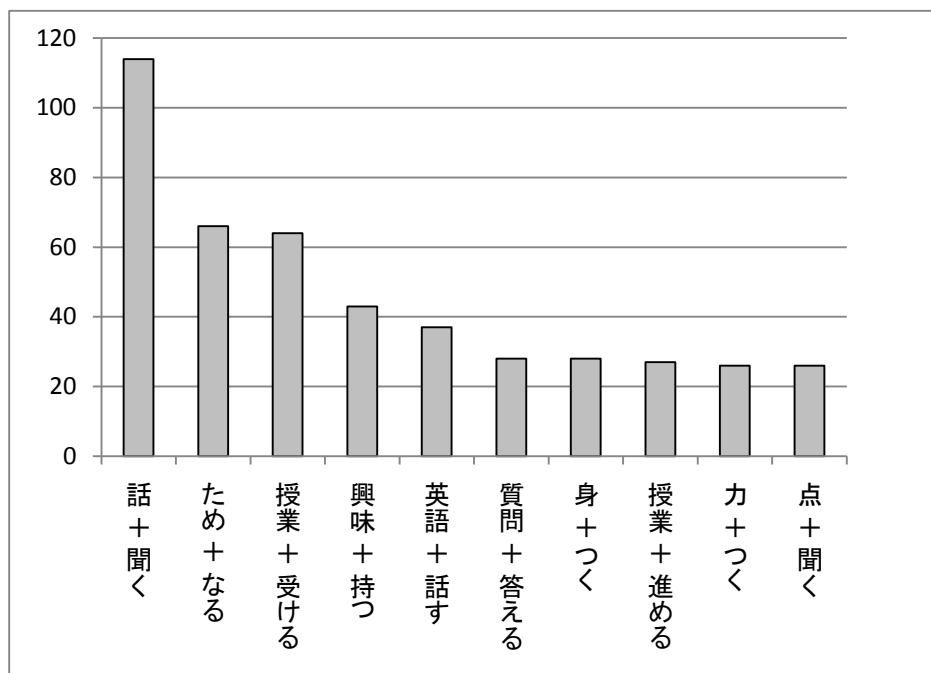


図 15 「優れた点」における係り受け出現頻度（名詞＋動詞）

まず、優れた点に関する係り受けの「名詞＋形容詞」に注目すると、「説明」には「わかりやすい」「丁寧」など、授業内容の伝達に関する内容の出現頻度が高いことが示された。また、「授業」に関しても、「わかりやすい」「楽しい」「良い」などの意見が多く見られている。次に、「名詞＋動詞」に注目すると、「興味を持つ」「質問に答える」など、授業内容に対する動機的な側面に関する記述が多く見られた。

これらの結果より、学生は授業内容を理解できる授業を優れていると評価していること、また、学生の興味・関心を高めるとともに、質問に適切に回答されている授業の評価が高いことが考えられる。学生は、決して楽に単位を取得できる科目を優れていると評価しているのではなく、その科目からどのような知識・技能を獲得することができたか、また、教員がどのような配慮（興味や関心を高める、質問に回答する工夫など）を行っているかについて重視していることが示された。

(3) 「改善案」に関する記述の分析

次に、授業改善アンケートにおける「改善案」に注目、分析を行った。学生は、本学の授業に対してどのような点に問題を感じ、どのような改善案を提案しているのだろうか。この点について、「優れた点」と同様にテキストマイニングを実施した。その結果を、以下に示す（表21、図16～18）。

表21 「改善案」における単語出現頻度（名詞・形容詞・動詞）

| 順位 | 名詞 | 頻度 | 形容詞 | 頻度 | 動詞 | 頻度 |
|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 授業 | 484 | 良い | 349 | 思う | 790 |
| 2 | 教室 | 356 | いい | 309 | する | 541 |
| 3 | スライド | 314 | する | 262 | ある | 476 |
| 4 | 板書 | 295 | 多い | 237 | 書く | 162 |
| 5 | プリント | 237 | わかる | 199 | わかる | 152 |
| 6 | 字 | 203 | 大きい | 145 | なる | 131 |
| 7 | 人 | 201 | 早い | 130 | やる | 112 |
| 8 | 時間 | 188 | ない | 126 | 使う | 98 |
| 9 | 説明 | 171 | 見る | 122 | 言う | 81 |
| 10 | 内容 | 152 | よい | 122 | とる | 72 |

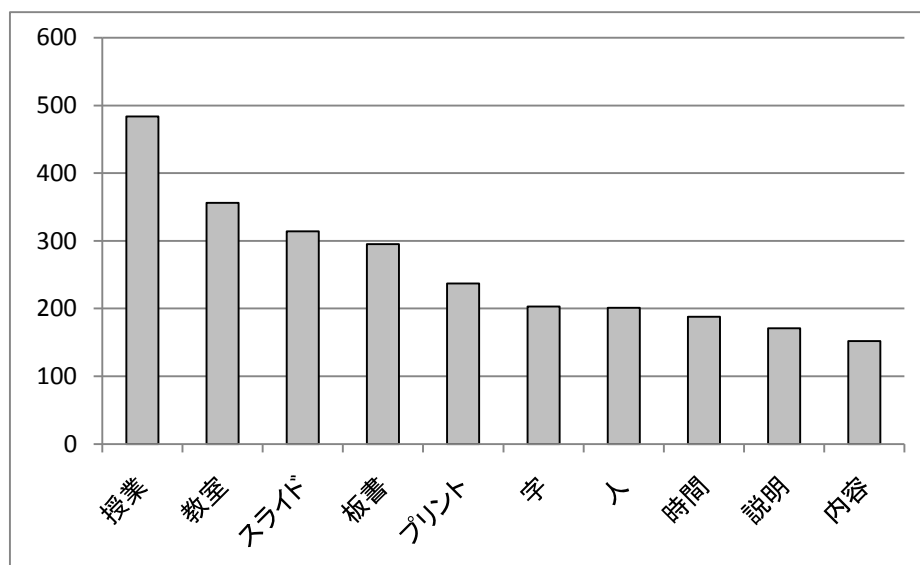


図16 「改善点」における単語出現頻度（名詞）

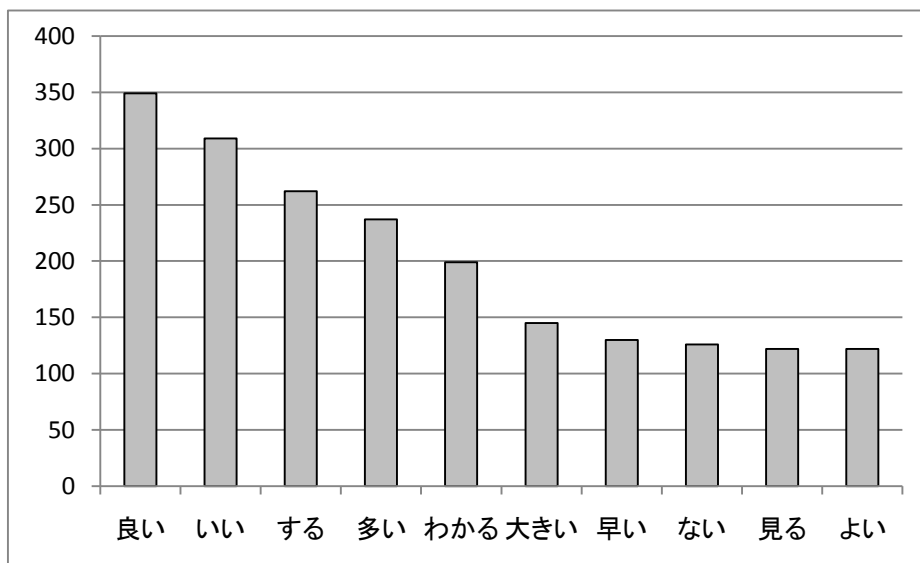


図 17 「改善点」における単語出現頻度（形容詞）

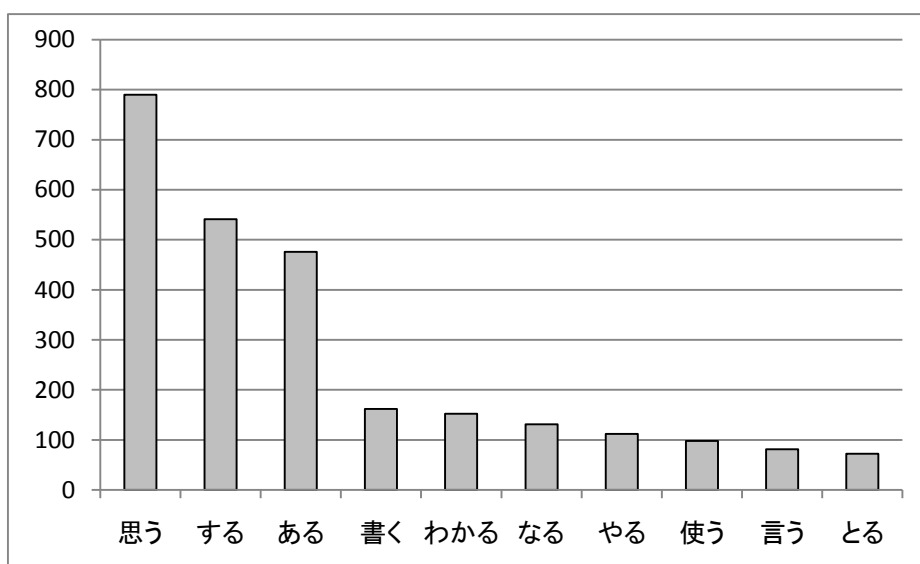


図 18 「改善点」における単語出現頻度（動詞）

まず、改善案における出現頻度が高い名詞として、「教室」「スライド」「板書」が挙げられる。「教室」と「スライド」は、良かった点においても出現していた単語であったが、「板書」は改善案にのみ出現している。この結果は、教員の板書に多くの問題があることを示していると考えられる。板書に関する研究として、教員を対象とした板書計画作成に関するものと、学生を対象とした板書をノートに書き写すためのノートテイキングの研究が挙げられる。本学においても、板書に関する研究が必要である可能性が示された。次に、形容詞と動詞に注目すると、一般的に授業で見られる動作や現象が多く記載されていることがわかる。ただ、両者に共

通する特徴的な単語として「わかる」が挙げられる。これまでに指摘した通り、学生にとっては、授業がわかることは非常に重要なことと捉えられていることが示された。

次に、授業に関する「改善案」の係り受けに注目し、出現頻度の集計を行った。以下に、改善案に関する係り受けの出現頻度を示す（表 22、図 19～20）。

表 22 「改善案」に関する係り受け出現頻度

| 順位 | 名詞 + 形容詞 | 頻度 | 名詞 + 動詞 | 頻度 |
|----|-----------|----|--------------|----|
| 1 | 教室 + 狭い | 54 | マイク + 使う | 42 |
| 2 | 教室 + 暑い | 52 | 字 + 書く | 28 |
| 3 | 字 + 大きい | 51 | 黒板 + 書く | 28 |
| 4 | 字 + 小さい | 50 | 出席 + 取る | 23 |
| 5 | 教室 + 広い | 43 | 出席 + とる | 23 |
| 6 | 声 + 大きい | 41 | 人 + いる | 15 |
| 7 | 教室 + 寒い | 39 | 話 + 聞く | 15 |
| 8 | スライド + 早い | 37 | 授業 + 受ける | 13 |
| 9 | 声 + 小さい | 29 | 声 + not 聞こえる | 13 |
| 10 | 人数 + 多い | 25 | 教室 + する | 13 |

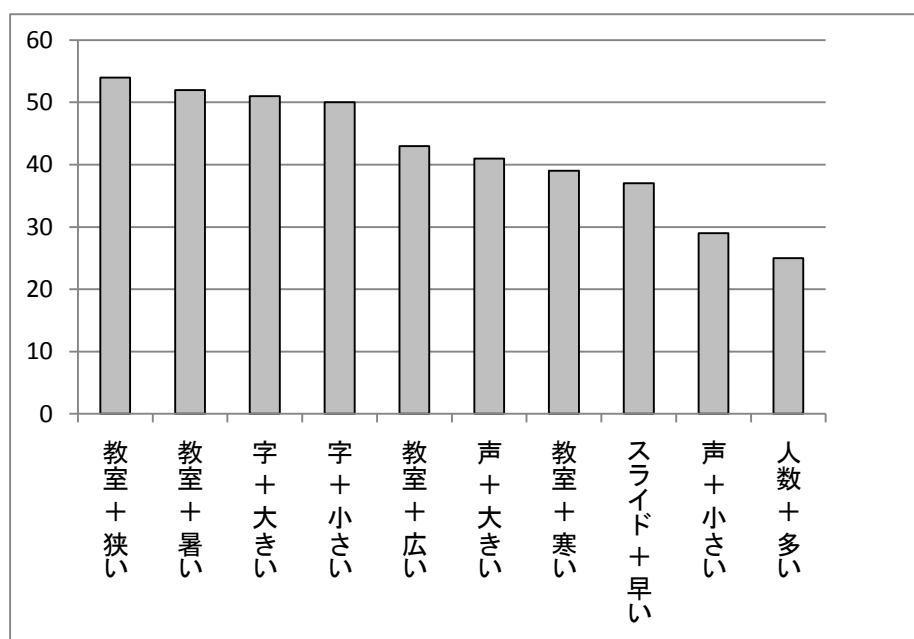


図 19 「改善案」における係り受け出現頻度（名詞 + 形容詞）

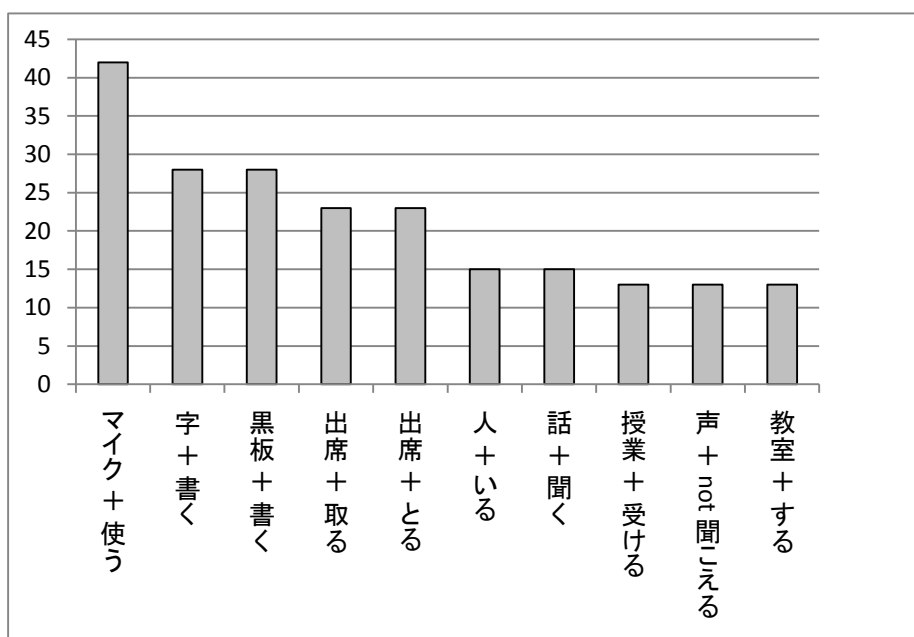


図 20 「改善案」における係り受け出現頻度 (名詞+動詞)

係り受け出現頻度に注目し集計を行ったところ、名詞+形容詞の項目では、主に授業の環境に関する項目が多く見られた。教室の人数や冷暖房の環境は、終日講義を受講する学生にとって大きな問題であることが考えられる。快適に学習に集中できる環境を整える必要があるものといえるだろう。また、名詞+形容詞の項目に関して、受講する環境に加えて、声の大きさや板書に関する意見も多く見られた。教室の規模に合わせて、マイクの音量や板書の文字の大きさなど、多様な点に配慮する必要があるものと考えられる。

次に、名詞+動詞の項目について分析を行ったところ、上記の「名詞+形容詞」と同様の項目が見られている。マイクを使う、黒板に書くなど、授業における基礎的な項目について、学生からの改善案が多く寄せられていることが示された。なかでも、特徴的な項目として、「出席+取る (とる)」が多いことが示された。さらに詳細を確認すると、出席を取ることが問題なのではなく、出席を取らないことが問題であることわかる。出席に関する自由記述データに注目すると、出席を取らない授業では遅刻や私語が多く、集中して授業を受けにくい環境であることが多いことが伺える。大人数の科目においては、平等に出席を確認するだけでも多くの手間と時間が必要である。しかし、出席を確認することによって、学生がより授業に集中できると指摘していることは、今後の授業運営における大きなヒントが得られたといえるだろう。

(4) 頻出単語の位置づけ

これまで、授業改善アンケートにおける定量的調査（自由記述）の分析にあたり、「優れた点」と「改善案」の観点から、別々に注目し、考察を行ってきた。ここで、いくつかの単語が「優れた点」と「改善案」の両方に見られていることに気づく。例えば、「プリント」という単語は、優れた点においては333件見られており、改善案においては237件が見られている。同様に、「説明」という単語についても、優れた点においては528件見られており、改善案においては、171件見られている。このように、同一の単語であっても、優れた点で見られた頻度と、改善案で見られた頻度には違いが見られる。ここで、個別の単語について、その出現した文脈にも注目する。それぞれの単語は、望ましいものとして出現しているのだろうか、または、改善が必要なものとして出現しているのだろうか。これを明らかにすることによって、学生が望む授業改善のあり方についての方向性が示されることが期待される。

分析の方法として、各単語の出現頻度をカウントし、グラフ上に配置する方法を用いた。横軸に「優れた点」としての出現頻度、縦軸に「改善案」としての出現頻度を設定した。配置する単語は、両観点に共通して出現した27項目であった（表23）。各単語について、それぞれの出現割合（パーセント）を産出し、二次元グラフに配置した（図21）。なお、頻出単語のグラフ配置にあたり、出現頻度が低い項目（概ね2%以下）については、グラフの見やすさと全体における重要度とのバランスを考慮し、ラベルをつけていない。

表 23 両観点に見られた単語の出現頻度

| 語句 | 優れた点 | 改善案 |
|------|------|-----|
| 授業 | 1161 | 484 |
| 点 | 854 | 37 |
| 先生 | 731 | 139 |
| 説明 | 528 | 171 |
| 話 | 357 | 107 |
| スライド | 344 | 314 |
| プリント | 333 | 237 |
| 内容 | 320 | 152 |
| 英語 | 295 | 46 |
| 人 | 246 | 201 |
| 理解 | 203 | 66 |
| 自分 | 163 | 39 |
| 板書 | 158 | 295 |
| テスト | 151 | 124 |
| 学生 | 142 | 70 |
| 講義 | 130 | 49 |
| レジュメ | 122 | 75 |
| 生徒 | 121 | 80 |
| 時間 | 107 | 188 |
| 問題 | 106 | 93 |
| 出席 | 96 | 135 |
| 小テスト | 84 | 39 |
| 解説 | 77 | 35 |
| 声 | 74 | 134 |
| 私語 | 73 | 136 |
| 教科書 | 70 | 133 |
| 出席点 | 57 | 39 |

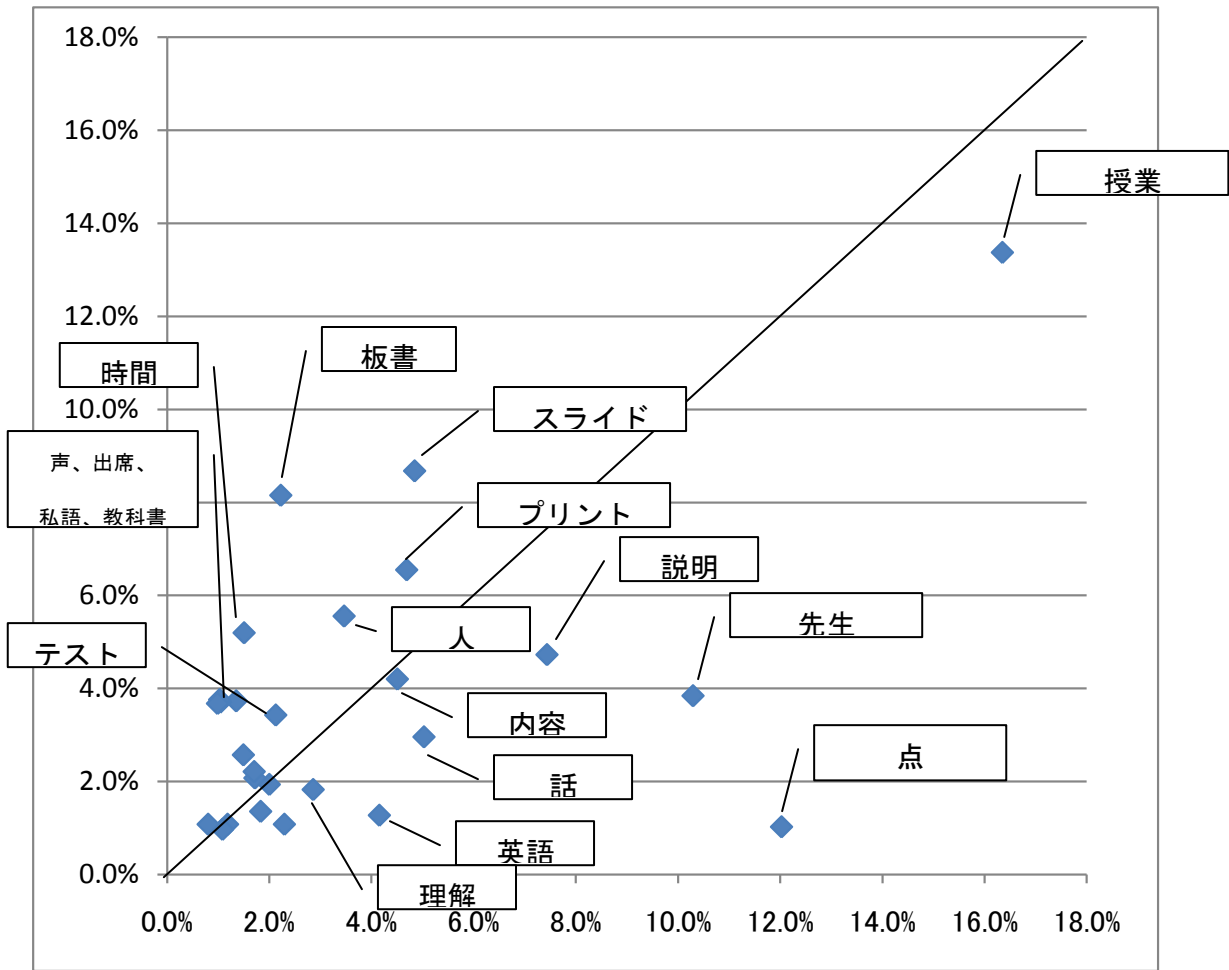


図 21 頻出単語の位置づけ (横軸：優れた点, 縦軸：改善案)

このグラフでは、マーカーが右上にあるほど、優れた点としても改善案としても多くの意見が見られたことを示す。この場合、「授業」という項目の出現頻度がもっとも高かったことがわかる。なお、「授業」の出現頻度は、対角線より右下に位置している。これは、改善案としてではなく、優れた点として記入されることが多かったことを示す。一方で、対角線よりも左上に位置する単語については、優れた点としてよりも、改善案として記入されることが多かったことを示す。なお、対角線上に位置する項目は、両観点のバランスが半々であったことを示している。

ここでは、グラフの右下に位置する項目に注目する。グラフの右下に位置する項目は、優れた点として出現していた頻度が高いものである。ここで、解釈が可能な単語に注目すると、特に「先生」「説明」「話」「英語」などが挙げられるだろう。学生は、教員や教員の説明(話)に対して、全体的には肯定的な印象を持っているものといえる。また、「英語」についても肯定的な文脈で出現する頻度が高いことが示された。英語については、一年次の必修科目であり、今後は英語の能力が重視されていることを考えると、学生の評価が高いことは非常に望ましい

ことであるといえるだろう。

次に、グラフの左上の部分に注目する。この部分に配置された項目は、学生から改善案として挙げられる頻度が高いものである。特に改善案として出現頻度が高い項目として、「板書」「スライド」「プリント」「人」「時間」などが挙げられる。なかでも「板書」と「スライド」は、どちらも教員が学生に提示する資料であり、学生にとって、授業資料の見やすさに対する注目が高い事が示された。なお、「プリント」の項目が見られた点についても、授業での資料の見やすさ、わかりやすさによるものと考えられる。次に見られた「人」については、教室環境に関連する項目と考えられる。履修者が多い科目では、快適な学習環境を整備することが難しい。特に、夏場の大規模教室は、集中して学習することがきわめて困難な環境である。この点に関して、大規模教室での履修者が多いために、「人」という単語がネガティブな意味で出現した可能性も考えられる。いずれにしても、多くの学生にとって快適な学習環境が強く求められているものといえるだろう。最後に、「時間」については、多くの学生は時間通りの授業進行を期待していることが考えられる。これは、本学における事情となるが、受講する教室によっては、休み時間中の移動が難しい場合がある（2号館から5号館への移動など）。このとき、前の授業が長引いてしまったために、次の授業に遅刻してしまうことも考えられる。この点について、学生からの改善の希望が寄せられていることが読み取れる。

この頻出単語の位置づけを通して、学生が望ましいと評価している単語は「先生」「説明」「話」「英語」であることが示された。これらについては、現在の学生の評価を維持する必要があるものと考えられる。教員は、学生にとってわかりやすい「説明」や「話」を行うよう、注意する必要があるだろう。その一方で、学生が改善を希望している単語として「板書」「スライド」「プリント」「人」「時間」が挙げられる。これらは、主に授業運営に関する項目である。「板書」「スライド」「プリント」に関しては、授業を理解するに際して、わかりやすい提示資料・配付資料が求められていることが伺える。また、「人」については、大規模科目において快適な学習環境が求められていることを示すものといえるだろう。「時間」についても同様に、授業においては終了時刻を厳格に守る必要があるものといえる。学生が改善を希望している単語については、教員自身が授業運営を振り返り、思い当たる点を改善する努力が期待される。

2.3 総合考察

これまで、授業改善アンケートの調査結果から得られたデータについて分析を実施し、多様な観点から考察を行ってきた。ここでは、分析結果から考えられる事柄について、それぞれのテーマごとに総合考察を行う。

2.3.1 授業改善アンケートの項目検証

あらゆるアンケート調査・質問紙調査を実施する際には、そのアンケート項目の信頼性と妥当性の検証が必要である。信頼性とは、いつ、何回繰り返しても同じ結果になるかどうかの指標である。信頼性を測定・検証する方法として、再テスト法(同じテストを2回実施する方法)、平行テスト法(同じレベルと難易度のテストを実施する方法)、折半法(一つのテストを同じ難易度で二つに分け比較する方法)、内部一貫法(全ての質問項目の安定性を計算し平均値を計算する方法)、これらが挙げられる。本アンケートの信頼性の検証にあたっては、もっともよく用いられる方法である内部一貫法を用いた。この方法を用いることにより、数量的に信頼性係数(クロンバックの α 係数)を求めることが可能であり、客観的に信頼性を検証することができる。なお、信頼性係数は0から1までの値をとる。十分な信頼性があるかどうかの目安として、0.8の値が設定されることが多い。信頼性係数が0.8を超えている場合、そのテストは、いつ何回繰り返しても、ほぼ同じような回答が得られるものといえる。内部一貫法による分析の結果より、本学における授業改善アンケートの信頼性係数として、0.87の値が得られている。このことから、本学の授業改善アンケートについては、十分な信頼性を有したものであるといえる。

次に、授業改善アンケートの妥当性に注目する。妥当性とは、そのテストやアンケートが、本当に知りたい内容を測定できているかどうかの概念である。例えば、英語の語彙を測定したい場面で、漢字の読み書きに関するテストを実施しても意味がない。英語の語彙力を測定するためには、英語の語彙力を測定するために適切なテストを実施する必要があるのである。なお、妥当性の概念として、内容的妥当性(調査項目に自分の知りたいことが含まれているかどうか)、基準関連妥当性(実施したテストと同様のテストで類似した結果が得られるかどうか)、構成概念妥当性(テストや調査の全体として同じものを測定しているかどうか)、以上の3点が挙げられる。なお、妥当性の検証に際しては、信頼性の検証と異なり、数量的な分析方法は開発されていない。そのため、テストや質問紙調査の経験が豊富な人物に、テストや質問紙調査の構成を確認してもらい、客観的に妥当性を保証する必要がある。本学におけるアンケート調査は、複数の授業改善・授業評価アンケートに関する先行研究に基づき構成されている(ヘルメ

スの翼に 第 6 集を参照)。このことから、妥当性に関して、大きな問題はないものと考えられる。

ただし、本学の授業改善アンケートの分析に際して、一つの問題が考えられる。それは、各科目に対する総合的な理解度や満足度について、質問する項目が設定されていない問題である。平成 21 年度に実施された授業改善アンケートは、平成 19 年度に改訂された内容に準拠している。平成 19 年度のアンケート項目の改訂は、複数の授業改善・授業評価アンケートに関する先行研究より、授業内容の理解が満足度に影響を及ぼすこと、授業改善アンケートにおいて扱われている内容が授業内容の理解に影響を及ぼすこと、これらの前提に基づいたものである。そのため、従属変数として、授業の理解度、また、授業の満足度に関する項目は除外される結果となっている。しかし、この先行研究に基づくモデルについても、継続的に検証を行う必要がある。このことから、次年度以降の授業改善アンケートにおいては、授業の理解度、授業の満足度、これらの項目についても調査項目として追加する必要があるものと考えられる。

2. 3. 2 クラスサイズとアンケート結果との関連

これまでの授業改善アンケートにおいて、授業の履修者数と授業評価との関連性について繰り返し検討が行われ、検証がなされてきた。平成 21 年度の授業改善アンケートにおいても、授業の履修者数と授業改善アンケートとの関連性についての検証を行っている。

まず、履修者数と各質問項目の相関分析の結果より、履修者数と各質問項目との間には、全項目において有意な負の相関があることが示された(2. 2 (2))。この結果は、授業の履修者が多ければ多いほど、授業改善アンケートの評定値が低いことを示している。その理由として、授業の履修者数が増加するほど、遅刻者や私語が増加し対応が困難になること、学生の受講環境も快適ではなくなることが考えられる。

また、上記の相関分析の結果に関連して、さらに詳細な比較分析を実施した。授業改善アンケートを回収した全科目について、履修人数を 33 パーセント、66 パーセントから区別し、大規模科目(126 科目)・中規模科目(121 科目)・小規模科目(113 科目)に分類した。各質問項目について、授業の規模ごとに比較を行った結果、「事前情報の周知」以外の全項目において有意な差が認められ、大規模科目の評定値が低いことが示された(2. 2 (4))。

同様に、各科目に関する全体の評価と、授業の規模との関連に注目し、分析を実施した。その結果より、これまでと同様に、小規模科目には評価が高い科目が多い一方で、大規模科目には評価が低い科目が多いことが示された。

これらの分析を通して、科目履修者数が増加するにつれて、授業改善アンケートの評定値は低下することが示された。この関連性は、昨年までの調査結果と同様であるといえるだろう。

では、履修人数の問題に対して、どのような対策が必要であろうか。対策方法として、大まかに2つの方法が考えられよう。第一に、履修制限を設け、一定数以上の人数の履修を認めない方法である。この方法を用いることによって、教員の任意で履修者数を決定することが可能となる。しかし、履修制限の実施にあたっては、その方法（先着順、抽選、簡易レポートなど）やプロセスを公開する必要があるが、それを応募した学生に公開することはきわめて難しい。いずれにしても、履修できなかった学生にとっては、ある程度の不利益がもたらされる点において問題があるものといえる。次に、第二の方法として、履修者が多い科目を2回に分割し、同様の内容で反復的に開講する方法である。本学における最大規模の教室であっても、履修者は300名程度が上限である。それを上回る履修希望があった場合、AクラスとBクラスに分割し、適切な人数で授業を開講することが可能である。ただし、学生にとっては望ましい受講環境であったとしても、教員にとって望ましい環境とは限らない。同一の内容で授業を反復することによって、教員の負担は大きく増大してしまう。

このように、大規模科目における履修人数の問題はきわめて深刻な問題である。対応策として、履修制限や開講クラスの分割などの方法が考えられるが、いずれにしても学生の不満や、教員の負担が増加することが予想される。一つの科目に多くの学生が集まった場合の対応について、今後より詳細な調査と検討が必要であろう。

2.3.3 授業改善に向けて得られた知見

平成21年度の授業改善アンケートの分析を通して、どのような知見が得られ、どのように授業改善に活かすことができるのだろうか。以下に、これまでに得られた知見をまとめる。

a) 相関分析の結果より、「理解の工夫」「説明と指示」「教材や資料」「適切な対応」の間には、非常に強い正の相関が見られた。

この結果より、学生が授業に対してどのように評定しているかが伺える。「教員が学生の理解を促す工夫をしている」科目では、「説明と指示内容がわかりやすい」「教材や資料が見やすい」、また、「学生の質問や進度の調節」が適切であることが考えられる。これらの項目は相互に関連しており、授業改善アンケートの評価が高い授業では、各項目が全般的に高い結果となっている。このことから、教員はどのようなことに注意すべきだろうか。まずは、具体的な項目から注意する必要があるものと考えられる。例えば「学生の理解を促す工夫」に注目したとしても、具体的な行動が見えてこない。それよりも、「説明と指示内容の明快さ」や「教材や資料の見やすさ」など、具体的ですぐに改善に取りかけられる項目に注目すべきではないだろう

か。このことによって、相関分析において強い関連性を持つ項目が、全体的に向上する可能性が考えられる。

b) 履修者数の多い科目において、授業改善アンケートの評定値が低下する傾向が見られる。

この結果については、これまでの授業改善アンケートの分析において何度も検討されており、さらに、今回の平成 21 年度アンケートにおいても、考察と言及を行っている。小規模科目と比較すると、大規模科目では遅刻者や私語に対する対応が非常に困難であり、また、出欠を確認することも難しい。個別の学生への対応についても、多くの学生が質問に並ぶと、学生一人一人に割り当てられる時間はきわめて限られる。このように、大規模科目においては、学生にとっても教員にとっても、集中できる学習環境を準備することはきわめて難しい。対策として、履修制限を行う、または、開講クラスを増やすなどが考えられるが、いずれにしても、学生や教員にデメリットが伴う。今後、履修者数が多い科目における授業運営のあり方について、より深い調査と検討が必要となることが予想される。

c) 自由記述における「優れた点」として出現頻度が高い単語は、「先生」「説明」「話」「英語」であることが示された。一方、「改善案」として出現する頻度が高い単語は「板書」「スライド」「プリント」「人」「時間」であることが示された。

自由記述の結果について、「優れた点」と「改善案」にテキストマイニングによる分析を実施した。その結果より、「教員の話（説明）」と「英語」については、優れた点における出現頻度が高いことが示された。これらの項目について、学生からの評価は高い事が伺える。その一方で、「板書」「スライド」「プリント」「人」「時間」については、「改善案」として出現する頻度が高いことが示された。ここで、「板書」「スライド」「プリント」は、いずれも授業の教材であり、見やすさやわかりやすさに強く関連していることが考えられる。このことから、学生はわかりやすい授業を求めており、その具体的な内容として、板書やスライド、プリントなどの見やすさを重視していることが予想される。なお、「人」については、授業人数の多さに関する文脈で見られるものであり、「時間」については、終了時間通りに終わらない授業があることを示唆している。この結果は、定量的な分析では扱われていない内容であるが、定性的調査（自由記述）に注目することによって、問題が顕在化したものといえる。今後とも、引き続いての自由記述による調査が必要であろう。

2.3.4 本調査の問題点・今後の課題

本調査の問題点、ならびに、今後の課題として、主に以下の3点が挙げられる。

①アンケート項目の構成

本学における授業改善アンケートは、平成19年度に項目の見直しと改訂が行われたものである。平成19年度時点においては、学生からのアンケート回収率が極端に低かったために、アンケート項目をスリム化し、学生の回答に際する負担を軽減することが目的であった。その結果として、その後のアンケート回収率は、ある程度向上したことが伺える。その一方で、授業改善アンケートの質問項目から、「授業の理解度」と「満足度」に関する項目が削除されてしまっている。そのため、授業改善アンケートの数量的項目の平均値を授業の満足度と扱っているが、実際に「授業理解度」と「満足度」について調査することを通して、より深い分析と考察が可能となる。この点について、学生からのアンケート回収率を低下させずに、これらの項目の追加を行う必要があるものと考えられる。

②教員の授業改善アンケートに対する意識調査

授業改善アンケートは、他の大規模調査などの事情がない限り、毎年実施されている。その結果は科目を担当する教員にフィードバックされ、教員はそれを手掛かりに授業改善を行うことができる。ここで、学生だけではなく、教員に対しても意識調査を実施する必要性があるものと考えられる。学生からの評価を教員はどのように受け止め、そして、授業改善に役立てているのだろうか。

授業改善アンケートの本来の目的は、学生からの意見を収集し、教員が授業を改善することである。ここで、教員に対するアンケート結果の受け止め方、また、具体的な授業改善の方法について調査を行うことによって、授業改善アンケートがどの程度、学生に対して利益をもたらしているかを明らかにすることができるだろう。同時に、組織的FDを実施するにあたり、教員はどのような支援を求めているかについて、手掛かりが得られることが期待される。今後、学生に授業改善アンケートを実施するだけでなく、教員の授業改善アンケートに対する意識調査を行う必要もあるものと考えられる。

③学生参加型の組織的FD活動の実施

FD活動は、学生が教員に対して一方的に求めるものではなく、同様に、教員が学生に対して一方的に求めるものではない。教員が授業を改善するためには、学生の理解と協力が必要である。これまで、本学におけるFD活動は、主に教員が主導となって行われてきた。ここで、

教員のみが主導権を握るのではなく、学生と対話を行い、学生はどのような授業を求めているのか、また、どのような形で協力することが可能なのかについて、意見を交換する必要があるものと考えられる。近年、多くの大学において、教職員と学生とが連携した FD 活動の取組みが盛んに報告されている。このことにより、学生は教職員による FD の取組みの実態と目的を理解することが可能である。同時に、教職員は、学生はどのような授業を求めているのか、また、どのような点に不満を感じているのかについて、広く意見を収集することができる。

これまで、ほとんど関わりを持たなかった教員と学生とが、共通して FD 活動に取り組むことによって、相乗的な改善の効果が期待される。今後の課題として、学生参加型の組織的 FD 活動の実現が挙げられるだろう。

2.4 本調査の結論

1) 各科目における授業改善アンケートの実施率は80.6%であり、回収率は39.6%であった。この数値は、ほぼ例年通りの値である。また、授業改善アンケートを構成する項目について検証を行った結果、信頼性・妥当性ともに問題ないことが示された。

2) 授業改善アンケート全体に対する回答傾向として、「私語や遅刻」に関する1項目を除いて、全て4.0を上回っていた（「私語や遅刻」に関する項目についても、きわめて4.0に近い評定値であった）。この結果より、本学学生は開講科目に概ね満足していることが考えられる。

3) 相関分析の結果より、「理解の工夫」「説明と指示」「教材や資料」「適切な対応」これらの間に、強い正の相関が見られた。また、自由記述のテキストマイニングにも同様の結果が見られた。このことから、授業改善の指針として、学生にとっての聞き取りやすさ、資料の見やすさ、質問への適切な対応、これらに配慮する必要があるものと考えられる。

4) 履修者数が多い科目において、授業改善アンケートの評定値が著しく低い結果が得られた。その対策として、履修者数の制限や開講クラスを分割する方法などが用いられているが、どちらの方法にしても、学生の不満や教員負担が増加する。大規模科目における授業運営のあり方について、継続的な検討と支援が求められる。

5) 今後の課題として、①アンケート項目の改訂（授業理解度と満足度の追加）、②教員に対する授業改善アンケートの意識調査の実施、③学生参加型のFD活動の実施、これらの活動が挙げられる。これらの活動を実現することによって、さらに本質的な授業改善の手掛かりが得られることが期待される。

第3章 卒業生・企業に対する本学評価アンケートの結果

第3章 卒業生・企業に対する本学評価アンケートの結果

教育開発センター助教 辻 義人

3.1 調査の目的と概要

本学の卒業生は、本学での教育活動に対してどのような印象を持っているのだろうか。また、本学卒業生を採用した企業は、本学出身者に対してどのような評価を行い、どのような印象を持っているのだろうか。本調査では、卒業生と就職先の企業・組織を対象とし、上記についてアンケート調査を実施した。卒業生の本学の教育活動に対する印象や満足度、また、卒業生を採用した企業の評価、これらに注目し、調査・分析を通して、今後の教育活動の展開に資する知見が得られることが期待される。

アンケート調査は、2009年11月から2010年1月中旬にかけて実施した。

本学卒業生については、緑丘会に氏名と連絡先を明記している2005年度卒業生（2006年3月、9月卒業）を調査対象とした。その理由として、卒業から4年が経過し、それぞれの卒業生が就職先において業務にも慣れ、ある程度の責任を背負うようになっていると考えられるためである。調査対象となる人数は164名であり、各卒業生の実家連絡先にアンケート票を郵送した。回答方法は、同封の封筒による郵送、FAXによる送信、eメールによる回答、これらの方法を設定した。これは、多様な回答方法を設定することにより、卒業生からの回答率を高めることを狙った取組みである。

次に、就職先を対象とした調査については、以下の2条件に合致する職場にアンケート票を郵送した。①キャリア支援課で、本学で開催する「緑丘企業セミナー」への参加募集文書を送付した企業（約770社）。②卒業生が勤務している公務職場（道庁・市町村役所・各省庁の出先機関など）および学校職場。これらの条件に合致する就職先は、981件であった。回答方法は、卒業生対象と同様に、郵送、FAX、eメールを設定した。

次ページ以降に、卒業生対象アンケート票と、就職先対象アンケート票を示す。なお、送付の際には、このアンケート票に加えて、アンケート回答の依頼状についても送付した。

【卒業生対象】小樽商科大学の評価に関するアンケート設問票

あなた自身についてお答えください。【平成____年____月卒業：男性・女性】

(1) あなたの現在の職種にもっとも近いものを1つ選び、マルをつけてください。

- a. 農業・林業・漁業・鉱業 b. 建設業 c. 製造業 d. 電気・ガス・水道業 e. 情報通信業
f. 運輸業 g. 卸売り・小売業 h. 金融・保険業 i. 不動産業 j. 飲食店・宿泊業 k. 医療・福祉
l. 公務 m. 教育・学習支援 n. サービス業 o. その他(具体的に:)

(2) あなたは小樽商科大学の教育活動に、どの程度満足していますか。あてはまる数値にマルをつけてください。

(大変不満である) 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 (大変満足である)

(3) 本学での学習を通して、どの程度知識や能力が身に付いたと思いますか。以下の基準に基づき、あてはまる数値にマルをつけてください。

【1:全く身に付いていない ~ 3:どちらともいえない ~ 5:とても身に付いた】

- | | |
|--------------------|-------------------|
| a. 広い視野から物事を観察する能力 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |
| b. 深い専門的知識 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |
| c. 豊かな教養的知識 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |
| d. 倫理感や責任感 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |
| e. リーダーシップを発揮する能力 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |

(4) 本学での学習を通して、特に身に付いたと思われる能力を3つまで選びマルをつけてください。

- a. 問題解決能力 b. 情報分析力 c. 解決策の提案・説明力 d. 語学・異文化理解力
e. 企画立案力 f. 業務に対する責任 g. コミュニケーション力 h. 柔軟な思考力
i. 多角的な思考力 j. 思考の柔軟性 k. 知識応用力 l. 特になし

【その他(自由記述欄)】

(5) 本学の以下の学習活動は、あなたの社会生活にどの程度役立っていますか。以下の基準に基づき、あてはまる数値にマルをつけてください。

【1:全く役立っていない ~ 3:どちらともいえない ~ 5:とても役立っている】

- | | |
|----------------|-------------------|
| i) 1~2年次の教養科目 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |
| ii) 語学科目 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |
| iii) 各学科の専門科目 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |
| iv) ゼミ・卒業論文の作成 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 |

【その他(自由記述欄)】

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

卒業生を対象としたアンケート調査票

【就職先対象】小樽商科大学の評価に関するアンケート設問票

(1) 貴組織の職種にもっとも近いものを1つ選び、マルをつけてください。

- a. 農業・林業・漁業・鉱業 b. 建設業 c. 製造業 d. 電気・ガス・水道業 e. 情報通信業
f. 運輸業 g. 卸売り・小売業 h. 金融・保険業 i. 不動産業 j. 飲食店・宿泊業 k. 医療・福祉
l. 公務 m. 教育・学習支援 n. サービス業 o. その他（具体的に：_____）

(2) 本学出身者の印象についてお聞きします。以下の各項目について、どの程度の知識や能力を有していると思いますか。以下の基準に基づき、あてはまる数値にマルをつけてください。

【1：全く有していない ～ 3：どちらともいえない ～ 5：非常によく有している】

- | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a. 広い視野から物事を捉える能力 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| b. 深い専門的知識 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| c. 豊かな教養的知識 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| d. 倫理感や責任感 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| e. リーダーシップを発揮する能力 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |

(3) 本学出身者の採用の際に、重視した評価観点についてお聞きします。それぞれの項目について、あてはまる数値にマルをつけてください。

【1：全く重視しなかった ～ 3：どちらともいえない ～ 5：非常に重視した】

- | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a. 業務内容と学生の専攻との一致度 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| b. 即戦力としての期待 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| c. 語学力に対する期待 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| d. これまでの本学出身者の実績 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |
| e. 採用選考（テストや面接等）の成績 | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 |

【その他（自由記述欄）_____】

(4) 本学出身者の採用後、業務上で優れていると思われる能力はありますか。以下の項目から、最大3つまで選びマルをつけてください。

- a. 問題解決能力 b. 情報分析力 c. 解決策の提案・説明力 d. 語学・異文化理解力
e. 企画立案力 f. 業務に対する責任 g. コミュニケーション力 h. 柔軟な思考力
i. 多角的な思考力 j. 思考の柔軟性 k. 知識応用力 l. 特になし

【その他（自由記述欄）_____】

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

就職先を対象としたアンケート調査票

3. 2 卒業生を対象としたアンケート

3. 2. 1 回答者の属性

調査の結果より、24 件の卒業生からの回答が得られた。配布枚数が 164 件であったことから、回答率は 14.6%であった。回答者は、男性が 13 名、女性が 11 名であった。無記入、多重回答の有無を確認した結果、全員分のデータを分析対象にすることが可能と判断された。

3. 2. 2 回答者の所属する業種

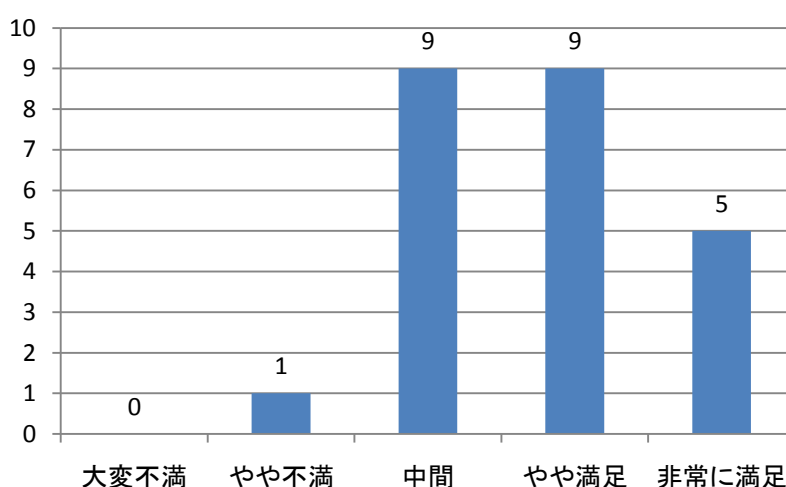
回答者の所属する業種ごとの回答数と割合を以下に示す。

| 業種 | 回答数 | 割合 |
|----------------|-----|-------|
| a. 農業・林業・漁業・鉱業 | 0 | 0% |
| b. 建設業 | 0 | 0% |
| c. 製造業 | 2 | 8.3% |
| d. 電気・ガス・水道業 | 1 | 4.2% |
| e. 情報通信業 | 2 | 8.3% |
| f. 運輸業 | 0 | 0% |
| g. 卸売り・小売業 | 3 | 12.5% |
| h. 金融・保険業 | 8 | 33.3% |
| i. 不動産業 | 0 | 0% |
| j. 飲食店・宿泊業 | 0 | 0% |
| k. 医療・福祉 | 1 | 4.2% |
| l. 公務 | 4 | 16.7% |
| m. 教育・学習支援 | 1 | 4.2% |
| n. サービス業 | 1 | 4.2% |
| o. その他 | 1 | 4.2% |
| 合計 | 24 | 100% |

3. 2. 3 本学の教育活動に対する満足度

本学の教育活動に対する満足度について調査を行った結果、平均値は 3.75 ($SD=0.85$) であった。本学卒業生は、ある程度大学教育に対して満足しているといえるだろう。ヒストグラムを以下に示す。

なお、今後の各分析において、満足度の上位群と下位群との比較を実施する。それにあたり、[やや不満・中間] の 10 名を満足度低群、[やや満足・非常に満足] の 14 名を満足度高群とする。



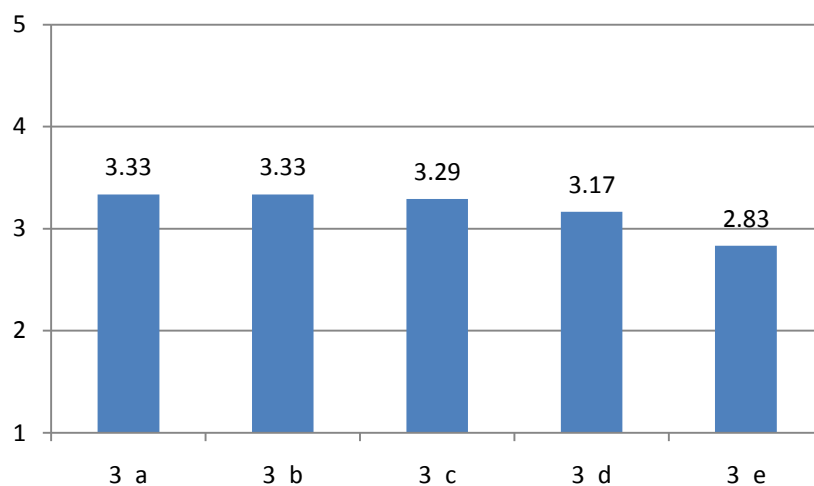
3. 2. 4 本学での学習を通して身につけた能力

本学での学習を通して身につけた能力として、①広い視野から物事を観察する能力、②深い専門的知識、③豊かな教養的知識、④倫理観や責任感、⑤リーダーシップを発揮する能力、これらの 5 つの要因に注目した。

この結果について、本学の教育活動への満足度の上位群と下位群の比較を行った。以下の表に、それぞれの平均値と標準偏差を示す。

| 項目 | 全体 | 満足度高群 | | 満足度低群 | 有意水準 |
|-----------------|-------------|-------------|---|-------------|-----------|
| a. 広い視野から観察する能力 | 3.33 (1.05) | 3.79 (0.96) | > | 2.70 (0.82) | $p < .01$ |
| b. 深い専門的知識 | 3.33 (0.82) | 3.50 (0.76) | | 3.10 (0.88) | n. s. |
| c. 豊かな教養的知識 | 3.29 (0.75) | 3.57 (0.65) | > | 2.90 (0.74) | $p < .05$ |

| | | | | | |
|-------------------|------------|------------|---|------------|-----------|
| d. 倫理観や責任感 | 3.16(0.96) | 3.64(0.75) | > | 2.50(0.85) | $p < .01$ |
| e. リーダーシップを発揮する能力 | 2.83(0.87) | 3.29(0.61) | > | 2.20(0.79) | $p < .01$ |
| 全体 | 3.19(0.90) | | | | |



満足度の上位群と下位群との比較結果より、満足度高群は、①広い視野から物事を観察する能力、③豊かな教養的知識、④倫理観や責任感、⑤リーダーシップを発揮する能力、これらについての能力を獲得したと評価していることが示された。その一方、②深い専門的知識については、両群間において差が見られなかった。

この結果より、卒業生は本学の教育を通して、一定の能力を獲得しているものと判断されていることが明らかになった。また、満足度の高低間において、能力獲得の認識に差が見られていることが示された。

3.2.5 本学での学習を通して身についた能力

本学での学習を通して身についた能力について、各項目について調査を行った。なお、本項目は複数回答（3項目まで）で実施したため、回答数と調査対象の人数は一致しない。

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|-----------------|-----|------|
| a. 問題解決能力 | 3 | 5.6% |
| b. 情報分析力 | 4 | 7.4% |
| c. 問題解決策の提案・説明力 | 3 | 5.6% |

| | | |
|---------------|----|-------|
| d. 語学・異文化理解力 | 8 | 14.8% |
| e. 企画立案力 | 1 | 1.9% |
| f. 業務に対する責任 | 4 | 7.4% |
| g. コミュニケーション力 | 13 | 24.1% |
| h. 柔軟な思考力 | 2 | 3.7% |
| i. 多角的な思考力 | 6 | 11.1% |
| j. 思考の柔軟性 | 7 | 13.0% |
| k. 知識応用力 | 2 | 3.7% |
| l. 特にない | 1 | 1.9% |

3.2.6 本学の学習活動と社会生活への貢献

本学のどのような学習活動が、社会生活に役立っているのかについて、調査を実施した。以下に、それぞれの平均値と標準偏差、ならびに満足度の高低間の比較結果を示す。

| 項目 | 全体 | 満足度高群 | 満足度低群 | 有意水準 |
|---------------|------------|------------|------------|-------|
| a. 1～2年次の教養科目 | 3.13(0.85) | 3.21(0.96) | 3.00(0.67) | n. s. |
| b. 語学科目 | 2.75(1.22) | 3.07(1.00) | 2.30(1.42) | n. s. |
| c. 各学科の専門科目 | 3.29(0.75) | 3.43(0.65) | 3.10(0.88) | n. s. |
| d. ゼミ・卒業論文の作成 | 3.50(1.02) | 3.71(1.14) | 3.20(0.79) | n. s. |
| 全体 | 3.16(1.00) | | | |

調査の結果、ゼミ・卒業論文の作成が、社会生活に最も役立っていることが示された。

次に、満足度の高群と低群間において比較を行ったところ、全項目において、統計的な差は認められないことが示された。本学の教育活動の満足度の高低に関わらず、ゼミ・卒業論文の作成や、各学科の専門科目が、卒業後の社会生活に役立っていることが伺える。注意すべき点として、語学科目の評定値が相対的に低く、標準偏差が高かったことが挙げられる。これは、本学で獲得した語学能力を活用できる環境であるか、そうでない環境であるかの影響によるものと考えられる。この結果については、より多くの被験者を対象とした、丁寧な調査・分析が必要である。

3.2.7 卒業生を対象とした調査の考察

回答者の属性と業種

本アンケート調査は、2006年3月・9月の卒業生を対象として実施した。回収方法として、郵送、FAX、メールなど、比較的多くの手段を用いたが、その回答数は全部で24件にとどまっている。アンケート配布数は164件であり、回答率は14.6%という低い水準であるといえるだろう。この点について、卒業生から意見を収集する試みが困難であることが考えられる。今後、ウェブ上でのアンケート調査など、さらに回収率を向上させるための取組みを検討する必要がある。

卒業生の業種については、1位が「金融・保険業」の33.3%、2位が「公務」の16.7%、3位が「卸売り・小売業」の12.5%であった。これらの3業種を合わせると、半数を優に超える(62.5%)。上述の通り、本アンケート調査では十分な回答数が得られているとはいえない。しかし、本学の卒業生の多くが、これらの業種に就職していることが示された。

本学の教育活動に対する評価

本学の教育活動に対する評価は、5段階評価で3.75 ($SD=0.85$) であった。これは、卒業生は、本学の教育活動に対して一定の評価を行っていることを示している。これは後の調査項目であるが、本学の教育活動は、教養科目、語学科目、専門科目、ゼミ活動など、非常に多岐にわたっている。さらに、正規科目ではなく、学生の有志で結成した学習サークルなども含めると、対象となる活動は極めて多い。また、直接的な教育活動ではなく、友人や教員との交流を通して、学習に対する考え方や姿勢についても学ぶ機会があるものと考えられる。

本アンケートの回答者が、本学の教育活動の成果として、どの程度まで広範な内容を対象としたかは定かではない。しかし、現在の教育活動に対して、卒業生は「やや満足」に近い評価を行っている。このことから、本学としては、現状の教育活動の質を保つことや、さらに向上させようとする意識が求められているものと考えられる。

本学の学習活動を通して身についた能力

卒業生は、本学の学習活動を通して、どのような能力が身についたと認識しているのだろうか。この点について調査を行った結果、5項目の平均値として3.19 ($SD=0.90$) の値が得られた。僅差ではあるが、相対的に評価が高かった項目として、「広い視野から観察する能力 ($Mean=3.33, SD=1.05$)」と「深い専門的知識 ($Mean=3.33, SD=0.82$)」が挙げられる。

その一方で、最も評定値が低かった項目として「リーダーシップを発揮する能力 ($Mean=2.83, SD=0.87$)」が挙げられる。「リーダーシップの発揮」の評価が低かった理由として、以下の2つの理由が考えられる。第一に、卒業生の社会的経験の少なさである。今回のアンケート調査の対象は、2005年度卒業生であった。アンケート調査は2009年11月から実施されているため、卒業生の社会経験は4年にも満たない。この期間内において、リーダーシップを

十分に発揮できる立場になかった学生は、この評定値が低下することが予想される。第二に、個人個人の性格的な側面である。卒業生の性格は、個人個人でまったく異なる。例えば、内向的な卒業生もいれば、外向的な卒業生もいるだろう。これについては、どちらが望ましいという問題ではなく、それぞれの適性を生かすことが望まれる。ここで、リーダーシップについても同様に、個人個人の適性に左右される。リーダーシップを発揮して周囲を引っ張っていくことが得意な人もいれば、一方では、リーダーを支えることが得意な人もいるだろう。今回の調査では、「リーダーシップを発揮すること＝良いこと」として位置づけられているが、決して全員がリーダーとなる必要はない。この点について、個人個人の適性に合わせた調査が必要であろう。

次に、本学の学習活動に対する満足感の高低で、身についた能力の比較を行った。その結果、①広い視野から観察する能力、②豊かな教養的知識、③倫理観や責任感、④リーダーシップを発揮する能力、これらの項目において、満足度の高低間で統計的な差が見られた。いずれも、本学の学習活動に満足しているほど、これらの能力を獲得したと回答している。多くの授業評価アンケートの分析結果では、学生は「満足したから能力を獲得する」わけではなく、「能力を獲得したから満足である」と考える傾向があることが指摘されている。本アンケートにおいても同様に、能力を獲得したから満足であると回答されていたことが伺える。今後の教育活動の展開において、学生の能力の向上と満足度の関連について、さらなる検討が求められる。

社会生活に役立つ本学の教育活動

本学の教育活動と、社会生活との繋がりに関連して、どのような科目が社会生活で有用だったかについて調査を行った。その結果より、以下の順に、学生の評価が高い結果が得られた。

「ゼミ・卒業論文の作成 ($Mean=3.50$, $SD=1.02$)」、「各学科の専門科目 ($Mean=3.29$, $SD=0.75$)」、「1~2年次の教養科目 ($Mean=3.13$, $SD=0.85$)」、「語学科目 ($Mean=2.75$, $SD=1.22$)」。

「ゼミ・卒業論文の作成」に関しては、3年次の後半から4年次にかけて、これまでの総合的な知識や技能に基づき、実践的な調査・研究が必要となる。そのため、実際に就職したときに、活用できる知識や技能が得られやすいことが予想される。同様に、「各学科の専門科目」についても、比較的实践的な内容を学習することができることから、評価が高かったものと考えられる。その一方で、「語学科目」に対する評定値が低い結果となった。この結果について、本項目は、卒業生の勤務先で、外国語を利用する機会の多少に左右されやすいものであることが考えられる。海外との接点が多い職場であれば評定値は高くなり、そうでない職場では、評定値は低くなる傾向があるだろう。実際に、語学科目の標準偏差（回答の散らばり具合を示す指標）は、1.22であり、他の項目よりも回答の幅が広がった。このことから、語学科目の評価

については、卒業生の勤務先の属性・特徴にも注意する必要がある。

また、この項目についても、本学の学習活動に対する満足度の高低間において比較を行った。その結果、いずれの項目も、満足度の高低間において統計的な差は認められなかった。このことから、卒業生の社会生活に対しては、満足度の高低に関わらず、一定の効果が認められているといえるだろう。

3. 2. 8 卒業生を対象とした調査の結論

本調査を通して、以下の4点が示された。

- ・本学の学習活動の効果について、卒業生の5段階評価の平均値は3.75 ($SD=0.85$)であった。卒業生は、本学の学習活動の効果に対して、一定の評価を行っている。

- ・本学の学習活動を通して、卒業生は「広い視野から観察する能力」と「深い専門的知識」が獲得されたと認識していることが示された。

- ・本学の学習活動に対する満足度の高低間において、獲得されたと認識した能力には統計的な差が見られた。本学の学習活動に対する満足度が高い学生は、全般的に能力を獲得したと回答している。

- ・社会生活で有効であった科目として、卒業生の評価は以下の順に高いことが示された。「ゼミ・卒業論文の作成」、「各学科の専門科目」、「1～2年次の教養科目」、「語学科目」。総合的な学習活動が、社会生活に有効であることが伺える。

3. 3 就職先を対象としたアンケート調査

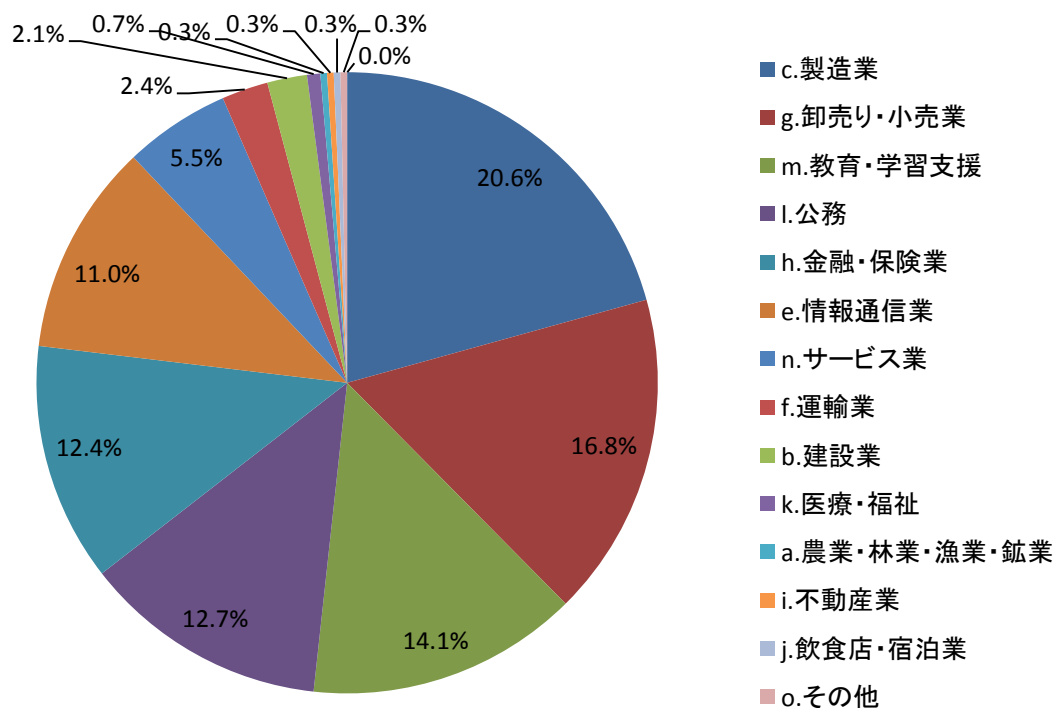
3. 3. 1 回答者の属性

調査の結果より、294件の就職先の回答が得られた。配布対象が981件であり、回答率は30.0%であった。無記入や多重回答の有無を確認し、全回答のデータを分析対象とすることが可能であることを確認した。

3.3.2 回答者の所属する業種

回答者の所属する業種ごとの回答数と割合を、以下の図表に示す。

| 業種 | 回答数 | 割合 |
|----------------|-----|--------|
| a. 農業・林業・漁業・鉱業 | 1 | 0.3% |
| b. 建設業 | 6 | 2.1% |
| c. 製造業 | 60 | 20.6% |
| d. 電気・ガス・水道業 | 0 | 0.0% |
| e. 情報通信業 | 32 | 11.0% |
| f. 運輸業 | 7 | 2.4% |
| g. 卸売り・小売業 | 49 | 16.8% |
| h. 金融・保険業 | 36 | 12.4% |
| i. 不動産業 | 1 | 0.3% |
| j. 飲食店・宿泊業 | 1 | 0.3% |
| k. 医療・福祉 | 2 | 0.7% |
| l. 公務 | 37 | 12.7% |
| m. 教育・学習支援 | 41 | 14.1% |
| n. サービス業 | 16 | 5.5% |
| o. その他 | 1 | 0.3% |
| 合計 | 291 | 100.0% |

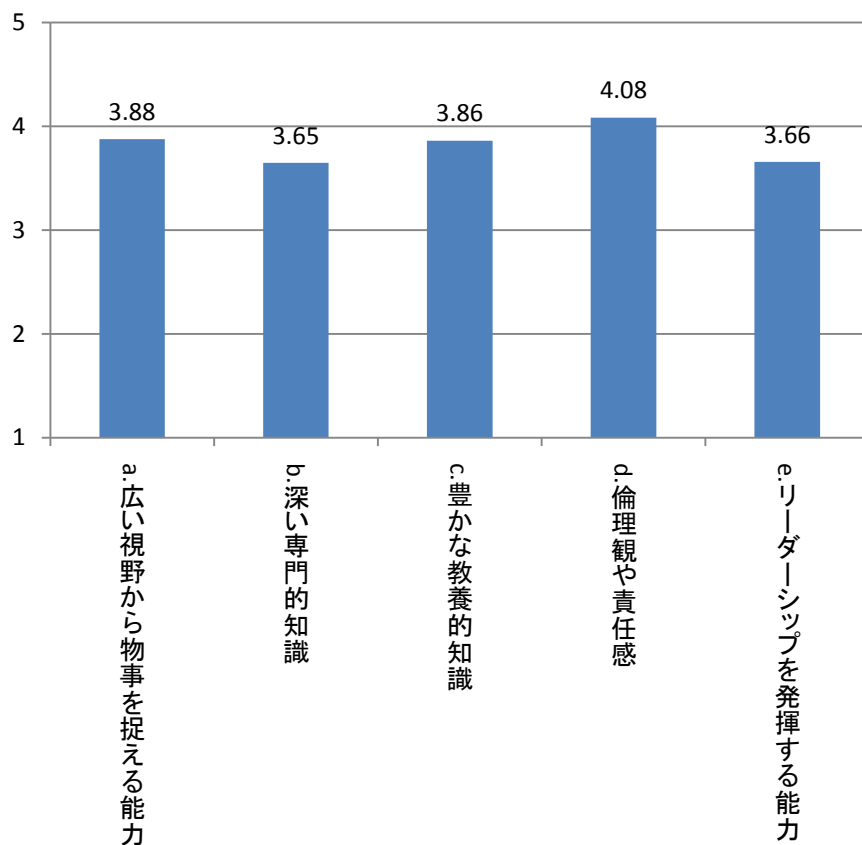


回答者の業種としては、「製造業」「卸売り・小売業」「教育・学習支援」が多く、これらの3業種で半数を超えている。しかし、それ以外にも多様な業種から回答が得られており、卒業生の進路の多様さが伺える。なお、回答が得られたデータは、特定の業種に偏っておらず、本学卒業生の平均像を把握する際に適したものであるといえる。

3.3.3 就職先による本学卒業生の印象

卒業生の就職先における、本学卒業生に対する印象について調査を実施した。各項目の評定値（平均値、標準偏差、データ数）を以下の図表に示す。

| 項目 | 全体 | データ数 |
|-------------------|-------------|------|
| a. 広い視野から物事を捉える能力 | 3.88 (0.74) | 283 |
| b. 深い専門的知識 | 3.65 (0.82) | 284 |
| c. 豊かな教養的知識 | 3.86 (0.73) | 283 |
| d. 倫理観や責任感 | 4.08 (0.74) | 284 |
| e. リーダーシップを発揮する能力 | 3.66 (0.78) | 284 |
| 全体 | 3.83 (0.78) | |



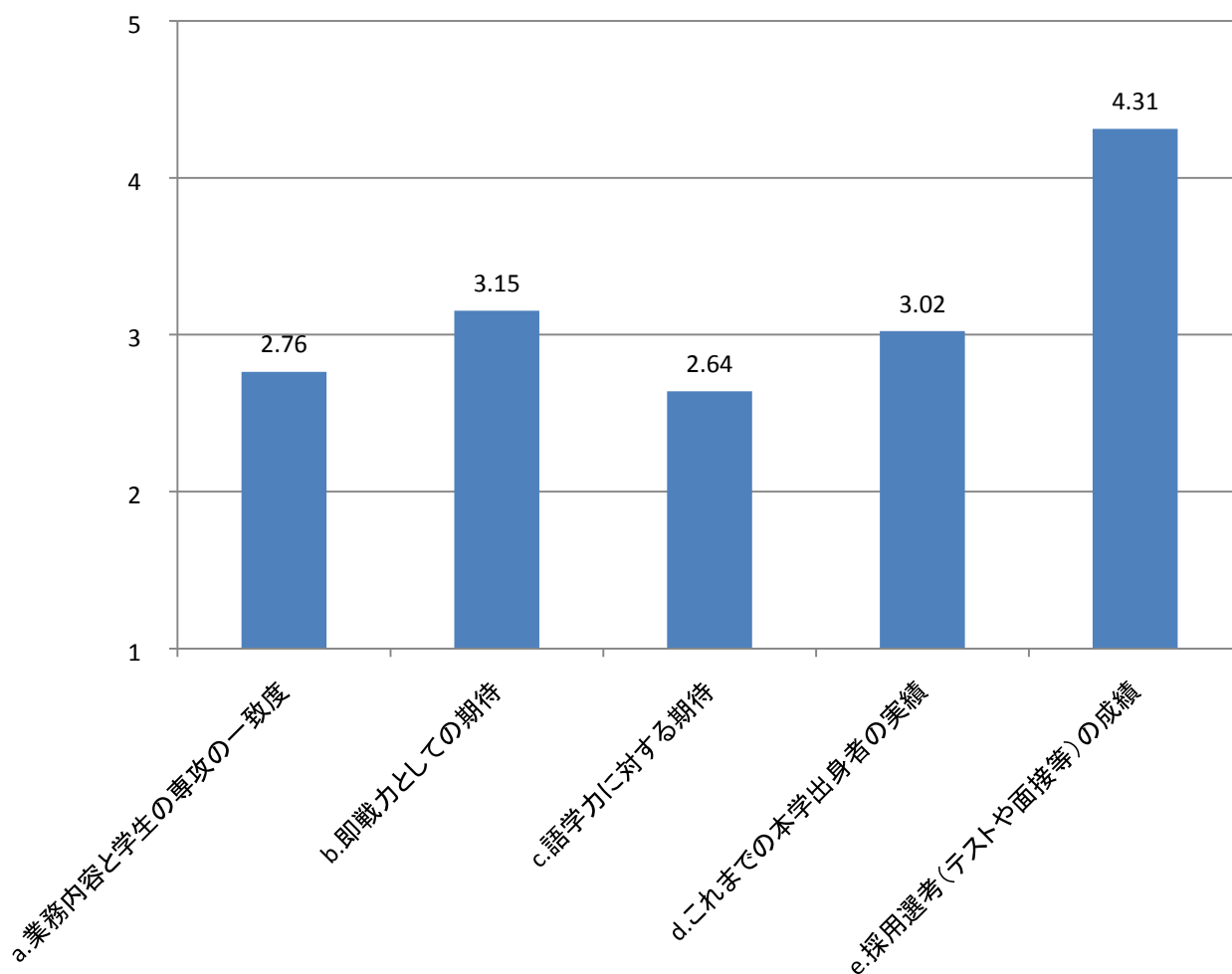
全体的に、5段階評価で3.6を上回っていることから、本学卒業生は、それぞれの就職先において、一定の評価を得ているものといえるだろう。特に評価値が高かった項目として、「d. 倫理観や責任感」が挙げられる。この結果より、本学卒業生が、仕事に対して真剣に取り組んでいることが伺える。

3.3.4 本学出身者の採用の際に重視した項目

就職先が、本学出身者の採用に際して重視した項目として、調査を行った。その結果について、以下の図表に示す。また、自由記述の結果についても記述する。

| 項目 | 全体 | データ数 |
|-------------------|-------------|------|
| a. 業務内容と学生の専攻の一致度 | 2.76 (1.13) | 267 |
| b. 即戦力としての期待 | 3.15 (1.13) | 268 |
| c. 語学力に対する期待 | 2.64 (1.10) | 267 |
| d. これまでの本学出身者の実績 | 3.02 (1.17) | 266 |

| | | |
|---------------------|-------------|-----|
| e. 採用選考（テストや面接等）の成績 | 4.31 (0.84) | 270 |
| 全体 | 3.18 (1.23) | |



(自由記述)

- 学部問わずで選考している。b 即戦力にはならない。c 国内言葉のみ。
- d につきましては本年度初めて採用させていただいた為。
- e を含め、出身学校学部専攻に限らず人物本位の選考を行なっています。
- H5年4月中途採用の一名が在籍。現総務グループチームリーダー、採用担当責任者。
- どの大学も同様の観点で採用しています。
- 学校名ではなく人物本位で採用。
- 学生の専攻内容を通じて、当社でどう生かそうか、どう発展させていきたいかを重視しています。何を学んだかも大切ですが、それをふまえ、今後自分はどうなっていきたいかが大切と考えています。

- 学生時代に頑張ってきたこと、そこから得たもの自信をもってきちっと話せているか、論理構成は、等。
- 基本は人物本位での採用です。
- 貴学出身者に限ったものではありません。
- 貴学出身者は1名のみ。
- 貴校出身者に限らず、採用の際は、当方による面接結果を重視し、人物本位で公務への適正を考慮し選考している。
- 個々の人間力。
- 公務員のため不問。
- 公立高等学校なので、学校毎の採用は行なっておりません。
- 校風と社風がすこし似ていると感じています。
- 採用においては出身校よりも人物の資質・能力に重点をおいています。専攻内容の重要性・優先度は文系の場合それほど高くありません。
- 採用は教委である。
- 採用は市教委なので回答できない。
- 採用試験の結果のみ（筆記、面接）。
- 採用担当部署ではないので答えられない。
- 市内の教職員の移動に伴う転勤のため。
- 志望動機の強さ。
- 志望動機及び志望強度（志望動機の裏付けとなる体験や経験）。
- 自分の意思があるか無いか。本当に色々と考えているかを重視。
- 出身校による評価、期待はしておりません。
- 商大学生と面接して、手ごたえを感じるのは、商大内（受験生）の一割以下。話できない、常識ない、地頭悪い、ひどいものだと思う。特に近年感じられ、商大採用者が何年も途絶えております。
- 人間性、人柄、熱意。
- 人物（人柄）、何事にも一生懸命。
- 人物重視で骨のある人材を採用（男女問わず）。最近の学生は勉強もろくにしておらず、打たれ弱い人物が非常に多いので、心身共にタフさがほしい。
- 総合的な人物評価により採用。
- 他からの転入。
- 対人面での人物像。
- 当社への志望動機と業界への関心度。

- 特に他大学と比較はしておりません。
- 入社前に大きな期待は掛けておりませんが、貴学の卒業生は、人間的にバランスに優れており、対応力があります。
- 弊社は面接重視の採用を行なっております。
- 北海道教員委員会で採用。
- 北海道教員採用試験により登録採用（英語科教諭）。
- 本校は道立の高等学校につき、独自の採用はしておりません。
- 面接では誠実さや素直さなどのパーソナリティー面を重視しています。
- 面接時の評価、受付や面談での態度を重視します。

これらの結果より、就職先では選考の際に、「採用選考（テストや面接等）の成績」を重視しており、「業務内容と学生の専攻の一致度」や「語学力に対する期待」は相対的に低いことが示された。また、自由記述の結果より、大学名で採用を決定するのではなく、あくまでも個人個人の意欲や力量に注目されていることが伺える。この結果については、ある程度、予想通りの結果であるといえるだろう。

本学は、他の大学と比較して、比較的良好な就職率を維持している。これは、大学名による効果ではなく、学生個人個人の意欲や力量によるものといえる。本学の教育活動の今後の指針として、これまでの就職率や、大学名などのブランドに頼るのではなく、絶えず学生個人個人に注目し、キャリアに対する意識を喚起させる必要があるものと考えられる。

3.3.5 本学卒業生の優れていると思われる資質

本学卒業生の優れていると思われる資質について、就職先に調査を行った。なお、この項目は複数回答（3項目まで）として設定したため、データ数は回答数と一致しない。また、本項目について、自由記述を設定している。これらの結果について、以下に示す。

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|-----------------|-----|-------|
| a. 問題解決能力 | 69 | 9.4% |
| b. 情報分析力 | 78 | 10.6% |
| c. 問題解決策の提案・説明力 | 65 | 8.8% |
| d. 語学・異文化理解力 | 34 | 4.6% |
| e. 企画立案力 | 36 | 4.9% |
| f. 業務に対する責任 | 171 | 23.2% |

| | | |
|---------------|-----|-------|
| g. コミュニケーション力 | 131 | 17.8% |
| h. 柔軟な思考力 | 54 | 7.3% |
| i. 多角的な思考力 | 22 | 3.0% |
| j. 思考の柔軟性 | 26 | 3.5% |
| k. 知識応用力 | 46 | 6.3% |
| l. 特にない | 4 | 0.5% |

(自由記述)

- (2)(4)に関しては、大学ごとに分析していませんので、恐れ入りますが、お答えできません。
- (2)～(4)については、回答できかねますので、ご了承下さい。
- (2)同様総じて言えない。
- 1994年以降採用者がなく、私自身、昨年、人事部採用担当に着任しましたため、アンケートに適切に回答できません。申し訳ありません。
- 2009年4月入社のため、これからに期待している。女性ながら強い意志を有している。
- OB1名のみのでの評価ですので、片寄りがあります。
- あくまでも担当者個人の主観です。
- いずれも個人差があるので、平均で回答しました。
- プライドの高さが若干気になる。納得しないと仕事に取りかからない所がある。
- やる気、熱意が感じられる社員が多いと思います。
- 一人一人個性があるため、個々人で優れている能力に違いがあります。
- 英語科教員3名について評価。全て優秀です。
- 学生のレベルは高いと思います。
- 基礎学力の高さ。
- 貴校出身者には語学力に優れた職員が多いように感じられます。職員の個人差があるため、貴校出身者というカテゴリーでは回答しにくいように思います。教育評価にご活用されるとのことですので、例えば貴校の教育方針といったものを併せてお知らせいただくと回答しやすくなるのではと思います。
- 個人によって優れている点異なるため、あえて選びません。
- 個人差があり、一概には言えませんが、仕事は間違いなく的確にこなすものの、自ら提案したりリーダーシップを発揮したりする点でもの足りなさがあるように感じます。

- 私は道立高等学校に勤務しておりますが、商大卒の高校教員が少なく、淋しい思いをしております。30年前はスゴイ勢いがありました。
- 若手は、コミュニケーションと交渉力は別で、交渉力は弱い。35才以上の者は、「飲み」の作法、コミュニケーションができていますのでコミュニケーションは他大学出身者よりも優れている。勉強しなくとも、サークルや酒に熱中していた者が、今の採用でも商大の場合とても魅力的で、選考に残る率が高いです。
- 昭和50年代迄は採用者数も多く、先後輩という人的つながりから毎年一定数の採用者がありました。最近採用が無く、10年以上も空白があります。この為現在は人脈が途切れている状況です。私自身OBとして残念に思っています。
- 上記の理由につき、ご回答しかねますが、貴校卒業の教員の印象として、複数の意見をまとめ回答させていただきました。(2)(4)について。
- 職員の評価にかかわり、お答えできません。
- 真面目で人柄の良い人材が多く、業務遂行能力が総じて高い。
- 真面目に業務に取り組む姿勢を評価できます。
- 積極性。
- 責任感が強く、コミュニケーションもよくとれています。今後の更なる活躍を期待しております。
- 全体的に能力は問題ありません。ただ元気が欲しいです。全体的に大人しいです。
- 対象者が複数在職しており、配置職場における業務内容が多種多様であることから判断するのは難しい。(2)においても同じ。
- 大学にて人を判断しておりません。弊社の求める人材像に合う学生を採用しております。小樽商科大学様のご出身者が特にというわけではありませんが、優秀な方にご入社頂き、活躍して頂いております。
- 大変真面目で、ガンバリ屋です。職場ではお客様からの信頼も厚く、技術的な進歩も目覚ましいものがあります。
- 同僚性に優れ、協調して業務にあたることができ、課題解決能力に秀い出ている。
- 特に他大学と比較はしておりません。
- 能力評価については、出身大学別の集計、分析は行なっていない為、回答不可。
- 販売や企画、修理のあらゆる部署で責任的な立場で業務を行なっています。
- 非常に助かっています。
- 複数人採用しているため、一律の評価ができないこと。また、制度として個々人を評価しておらず、公表するつもりもありません。
- 弊社には卒業生が11名おり、個人差がありますので、この設問は適切とは思えませ

ん。また、選択肢 h、i、g の3つは重視していると思われます。商大出身者をこのようなアンケートで色付けするのも疑問が残ります。

- 優れた能力を有して業務所発揮している小樽商大出身の社員は当社に多数在籍しておりますが、あくまで個人の能力で出身学校は、あまり関係がないと思われます。

この結果より、本学卒業生に対する評価として、「業務に対する責任」「コミュニケーション力」「情報分析」の評定値が高いことが示された。この結果より、本学卒業生は、チーム体制で、業務に対して真剣に取り組んでいることが伺える。ただし、これらの資質は、あくまでも個人個人の評価であるため、本学の卒業生の特徴として解釈するには、やや無理がある。そのため、この結果は、あくまで本学卒業生の平均像としてのみ、解釈することが可能である。

相対的に低かった項目としては、「多角的な思考力」と「思考の柔軟性」が挙げられる。これらの項目については、質問の抽象度が高いために、評価できる点として候補となることが少なかったことが予想される。今後、質問項目についても、検討する必要があるだろう。

3.3.6 就職先を対象とした調査の考察

回答者の属性と業種

卒業生の就職先にアンケート票を配布した結果、981件中、294件の回答が得られた。回答率は30.0%であった。前回の調査時における配布・回収状況は、37件中、10件の回答であったことから、今回の調査においては、多くの業種から、多様な意見が得られたこととなる。なお、回答率には、さほどの違いは見られていない。しかし、調査対象を大きく拡大したことから、今回のような十分なデータ数が得られたものといえるだろう。大規模アンケートの実施に際しては、多くの時間と手間が必要である。教育効果の検証に際しては、できるだけ頻繁に同様の調査を実施することが望ましい。しかし、現実的に、配布・回収・分析・考察などの作業を行う際には、多くの手間が必要となる。このことから、より洗練された調査方法（配布・回収方法、質問項目など）を検討する必要があるだろう。

回答者の業種については、主に「製造業」「卸売り・小売業」「教育・学習支援」が多く、全回答の半数以上が上記の業種で占められていることが示された。しかし、その他の業種についても多くの回答が寄せられている。このことから、本調査の調査・分析結果は、特定の業種に偏ったものではなく、多様な業種からの平均的な回答と扱うことができるだろう。

就職先における本学卒業生の印象

就職先における本学卒業生の印象について、「a.広い視野から物事を捉える能力」、「b.深い専

門的知識」、「c.豊かな教養的知識」、「d.倫理観や責任感」、「e.リーダーシップを発揮する能力」、これらの側面から調査を行った。その結果、全項目の評定値が3.6を超えており、本学卒業生は就職先において一定の評価を受けていることが示された。また、特に評価の高い項目として、「倫理観や責任感」が挙げられる。この結果より、本学卒業生は、それぞれの就職先において、真剣に業務に対して取り組んでいることが伺える。

本学出身者の採用の際に重視した項目

本学卒業生の就職先は、採用の際にどのような点を重視しているのだろうか。この点について、「a.業務内容と学生の専攻の一致度」、「b.即戦力としての期待」、「c.語学力に対する期待」、「d.これまでの本学出身者の実績」、「e.採用選考（テストや面接等）の成績」、これらの評価項目を設定した。また、自由記述による回答も収集した。

調査の結果より、本学出身者の採用に際して、特に「採用選考（テストや面接等）の成績」の評定値が高いことが示された。また、自由記述においても、本学出身者の採用にあたり大学ごとの選考は行っておらず、個人本位の選考を行っているという回答した就職先が多く見られた。これらの結果は、ほとんどの企業は大学名で就職採用を行うのではなく、応募者の一人一人に注目して採用活動を行っていることを示すものといえる。このことから、今後の本学の教育活動として、過去の就職率や大学名のブランドに頼ることなく、学生にキャリアに対する意識を喚起する必要があるものといえるだろう。

3.3.7 就職先を対象とした調査の結論

就職先を対象とした調査の結果より、以下の4点が示された。

- ・多様な業種から多くの回答が寄せられ、本学卒業生の平均像を把握するのに適したデータが得られた。
- ・本学卒業生に対する就職先の印象として、全般に高い評価が得られている。なかでも、「倫理観や責任感」が特に高く評価されており、卒業生が真剣に仕事に取り組んでいることが伺える。
- ・本学出身者の採用に際して、就職先が重視した内容は「採用選考（テストや面接等）の成績」であることが示された。自由記述からも、採用選考に際しては、大学名ではなく個人の意欲や力量に注目するとの記述が多数見られていることから、学生一人一人に対するキャリア意識の育成が求められる。

・本調査は、卒業生の個人個人に焦点を当てたものではなく、平均的な本学卒業生のイメージを把握したに過ぎない。企業は大学名で学生を採用することはないことから、学生個人個人のキャリアに対する意識の喚起、さらに、キャリア形成を目指した行動、これらについて、本学の教育活動でさらに促進する必要がある。

3.4 総合考察

各回答者の属性について

卒業生の属性として、「金融・保険業」、「教育・学習支援」、「製造業と情報通信業」に属している回答が多かった。その一方で、就職先から得られた回答については、「製造業」、「卸売り・小売業」、「教育・学習支援」の順に、回答数が分布していた。ここで、卒業生と就職先との回答が一致していない結果が得られている。この点について、卒業生からの回答数が十分ではなかったことが考えられる。今後、卒業生を対象とした調査方法について、より洗練された効果的な方法を検討する必要があるだろう。

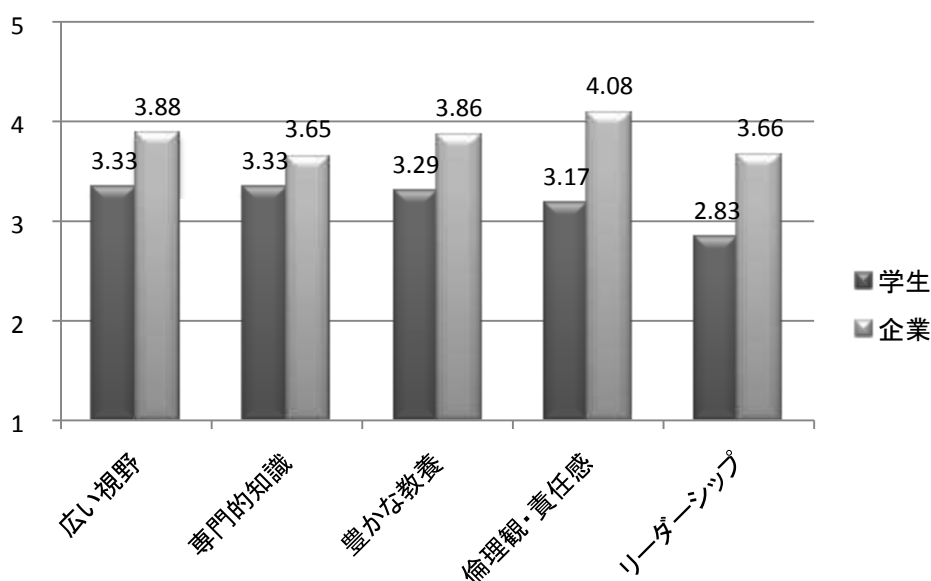
卒業生と就職先における評価の比較

本学の学習活動を通して身につけた能力について、卒業生と就職先のそれぞれが回答を行った。その結果より、卒業生の平均評定値は 3.19 ($SD=0.90$) であり、就職先の平均評定値は 3.83 ($SD=0.78$) であった。卒業生の自己評定に対して、就職先の評定値が少々高い結果となっていることが示された。

ここで、卒業生の自己評価と就職先の評価について、平均値の差の比較を実施した結果、「広い視野 ($p<.05$)」、「豊かな教養 ($p<.01$)」、「倫理観・責任感 ($p<.01$)」、「リーダーシップ ($p<.01$)」、これらの項目において、統計的に意味のある平均値の差が見られた。また、「専門的知識」については、統計的に有意な差が見られなかったが、有意水準は $p=.07$ であり、有意傾向が伺える¹。この結果より、概ね全ての項目について、卒業生の自己評価よりも、就職先の評価が高いことが伺える。

就職先の評価が高い理由として、多様なものが考えられる。本学の教育活動を通して、学生が多様な能力を身につけた可能性もあれば、就職先の企業内研修などに取り組むことで、それぞれスキルアップした可能性もある。一概に、本学の教育効果が優れていると断言することはできないが、本学の卒業生は、就職先においてある程度高い評価を得ていることが示された。

¹ 統計的な差に関して明確な基準は定められていないが、一般的には有意水準 5%以下と設定されている。本分析においても、統計的な差の指標として 5%を指標としている。なお、有意水準が 5%~10%の場合はグレーゾーンであり、「統計的な差の傾向がある」と解釈されることが多い。



本学の今後の教育活動の指針として

就職先に対して、本学出身者の採用にあたっての評価観点の調査を行った。この回答は、今後、本学においてキャリア教育を実践する際に重要な知見となることが期待される。

調査の結果より、就職先は「採用選考（テストや面接等）の成績」を最重要視しており、その他の項目については、さほど重要視していないことが示された。なかでも、「業務内容と学生の専攻の一致度」と「語学力に対する期待」の評定値が低い結果となった。この結果について、就職先における企業内研修が充実しており、業務に必要な技能を、就職先で学習する機会が保証されているものと考えられる。

このことから、大学教育の在り方について提言することができよう。近年、企業では「即戦力」として働ける人材を求めているとの報告が数多くなされている。しかし、これは主に中途退職や再就職を希望する人材に当てはまるものであり、大学新卒者に対しては、必ずしも当てはまるものではないことが考えられる。調査の結果より、現在においても、依然として企業内研修が有効に機能している企業も多く存在する。そのため、大学教育において、むやみに特定の分野に特化したキャリア教育を実践するよりも、多方面において活躍できる「伸びしろ」を持った人材を育成することが望ましいのではないだろうか。今後の本学の教育活動の指針として、多様な方面に興味を持ち、貪欲に吸収、学習する姿勢を育成する必要があるものと考えられる。

本調査の問題点

本アンケートを実施する際の問題点として、以下の2点が考えられる。

第一に、本学卒業生の回答者の少なさである。卒業生を対象にアンケート票を配布するに当たっては、本学同窓組織「緑丘会」に登録されている名簿を利用した。それにより、164名にアンケート票を配布することが可能であった。しかし、実際に回答が寄せられたのは、24件であり、回答率としては16.4%に過ぎない。アンケートの回答率を向上させるため、郵送やFAX、eメールでの回答などの選択肢を用意したものの、回答が寄せられたのは、ごく一部であった。この点について、今後、ウェブ上での回答方法を用意するなど、回答率の向上を意図した工夫が必要となるものが考えられる。

第二に、企業に対するアンケート調査の内容である。本アンケートでは、できるだけ回答者（就職先）の負担を軽減するために、アンケート項目数を極限までシンプルに絞った形式で実施している。その結果、本学卒業生の評価について、ある程度の分析と検討が可能であった。しかし、今後の本学の教育活動に対して、どのような方針が望ましいのかについては、十分な考察を行うには不足していたといえるだろう。アンケート項目数と回収率との間には、トレードオフの関係性がある。今後の課題として、いかにシンプルな構成で、より深い考察が可能なアンケート票を作成するか、より深い議論が必要であろう。

3.5 本調査の結論

本アンケート調査を通して、以下の結論が得られた。

- ・卒業生を対象としたアンケートより、卒業生は本学の教育活動に対して、ある程度満足していることが示された。特に、「広い視野から観察する能力」と「深い専門的知識」に関する評価が高かった。
- ・卒業生のなかでも、本学の教育活動に満足であると回答していた学生は、本学の教育活動に対してより高い評価を行っていた。本学の教育活動の満足度と、実際に知識や技能を習得した度合いには、一定の関連性があることが予想される。
- ・就職先を対象としたアンケートより、本学卒業生は、ある程度高い評価を得ていることが示された。その評価は、卒業生自身の自己評価よりも、高い傾向が見られた。
- ・企業が新卒者を採用する際の評価観点は、主に「採用選考（テストや面接等）の成績」であることが示された。大学名ではなく、個人の意欲や力量に注目された選考が行われており、これらの資質の育成が必要と考えられる。

・今後の本学の教育活動の指針として、むやみに「即戦力」を意識した教育を行うのではなく、あらゆる分野において活躍することができる、学習を重んじた姿勢を育成することが必要と考えられる。

第4章 FD 活動報告
(專門職大学院教育開発部門)

第4章 FD活動報告

4.1 専門職大学院教育開発部門の活動状況

4.1.1 専門職大学院教育開発部門の活動

平成21年度の専門職大学院教育開発部門会議は7回開催された。主な審議内容は以下のようである。

- ・平成21年度活動方針について
- ・教育業績評価のためのアンケートの実施について
- ・平成21年度授業参観の実施について
- ・平成21年度授業評価アンケートの実施について

4.1.2 研修会の開催状況

専門職大学院教育開発部門では、教員対象のFD研修会を前期開講科目については平成22年1月20日に、後期開講科目を含めた通年分については平成22年5月19日に実施し、授業評価アンケートの集計結果報告及び分析結果の検討並びにGPAを用いた成績評価の検討が行われた。

4.1.3 授業評価等の実施状況

(1) 平成21年度「授業評価アンケート」の実施

専門職大学院教育開発部門では、平成21年度の前期及び後期の2回、開講しているすべての授業科目を対象に授業評価アンケートを実施した。授業評価の集計結果は、対象授業科目名、担当教員名を含めて公表した。平成21年度のアンケートの概要、分析等は、第5章に掲載している。

(2) 教員相互の授業参観の実施

専門職大学院教育開発部門では、教員相互の授業参観を前期・後期に実施した。

授業参観は、これまで授業科目 1 科目毎にアントレプレナーシップ専攻の専任教員 2 名が出席することを原則として同僚による同僚評価を行い、対象となる科目は実践科目を除く 34 科目とし、半期に 3 科目を評価対象として前期は 6～7 月、後期は 11～12 月に実施してきた。参観後に授業担当教員との懇談を行い意見交換後、授業参観記録シートを作成している。

(3) 教員による自己評価の実施

専門職大学院教育開発部門では、平成 21 年度に開講されたすべての授業科目の担当教員を対象に自己評価を実施した。

自己評価は、教育活動実施記録と学生による授業評価、教員による同僚評価（実施された場合）に基づいて行われた。評価項目のうち、「自己評価レポート」は、教員氏名、担当科目名とともに第 5 章 5. 4 節に掲載している。

4. 1. 4 FD活動報告書「ヘルメスの翼に」第 7 集への掲載

FD活動報告書「ヘルメスの翼に」第 7 集に、大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻における FD 活動について『ビジネススクール編』として掲載した。これは、大学院アントレプレナーシップ専攻教育開発部門が平成 20 年度に活動した内容をまとめたもので、また、平成 20 年度「教育評価」の結果と分析の報告書も兼ねている。

第5章 平成21年度「授業評価アンケート」集計結果と分析

第5章 平成21年度「授業評価アンケート」集計結果と分析

専門職大学院教育開発部門長
教授 奥田 和重

5.1 質問項目

本節の目的は、平成21年度に開講した41科目中「ビジネスワークショップⅠ、Ⅱ」と「中級ビジネス英語」を除く38科目の「授業評価アンケート」の集計結果とその分析結果である。「授業評価アンケート」は、授業参観による「同僚評価」と教員自身による「自己評価」とともに、授業改善に結びつくヒントを探ろうとするもので、これによって品質の高い授業の実現を目的としている。アンケートは、15項目からなり、それぞれの質問項目は以下のものである。なお、質問項目13、14、15は自由記述である。なお、本章では「授業評価アンケート」を単に「アンケート」と表記している。

- 1 シラバスにおける授業内容の記述は適切でしたか。
- 2 E-learning Systemの活用等、授業時間以外での教員の指示は適切でしたか。
- 3 授業中の教員の説明（話し方の明瞭さやパワーポイントを含む）は分かりやすかったですか。
- 4 授業で用いられた題材や資料は、授業を理解する上で適切なものでしたか。
- 5 グループディスカッションから得るものがありましたか
- 6 プレゼンテーションや全体ディスカッション（質疑応答を含む）から得るものがありましたか
- 7 事前課題は、授業を理解する上で役に立ちましたか。
- 8 事後課題ないしレポート作成から得るものがありましたか。
- 9 課題・レポート返却のタイミングや、コメントは適切なものでしたか。
- 10 授業の目的と授業の内容は整合性がとれていましたか。
- 11 成績評価の方法・基準（周知の仕方を含む）は適切なものでしたか。
- 12 この授業に満足できましたか。
- 13 この授業の良かった点（5つ以内）を記述してください
- 14 この授業について、こうすれば良かったという点（5つ以内）を記述してください。
- 15 その他お気づきの点がありましたら自由にお書きください

なお、アンケートは各質問項目について5段階評価を行っており、当該授業に該当しない質問項目については記入しないよう注意書きしている。以後の分析において表記を簡潔にするために各質問項目を表1のように表記することにする。

表1 質問項目の表記法

| | | | | | | |
|------|--|------|------|-----|---------|----------|
| 質問項目 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 表記法 | シラバス | 指示 | 説明 | 資料 | グループワーク | ディスカッション |
| 質問項目 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 表記法 | 事前課題 | 事後課題 | コメント | 整合性 | 成績評価 | 満足度 |
| 13 | この授業の良かった点（5つ以内）を記述してください。 | | | | | 評価点 |
| 14 | この授業について、こうすれば良かったという点（5つ以内）を記述してください。 | | | | | 改善点 |
| 15 | その他お気づきの点がありましたら自由にお書きください。 | | | | | 自由記述 |

5.2 アンケートの集計結果

アンケートは平成21年度に開講した41科目中38科目⁽¹⁾で実施されており、各科目の回答者数は表2のようで、アンケートの回収率は93.68%である。特殊講義I（コーポレートファイナンス）を100%とすると、全体の回収率は93.56%になる。

表2 アンケート実施状況

| | 科目群 | 科目名 | 担当者 | 履修者数 | 回答者数 | 回収率 |
|----|------|---------------------|-------------|------|------|---------|
| 1 | 基本科目 | マネジメントと戦略 | 李 濟民 | 40 | 38 | 95.00% |
| 2 | | 企業会計の基礎 | 堺 昌彦 | 40 | 38 | 95.00% |
| 3 | | 組織行動のマネジメント | 出川 淳 | 39 | 37 | 94.87% |
| 4 | | マーケティングマネジメント | 近藤公彦 | 39 | 37 | 94.87% |
| 5 | | 情報活用とビジネスライティング | 奥田和重 | 40 | 36 | 90.00% |
| 6 | 基礎科目 | アントレプレナーの系譜とリーダーシップ | 瀬戸 篤 | 23 | 20 | 86.96% |
| 7 | | 統計分析の基本 | 西山 茂 | 34 | 33 | 97.06% |
| 8 | | 予算管理と業績評価 | 乙政 佐吉 | 34 | 33 | 97.06% |
| 9 | | ベンチャー企業 | 瀬戸 篤 | 7 | 7 | 100.00% |
| 10 | | 初級ビジネス英語 | 浦島 久 | 15 | 16 | 106.67% |
| 11 | | 戦略的ファイナンス | 前田 陽 | 26 | 24 | 92.31% |
| 12 | | ビジネス法務の基礎 | 中村・和田・道野 | 12 | 12 | 100.00% |
| 13 | | 経営戦略とイノベーション | 玉井 健一 | 35 | 31 | 88.57% |
| 14 | | 顧客志向経営 | 松尾 睦 | 28 | 28 | 100.00% |
| 15 | | パブリックマネジメント | 相内 俊一 | 11 | 12 | 109.09% |
| 16 | | ビジネスプランニングの技法 | 齋藤・山本(充)・出川 | 34 | 35 | 102.94% |
| 17 | | ビジネスエコノミクス | 西山・瀬戸 | 13 | 12 | 92.31% |
| 18 | 発展科目 | ビジネスプロセス構築 | 奥田・出川ほか | 35 | 32 | 91.43% |
| 19 | | 企業財務と税務戦略 | 富樫 正浩 | 5 | 4 | 80.00% |
| 20 | | 国際取引の法務戦略 | 中村秀雄 | 3 | 3 | 100.00% |
| 21 | | 金融システムのアーキテクチャー | 齋藤一朗 | 13 | 12 | 92.31% |
| 22 | | テクノロジービジネス創造 | 瀬戸・守内也 | 7 | 7 | 100.00% |
| 23 | | 技術と事業革新 | 瀬戸・武田 | 5 | 5 | 100.00% |
| 24 | | 会社設立とファイナンス | 寺嶋・佐藤 | 15 | 13 | 86.67% |
| 25 | | マーケティングの技法 | 山本 充 | 8 | 7 | 87.50% |
| 26 | | 生産管理 | 奥田和重 | 6 | 5 | 83.33% |
| 27 | | 組織的意思決定 | 出川 淳 | 20 | 19 | 95.00% |
| 28 | | 北海道経済と地域戦略 | 下川・小田 | 12 | 10 | 83.33% |
| 29 | | IR戦略 | 松本 康一郎 | 5 | 5 | 100.00% |
| 30 | | 将来予測の技術 | 西山 茂 | 14 | 10 | 71.43% |
| 31 | | 知的財産の評価と活用戦略 | 才原 慶道 | 8 | 7 | 87.50% |
| 32 | | 環境経営戦略 | 山本(充)・八木 | 6 | 6 | 100.00% |
| 33 | | 国際経営 | (非開講) | | | |
| 34 | | 中級ビジネス英語(*) | 小林・クランキー | | | |

(1) 「中級ビジネス英語」は履修生が科目等履修生1名のみであったためアンケートを実施していない。

| | | | | | | |
|----|------|---------------------|-------------|-----|-----|---------|
| 35 | | 特殊講義Ⅰ(コーポレートファイナンス) | 旗本 智之 | 13 | 14 | 107.69% |
| 36 | | 特殊講義Ⅱ(事業再生とリーダーシップ) | 吉村・玉井 | 22 | 21 | 95.45% |
| 37 | | 特殊講義Ⅲ | (非開講) | | | |
| 38 | 実践科目 | ビジネスプランニングⅠ | 齋藤・山本(充)・出川 | 38 | 34 | 89.47% |
| 39 | | ケーススタディⅠ | 玉井・近藤・堺 | 38 | 38 | 100.00% |
| 40 | | ビジネスプランニングⅡ | 齋藤・出川・山本 | 31 | 30 | 96.77% |
| 41 | | ケーススタディⅡ | 近藤・玉井・篠本 | 33 | 25 | 75.76% |
| 合計 | | | | 807 | 756 | 93.68% |

各質問項目に対する5段階評価の各評価値の合計数と、各質問項目の平均評価値を表3に示す。

表3 回答数と平均値

| 質問項目 | シラバス | 指 示 | 説 明 | 資 料 | グループワーク | ディスカッション | 事前課題 | 事後課題 | コメント | 整合性 | 成績評価 | 満足度 |
|-------|------|------|------|------|---------|----------|------|------|------|------|------|------|
| 回答1 | 9 | 12 | 18 | 15 | 18 | 16 | 12 | 15 | 28 | 10 | 13 | 23 |
| 回答2 | 22 | 30 | 52 | 46 | 24 | 20 | 39 | 33 | 39 | 37 | 23 | 41 |
| 回答3 | 83 | 107 | 112 | 100 | 114 | 103 | 138 | 79 | 163 | 93 | 135 | 86 |
| 回答4 | 288 | 281 | 239 | 292 | 260 | 276 | 237 | 256 | 239 | 263 | 278 | 238 |
| 回答5 | 340 | 315 | 313 | 291 | 320 | 328 | 310 | 362 | 271 | 343 | 284 | 358 |
| 1~5合計 | 742 | 745 | 734 | 744 | 736 | 743 | 736 | 745 | 740 | 746 | 733 | 746 |
| 平均 | 4.25 | 4.15 | 4.06 | 4.07 | 4.14 | 4.18 | 4.08 | 4.23 | 3.93 | 4.20 | 4.09 | 4.16 |
| 全項目平均 | 4.13 | | | | | | | | | | | |

5段階評価の結果をみると、「資料」のみ「4」が最多となっており、それ以外の項目で「5」が最多となっている。なお、これまで「4」が最多となるが多かった項目は、「シラバス」や「コメント」、「成績評価」である。一方、「説明」は「2」の評価が52と多く、「1」の評価と合わせると70になる。また「コメント」は「2」の評価が39、「1」の評価が28で、合わせると67になり、「満足度」も「2」の評価が23で「1」の評価が41、合わせると64になる。「資料」は「1」の評価が15であるものの「2」の評価が46で、合わせると61になる。授業における教員の説明や、課題・レポートの返却時期、そこに付されているコメントの適切性について低く評価している学生が他の評価項目に比べて多く存在し、それが満足度の評価につながっていると思われる。

5.3 アンケートの分析

5.3.1 「教員の教授法について」の分析

各質問項目間の相関係数を計算すると表4のようになる。ここで相関係数が0.4以上の値を太文字で示している。

今回の結果は、昨年同様「グループワーク」に関わる相関係数が他の項目に比べてやや低い値になっており、グループワーク自体の評価は高くても（表3参照）、他の評価項目（例えば、当該授業の満足度）に寄与していないことが懸念される結果となっている。ただし、「満足度」と強い相関を持つ評価項目は、「シラバス」「説明」「資料」「事前課題」「事後課題」「コメント」「整合性（目的・内容）」「成績評価」などで高く、相対的に見ると「グループワーク」が最も低い値になっているので、「グループワーク」についてはさらなる改善の余地があるとも考えられる。

なお、グループワークの満足度などに対する相関が低くなる原因としては、グループ編成におけるメンバー同士の対人関係も考えられ、この点に対してはいかんともしがたい。しかし一方で、グループワーク自体の授業などとの整合性や履修者の理解度向上への貢献度合いが低いということも可能性としてはありうるので、グループワークの進め方や方法についてさらなる検討や工夫が必要とされる。

「資料」は、「説明」と「整合性」との間の相関係数が高い値になっており、授業中に用いられる題材や資料が教員の授業中の説明や授業目的に沿ったものになっているといえる。

表4 質問項目間の相関係数

| | シラバス | 指示 | 説明 | 資料 | グループワーク | ディスカッション | 事前課題 | 事後課題 | コメント | 整合性 | 成績評価 | 満足度 |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------|
| シラバス | 1.00 | | | | | | | | | | | |
| 指示 | 0.75 | 1.00 | | | | | | | | | | |
| 説明 | 0.76 | 0.58 | 1.00 | | | | | | | | | |
| 資料 | 0.82 | 0.65 | 0.92 | 1.00 | | | | | | | | |
| グループワーク | 0.65 | 0.44 | 0.56 | 0.58 | 1.00 | | | | | | | |
| ディスカッション | 0.69 | 0.47 | 0.65 | 0.61 | 0.89 | 1.00 | | | | | | |
| 事前課題 | 0.75 | 0.48 | 0.74 | 0.75 | 0.61 | 0.71 | 1.00 | | | | | |
| 事後課題 | 0.82 | 0.62 | 0.75 | 0.79 | 0.59 | 0.66 | 0.86 | 1.00 | | | | |
| コメント | 0.65 | 0.67 | 0.78 | 0.75 | 0.35 | 0.49 | 0.70 | 0.71 | 1.00 | | | |
| 整合性 | 0.84 | 0.64 | 0.88 | 0.91 | 0.63 | 0.69 | 0.85 | 0.88 | 0.79 | 1.00 | | |
| 成績評価 | 0.81 | 0.72 | 0.75 | 0.81 | 0.54 | 0.56 | 0.71 | 0.78 | 0.75 | 0.86 | 1.00 | |
| 満足度 | 0.84 | 0.70 | 0.93 | 0.93 | 0.61 | 0.70 | 0.81 | 0.87 | 0.81 | 0.94 | 0.84 | 1.00 |

本専攻が設立された平成16年度から今年度（前期）までの「満足度」の推移を表5に示した。また、表6には、科目ごとの各項目の評価値の結果を示した。

表5. 平成16年度～平成21年度（前期）の満足度の推移

| 年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 満足度 | 3.84 | 4.18 | 4.22 | 4.30 | 4.21 | 4.13 |

表6 個別科目ごとの評価値

| 科目群 | 科目名 | 担当者 | シラバス | 指示 | 説明 | 資料 | グループワーク | ディスカッション | 事前課題 | 事後課題 | コメント | 整合性 | 成績評価 | 満足度 |
|------------------------|------------------------|-------------|------|------|------|------|---------|----------|------|------|------|------|------|------|
| 基本科目 | 1 マネジメントと戦略 | 李 濟民 | 4.50 | 4.41 | 4.03 | 4.23 | 4.47 | 4.39 | 4.47 | 4.50 | 4.14 | 4.54 | 4.43 | 4.53 |
| | 2 企業会計の基礎 | 堺 昌彦 | 4.19 | 4.11 | 3.47 | 3.70 | 3.91 | 3.86 | 3.89 | 4.05 | 3.28 | 3.94 | 4.25 | 3.91 |
| | 3 組織行動のマネジメント | 出川 淳 | 4.30 | 4.41 | 3.97 | 4.16 | 4.36 | 4.33 | 4.03 | 4.41 | 3.95 | 4.32 | 4.42 | 4.27 |
| | 4 マーケティングマネジメント | 近藤公彦 | 4.47 | 4.37 | 4.36 | 4.31 | 4.57 | 4.51 | 4.49 | 4.39 | 4.28 | 4.31 | 4.26 | 4.33 |
| | 5 情報活用とビジネスライティング | 奥田和重 | 4.14 | 4.11 | 3.29 | 3.75 | 4.14 | 4.19 | 3.19 | 3.63 | 3.35 | 3.46 | 3.48 | 3.42 |
| 基礎科目 | 6 アンドレブリーダーの系譜とリーダーシップ | 瀬戸 篤 | 4.80 | 4.32 | 4.89 | 4.80 | 4.00 | 4.55 | 4.89 | 4.44 | 4.65 | 4.75 | 4.47 | 4.90 |
| | 7 統計分析の基本 | 西山 茂 | 4.39 | 4.39 | 4.25 | 4.18 | 3.55 | 3.66 | 4.06 | 4.45 | 4.44 | 4.45 | 4.61 | 4.09 |
| | 8 予算管理と業績評価 | 乙政 佐吉 | 4.44 | 4.31 | 4.15 | 4.09 | 4.18 | 4.16 | 4.00 | 4.45 | 3.82 | 4.27 | 4.24 | 4.36 |
| | 9 ベンチャー企業 | 瀬戸 篤 | 4.86 | 4.57 | 4.86 | 4.86 | 4.71 | 4.86 | 4.71 | 4.71 | 4.57 | 4.86 | 4.71 | 5.00 |
| | 10 初級ビジネス英語 | 浦島 久 | 4.44 | 4.06 | 4.80 | 4.69 | 4.33 | 4.56 | 4.25 | 4.44 | 4.38 | 4.63 | 4.25 | 4.69 |
| | 11 戦略的ファイナンス | 前田 陽 | 3.50 | 3.58 | 2.71 | 3.29 | 3.21 | 3.08 | 3.57 | 3.54 | 3.21 | 3.42 | 3.63 | 3.04 |
| | 12 ビジネス法務の基礎 | 中村・和田・道野 | 4.17 | 4.17 | 4.64 | 4.50 | 4.09 | 4.25 | 4.55 | 4.25 | 4.17 | 4.25 | 4.00 | 4.64 |
| | 13 経営戦略とイノベーション | 玉井 健一 | 4.33 | 4.55 | 3.71 | 4.10 | 4.16 | 4.16 | 4.30 | 4.29 | 4.58 | 4.30 | 4.23 | 4.13 |
| | 14 顧客志向経営 | 松尾 睦 | 4.39 | 4.33 | 4.65 | 4.44 | 4.46 | 4.50 | 4.48 | 4.41 | 4.57 | 4.57 | 4.36 | 4.50 |
| | 15 パブリックマネジメント | 相内 俊一 | 4.33 | 3.25 | 4.50 | 4.50 | 4.50 | 4.45 | 4.58 | 4.67 | 3.92 | 4.58 | 4.25 | 4.58 |
| | 16 ビジネスプランニングの技法 | 齋藤・山本(充)・出川 | 3.97 | 3.94 | 3.81 | 3.77 | 4.00 | 4.06 | 3.66 | 3.91 | 3.11 | 3.85 | 3.41 | 3.74 |
| | 17 ビジネスエコノミクス | 西山・瀬戸 | 4.08 | 4.25 | 4.58 | 4.58 | 3.75 | 3.83 | 4.42 | 4.83 | 4.50 | 4.42 | 4.25 | 4.67 |
| 発展科目 | 18 ビジネスプロセス構築 | 奥田・出川ほか | 3.72 | 3.48 | 3.58 | 3.16 | 3.97 | 3.91 | 3.47 | 3.39 | 3.20 | 3.42 | 3.68 | 3.25 |
| | 19 企業財務と税務戦略 | 富樫 正浩 | 3.50 | 3.75 | 4.00 | 4.00 | 3.50 | 3.50 | 3.50 | 3.75 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 |
| | 20 国際取引の法務戦略 | 中村秀雄 | 4.33 | 3.67 | 4.33 | 4.33 | 4.50 | 4.67 | 4.33 | 4.33 | 4.00 | 4.33 | 4.33 | 4.33 |
| | 21 金融システムのアーキテクチャー | 齋藤一朗 | 4.18 | 4.25 | 4.25 | 4.17 | 3.55 | 4.17 | 3.75 | 3.92 | 4.42 | 4.17 | 4.17 | 4.33 |
| | 22 テクノロジービジネス創造 | 瀬戸 篤・守内哲也 | 4.86 | 4.29 | 4.86 | 4.86 | 5.00 | 4.86 | 4.86 | 5.00 | 4.29 | 5.00 | 4.71 | 5.00 |
| | 23 技術と事業革新 | 瀬戸 篤・武田 立 | 4.80 | 4.60 | 4.80 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 4.00 | 5.00 | 4.60 | 5.00 |
| | 24 会社設立とファイナンス | 寺嶋・佐藤 | 4.08 | 3.62 | 3.54 | 3.69 | 3.69 | 4.15 | 4.46 | 4.46 | 3.54 | 4.00 | 3.69 | 3.77 |
| | 25 マーケティングの技法 | 山本 充 | 4.43 | 4.14 | 4.00 | 4.00 | 4.43 | 4.57 | 4.29 | 4.57 | 4.14 | 4.29 | 3.86 | 4.43 |
| | 26 生産管理 | 奥田和重 | 3.20 | 3.00 | 3.00 | 3.20 | 2.80 | 2.80 | 3.00 | 3.00 | 2.80 | 3.40 | 2.80 | 2.80 |
| | 27 組織的意思決定 | 出川 淳 | 4.44 | 4.47 | 4.42 | 4.63 | 4.68 | 4.22 | 3.61 | 4.21 | 3.83 | 4.47 | 4.37 | 4.50 |
| | 28 北海道経済と地域戦略 | 下川・小田 | 4.40 | 4.20 | 4.30 | 4.40 | 4.10 | 4.10 | 4.30 | 4.10 | 4.00 | 4.40 | 4.10 | 4.10 |
| | 29 I R 戦略 | 松本 康一郎 | 4.60 | 4.60 | 4.80 | 4.80 | 4.50 | 4.40 | 4.40 | 4.60 | 4.20 | 4.40 | 4.40 | 4.80 |
| | 30 将来予測の技術 | 西山 茂 | 4.63 | 4.70 | 4.70 | 4.50 | 4.00 | 4.22 | 4.50 | 4.60 | 4.33 | 4.70 | 4.70 | 4.90 |
| | 31 知的財産の評価と活用戦略 | 才原 慶道 | 4.71 | 4.29 | 4.29 | 4.43 | 3.17 | 3.14 | 3.86 | 4.43 | 4.00 | 4.14 | 4.14 | 4.43 |
| | 32 環境経営戦略 | 山本(充)・八木 | 4.33 | 4.33 | 4.33 | 4.17 | 3.80 | 4.50 | 4.17 | 4.67 | 4.20 | 4.50 | 4.20 | 4.50 |
| | 33 国際経営 | (非開講) | | | | | | | | | | | | |
| | 34 中級ビジネス英語 | 小林・クランキー | | | | | | | | | | | | |
| 35 特殊講義Ⅰ(コーポレートファイナンス) | 旗本 智之 | 4.29 | 4.36 | 4.64 | 4.43 | 4.14 | 4.36 | 4.29 | 4.50 | 4.54 | 4.50 | 4.21 | 4.71 | |
| 36 特殊講義Ⅱ(事業再生とリーダーシップ) | 吉村・玉井 | 4.29 | 4.19 | 4.33 | 4.19 | 4.29 | 4.52 | 4.00 | 4.05 | 3.79 | 4.33 | 4.05 | 4.52 | |
| 37 特殊講義Ⅲ | (非開講) | | | | | | | | | | | | | |
| 実践科目 | 38 ビジネスプランニングⅠ | 齋藤・山本(充)・出川 | 4.12 | 3.84 | 3.84 | 3.79 | 4.30 | 4.31 | 3.84 | 4.03 | 3.41 | 3.97 | 3.85 | 3.82 |
| | 39 ケーススタディⅠ | 玉井・近藤・堺 | 4.16 | 4.11 | 3.94 | 3.87 | 4.21 | 4.08 | 4.11 | 4.46 | 4.16 | 4.22 | 4.00 | 4.24 |
| | 40 ビジネスプランニングⅡ | 齋藤・出川・山本 | 4.17 | 4.14 | 4.17 | 3.90 | 4.23 | 4.57 | 4.23 | 4.40 | 3.87 | 4.10 | 3.80 | 4.17 |
| | 41 ケーススタディⅡ | 近藤・玉井・旗本 | 4.09 | 3.96 | 4.22 | 3.79 | 4.21 | 4.08 | 4.12 | 4.08 | 4.00 | 4.08 | 3.67 | 4.00 |
| | 項目の平均 | | 4.25 | 4.15 | 4.06 | 4.07 | 4.14 | 4.18 | 4.08 | 4.23 | 3.93 | 4.20 | 4.09 | 4.16 |
| | 全体の平均 | | 4.13 | | | | | | | | | | | |

5.3.2 「自由記述欄」の分析

自由記述欄については、授業改善のために有用な知識・情報を抽出するために、「評価点」と「改善点」についてキーワードを文章の中に出現する回数をもとに抽出する。抽出のために文章の形態素分析^②を行う。この形態素分析は文章を文法的に意味づけが可能な最小単位に分解するもので、得られる最小単位（要素）が文法的な品詞情報を持っている。

「評価点」と「改善点」についてキーワードを抽出し、キーワードの評価点と改善点での出現頻度が10以上のものを列挙したのが、表7である。

表7. キーワード（頻度10以上の項目）

| キーワード | 評価点 | | | | 改善点 | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|---------|--------------|-----|-----|----|---------|
| | 改善点 | 評価点 | 総計 | 評価点/改善点 | キーワード | 改善点 | 評価点 | 総計 | 評価点/改善点 |
| 出来る | 27 | 237 | 264 | 8.78 | 時間 | 50 | 11 | 61 | 0.22 |
| する | 200 | 207 | 407 | 1.04 | ケース | 44 | 37 | 81 | 0.84 |
| 理解 | 26 | 131 | 157 | 5.04 | グループワーク | 32 | 25 | 57 | 0.78 |
| 良い | 113 | 95 | 208 | 0.84 | ディスカッション | 30 | 31 | 61 | 1.03 |
| 授業 | 62 | 87 | 149 | 1.40 | 内容 | 29 | 46 | 75 | 1.59 |
| やすい | 22 | 81 | 103 | 3.68 | 課題 | 27 | 37 | 64 | 1.37 |
| 教員 | 26 | 79 | 105 | 3.04 | 多い | 25 | 34 | 59 | 1.36 |
| 分かる | 34 | 73 | 107 | 2.15 | 事前課題 | 20 | 14 | 34 | 0.70 |
| なる | 21 | 70 | 91 | 3.33 | レポート | 19 | 19 | 38 | 1.00 |
| 内容 | 29 | 46 | 75 | 1.59 | グループ | 19 | 15 | 34 | 0.79 |
| 説明 | 13 | 45 | 58 | 3.46 | やる | 19 | 8 | 27 | 0.42 |
| ある | 68 | 40 | 108 | 0.59 | 事後課題 | 18 | 25 | 43 | 1.39 |
| ケース | 44 | 37 | 81 | 0.84 | 行う | 16 | 13 | 29 | 0.81 |
| 課題 | 27 | 37 | 64 | 1.37 | ビジネスプラン | 15 | 19 | 34 | 1.27 |
| 多い | 25 | 34 | 59 | 1.36 | 学生 | 15 | 12 | 27 | 0.80 |
| 企業 | 11 | 33 | 44 | 3.00 | グループディスカッション | 14 | 20 | 34 | 1.43 |
| 知る | 5 | 33 | 38 | 6.60 | フィードバック | 14 | 5 | 19 | 0.36 |
| 考える | 9 | 32 | 41 | 3.56 | モジュール | 14 | 4 | 18 | 0.29 |
| ディスカッション | 30 | 31 | 61 | 1.03 | 説明 | 13 | 45 | 58 | 3.46 |
| 大変 | 1 | 30 | 31 | 30.00 | ない | 12 | 13 | 25 | 1.08 |
| 学ぶ | 7 | 29 | 36 | 4.14 | 使う | 12 | 13 | 25 | 1.08 |
| 非常 | 3 | 29 | 32 | 9.67 | 評価 | 12 | 10 | 22 | 0.83 |
| 丁寧 | 2 | 28 | 30 | 14.00 | 示す | 12 | 3 | 15 | 0.25 |
| 学べる | 0 | 28 | 28 | | 企業 | 11 | 33 | 44 | 3.00 |
| グループワーク | 32 | 25 | 57 | 0.78 | 具体 | 11 | 20 | 31 | 1.82 |
| 事後課題 | 18 | 25 | 43 | 1.39 | テーマ | 11 | 11 | 22 | 1.00 |
| プレゼンテーション | 9 | 24 | 33 | 2.67 | 必要 | 11 | 7 | 18 | 0.64 |
| 自分 | 7 | 24 | 31 | 3.43 | 実際 | 10 | 22 | 32 | 2.20 |

^② 形態素分析を行うために、類義語の表現を統一している。たとえば「講師、教授、先生、教師、教官」を「教員」に、「講義」は「授業」に、「生徒」は「学生」に、「おもしろい」や「できる」などひらがなで書かれているものは「面白い」や「出来る」など漢字に置き換えている。

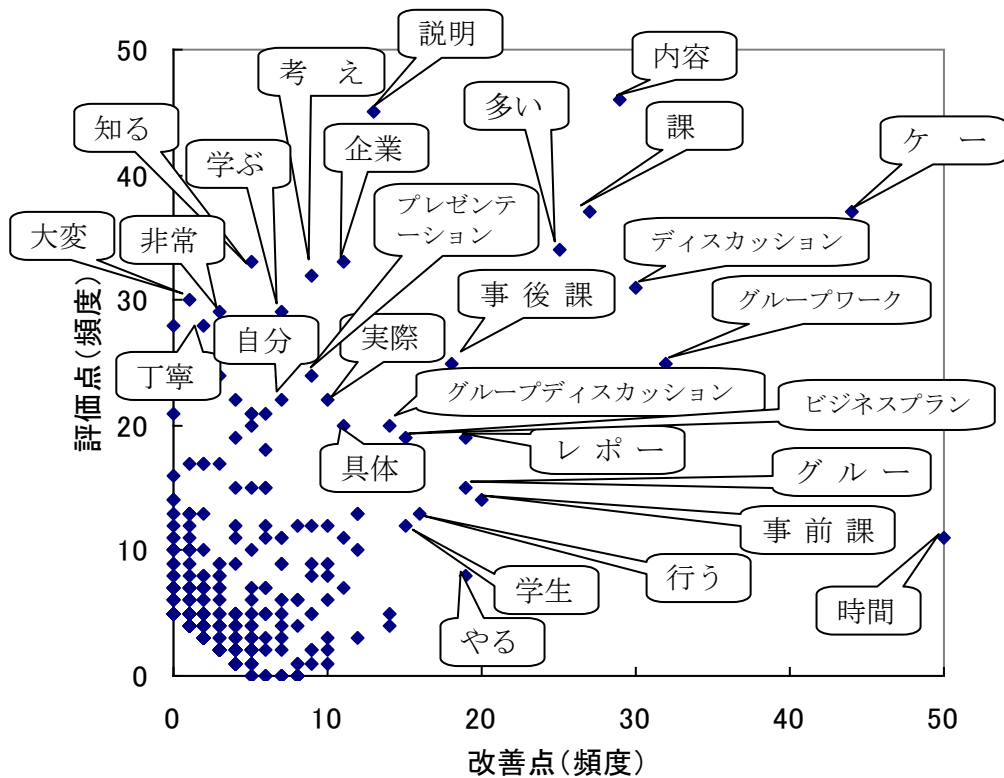
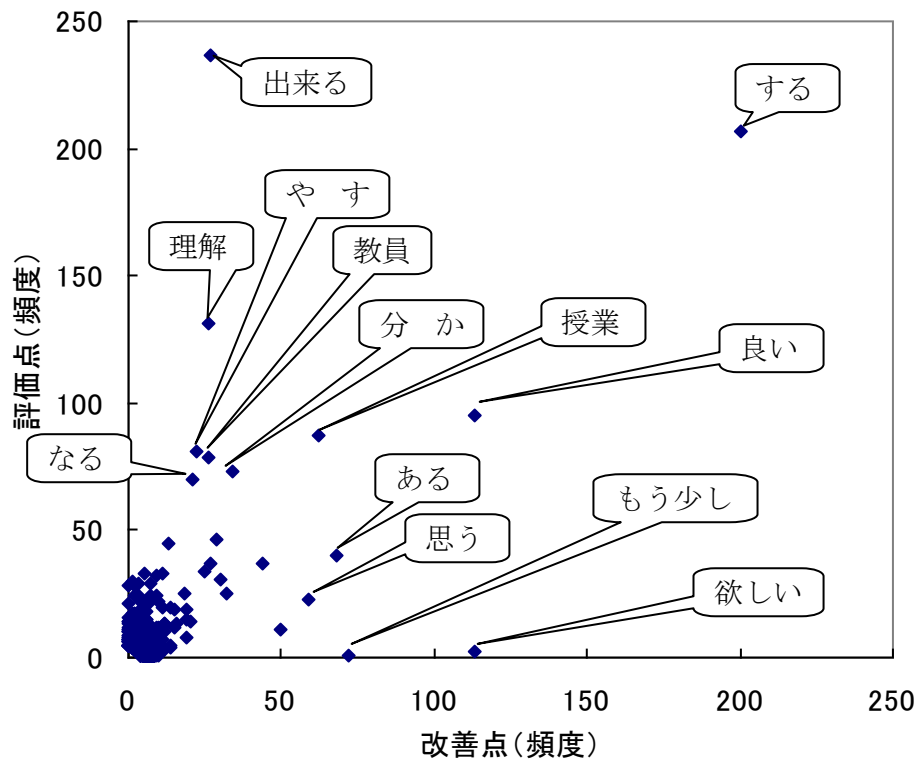


図1 主なキーワードの評価点と改善点に基づく散布図

表7に抽出したキーワードに注目して、評価する点と改善すべき点に関する自由記述意見を以下に列挙していく。(類義語の統一以外は、原文のままである。文中の●は判読不能の文字である。)

【キーワード「出来る」の評価点に関する自由意見】

- ・ 「法律」の考え方をいくらかは理解することが出来た。
- ・ 業務改善/改革をサンプルを例に模擬体験出来、どういうプロセス/考え方で実行するのか、知ることが出来た。
- ・ 1つのテーマについて深く学習出来た点。
- ・ 1日かけてグループワークすることで 様々な面からディスカッション出来た
- ・ 4R など プラン作成上の ツールを学ぶことが出来た。
- ・ B/S、P/Lの意味が理解出来た。
- ・ ビジネスプランに反映させる事が出来た点
- ・ ビジネスプランの技術面での弱みをカバー出来た。
- ・ バランススコアドカードについて、具体的に理解出来たこと。
- ・ バランススコアドカードの存在について知ることが出来た。
- ・ バランススコアドカードを知り、理解することが出来たこと。
- ・ ケーススタディの前提条件はESだと理解出来た点
- ・ ERPシステムの長所・短所、が理解出来た。
- ・ ERPの実際について知ることが出来た。
- ・ Eラーニングでは、自由に意見交換が出来知識が深まる
- ・ グループワークのディスカッションで様々な見方が出来ることを知った
- ・ グループワークを通してコミュニケーション能力を培うことが出来た
- ・ IPOの意味を深く考えることが出来た。
- ・ IPOをした会社のケース分析が出来たこと。
- ・ MBAとしての思考フレームの活用に学習出来た
- ・ VRIO分析など、基本的な経営分析手法を学ぶことが出来た。
- ・ 相手の立場に立ったプランニングの重要さが理解出来た
- ・ 新しい視点を得ることが出来た。又 考えさせられる授業であった。
- ・ あらかじめ授業ノートでソフトウェア (R) の使い方を家でひととおり出来たことが良かった。
- ・ 石屋製菓の社長さんの話を聞くことが出来たことが、企業をコンプライアンスを考える上で役に立った
- ・ 一連の課題を前期で処理出来たこと
- ・ 今まで学んだ知識を十分活かす事が出来る点
- ・ いろいろな視点の分析ツールを学び、実際に使ってみることが出来たこと。
- ・ エレベータースピーチで、多くの仲間の 仕事観や人生観を聞くことが出来たこと
- ・ 大手メーカーの経営戦略の一端を知ることが出来た。
- ・ お金の流れというものを深く考えることが出来た
- ・ 会計システムと評価システムの関係性を理解出来たこと。
- ・ 会計に対する見方が変わり、見るべきポイントが理解出来た
- ・ 各企業の戦略の種類を理解出来た
- ・ 革新のある企業と ない企業の違いを知ることが出来た点
- ・ 学生間で様々なこれまでの体験を共有出来た点
- ・ 各ツールの使い方を事後課題を通して理解出来たこと
- ・ 各ツールの使い方を事後課題を通して理解を深めることが出来た
- ・ 学部生時代の授業で全く理解できなかった統計学がまさに「直感的」に理解出来た。

- ・ 仮想事業計画のプロセスを体験出来たこと、各種分析手法を使って目標を持って作業が出来た経験は貴重であった。
- ・ 課題のコメントが大変良く理解出来た。
- ・ 考える力を養うことが出来た。
- ・ 関係性が良く理解出来るしくみであった。
- ・ 管理会計の原価計算について、全たく知識がありませんでしたが、おぼろげながら、仕組みが理解出来ました。
- ・ 企業会計について基本的なことが少し理解出来た。
- ・ 企業会計の概要について、知ることが出来た。
- ・ 企業経営戦略の基本的な考え方を理解、取得することが出来た。
- ・ 企業組織の行動等からイノベーションの発生する過程を論理的に学び取ることが出来る。
- ・ 企業におけるあらゆる分野（幅の広い）思考が出来た。
- ・ 企業の競走戦略について深い考察の礎が出来た。
- ・ 企業の財務分析について、基本的な手法を身に付けることが出来たこと。
- ・ 企業法務の現場の話を知ることが出来た点は有意義であった。
- ・ 企業や、地球の持続可能性の重要性について学ぶことが出来た。
- ・ 企業を見るときの視点に幅が出来たように思う
- ・ 机上の空論やソフトさだけではなく、実際の現場の教えが理解出来た
- ・ 基本的な知識や計算の方法が理解出来た
- ・ 基本的な論文作製の方法が理解出来た
- ・ 業界の異なる大手企業のケーススタディ研究が出来たこと。
- ・ 共同作業（プロジェクトチーム）運営のスキルを習得出来る。
- ・ 業務改革のプロセスの一端を知ることが出来た
- ・ 業務改革のプロセスを見ることが出来た。
- ・ 金融の知識が無理なく学ぶことが出来た。
- ・ 具体的なファイナンスの手法が分かり、実務に役立つことが出来た。
- ・ 組織変革における障壁克服の切り口を知ることが出来た点
- ・ クリスマスパーティでの挨拶が出来たこと
- ・ グループディスカッションを導入することによってプレゼンテーション能力の向上が出来た。
- ・ グループワークでいろいろな意見を聞くことが出来る。
- ・ グループワークの結果を参考に事後課題を作成出来た。
- ・ グループワークの重要性を感じる事が出来たこと
- ・ 経営学の全体の把握が出来たこと
- ・ 経営戦略について 体系的に学習する事が出来た。
- ・ 経営分析の手法を実際に活用する方法を学ぶことが出来た。
- ・ ケースからのグループディスカッションで内容を理解することが出来た
- ・ ケース事例が豊富で読みこなせると非常にたのもしい情報を蓄積出来たこと。但し、全て読んでいませんでした。
- ・ ケース分析の一連の流れが体系的に理解出来た
- ・ ケースを用いて、内容を理解することが出来た。
- ・ 原価計算の具体的内容が理解出来た
- ・ 原価の仕組みが良く理解出来た
- ・ 効果的なプレゼンテーション方法を学ぶことが出来た。
- ・ 公共性について深く考えることが出来た
- ・ 公共部門と民間部門の違いを知ることが出来た
- ・ 後半の M3 と M4 は自分のアイデアで説明出来たので良かった。

- ・ 後半モジュールで 事後レポートを通して、各フレームを理解出来た点
- ・ 高名な 教員にお会い出来たこと。機会を得られたこと。
- ・ これからの OBS の学習の基礎が出来た
- ・ これまで聞いたことのない予測の方法を知ることが出来た
- ・ 今後の組織運営に関わらず、人生で広く活用出来る。
- ・ 再建者の視点で様々な経営戦略等学習出来た。
- ・ 財務、組織、マーケティングと総合的に捉えることが出来る。
- ・ 財務、マーケティング、組織を総合的に分析することが出来る。
- ・ 財務諸表を用いて、実践出来た点
- ・ 様々なケースを読むことが出来た。
- ・ 様々な戦略に関わるツールを学習する事が出来た
- ・ 様々なツールを実際に使用して作業出来た点
- ・ 様々なメーカの事例が取り上げられ、マーケティングのイロハを学習する事が出来た
- ・ 産業連関分析を知ることができ、いかに有用なツールかを知ることが出来た
- ・ 時間内で丁寧な説明が出来るように工夫されていた
- ・ 事業再生する リーダーとしての行動について具体的に理解出来た
- ・ 事後課題で自社を考え直すことが出来ること
- ・ 事後課題では、班でのディスカッション、他班の意見を参考に、今一度自分の、考えをまとめ直すことが出来た。
- ・ 事後課題とそれに対するフィードバックを通じ、知識を再確認出来たこと。
- ・ 自社と照し合わせてレポートを書くことが出来た事
- ・ 事前課題がメモ程度でディスカッションに入るの、各人が自分の意見に固執しすぎず、人の意見を聞くことが出来た。
- ・ 事前課題と事後課題をやることで良く理解が出来た
- ・ 事前の授業と、その後に出されるケースレポートのねらいがリンクしているため、目的意識を持って課題に取りくむことが出来た。
- ・ 自治体の構造改革や参加・協働の NPM の動向を知ることが出来た
- ・ 実技が入っている為、現場にも活用出来る。
- ・ 実際にディベートを体験出来たこと
- ・ 実際にどのように統計が用いられているか理解出来た
- ・ 実在の会社の戦略について学ぶことが出来た
- ・ 実践的な予測の技術を学ぶことが出来た。
- ・ 実践出来る内容であること
- ・ 実務にすぐに分析ツールが使用出来た。
- ・ 実例を基にケースレポートで考察を深めることが出来た
- ・ 自分で作業をしながら、学習出来たこと。
- ・ 資本政策について、手を動かすことで良く理解出来た。
- ・ 社会で生きていく、基礎的な法意識をみにつけることが出来た。
- ・ 自由な意見をどんどん発表出来る雰囲気
- ・ 自由にやり取り出来ること
- ・ 十分にこの授業を理解出来るものであった
- ・ 授業内容がよく理解出来た
- ・ 詳細な資料の内容で良かった。後で活用出来る。
- ・ 情報収集・分析のやり方が理解出来た。
- ・ 資料の提供が良かった。(後日 あらためて活用出来る)
- ・ 正規分布の重要性が理解出来た。
- ・ 生産管理の理論を数多くのシミュレーションや事例を変えて深く学ぶことが出来た点

- ・ 説明が分かりやすく、理解出来た。
- ・ 瀬戸教員の授業では産業連関の逆行列を実際に自分の手で計算出来た点
- ・ 教員と直接議論が出来、ごまかしたりせず、真正面から取り組んでくれた
- ・ 教員の多くの体験に触れる事が出来た。
- ・ 全体ディスカッションが建設的で良かった。いろいろな手段を知ることが出来たこと。
- ・ 戦略ゲームを体験出来た。
- ・ 戦略ツールの使い方の理解が出来た
- ・ 戦略に関する理解が図られ、実際に学んだ内容を活用出来そうである。
- ・ 戦略評価と業績評価の違いを理解出来たこと
- ・ 戦略立案の難しさを学ぶことが出来た
- ・ 総合的な企業分析が出来たところ
- ・ 総合的に企業を評価、戦略策定が出来る点
- ・ 組織行動の内容や重要性を理解することが出来ました。
- ・ 組織に関する基本的知識を吸収出来たこと。
- ・ 組織への理解が少し深ったこと、その構成要素を少し理解出来たことが助った。
- ・ 組織論に関して多くの学説・理論に触れることが出来た。
- ・ 組織を体系的に考えることが出来た
- ・ それを支える業績評価システムの構造を理解出来たこと。
- ・ 損益計算書の読み方が少し理解出来た。
- ・ 大変、勉強になった。基本的ビジネスに応用出来る点。
- ・ 大変実践的で自分の会社に戻って活用出来る授業だった
- ・ 多角的な視点を持つ練習が出来た
- ・ 楽しく授業に参加出来た事。
- ・ 多方面の見方が出来た
- ・ 短期間で様々な事が学習出来た。
- ・ ディスカッションが充分出来たこと
- ・ ディベート、プレゼンテーションなどの手法がよく理解出来た
- ・ ディベート形式の質疑応答のテクニックを練習出来た点
- ・ ディベートの方法が理解出来た。
- ・ ディベートを体験出来た点
- ・ テキスト・知財文法を適切に利用出来た
- ・ 適切な事後課題により、内容を復習し、理解不足の点をチェック出来たこと。
- ・ 統計活用のさわりが理解出来た
- ・ 統計的な考え方 推測 を理解出来たこと
- ・ 統計の基本を再学習出来た
- ・ 統計分析の意味が理解出来た
- ・ 特別教員の貴重なお話をお聴きすることが出来たこと。
- ・ 内容も分かりやすく理解出来る
- ・ 何度かくり返し行なうことで必要なことを習得出来たと思います
- ・ 日常にも活用出来る内容で興味深く感じた。
- ・ パソコンの操作には いろいろな事があることが理解出来た
- ・ 話をされていて、また 話を聞いていて、教員の人間性がすばらしい。教員のような深みのある話が出来るとなりたいと思う。一年間ずっと続いていても良いと思える授業だった。
- ・ パブリック、セクターの意志決定の行われ方、その裏にあるしくみ、組織的問題などについて、概要を知ることが出来た。
- ・ パワーポイントの使用方法が理解出来た。

- ・ ビジネスプラン作成のプロセスを体験、学習出来たこと。
- ・ ビジネスプランニングの重要性と同時に難しさを感じる事が出来たこと。
- ・ ビジネスプランの策定を一気通貫で習得出来る。
- ・ ビジネスプランを作成する時、自分の会社ではすぐに出来るが、実際その機能を使わないと大変と知ることが出来たこと。
- ・ ビジネスプランを作る為の技法を知ることが出来た
- ・ ビジネスを行う上で、法律がいかに重要であるかを認識出来た
- ・ 一つのケースを複合的な立場で分析することで、企業を部分にわけて理解し、それを再構築し全体をとらえるという方法を知ることが出来た。
- ・ 人とどの様に交流すべきが理解出来た。
- ・ 日々の問題が理論的視点からも見ることが出来る。
- ・ 評価の高いレポートの公開や、全体評価によって目指すところが 理解出来た。
- ・ 深く 課題図書が 読めて 理解出来たこと
- ・ 深くテクノロジーに関し知ることが 出来た。
- ・ 普段、仕事で接するパブリック、セクターの方々との関係構築の際、参考になるエピソード等を聞くことが出来た。
- ・ 普段あまり目にすることのない裁判の判例文を読むことが出来た。
- ・ プランニングの手順が具体的に習得出来たこと
- ・ フレームワークを理解出来た。 今後活用出来る。
- ・ プレゼンテーション資料の作り方の再確認が出来た
- ・ プレゼンテーションの練習が出来た。
- ・ 分析ツールについて学ぶことが出来た
- ・ 分析ツールを習得出来た
- ・ 分析のツールを使用のやり方を熟知出来た点
- ・ 分析力を高めることが出来た
- ・ 偏差やシグマなどの表示を理解することが出来た
- ・ ベンチャー精神が何たるかと理解出来る、
- ・ ベンチャービジネスの創成について、深く学ぶことが出来た
- ・ 他授業で学んだ知識の活用が出来ること
- ・ 他の受講者の方々の、分析の視点、方法論などをディスカッションを通じて知ることが出来たこと
- ・ 他の人の道州制のレポートを拝見出来た点
- ・ 北海道の自立化への戦略、具体案等学習出来た
- ・ 本音で議論し、過去の歴史から、将来を見すえることが出来た。
- ・ マーケティングの意味を理解出来た。
- ・ マーケティングの発想・考え方を理解出来た。
- ・ マーケティングリサーチについて、全体の流れが理解出来た
- ・ 毎回プレゼンテーションが出来た事
- ・ 自らプランニングを実体験出来た点
- ・ 無料のソフトを利用しているので、今後も活用出来る、
- ・ 目的（→ツールの理解を使用出来るように）を明確に示していただき、講義が理解しやすかった。
- ・ モジュールマップの活用により、全体像を把握することに役立ち、個別の学習の意義が理解出来た。
- ・ リアルな現場の話を知ることが出来た点（三井観光の再生について）
- ・ 利益計画のプロセスが大むね理解出来たこと。
- ・ 理論と 実務を考えることが出来る、

- ・ 理論を現実のケースにあてはめることで実際の企業の行動の意味を知ることが出来た。
- ・ ロシア、中国のビジネス環境を知ることが出来た
- ・ 論文形式のレポート作成について、具体的なレクチャーを受けることが出来た。
- ・ 論文の書き方が理解出来た
- ・ 論文の書き方を十分に理解が出来た。

【キーワード「理解」の評価点に関する自由意見】

- ・ 「法律」の考え方をいくらかは理解することが出来た。
- ・ ERPの操作も経験がなく、システムを理解することの●●になった。
- ・ B/S、P/Lの意味が理解出来た。
- ・ BCBプログラムの映像学習を採用しており、理解が深まる
- ・ バランススコアカードについて、具体的に理解出来たこと。
- ・ バランススコアカードを知り、理解することが出来たこと。
- ・ ケーススタディの前提条件はESだと理解出来た点
- ・ ERPシステムの長所・短所、が理解出来た。
- ・ ERPについての理解が深まった
- ・ IPO、資本対策、コーポレートガバナンスに対して理解が深まりとてもためになる授業であった。
- ・ 相手の立場に立ったプランニングの重要性が理解出来た
- ・ 今まで習得した ツールなどを実際に使え、理解を深められた点。
- ・ 会計システムと評価システムの関係性を理解出来たこと。
- ・ 会計に対する見方が変わり、見るべきポイントが理解出来た
- ・ 改善・改革の違いの理解
- ・ 各企業の戦略の種類を理解出来た
- ・ 学生の理解度にあわせて授業を進めていたこと。
- ・ 各ツールの使い方を事後課題を通して理解出来たこと
- ・ 各ツールの使い方を事後課題を通して理解を深めることが出来た
- ・ 学部生時代の授業で全く理解できなかった統計学がまさに「直感的」に理解出来た。
- ・ 課題が自社の業績評価を分析するもので、理解が深まった。
- ・ 課題と授業内容に整合性があり理解しやすかった
- ・ 課題のコメントが大変良く理解出来た。
- ・ 環境に対して 理解が深まった。
- ・ 関係性が良く理解出来るしくみであった。
- ・ 管理会計の原価計算について、全たく知識がありませんでしたが、おぼろげながら、仕組みが理解出来ました。
- ・ 企業会計について基本的なことが少し理解出来た。
- ・ 企業経営戦略の基本的な考え方を理解、取得することが出来た。
- ・ 技術のマネジメントという観点から、この授業の理解はとても難しく感じられた。
- ・ 机上の空論やソフトさだけではなく、実際の現場の教えが理解出来た
- ・ 基本ツールを理解しやすかった。
- ・ 基本的な知識や計算の方法が理解出来た
- ・ 基本的な論文作製の方法が理解出来た
- ・ クイズは、理解を深めた
- ・ 具体例が多くあり、理解しやすかった点
- ・ 具体例が適時示めされたため理解しやすかった。
- ・ 繰り返し、同じケースについて考察することにより、違う視点での理解が得られた。
- ・ グループディスカッションでさらに理解を深められた

- ・ グループワークを通じ理解が深まった
- ・ ケースからのグループディスカッションで内容を理解することが出来た
- ・ ケース分析の一連の流れが体系的に理解出来た
- ・ ケース分析の基本フレーム理解に役立つ
- ・ ケース分析の手法について理解が深まった
- ・ ケース分析の方法を理解することができました.
- ・ ケースを用いて、内容を理解することが出来た。
- ・ 原価計算の基礎が理解できました
- ・ 原価計算の具体的内容が理解出来た
- ・ 原価計算の重要性とその意義の深さを学んだ（理解は別だが）
- ・ 原価の仕組みが良く理解出来た
- ・ 現在の社会問題となっている「地球温暖化」「CO2 削減」について理解を深められた
- ・ 講義が理解しやすい、
- ・ 後半モジュールで 事後レポートを通して、各フレームを理解出来た点
- ・ 顧客満足の本当の意味を完全にではないが理解できました
- ・ 事業活動を行うにあたり段階的にすべき点が理解できました
- ・ 事業再生する リーダーとしての行動について具体的に理解出来た
- ・ 事後課題で、自分の身近な自社において検討することにより、内容の理解が深まった点
- ・ 事後課題で自社を対象にとり組んで行くと、授業の理解に加え、実際の業務において得られるものが多かった。
- ・ 事前課題と事後課題をやることで良く理解が出来た
- ・ 事前課題は、重たかったが、事業の理解に役立った。
- ・ 実際にどのように統計が用いられているか理解出来た
- ・ 実務の話が多く、内容の理解が早まった。
- ・ 自分の性格について理解し、どの様な思考で行動すべきかが分った。
- ・ 資本政策について、手を動かすことで良く理解出来た。
- ・ 十分にこの授業を理解出来るものであった
- ・ 授業内容がよく理解出来た
- ・ 授業の目的とするところについて理解が深まるよう、授業内容に工夫があった。
- ・ 授業への参加の機会が多く設定されており、授業内容の理解を深めた。
- ・ 正直、統計アレルギーですが、分かりやすい解説で、関心は持てました。理解使用までは至っていませんが。
- ・ 使用するケースが成功例ばかりではなく失敗例もあったため、理解が深まった点。
- ・ 情報収集・分析のやり方が理解出来た。
- ・ 数式を使わずに理解させる点
- ・ 正規分布の重要性が理解出来た。
- ・ 正規分布を理解したことは本当に大きな糧となった。
- ・ 税務が大変よく理解できました。
- ・ 説明が詳しく、理解しやすかった点
- ・ 説明が分かりやすく、理解出来た。
- ・ 説明のテンポが長く、理解しやすい。
- ・ 全体的に理解度にバラツキがある中で、理解させるための工夫がなされていると感じました。
- ・ 全体の授業も十分に役立ったが、その中で M7「事業構造とセグメント情報」が入っていることは有効だった。概念的な「戦略」と「セグメント情報」の関連が理解でき、非常にためになった。
- ・ 戦略ツールの使い方の理解が出来た

- ・ 戦略に関する理解が図られ、実際に学んだ内容を活用出来そうである。
- ・ 戦略評価と業績評価の違いを理解出来たこと
- ・ 組織行動の内容や重要性を理解することが出来ました。
- ・ 組織への理解が少し深ったこと、その構成要素を少し理解出来たことが助った。
- ・ それを支える業績評価システムの構造を理解出来たこと。
- ・ 損益計算書の読み方が少し理解出来た。
- ・ ディスカッションが多く、理解が深められた
- ・ ディスカッションを通じてケース分析の理解が深まる点
- ・ ディベート、プレゼンテーションなどの手法がよく理解出来た
- ・ ディベートの方法が理解出来た。
- ・ 適切な事後課題により、内容を復習し、理解不足の点をチェック出来たこと。
- ・ 統計活用のさわりが理解出来た
- ・ 統計的な考え方 推測 を理解出来たこと
- ・ 統計分析の意味が理解出来た
- ・ 内容（講義）が理解しやすい。
- ・ 内容も分かりやすく理解出来る
- ・ 日常で使われている統計. 資料を例として説明していただければ理解しやすいと思います。
- ・ パソコンの操作には いろいろな事があることが理解出来た
- ・ パワーポイントの使用方法が理解出来た。
- ・ ビデオが理解しやすかった。
- ・ 一つのケースを複合的な立場で分析することで、企業を部分にわけて理解し、それを再構築し全体をとらえるという方法を知ることが出来た。
- ・ 人とどの様に交流すべきが理解出来た。
- ・ 評価の高いレポートの公開や、全体評価によって目指すところが 理解出来た。
- ・ 深く 課題図書が 読めて 理解出来たこと
- ・ フレームワークを理解出来た。今後に活用出来る。
- ・ 分析手法を実務を通じて理解が深まった。
- ・ 偏差やシグマなどの表示を理解することが出来た
- ・ ベンチャー企業にとって必要な知識が、本を読み、まとめることで、理解でき、さらにディスカッションの中で、身に染みていく所が非常に良かった。
- ・ ベンチャー精神が何たるかと理解出来る、
- ・ 豊富な事例を引用して、理解しやすい説明を行っていた。
- ・ マーケティング 重要性の理解につながった。
- ・ マーケティングの意味を理解出来た。
- ・ マーケティングの発想・考え方を理解出来た。
- ・ マーケティングリサーチについて、全体の流れが理解出来た
- ・ 目的（→ツールの理解を使用出来るように）を明確に示していただき、講義が理解しやすかった。
- ・ モジュールマップの活用により、全体像を把握することに役立ち、個別の学習の意義が理解出来た。
- ・ 吉村教員の講義の内容が理解しやすかった。
- ・ 利益計画のプロセスが大むね理解出来たこと。
- ・ 理解しづらい統計の基礎を分かりやすく解説していただきました。
- ・ 理解しやすい講義内容
- ・ 理解しやすい説明
- ・ 理解しやすいよう工夫されていた
- ・ レクチャー中心でしたが、具体的な事例が出てきて理解しやすかった。

- ・ 論文の書き方が理解出来た
- ・ 論文の書き方を十分に理解が出来た。
- ・ 論理的な考え方についての理解が更に定着した。

【キーワード「良い」の評価点に関する自由意見】

- ・ ビジネスプラン I からを通じて、飲食、製造小売、上場企業、自由課題とテーマをうけているので、それぞれ考えることができ良かった。
- ・ ISO 等に特化せずに、経営戦略にどう環境意識だてるかを扱った点が良かった
- ・ M1～M8 すべて良かった。
- ・ M5～M8 の個人ワークプレゼンテーション時間が長く良かった。
- ・ TA と NLP を融合した BCB は良かった。
- ・ あらかじめ授業ノートでソフトウェア (R) の使い方を家でひととおり出来たことが良かった。
- ・ 改めて自社の組織体制、業績評価のしくみについて、見直す良い機会になりました。
- ・ エレベータースピーチ (3 分程度)、Take a Way の 3 行文章は良いトレーニングになった。
- ・ 会計、マーケティング、組織 別の点数がでるので、自分の弱点がはっきりして良かった。
- ・ 外部教員の話が聞いて良かった、
- ・ 外部教員の比評など実学に根ざした講義が聞け、大変良い授業であったと感じた。
- ・ 課題提出を踏まえ、教員からのショートレクチャーが良かった。但し、毎回ではなかったもので、継続すべきだと思う。
- ・ 課題のコメントが大変良く理解出来た。
- ・ 関係性が良く理解出来るしくみであった。
- ・ 企業の生々しい実情と理論がつながっていくイメージを持てたので良かった。
- ・ 教科書 が良い物を選んでもと思った。
- ・ 教師から各学生へのアドバイス、コメントが大変良かった。
- ・ グループディスカッションのタイミングも良かった
- ・ グループディスカッションの量が丁度良いと思った
- ・ グループディスカッションが中心で良かった
- ・ 経営判断と法的側面からの検討をミックスしている課題は、単なる法務ではなくビジネスの視点があるので良い。
- ・ ケースの選択が良かった
- ・ ケース分析の重さ、が良い
- ・ 原価の仕組みが良く理解出来た
- ・ 後期の講義の中で最も受講して良かった科目であった。
- ・ 講義の進み方がレベルに合わせてくれていて良かった
- ・ 後半の M3 と M4 は自分のアイデアで説明出来たので良かった。
- ・ 顧客満足度調査は、非常に良い経験になった。
- ・ 最後の、チーム課題が良い
- ・ 思考のトレーニングに良い点
- ・ 事後課題で自社の状況を踏まえたレポート作成を行うことで、色々な発見、自社のシステムの良い点、悪い点を把握することができ、またそれに対する改善案も考えるきっかけとなり 非常に有意義だった。
- ・ 事後課題で内容の定着が効率良く起きた。
- ・ 事後課題返却に際し、教員の熱いコメントが大変良かった
- ・ 事前課題と事後課題をやることで良く理解が出来た

- ・ 事前課題と授業の関連性が良かった。
- ・ 実際の企業活動に則した内容で非常に良かった。
- ・ 自分で考えさせられるところが、知識の定着につながり、良かったと思います。(講義スタイル)
- ・ 資本政策について、手を動かすことで良く理解出来た。
- ・ 授業のコンテンツが非常に実践的で良かった。
- ・ 授業の進行方法が良かったです。
- ・ 授業の内容が他の授業にないもので良かった。
- ・ 授業の内容に現実感があって良かった。
- ・ 授業方法が良かった
- ・ 詳細な資料の内容で良かった。後で活用出来る。
- ・ 小テストも 緊張感があって良かった
- ・ 少人数でコミュニケーションが円滑でとても良かった。
- ・ 少人数で良かった。
- ・ 資料の提供が良かった。(後日 あらためて活用出来る)
- ・ 資料も良く、内容も充実している。
- ・ 事例の取扱う内容が良かった
- ・ 教員(西山教員、瀬戸教員)の教え方が大変良かった。
- ・ 教員方のアドバイスが良い。
- ・ 教員からの 授業最後のショートレクチャーが良く、勉強になりました。
- ・ 教員の知見が非常に深く、どんな事に対しても 納得のいく説明をしてくれた所が良かった。
- ・ 教員の話が大変熱く、とても良かった
- ・ 教員のプレゼンテーションは大変良い
- ・ 教員もディスカッションに(良い意味で)参加者に徹し、多くの意見を下さる。
- ・ 全体ディスカッションが建設的で良かった。いろいろな手段を知ることが出来たこと。
- ・ 外・内を良く見ること。
- ・ 体験型の演習が良かった。
- ・ 対象とする企業が良かったです。
- ・ 玉井教員のでんさくが分かりやすく、丁寧で大変良かった。
- ・ ディスカッションの意見がとても役立ったので、この制度はとても良いと思いました。
- ・ ディスカッションで色々な見方ができて良かった。
- ・ テキストが素晴らしく良かった
- ・ テンポ良く授業が進行されていた。
- ・ 道内の業績の良い企業の分析が勉強になりました。
- ・ 途中での確認テストは復習効果が促進され良かった。
- ・ 途中のモジュールでの事後課題を出しても良いと思う。
- ・ 何かについて、よく考えたり、調べる作業は、時間はかかりました(プランニングの)が、良い訓練になりました。
- ・ パーティーも実践的で良かった
- ・ 発表、プレゼンテーション、ディスカッションという仕組みが良い。
- ・ 話をしていて、また 話を聞いていて、教員の人間性がすばらしい。教員のような深みのある話が出来るとなりたいと思う。一年間ずっと続いていても良いと思える授業だった。
- ・ バランス良く分析すること。
- ・ プレゼンテーションは色々考える良い機会になりました。
- ・ プログラムの配分が良かった。

- ・ベンチャー企業にとって必要な知識が、本を読み、まとめることで、理解でき、さらにディスカッションの中で、身に染みていく所が非常に良かった。
- ・マーケティングとは難しいという事が良く分かった。
- ・毎回教員からのアドバイスが良かった
- ・マクドナルドやキーエンスなど、比較的優良な企業を題材としている点
- ・良いレポートを公表してくれるので、他の人のレポートを見るのも学習になった
- ・リスクとはばらつき ということだけでもわかって良かったです。
- ・理想論ではなく 現実的な講義で良かった。
- ・レベルに合わせた授業で良かった。
- ・レポートの締切りはキツかったが、自分のために良い習練になった。
- ・レポートもきちんとコメントされ、フォローも良くされていました。
- ・私の会社も良いところを発見

【キーワード「授業」の評価点に関する自由意見】

- ・IPO、資本対策、コーポレートガバナンスに対して理解が深まりとてもためになる授業であった。
- ・新しい視点を得ることが出来た。又 考えさせられる授業であった。
- ・あらかじめ授業ノートでソフトウェア（R）の使い方を家でひととおり出来たことが良かった。
- ・今までの様々な知識や学びを統合した授業である点
- ・乙政教員の人柄のおかげで楽しい授業だった
- ・会計学の重点（目的）を絞り込んだ授業で何を獲得すべきか初めから明確でありましたことに助かりました。
- ・会社や実務経験に裏うちされた説得力のある授業だった
- ・外部教員による ベンチャー企業設立の具体的な授業が大変勉強になった
- ・外部教員の比評など実学に根ざした講義が聞け、大変良い授業であったと感じた。
- ・学生時代（中・高校）では味わえなかったネイティブな授業
- ・学生の理解度にあわせて授業を進めていたこと。
- ・学部生時代の授業で全く理解できなかった統計学がまさに「直感的」に理解出来た。
- ・課題と授業内容に整合性があり理解しやすかった
- ・技術のマネジメントという観点から、この授業の理解はとても難しく感じられた。
- ・具体的な授業内容で、身近に感じられた
- ・経営者としてどのような予算を管理し、業績評価をして 企業の利益を増加させるかということを経営の主題としている点
- ・ゲストスピーカーによる授業
- ・授業資料のパワーポイントがきれいで見やすかった。
- ・授業とグループディスカッションのバランスがとれていた。
- ・授業とグループワークがバランスを取れていた。
- ・授業とディスカッションの割合がよく、バランスがとれていた。
- ・教員の実務経験に即した授業であり、説得力があった。
- ・教員の話し方（授業後、なぜか元気が出る点）
- ・コーポレートファイナンスの知識の差があっても誰もが充足する授業だったと思います
- ・今後、ケースやビジネスプランを行う上で非常に参考になる授業であった。
- ・最後のディベートの授業は非常に勉強になった。
- ・堺教員の前期の授業が役に立った。
- ・事後課題で自社を対象にとり組んで行くと、授業の理解に加え、実際の業務において得ら

れるものが多かった。

- ・ 事前課題と授業の関連性が良かった。
- ・ 事前の授業と、その後に出されるケースレポートのねらいがリンクしているため、目的意識を持って課題に取りくむことが出来た。
- ・ 実体験を含めた内容の授業になっており、興味が引き立てられること。
- ・ 実ビジネスに則した授業で大変参考になりました。
- ・ 実務レベルでの授業で大変満足している
- ・ 集中授業
- ・ 十分にこの授業を理解出来るものであった
- ・ 授業以外のいろいろな話題
- ・ 授業中でも緊張感がある点。
- ・ 授業中の説明が分かりやすかった
- ・ 授業での説明時にユニークさがあり楽しかったです。
- ・ 授業内容がよく理解出来た
- ・ 授業内容を作り込んでいて、伝えたいことを絞っていた。
- ・ 授業のコンテンツが非常に実践的で良かった。
- ・ 授業の進行方法が良かったです。
- ・ 授業の進め方
- ・ 授業の説明が丁寧であった。
- ・ 授業の内容が他の授業にないもので良かった。
- ・ 授業の内容が分かりやすかった。
- ・ 授業の内容に現実感があって良かった。
- ・ 授業の中で質疑応答が充実していた。
- ・ 授業の中身が濃い。
- ・ 授業の目的である教養を得るために適切で有効なテキストが用意されたこと
- ・ 授業の目的とするところについて理解が深まるよう、授業内容に工夫があった。
- ・ 授業はウイットに富んでおり、話自体は楽しい
- ・ 授業への参加の機会が多く設定されており、授業内容の理解を深めた。
- ・ 授業方法が良かった
- ・ 小グループ授業で教員との接点が多かった（教員とのやりとり）
- ・ シラバスの内容から少しずれても、その日のディスカッションの充実を目指す授業も良いと思った
- ・ 数字ばかりで苦しい中でも分かりやすく工夫され 丁寧な授業でした
- ・ 瀬戸教員の授業では産業連関の逆行列を実際に自分の手で計算出来た点
- ・ 教員からの 授業最後のショートレクチャーが良く、勉強になりました。
- ・ 教員の授業内容が楽しかった。
- ・ 教員の話が面白く、授業にあきることがなかった点
- ・ 全体の授業も十分に役立ったが、その中で M7「事業構造とセグメント情報」が入っていることは有効だった。概念的な「戦略」と「セグメント情報」の関連が理解でき、非常にためになった。
- ・ 体系的な授業
- ・ 大変実践的で自分の会社に戻って活用出来る授業だった
- ・ 楽しい授業の進め方であった
- ・ 楽しく授業に参加出来た事。
- ・ 出川教員の授業を後期もきけたこと。
- ・ テンポ良く授業が進行されていた。
- ・ 西山教員の授業では価格戦略について理論的に学べた点

- ・ 熱意のこもった授業は気持ちが伝わってきた
- ・ 話をしている、また話を聞いている、教員の人間性がすばらしい。教員のような深みのある話が出るようになりたいと思う。年間ずっと続いていても良いと思える授業だった。
- ・ ベンチャー企業経営者の授業（2人とも）はとても興味深いものだった。
- ・ 他授業で学んだ知識の活用が出来ること
- ・ 他の授業とは異なる視点での授業であった事
- ・ 他の授業とは違い、賢まっていなかった点
- ・ 北海道でアントレプレナーシップを育成するために不可欠な授業である。
- ・ 難しい一点～授業のカリキュラムと情報とBの関連性～解明
- ・ 難しい数式についてではなく、直感的、感覚的に分かるような授業だった
- ・ 豊かな経験が授業中随所に示され興味深かった。
- ・ レベルに合わせた授業で良かった。

【キーワード「やすい」の評価点に関する自由意見】

- ・ WEB上で質問への解答があり見やすかった。
- ・ 会計基準のあり方の変化がよく分りやすかった。
- ・ 課題と授業内容に整合性があり理解しやすかった
- ・ 考える手順が分かりやすくなっていた
- ・ 基本ツールを理解しやすかった。
- ・ 具体例が多くあり、理解しやすかった点
- ・ 具体例が適時示めされたため理解しやすかった。
- ・ グループディスカッションの論点が明確で話しやすかった。
- ・ グループワーク後の教員の事前課題に対するレクチャーが分かりやすかったです。
- ・ ケースが分かりやすい。
- ・ ケーススタディとのつながりが分かりやすかった。
- ・ 講義が理解しやすい、
- ・ 授業資料のパワーポイントがきれいで見やすかった。
- ・ 財務については丁寧な説明もあり分かりやすかった
- ・ 質問がしやすかった
- ・ 質問に対する教員の答えが明確で分かりやすい
- ・ 自分で考えさせる場面を多く設けているため、身につけやすいような気がする。
- ・ 社会の中で身近かに考えられる内容で分かりやすかった。
- ・ 授業中の説明が分かりやすかった
- ・ 授業の内容が分かりやすかった。
- ・ 正直、統計アレルギーですが、分かりやすい解説で、関心は持てました。理解使用までは至っていませんが。
- ・ 数字ばかりで苦しい中でも分かりやすく工夫され丁寧な授業でした
- ・ スライドが分かりやすかった点
- ・ 説明が詳しく、理解しやすかった点
- ・ 説明が初心者にも分かりやすかった。
- ・ 説明が非常に丁寧で、分かりやすかったと思います、
- ・ 説明が非常に分かりやすかった
- ・ 説明が分かりやすい
- ・ 説明が分かりやすかった
- ・ 説明が分かりやすかった
- ・ 説明が分かりやすかった。

- ・ 説明が分かりやすく、イメージしやすかった
- ・ 説明が分かりやすく、マーケティングの全体像がつかめた
- ・ 説明が分かりやすく、理解出来た。
- ・ 説明のテンポが長く、理解しやすい。
- ・ 説明の分かりやすさ、
- ・ 教員のクリアで分かりやすい英語表現
- ・ 教員のコメントが的確で分かりやすかった。
- ・ 教員の指導が非常に分かりやすく、気付かされる点が多かった。
- ・ 教員の説明が大変分かりやすい
- ・ 教員の説明が分かりやすい
- ・ 教員の話しが分かりやすかった点（全体的に）
- ・ それぞれのトピックの説明が大変分かりやすい。
- ・ 第一課題でも、既存企業の新事業という形で取り組みやすかったこと。
- ・ 大変分かりやすい説明でした。
- ・ 玉井教員と堺教員の説明は大変分かりやすかった。
- ・ 玉井教員のでんさくが分かりやすく、丁寧で大変良かった。
- ・ 著作権、商標は分かりやすかった。
- ・ ディスカッションのまとめとして教員が話してくれる内容が分かりやすかった点
- ・ テキストがテーマ別になっていて分かりやすい。
- ・ 内容（講義）が理解しやすい。
- ・ 内容が分かりやすく見えそうだった
- ・ 内容も分かりやすく理解出来る
- ・ 西山教員：分かりにくい経済学がなかなか分かりやすく、ビジネスに焦点がしぼられていた点。
- ・ 西山教員の説明は、難しいことであっても平易な言葉と分かりやすい図を使って、非常に分かりやすい。
- ・ 日常で使われている統計。資料を例として説明していただければ理解しやすいと思います。
- ・ パワーポイントの図などが適切で分かりやすかった。
- ・ ビデオが理解しやすかった。
- ・ 深い知識を個々のテーマに関連づけて分かりやすく説明があった
- ・ 豊富な事例を引用して、理解しやすい説明を行っていた。
- ・ 本当に1つ1つが丁寧で分かりやすかった。
- ・ マーケティングのフレームワークが分かりやすく教えられていた。
- ・ 毎回段階的に進んでいることが分かる点（前回までの結果を生かしやすい）
- ・ 目的（→ツールの理解を使用出来るように）を明確に示していただき、講義が理解しやすかった。
- ・ 吉村教員の講義の内容が理解しやすかった。
- ・ 理解しづらい統計の基礎を分かりやすく解説していただきました。
- ・ 理解しやすい講義内容
- ・ 理解しやすい説明
- ・ 理解しやすいよう工夫されていた
- ・ 李教員の説明も分かりやすかった。
- ・ レクチャー中心でしたが、具体的な事例が出てきて理解しやすかった。
- ・ レジメが分かりやすい
- ・ ワークの資料が分かりやすく、丁寧に書かれていること。
- ・ 分かりやすい

- ・ 分かりやすい
- ・ 分かりやすく、かつ具体的な講話であった。
- ・ 分かりやすく説明してくれた

【キーワード「教員」の評価点に関する自由意見】

- ・ 色々な教員の話聞ける点
- ・ 奥田教員のユーモア性
- ・ 乙政教員の人柄のおかげで楽しい授業だった
- ・ 外部教員からの生の声が身にしみた。
- ・ 外部教員による ベンチャー企業設立の具体的な授業が大変勉強になった
- ・ 外部教員の方からいただいた貴重な話が、とてもありがたかったです。
- ・ 外部教員の話が聞けて良かった、
- ・ 外部教員の比評など実学に根ざした講義が聞け、大変良い授業であったと感じた。
- ・ 学外の教員・教員の視点で面白かった。
- ・ 課題提出を踏まえ、教員からのショートレクチャーが良かった。但し、毎回ではなかったので、継続すべきだと思う。
- ・ 教員が非常に情熱的であること、
- ・ 教員からの課題に対するコメントがあること
- ・ 教員の笑顔
- ・ 教員のコメントがプランニング作りに大いに参考となった
- ・ 教員自らの草稿による点
- ・ グループワーク後の教員の事前課題に対するレクチャーが分かりやすかったです。
- ・ 教員の実務経験に裏打ちされた お話
- ・ 教員の実務経験に即した授業であり、説得力があった。
- ・ 教員のパーソナリティー
- ・ 教員の話し方（授業後、なぜか元気が出る点）
- ・ 教員の人柄とパワーあふれるトークに元気づけられました。
- ・ 高名な 教員にお会い出来たこと。機会を得られたこと。
- ・ 最終レポートでの教員からのフィードバックが適確であった。
- ・ 堺教員の前期の授業が役に立った。
- ・ 堺教員の熱意と詳しい説明
- ・ 事後課題に教員がしっかり目を通していただけている
- ・ 事後課題返却に際し、教員の熱いコメントが大変良かった
- ・ 質問に対する教員の答えが明確で分かりやすい
- ・ 小グループ授業で教員との接点が多かった（教員とのやりとり）
- ・ 瀬戸教員の熱意
- ・ 瀬戸教員：指導が個別対応で丁寧で、分かるまで教えようという姿勢。
- ・ 瀬戸教員の授業では産業関連の逆行列を実際に自分の手で計算出来た点
- ・ 教員（西山教員、瀬戸教員）の教え方が大変良かった。
- ・ 教員が一生懸命に教えてくれるところ
- ・ 教員が細かい質問に対しても、真摯に対応してくださった。
- ・ 教員が真剣に準備してくれる点。
- ・ 教員が親切。丁寧な説明をしてくれる。
- ・ 教員方のアドバイスが良い。
- ・ 教員が幅広い知識を持っていること
- ・ 教員からの 授業最後のショートレクチャーが良く、勉強になりました。
- ・ 教員間の連携をとって欲しかったです。

- ・ 教員と直接議論が出来、ごまかしたりせず、真正面から取り組んでくれた
- ・ 教員の CEO としての 経験に基づく話しや分析は納得性が高く非常に参考になったし、刺激になった.
- ・ 教員の熱さ
- ・ 教員の生きる姿勢がまさに MBA スクールにふさわしいと思った
- ・ 教員の多くの体験に触れる事が出来た。
- ・ 教員の学生に対する態度。(他の教員にも見習って頂きたい.)
- ・ 教員のクリアで分かりやすい英語表現
- ・ 教員の経験に裏付けられた基調なお話が聞けたこと。
- ・ 教員の授業内容が楽しかった。
- ・ 教員のコメントが的確で分かりやすかった。
- ・ 教員のコメントの適切さ。
- ・ 教員の体験した再生事業のお話。
- ・ 教員の実務経験からお話は非常に為になった
- ・ 教員の指摘のポイントが、適確ですどい
- ・ 教員の指導が非常に分かりやすく、気付かされる点が多かった。
- ・ 教員の真摯な対応。
- ・ 教員の説明
- ・ 教員の説明が大変分かりやすい
- ・ 教員の説明が分かりやすい
- ・ 教員の態度がとても熱心でした
- ・ 教員の知見が非常に深く、どんな事に対しても 納得のいく説明をしてくれた所が良かった。
- ・ 教員の丁寧さ。
- ・ 教員の熱意が感じられる。
- ・ 教員の話が面白く、授業にあきることがなかった点
- ・ 教員の話が大変熱く、とても良かった
- ・ 教員の話し方があきさせない内容で楽しく聴講した。
- ・ 教員の話が楽しかった
- ・ 教員の話しが分かりやすかった点 (全体的に)
- ・ 教員の話はとても面白かった。
- ・ 教員のパワーが何よりも私たちのパワーとなった
- ・ 教員のプレゼンテーションは大変良い
- ・ 教員のやる気がなく 寝ている人が多い
- ・ 教員もディスカッションに (良い意味で) 参加者に徹し、多くの意見を下さる。
- ・ 玉井教員と堺教員の説明は大変分かりやすかった。
- ・ 玉井教員のでんさくが分かりやすく、丁寧で大変良かった。
- ・ ディスカッションのまとめとして教員が話してくれる内容が分かりやすかった点
- ・ 出川教員の授業を後期もきけたこと。
- ・ 出川教員の率直かつ適確なコメント、体験談
- ・ 特別教員の貴重なお話をお聴きすることが出来たこと。
- ・ 西山教員：分かりにくい経済学がなかなか分かりやすく、ビジネスに焦点がしぼられていた点。
- ・ 西山教員の教え方は非常に丁寧で好感が持てる。
- ・ 西山教員の授業では価格戦略について理論的に学べた点
- ・ 西山教員の説明は、難しいことであっても平易な言葉と分かりやすい図を使って、非常に分かりやすい。

- ・ 篠本教員は教え方が上手だと思います。
- ・ 話をされていて、また話を聞いていて、教員の人間性がすばらしい。教員のような深みのある話が出るようになりたいと思う。年間ずっと続いていても良いと思える授業だった。
- ・ 非常に熱心な教員でした。
- ・ 複数の教員陣による指導を得られたこと
- ・ 毎回教員からのアドバイスが良かった
- ・ 前田教員の熱意が伝わってきた。
- ・ 吉村教員の講義の内容が理解しやすかった。
- ・ 吉村教員の話し方が好きです。
- ・ 李教員の説明も分かりやすかった。
- ・ レポートに教員のコメントが入って、返却されたこと

【キーワード「良い」の評価点に関する自由意見】

- ・ 外部教員の比評など実学に根ざした講義が聞け、大変良い授業であったと感じた。
- ・ グループディスカッションの量が丁度良いと思った
- ・ 道内の業績の良い企業の分析が勉強になりました。
- ・ レポートの締切りはキツかったが、自分のために良い習練になった。
- ・ 発表、プレゼンテーション、討議という仕組は良い。
- ・ 途中のモジュールでの事後課題を出しても良いと思う。
- ・ 教員方のアドバイスが良い。
- ・ 良いレポートを公表してくれるので、他の人のレポートを見るのも学習になった
- ・ 最後の、チーム課題が良い
- ・ プレゼンテーションは色々考える良い機会になりました。
- ・ 教員もディスカッションに（良い意味で）参加者に徹し、多くの意見を下さる。
- ・ 教員のプレゼンテーションは大変良い
- ・ 思考のトレーニングに良い点
- ・ 私の会社も良いところを発見
- ・ エレベータースピーチ（3分程度）、Take a Wayの3行文章は良いトレーニングになった。

【キーワード「分かる」の評価点に関する自由意見】

- ・ アメリカのMBAの様子が分かった
- ・ 考える手順が分かりやすくなっていた
- ・ 具体的なファイナンスの手法が分かり、実務に役立つことが出来た。
- ・ グループワーク後の教員の事前課題に対するレクチャーが分かりやすかったです。
- ・ ケースが分かりやすい。
- ・ ケーススタディとのつながりが分かりやすかった。
- ・ 最終的に1人でつくりあげること、全体のビジネスプランの流れが分かったこと
- ・ 財務については丁寧な説明もあり分かりやすかった
- ・ 産業連関表の応用方法が分かった点。
- ・ 実際にどのように使われるか分かった点。
- ・ 質問に対する教員の答えが明確で分かりやすい
- ・ 自分が企業会計に関して不得意のことが分かった事。
- ・ 社会の中で身近かに考えられる内容で分かりやすかった。
- ・ 授業中の説明が分かりやすかった
- ・ 授業の内容が分かりやすかった。
- ・ 正直、統計アレルギーですが、分かりやすい解説で、関心は持てました。理解使用までは

至っていませんが。

- 数字ばかりで苦しい中でも分かりやすく工夫され 丁寧な授業でした
- スライドが分かりやすかった点
- 説明が初心者にも分かりやすかった。
- 説明が非常に丁寧で、分かりやすかったと思います、
- 説明が非常に分かりやすかった
- 説明が分かりやすい
- 説明が分かりやすかった
- 説明が分かりやすかった
- 説明が分かりやすかった。
- 説明が分かりやすく、イメージしやすかった
- 説明が分かりやすく、マーケティングの全体像がつかめた
- 説明が分かりやすく、理解出来た。
- 説明の分かりやすさ、
- 瀬戸教員：指導が個別対応で丁寧で、分かるまで教えようという姿勢。
- 教員のクリアで分かりやすい英語表現
- 教員のコメントが的確で分かりやすかった。
- 教員の指導が非常に分かりやすく、気付かされる点が多かった。
- 教員の説明が大変分かりやすい
- 教員の説明が分かりやすい
- 教員の話しが分かりやすかった点（全体的に）
- それぞれのトピックの説明が大変分かりやすい。
- 大変分かりやすい説明でした。
- 玉井教員と堺教員の説明は大変分かりやすかった。
- 玉井教員のでんさくが分かりやすく、丁寧で大変良かった。
- 著作権、商標は分かりやすかった。
- ディスカッションのまとめとして教員が話してくれる内容が分かりやすかった点
- ディスカッションは各人の法意識が分かり、面白かった。
- データを予測するには、経験や知識が必要であると分かった点。
- テキストがテーマ別になっていて分かりやすい。
- どのようなツールを使うのかがある程度分かった
- 内容が分かりやすく見えそうだった
- 内容も分かりやすく理解出来る
- 西山教員：分かりにくい経済学がなかなか分かりやすく、ビジネスに焦点がしぼられていた点。
- 西山教員の説明は、難しいことであっても平易な言葉と分かりやすい図を使って、非常に分かりやすい。
- パブリックセクターの運営について、自分が知らない事が多いのがよく分かった
- パワーポイントの図などが適切で分かりやすかった。
- 深い知識を個々のテーマに関連づけて分かりやすく説明があった
- プレゼンテーションの目的と効果が分かった。
- 文章の書き方がよく分かった
- 本当に1つ1つが丁寧で分かりやすかった。
- マーケティングとは難しいという事が良く分かった。
- マーケティングのフレームワークが分かりやすく教えられていた。
- 毎回段階的に 進んでいることが分かる点（前回までの結果を生かしやすい）
- 難しい数式についてではなく、直感的、感覚的に分かるような授業だった

- ・ 理解しづらい統計の基礎を分かりやすく解説していただきました。
- ・ 李教員の説明も分かりやすかった。
- ・ レクチャーが分かり易かった
- ・ レジメが分かりやすい
- ・ 論文の書き方がよく分かった。
- ・ ワークの資料が分かりやすく、丁寧に書かれていること。
- ・ 分かりやすい
- ・ 分かりやすい
- ・ 分かりやすく、かつ具体的な講話であった。
- ・ 分かりやすく説明してくれた

【キーワード「内容」の評価点に関する自由意見】

- ・ ERP の操作研修の内容を一工夫して下さい
- ・ 課題と授業内容に整合性があり理解しやすかった
- ・ 企業活動に関わってくる内容について盛り込まれていた。
- ・ 教科書より踏み込んだ内容があり参考になった
- ・ 具体的な授業内容で、身近に感じられた
- ・ ケースからのグループディスカッションで内容を理解することが出来た
- ・ ケースを用いて、内容を理解することが出来た。
- ・ 原価計算の具体的内容が理解出来た
- ・ 授業の内容、進め方に工夫があったこと
- ・ 授業の内容が大変、中味が濃かった
- ・ 今後の実務において 非常に役立つ内容であった事
- ・ 事後課題で、自分の身近な自社において検討することにより、内容の理解が深まった点
- ・ 事後課題で内容の定着が効率良くできた。
- ・ 事前課題で内容をあらかじめ学習しておく点
- ・ 事前課題でやった内容をグループディスカッションで話しあえたこと
- ・ 実際の企業活動に則した内容で非常に良かった。
- ・ 実践出来る内容であること
- ・ 実体験を含めた内容の授業になっており、興味が引き立てられること。
- ・ 実務的な 講義内容であったこと
- ・ 実務に活かせる内容が多かった。
- ・ 実務の話が多く、内容の理解が早まった。
- ・ 社会の中で身近かに考えられる内容で分かりやすかった。
- ・ 授業内容がよく理解出来た
- ・ 授業内容を作り込んでいて、伝えたいことを絞っていた。
- ・ 授業の内容が他の授業にないもので良かった。
- ・ 授業の内容が分かりやすかった。
- ・ 授業の内容に現実感があって良かった。
- ・ 授業の目的とするところについて理解が深まるよう、授業内容に工夫があった。
- ・ 授業への参加の機会が多く設定されており、授業内容の理解を深めた。
- ・ 詳細な資料の内容で良かった。後で活用出来る。
- ・ シラバスの内容から少しずれても、その日のディスカッションの充実を目指す授業も良いと思った
- ・ 資料も良く、内容も充実している。
- ・ 事例の取扱う内容が良かった
- ・ 人生や仕事において、役に立つ内容であった

- ・ 教員の授業内容が楽しかった。
- ・ 教員の話し方があきさせない内容で楽しく聴講した。
- ・ 戦略に関する理解が図られ、実際に学んだ内容を活用出来そうである。
- ・ 組織行動の内容や重要性を理解することが出来ました。
- ・ ディスカッションのまとめとして教員が話してくれる内容が分かりやすかった点
- ・ 適切な事後課題により、内容を復習し、理解不足の点をチェック出来たこと。
- ・ 取り扱ったケースが北海道の企業のものだったため、非常に興味深く、かつ役立つ内容だった。
- ・ 内容（講義）が理解しやすい。
- ・ 内容が深く、楽しく学べた
- ・ 内容が分かりやすく使えそうだった
- ・ 内容も分かりやすく理解出来る
- ・ 日常にも活用出来る内容で興味深く感じた。
- ・ 非常に興味のある内容でした。
- ・ ビデオによるストロークの内容説明
- ・ 学びの内容が理論というより セオリーであり、興味深く学べた。
- ・ 吉村教員の講義の内容が理解しやすかった。
- ・ 理解しやすい講義内容
- ・ レベルが高い（内容が濃い）

【キーワード「説明」の評価点に関する自由意見】

- ・ 学生の反応を見ながら適切な説明
- ・ 後半の M3 と M4 は自分のアイデアで説明出来たので良かった。
- ・ 財務については丁寧な説明もあり分かりやすかった
- ・ 堺教員の熱意と詳しい説明
- ・ 時間内で丁寧な説明が出来るように工夫されていた
- ・ 授業中の説明が分かりやすかった
- ・ 授業での説明時にユニークさがあり楽しかったです。
- ・ 授業の説明が丁寧であった。
- ・ 説明が 丁寧。
- ・ 説明が詳しく、理解しやすかった点
- ・ 説明が初心者にも分かりやすかった。
- ・ 説明が丁寧。
- ・ 説明が丁寧であったこと。
- ・ 説明が非常に丁寧だった。
- ・ 説明が非常に丁寧で、分かりやすかったと思います、
- ・ 説明が非常に分かりやすかった
- ・ 説明が明確
- ・ 説明が分かりやすい
- ・ 説明が分かりやすかった
- ・ 説明が分かりやすかった
- ・ 説明が分かりやすかった。
- ・ 説明が分かりやすく、イメージしやすかった
- ・ 説明が分かりやすく、マーケティングの全体像がつかめた
- ・ 説明が分かりやすく、理解出来た。
- ・ 説明に用いる事例が興味を持てるものであった。
- ・ 説明のテンポが長く、理解しやすい。

- ・ 説明の分かりやすさ、
- ・ 教員が親切、丁寧な説明をしてくれる。
- ・ 教員の説明
- ・ 教員の説明が大変分かりやすい
- ・ 教員の説明が分かりやすい
- ・ 教員の知見が非常に深く、どんな事に対しても 納得のいく説明をしてくれた所が良かった。
- ・ それぞれのトピックの説明が大変分かりやすい。
- ・ 大変分かりやすい説明でした。
- ・ 玉井教員と堺教員の説明は大変分かりやすかった。
- ・ 西山教員の説明は、難しいことであっても平易な言葉と分かりやすい図を使って、非常に分かりやすい。
- ・ 日常で使われている統計、資料を例として説明していただければ理解しやすいと思います。
- ・ ビデオによるストロークの内容説明
- ・ 深い知識を個々のテーマに関連づけて分かりやすく説明があった
- ・ 豊富な事例を引用して、理解しやすい説明を行っていた。
- ・ 易しく説明
- ・ 理解しやすい説明
- ・ 李教員の説明も分かりやすかった。
- ・ 分かりやすく説明してくれた

【キーワード「ケース」の評価点に関する自由意見】

- ・ IPOをした会社のケース分析が出来たこと。
- ・ 多くのケースを扱っていた点
- ・ かなり深い動察のケースを通じて、企業活動を財務的視点ベースに捉えられたこと。
- ・ 具体的ケースと時定した理論的展開。
- ・ 具体的に事例を検証するケースが興味深かった
- ・ 繰り返し、同じケースについて考察することにより、違う視点での理解が得られた。
- ・ ケースが工夫されていた。
- ・ ケースが多様であり、大変勉強になった。
- ・ ケースが北海道のもので身近かに感じられた
- ・ ケースからのグループディスカッションで内容を理解することが出来た
- ・ ケースが分かりやすい。
- ・ ケース事例が豊富で読みこなせると非常にたのもしい情報を蓄積出来たこと。但し、全て読んでいませんでした。
- ・ ケースで取り上げる企業が道内にゆかりのある企業であった。
- ・ ケースに対する「分析方法」を教えるのではなく「考え方」を教えている点
- ・ ケースの選択が良かった
- ・ ケースのディスカッションが大変面白かったし 勉強になった。
- ・ ケースは製造業が主体で、それほど多くの製造業をみていないので、ケースを読むのは勉強になった。
- ・ ケース文が非常にためになるものだった
- ・ ケース分析
- ・ ケース分析の一連の流れが体系的に理解出来た
- ・ ケース分析の重さ、が良い
- ・ ケース分析の基本フレーム理解に役立つ

- ・ ケース分析の手法について理解が深まった
- ・ ケース分析の方法を理解することができました。
- ・ ケース分析を丁寧にコメントしていただいた
- ・ ケース分析を一通り行うことにより 財務、組織、マーケティング全て、整合性が合う様学べる。
- ・ ケースワークが充実していた。
- ・ ケースを通して、顧客満足を高める、手法を学べた
- ・ ケースを用いて、内容を理解することが出来た。
- ・ 今後、ケースやビジネスプランを行う上で非常に参考になる授業であった。
- ・ さまざまなCEOのケースをテキストを通じて知ることは、有意義だった。
- ・ 様々なケースを読むことが出来た。
- ・ 様々なタイプのケースを取り入れている点。
- ・ 時間をかけてケースと総合的に分析する点
- ・ 事前の授業と、その後に出されるケースレポートのねらいがリンクしているため、目的意識を持って課題に取りくむことが出来た。
- ・ 実際の企業をケースに用いている点
- ・ 実体に基づいたケース、地域企業
- ・ 質量共に豊富なケース
- ・ 実例を基にケースレポートで考察を深めることが出来た
- ・ シマノと日本電工のケースは 一生忘れられないと思います
- ・ 使用するケースが成功例ばかりではなく失敗例もあったため、理解が深まった点。
- ・ 他業界のケースによる 知識増
- ・ ディスカッションを通じてケース分析の理解が深まる点
- ・ 取り扱ったケースが北海道の企業のもだったため、非常に興味深く、かつ役立つ内容だった。
- ・ 一つのケースを複合的な立場で分析することで、企業を部分にわけて理解し、それを再構築し全体をとらえるという方法を知ることが出来た。
- ・ 複数のフレームを開いて1つのケースを分析し、総合的な問題・課題を導出する点
- ・ 身近な話題をケースにした点
- ・ リーダーシップに関して、理論ではなく実際のケースを紹介している点
- ・ 理論を現実のケースにあてはめることで実際の企業の行動の意味を知ることが出来た。

【キーワード「多い」の評価点に関する自由意見】

- ・ 1人では気付かない物が多い
- ・ エレベータースピーチで、多くの仲間の 仕事観や人生観を聞くことが出来たこと
- ・ エレベータースピーチは得るものが多かった。
- ・ 多くの意見を聞いた
- ・ 多くのケースを扱っていた点
- ・ 課題が多くてキツかったですが、楽しかったです、
- ・ 課題へのフィードバックが多い。
- ・ 考える機会が多かった
- ・ 環境全般につき学生との対話が多い点（除く一部）
- ・ 具体例が多くあり、理解しやすかった点
- ・ グループディスカッションが多かったこと
- ・ グループのメンバーから教わる所が多かった。
- ・ グループは既存事業において新たな戦略を考えるものであり、サラリーマンが多いクラスにおいては最も実践的ではないかと考える。

- ・ グループワークが多く実践的。
- ・ ケースは製造業が主体で、それほど多くの製造業をみていないので、ケースを読むのは勉強になった。
- ・ 様々な方からの多くの参考意見をもらえたこと
- ・ 事後課題で自社を対象にとり組んで行くと、授業の理解に加え、実際の業務において得られるものが多かった。
- ・ 実習が多い
- ・ 実習を多く用いたこと
- ・ 実務に活かせる内容が多かった。
- ・ 実務の話が多く、内容の理解が早まった。
- ・ 質問時間を多くとっていた点。
- ・ 実例が多い
- ・ 自分で考えさせる場面を多く設けているため、身につけやすいような気がする。
- ・ 授業への参加の機会が多く設定されており、授業内容の理解を深めた。
- ・ 小グループ授業で教員との接点が多かった（教員とのやりとり）
- ・ 生産管理の理論を数多くのシミュレーションや事例を変えて深く学ぶことが出来た点
- ・ 教員の多くの体験に触れる事が出来た。
- ・ 教員の指導が非常に分かりやすく、気付かされる点が多かった。
- ・ 教員もディスカッションに（良い意味で）参加者に徹し、多くの意見を下さる。
- ・ 組織論に関して多くの学説・理論に触れることが出来た。
- ・ 長期間 1 グループで一つの課題にとり組むことで、他の人が持っている、知識や技術から得ることが多かった
- ・ ディスカッションが多い点
- ・ ディスカッションが多かった点
- ・ ディスカッションが多く、色々な意見が聞ける。
- ・ ディスカッションが多く、理解が深められた
- ・ ディスカッションの時間が多かった点
- ・ パブリックセクターの運営について、自分が知らない事が多いのがよく分かった
- ・ 一人で計画を立てることで学ぶ点は多い。
- ・ 身近なテーマが多く、興味を持てた。
- ・ 三井観光開発の再建話等、事実に基づいた話が多かった点
- ・ レポートのプレゼンテーションは興味部会テーマが多くとても面白かった。

【キーワード「知る」の評価点に関する自由意見】

- ・ 1. 業務改善/改革をサンプルを例に模擬体験出来、どのようなプロセス/考え方で実行するのか、知ることが出来た。
- ・ ビジネスプランを考えるためのツールについて知った
- ・ バランススコアカードの存在について知ることが出来た。
- ・ バランススコアカードを知り、理解することが出来たこと。
- ・ ERP の実際について知ることが出来た。
- ・ ERP を初めて知った。
- ・ グループワークで共同作業の大切さを知った。
- ・ グループワークのディスカッションで様々な見方が出来ることを知った
- ・ 大手メーカーの経営戦略の一端を知ることが出来た。
- ・ 想いと冷静さを持たないといけないこと、を知れたこと
- ・ 革新のある企業と ない企業の違いを知ることが出来た点
- ・ 企業会計の概要について、知ることが出来た。

- ・ 業務改革のプロセスの一端を知ることが出来た
- ・ 組織変革における障壁克服の切り口を知ることが出来た点
- ・ 公共部門と民間部門の違いを知ることが出来た
- ・ これまで聞いたことのない予測の方法を知ることが出来た
- ・ さまざまなCEOのケースをテキストを通じて知ることは、有意義だった。
- ・ 産業連関分析を知ることができ、いかに有用なツールかを知ることが出来た
- ・ 産業連関分析を知ることができたこと。
- ・ 自治体の構造改革や参加・協働のNPMの動向を知ることが出来た
- ・ 知らない 業界及びその周辺を学ぶことができた。(レポート作成に当たり)
- ・ 成功するための正しい問いかけ方を知れた
- ・ 全体ディスカッションが建設的で良かった。いろいろな手段を知ることが出来たこと。
- ・ つなぎとめること。1つのことをやるよりも組合せで生まれるものを知りました
- ・ データ等を活用する時に自分でそれを作るとすごく時間と費用がかかるということを知れたこと
- ・ パブリック、セクターの意志決定の行われ方、その裏にあるしくみ、組織的問題などについて、概要を知ることが出来た。
- ・ パブリックセクターの運営について、自分が知らない事が多いのがよく分かった
- ・ ビジネスプランを作成する時、自分の会社ではすぐに出来るが、実際その機能を使わないと大変と知ることが出来たこと。
- ・ ビジネスプランを作る為の技法を知ることが出来た
- ・ 一つのケースを複合的な立場で分析することで、企業を部分にわけて理解し、それを再構築し全体をとらえるという方法を知ることが出来た。
- ・ 深くテクノロジーに関し知ることが出来た。
- ・ プランニングの具体的な手法をいくつか知ることが出来ました。
- ・ 他の受講者の方々の、分析の視点、方法論などをディスカッションを通じて知ることが出来たこと
- ・ 理論を現実のケースにあてはめることで実際の企業の行動の意味を知ることが出来た。
- ・ ロシア、中国のビジネス環境を知ることが出来た
- ・ 私には全く 無知の 生産に関する話を聞くことができ 楽しかった。

【キーワード「考える」の評価点に関する自由意見】

- ・ 「法律」の考え方をいくらかは理解することが出来た。
- ・ 業務改善/改革をサンプルを例に模擬体験出来、どういうプロセス/考え方で実行するのか、知ることが出来た。
- ・ ビジネスプランIからを通じて、飲食、製造小売、上場企業、自由課題とテーマをうけているので、それぞれ考えることができ 良かった。
- ・ ビジネスプランを考えるためのツールについて知った
- ・ IPOの意味を深く考えることが出来た。
- ・ 新しい視点を得ることが出来た。又 考えさせられる授業であった。
- ・ 石屋製菓の社長さんの話を聞くことが出来たことが、企業をコンプライアンスを考える上で役に立った
- ・ 今まで 考えたことのない 視点でのイノベーションで、視野が広がった
- ・ 英語で考えるということをもっと体験した。
- ・ お金の流れというものを深く考えることが出来た
- ・ 会計の基礎的な見方、考え方を教えてくれたこと。
- ・ 考える機会が多かった
- ・ 考える力を養うことが出来た。

- ・ 考える手順が分かりやすくなっていた
- ・ 企業経営戦略の基本的な考え方を理解、取得することが出来た。
- ・ 企業にとっての法律の意味を改めて考える機会になった。
- ・ グループは既存事業において新たな戦略を考えるものであり、サラリーマンが多いクラスにおいては最も実践的ではないかと考える。
- ・ 経営企画に役立てたいというのが履修目的であったが、基本的な考え方を身につける上で役に立った
- ・ ケースに対する「分析方法」を教えるのではなく「考え方」を教えている点
- ・ 公共経営との新しい視点で考える、力が身につきました。
- ・ 公共性について深く考えることが出来た
- ・ コミュニケーション手法というものをあらためて考えさせられた
- ・ 様々な意見を元に戦略を考える。
- ・ 事後課題で自社の状況を踏まえたレポート作成を行うことで、色々な発見、自社のシステムの良い点、悪い点を把握することができ、またそれに対する改善案も考えるきっかけとなり 非常に有意義だった。
- ・ 事後課題で自社を考え直すことが出来ること
- ・ 事後課題では、班でのディスカッション、他班の意見を参考に、今一度自分の、考えをまとめ直すことが出来た。
- ・ 事前課題でしっかり考えさせられる点
- ・ 自分で考えさせられるところが、知識の定着につながり、良かったと思います。(講義スタイル)
- ・ 自分で考えさせる場面を多く設けているため、身につけやすいような気がする。
- ・ 自分では思いも寄らない視点、考え方を得られた。
- ・ 自分の生き方にも、考えさせられる所があった。
- ・ 自分のやりたいプランを考えられたこと (第二課題)
- ・ 社会の中で身近かに考えられる内容で分かりやすかった。
- ・ 商品開発の考え方に大変役立ちました。
- ・ 人生の教訓となる考えを得られたこと、
- ・ 人生の目標について考えられる、
- ・ 戦略面で自分では考えつかない案より気づきを得られる。
- ・ 組織を体系的に考えることが出来た
- ・ その方が戦略的代替案の立案が難しいので考えさせられる
- ・ 統計的な考え方 推測 を理解出来たこと
- ・ 何かについて、よく考えたり、調べる作業は、時間はかかりましたが (プランニングの) が、良い訓練になりました。
- ・ バランススコアカードの考え方は、役に立つと感じた。
- ・ プレゼンテーションは色々考える良い機会になりました。
- ・ 法務 (契約) について考える機会を得た。
- ・ マーケティングの発想・考え方を理解出来た。
- ・ 理論と 実務を考えることが出来る、
- ・ 論理的な考え方についての理解が更に定着した。

【キーワード「ディスカッション」の評価点に関する自由意見】

- ・ 1グループ5名単位でのディスカッション実施。
- ・ 1日かけてグループワークすることで 様々な面からディスカッション出来た
- ・ グループワークのディスカッションで様々な見方が出来ることを知った
- ・ グループディスカッション

- ・ グループディスカッション
- ・ グループディスカッション・ディベートによる交流
- ・ グループディスカッションが多かったこと
- ・ グループディスカッションがなかった事.
- ・ グループディスカッションによる、情報共有
- ・ グループディスカッションの時間が十分.
- ・ グループディスカッションのタイミングも良かった
- ・ グループディスカッションの量が丁度良いと思った
- ・ グループディスカッションの論点が明確で話しやすかった。
- ・ グループディスカッションを導入することによってプレゼンテーション能力の向上が出来た。
- ・ グループでのディスカッションによる実技に力点が置かれ、使える技術を求めているところ
- ・ グループディスカッションが中心で良かった
- ・ グループディスカッションでさらに理解を深められた
- ・ ケースからのグループディスカッションで内容を理解することが出来た
- ・ ケースのディスカッションが大変面白かったし 勉強になった.
- ・ 授業とグループディスカッションのバランスがとれていた。
- ・ 授業とディスカッションの割合がよく、バランスがとれていた。
- ・ 小きざみにディスカッションが入るのは楽しかった.
- ・ 事後課題では、班でのディスカッション、他班の意見を参考に、今一度自分の、考えをまとめ直すことが出来た.
- ・ 事前課題がメモ程度でディスカッションに入るの、各人が自分の意見に固執しすぎず、人の意見を聞くことが出来た.
- ・ 事前課題での不明点が、ディスカッションによって解消された.
- ・ 事前課題でやった内容をグループディスカッションで話しあえたこと
- ・ 小人数によりグループディスカッション
- ・ シラバスの内容から少しずれても、その日のディスカッションの充実を目指す授業も良いと思った
- ・ 教員もディスカッションに（良い意味で）参加者に徹し、多くの意見を下さる.
- ・ 全体ディスカッションが建設的で良かった。いろいろな手段を知ることが出来たこと。
- ・ ディスカッサントや、全体のディスカッションで色々な意見が得られた.
- ・ ディスカッションが多い点
- ・ ディスカッションが多かった点
- ・ ディスカッションが多く、色々な意見が聞ける.
- ・ ディスカッションが多く、理解が深められた
- ・ ディスカッションが充分出来たこと
- ・ ディスカッションで色々な見方ができて良かった。
- ・ ディスカッションの参加度や対応
- ・ ディスカッションの時間が多かった点
- ・ ディスカッションのまとめ、が参考となった.
- ・ ディスカッションのまとめとして教員が話してくれる内容が分かりやすかった点
- ・ ディスカッションは各人の法意識が分かり、面白かった.
- ・ ディスカッションを通じてケース分析の理解が深まる点
- ・ 発表、プレゼンテーション、ディスカッションという仕組は良い.
- ・ プレゼンテーションに対するディスカッションの時間があつたこと.
- ・ ベンチャー企業にとって必要な知識が、本を読み、まとめることで、理解でき、さら

にディスカッションの中で、身に染みていく所が非常に良かった。

- ・ 他の受講者の方々の、分析の視点、方法論などをディスカッションを通じて知ることが出来たこと
- ・ 毎回グループディスカッションがあったこと
- ・ 身近な話題におけるグループディスカッション
- ・ ワークとディスカッションのバランスがとれていること

【キーワード「大変」の評価点に関する自由意見】

- ・ 1回1回のテーマに大変興味を持てた。
- ・ M7～M8のプレゼンテーションは大変興味深いと思った。
- ・ 外部教員によるベンチャー企業設立の具体的な授業が大変勉強になった
- ・ 外部教員の比評など実学に根ざした講義が聞け、大変良い授業であったと感じた。
- ・ 課題のコメントが大変良く理解出来た。
- ・ 教師から各学生へのアドバイス、コメントが大変良かった。
- ・ ケースが多様であり、大変勉強になった。
- ・ ケースのディスカッションが大変面白かったし勉強になった。
- ・ 現状の自社のシステム構築と改善に大変役立った
- ・ 講義の内容が大変、中味が濃かった
- ・ 事業を行う事が大変だということに気付く。
- ・ 事後課題返却に際し、教員の熱いコメントが大変良かった
- ・ 事後レポートの確認とコメントづけ、レポート返却が丁寧で、大変参考になりました。
- ・ 実ビジネスに則した授業で大変参考になりました。
- ・ 実務レベルでの授業で大変満足している
- ・ 商品開発の考え方に大変役立ちました。
- ・ 税務が大変よく理解できました。
- ・ 教員（西山教員、瀬戸教員）の教え方が大変良かった。
- ・ 教員の説明が大変分かりやすい
- ・ 教員の話が大変熱く、とても良かった
- ・ 教員のプレゼンテーションは大変良い
- ・ 戦略マネジメントゲームは大変勉強になった
- ・ それぞれのトピックの説明が大変分かりやすい。
- ・ 大変、勉強になった。基本的ビジネスに應用出来る点。
- ・ 大変実践的で自分の会社に戻って活用出来る授業だった
- ・ 大変分かりやすい説明でした。
- ・ 玉井教員と堺教員の説明は大変分かりやすかった。
- ・ 玉井教員のでんさくが分かりやすく、丁寧で大変良かった。
- ・ 知識の定着に大変参考になった
- ・ ビジネスプランを作成する時、自分の会社ではすぐ出来るが、実際その機能を使わないと大変と知ることが出来たこと。
- ・ レクチャーノートが大変参考になった

【キーワード「学ぶ、学べる」の評価点に関する自由意見】

- ・ 4Rなどプラン作成上のツールを学ぶことが出来た。
- ・ ケーススタディ、ビジネスプラン、BWで必須の企業価値計算（評価）の方法を理屈から学べたこと。
- ・ Excelで実践的な分析手法を学べた
- ・ Rの使い方を学べた点

- VRIO 分析など、基本的な経営分析手法を学ぶことが出来た。
- イノベーションにおける革新のテーマについて学べた点
- 今までの様々な知識や学びを統合した授業である点
- 今まで学んだ知識を十分活かす事が出来る点
- いろいろな視点の分析ツールを学び、実際に使ってみることが出来たこと。
- 会計情報 特に 原価計算について詳しく学べた点
- 各分析を単体でなく 関連させて使用する方法を学べた点
- 環境配慮をしない企業・組織はいずれ淘汰されることを学んだ点。
- 企業組織の行動等からイノベーションの発生する過程を論理的に学び取ることが出来る。
- 企業や、地球の持続可能性の重要性について学ぶことが出来た。
- 技法として、人間関係を学ぶ機会を得た。
- 金融の知識が無理なく学ぶことが出来た。
- 具体的な実際の企業再生について学べた。
- グループでの意志決定についての理論を学べた。
- グループを超えて、学び合える機会がある。
- 経営分析の手法を実際に活用する方法を学ぶことが出来た。
- 経済学のアプローチで学ぶ機会であったこと。
- 経済論について、基礎から学び直せた点
- ケース分析を一通り行うことにより 財務、組織、マーケティング全て、整合性が合う様学べる。
- ケースを 通して、顧客満足を高める、手法を学べた
- 原価計算の重要性とその意義の深さを学んだ（理解は別だが）
- 効果的なプレゼンテーション方法を学ぶことが出来た。
- 事前レポート→グループワークという形式は学びが深まった
- 実在の会社の戦略について学ぶことが出来た
- 実践的ツールを学べた。
- 実践的な予測の技術を学ぶことが出来た。
- 資本政策を具体的に学べたこと
- 需給関係によって価格が決まるメカニズムなどを通して、色々な価格戦略 を学べた。
- 知らない 業界及びその周辺を学ぶことができた。（レポート作成に当たり）
- 生産管理の理論を数多くのシミュレーションや事例を変えて深く学ぶことが出来た点
- 戦略思考というものが興味深く学べた。
- 戦略に関する理解が図られ、実際に学んだ内容を活用出来そうである。
- 戦略のフレームワークを1つ1つ学べる点
- 戦略立案の難しさを学ぶことが出来た
- 戦略を実行していくことを支える仕組みを学べたこと。
- 楽しく学べた
- 地域の経済について、深く学べた点
- ディベートやプレゼンテーションの方法を学んだこと。
- 内容が深く、楽しく学べた
- 西山教員の授業では価格戦略について理論的に学べた点
- ビジネス基盤の本質を学べたこと。
- ビジネスプランニングが学べた点（プランニング）
- ビジネスプランのスキルを学べた。
- 一人で計画を立てることで学ぶ点が多い。
- 分析ツールについて学ぶことが出来た
- ベンチャー企業における技術とマネジメントの重要性について学んだ。

- ・ベンチャービジネスの創成について、深く学ぶことが出来た
- ・法律を通して企業の経営者の心構えを学べた点
- ・他授業で学んだ知識の活用が出来ること
- ・他の人のパワーポイントも、発表技術から学べた点
- ・学びの内容が理論というよりセオリーであり、興味深く学べた。
- ・理論と実戦の学び
- ・理論をしっかりと学べた
- ・理論を理論で終わらせず、実際に活用する方法を学べた点

【キーワード「非常」の評価点に関する自由意見】

- ・課題の密度が非常に濃いこと。
- ・教員が非常に情熱的であること、
- ・ケース事例が豊富で読みこなせると非常にたのもしい情報を蓄積出来たこと。但し、全て読んでいませんでした。
- ・ケース文が非常にためになるものだった
- ・顧客満足度調査は、非常に良い経験になった。
- ・今後、ケースやビジネスプランを行う上で非常に参考になる授業であった。
- ・今後の実務において非常に役立つ内容であった事
- ・最後のディベートの授業は非常に勉強になった。
- ・事後課題で自社の状況を踏まえたレポート作成を行うことで、色々な発見、自社のシステムの良い点、悪い点を把握することができ、またそれに対する改善案も考えるきっかけとなり非常に有意義だった。
- ・実際の企業活動に則した内容で非常に良かった。
- ・授業のコンテンツが非常に実践的で良かった。
- ・説明が非常に丁寧だった。
- ・説明が非常に丁寧で、分かりやすかったと思います、
- ・説明が非常に分かりやすかった
- ・教員の CEO としての 経験に基づく話しや分析は納得性が高く非常に参考になったし、刺激になった。
- ・教員の実務経験からお話は非常に為になった
- ・教員の指導が非常に分かりやすく、気付かされる点が多かった。
- ・教員の知見が非常に深く、どんな事に対しても納得のいく説明をしてくれた所が良かった。
- ・全体の授業も十分に役立ったが、その中で M7「事業構造とセグメント情報」が入っていることは有効だった。概念的な「戦略」と「セグメント情報」の関連が理解でき、非常にためになった。
- ・前半の北海道経済のパートは非常にためになった。
- ・ディスカサントは非常に役に立った。
- ・取り扱ったケースが北海道の企業のものだったため、非常に興味深く、かつ役立つ内容だった。
- ・西山教員の教え方は非常に丁寧で好感が持てる。
- ・西山教員の説明は、難しいことであっても平易な言葉と分かりやすい図を使って、非常に分かりやすい。
- ・非常に興味のある内容でした。
- ・非常に熱心な教員でした。
- ・評価方法 ●が非常に明確であったこと。
- ・ベンチャー企業にとって必要な知識が、本を読み、まとめることで、理解でき、さらにデ

ディスカッションの中で、身に染みていく所が非常に良かった。

- ・ レポートへのコメントが非常に丁寧で感激した。

【キーワード「丁寧」の評価点に関する自由意見】

- ・ ケース分析を丁寧にコメントしていただいた
- ・ 財務については丁寧な説明もあり分かりやすかった
- ・ 時間内で丁寧な説明が出来るように工夫されていた
- ・ 事後課題への評価が細かく 丁寧であったこと。
- ・ 事後レポートの確認とコメントづけ、レポート返却が丁寧で、大変参考になりました。
- ・ 質問に丁寧に答えてくれた。
- ・ 授業の説明が丁寧であった。
- ・ 数字ばかりで苦しい中でも分かりやすく工夫され 丁寧な授業でした
- ・ 説明が 丁寧。
- ・ 説明が丁寧。
- ・ 説明が丁寧であったこと。
- ・ 説明が非常に丁寧だった。
- ・ 説明が非常に丁寧で、分かりやすかったと思います、
- ・ 瀬戸教員：指導が個別対応で丁寧で、分かるまで教えようという姿勢。
- ・ 教員が親切。丁寧な説明をしてくれる。
- ・ 教員の丁寧さ。
- ・ 玉井教員のでんさくが分かりやすく、丁寧で大変良かった。
- ・ 知的財産に関して丁寧に教えて頂いた
- ・ 丁寧な解説は好感が持てる。
- ・ 丁寧に詳しく教えていただける
- ・ テキストはとても 丁寧だと思います、
- ・ とても丁寧に ご指導いただきました
- ・ 西山教員の教え方は非常に丁寧で好感が持てる。
- ・ ポイント。重要な所を丁寧に教えてくれたこと。
- ・ 本当に1つ1つが丁寧に分かりやすかった。
- ・ レポートへのコメントが丁寧であった。
- ・ レポートへのコメントが非常に丁寧で感激した。
- ・ ワークの資料が分かりやすく、丁寧に書かれていること。

【キーワード「グループワーク」の評価点に関する自由意見】

- ・ 1日かけてグループワークすることで 様々な面からディスカッション出来た
- ・ ビジネスプラン II はビジネスプラン I に比べ、少ない人数でのグループワークだったのでフリーライダーがおらず、一がんと行って行えた点
- ・ グループワークで共同作業の大切さを知った。
- ・ グループワークのディスカッションで様々な見方が出来ることを知った
- ・ グループワークを通してコミュニケーション能力を培うことが出来た
- ・ グループワーク
- ・ グループワーク
- ・ グループワーク
- ・ グループワークがあったこと
- ・ グループワークが多く実践的。
- ・ グループワークが実践的であった。
- ・ グループワークから個人ワークへと段階が踏まれていた点。

- ・ グループワーク後の教員の事前課題に対するレクチャーが分かりやすかったです。
- ・ グループワークでいろいろな意見を聞くことが出来る。
- ・ グループワークで実践があったこと
- ・ グループワークによって新たな視点を得られた。
- ・ グループワークにより、一つのビジネスモデルを構築する点
- ・ グループワークの結果を参考に事後課題を作成出来た。
- ・ グループワークの時間が長かった。
- ・ グループワークの重要性を感じる事が出来たこと
- ・ グループワークは面白かった。
- ・ グループワークを通じ理解が深まった
- ・ 授業とグループワークがバランスを取れていた。
- ・ 後期に向けてグループワークの練習になった。
- ・ 事前レポート→グループワークという形式は学びが深まった

【キーワード「事後課題」の評価点に関する自由意見】

- ・ 予め事後課題が示されている点
- ・ 各ツールの使い方を事後課題を通して理解出来たこと
- ・ 各ツールの使い方を事後課題を通して理解を深めることが出来た
- ・ グループワークの結果を参考に事後課題を作成出来た。
- ・ 事後課題
- ・ 事後課題重視であった。
- ・ 事後課題で、自分の身近な自社において検討することにより、内容の理解が深まった点
- ・ 事後課題で自社の状況を踏まえたレポート作成を行うことで、色々な発見、自社のシステムの良い点、悪い点を把握することができ、またそれに対する改善案も考えるきっかけとなり 非常に有意義だった。
- ・ 事後課題で自社を考え直すことが出来ること
- ・ 事後課題で自社を対象にとり組んで行くと、授業の理解に加え、実際の業務において得られるものが多かった。
- ・ 事後課題で内容の定着が効率良く起きた。
- ・ 事後課題では、班でのディスカッション、他班の意見を参考に、今一度自分の、考えをまとめ直すことが出来た。
- ・ 事後課題で明確にすべき点が構造的に示めされていた点
- ・ 事後課題とそれに対するフィードバックを通じ、知識を再確認出来たこと。
- ・ 事後課題に教員がしっかり目を通していただけている
- ・ 事後課題の評価が次回返却されること、短いコメントをいただけること。
- ・ 事後課題の量
- ・ 事後課題への評価が細かく 丁寧であったこと。
- ・ 事後課題返却に際し、教員の熱いコメントが大変良かった
- ・ 事前課題・事後課題が勉強になった
- ・ 事前課題、事後課題が参考になり 学習意欲が増した
- ・ 事前課題と事後課題をやることで良く理解が出来た
- ・ 適切な事後課題により、内容を復習し、理解不足の点をチェック出来たこと。
- ・ 途中のモジュールでの事後課題を出しても良いと思う。

【キーワード「プレゼンテーション」の評価点に関する自由意見】

- ・ M5～M8 の個人ワークプレゼンテーション時間が長く良かった。
- ・ M7～M8 のプレゼンテーションは大変興味深いと思った。

- ・ 英語でプレゼンテーションをする機会はなかなかない私にとって、英語でプレゼンテーションをする機会を与えてくれて、かなり練習になりました。
- ・ 各モジュールのプレゼンテーションの方法が参考になった
- ・ 課題をプレゼンテーション方式で一人一人発表させたこと。
- ・ グループディスカッションを導入することによってプレゼンテーション能力の向上が出来た。
- ・ 効果的なプレゼンテーション方法を学ぶことが出来た。
- ・ 最終日のプレゼンテーション
- ・ 全員の金融に関するプレゼンテーションが聞けた点
- ・ 教員のプレゼンテーションは大変良い
- ・ ディベート、プレゼンテーションなどの手法がよく理解出来た
- ・ ディベートやプレゼンテーションの方法を学んだこと。
- ・ 発表、プレゼンテーション、ディスカッションという仕組みは良い。
- ・ プレゼンテーションスキルが身に付く。
- ・ プレゼンテーション（各学生の課題）について学習を深められた
- ・ プレゼンテーション資料の作り方の再確認が出来た
- ・ プレゼンテーションと他の人からのフィードバック評価
- ・ プレゼンテーションの練習が出来た。
- ・ プレゼンテーション等
- ・ プレゼンテーションに対するディスカッションの時間があったこと。
- ・ プレゼンテーションの時間が長かった事。
- ・ プレゼンテーションは色々考える良い機会になりました。
- ・ 毎回プレゼンテーションが出来た事
- ・ レポートのプレゼンテーションは興味部会テーマが多くとても面白かった。

【キーワード「自分」の評価点に関する自由意見】

- ・ 会計、マーケティング、組織 別の点数がでるので、自分の弱点がはっきりして良かった。
- ・ 回を重ねる毎に、自分がビジネスを起こす意識が増長した
- ・ 後半のM3とM4は自分のアイデアで説明出来たので良かった。
- ・ 事後課題で、自分の身近な自社において検討することにより、内容の理解が深まった点
- ・ 事後課題では、班でのディスカッション、他班の意見を参考に、今一度自分の、考えをまとめ直すことが出来た。
- ・ 事前課題がメモ程度でディスカッションに入るので、各人が自分の意見に固執しすぎず、人の意見を聞くことが出来た。
- ・ 自分が企業会計に関して不得意のことが分かった事。
- ・ 自分で考えさせられるところが、知識の定着につながり、良かったと思います。(講義スタイル)
- ・ 自分で考えさせる場面を多く設けているため、身につけやすいような気がする。
- ・ 自分で作業をしながら、学習出来たこと。
- ・ 自分では思いも寄らない視点、考え方を得られた。
- ・ 自分と距離があったテクノロジーをとことん教えてくれること。
- ・ 自分の生き方にも、考えさせられる所があった。
- ・ 自分の性格について理解し、どの様な思考で行動すべきかが分った。
- ・ 自分の組織とフィードバックすることで、自己の課題が明らかになった
- ・ 自分のやりたいプランを考えられたこと（第二課題）
- ・ 瀬戸教員の授業では産業連関の逆行列を実際に自分の手で計算出来た点

- ・ 戦略面で自分では考えつかない案より気づきを得られる。
- ・ 大変実践的で自分の会社に戻って活用出来る授業だった
- ・ データ等を活用する時に自分でそれを作るとすごく時間と費用がかかるということを知れたこと
- ・ パブリックセクターの運営について、自分が知らない事が多いのがよく分かった
- ・ ビジネスプランを作成する時、自分の会社ではすぐ出来るが、実際その機能を使わないと大変と知ることが出来たこと。
- ・ 問題点特定のプロセスが自分のスキルとして身についたこと
- ・ レポートの締切りはキツかったが、自分のために良い習練になった。

【キーワード「知識」の評価点に関する自由意見】

- ・ Eラーニングでは、自由に意見交換が出来知識が深まる
- ・ 今までの様々な知識や学びを統合した授業である点
- ・ 今まで学んだ知識を十分活かす事が出来る点
- ・ 管理会計の原価計算について、全ったく知識がありませんでしたが、おぼろげながら、仕組みが理解出来ました。
- ・ 基本的な知識や計算の方法が理解出来た
- ・ 金融の知識が無理なく学ぶことが出来た。
- ・ 小売店業についての知識が得られた。
- ・ コーポレートファイナンスの知識の差がああっても誰もが充足する授業だったと思います
- ・ これまでの知識を総合的に活用していく所がとても参考になる。
- ・ 財務、組織、マーケティングの知識をまんべんなく向上させられる点。
- ・ 事後課題とそれに対するフィードバックを通じ、知識を再確認出来たこと。
- ・ 実務や学習を進めるうえで、必要な知識である
- ・ 自分で考えさせられるところが、知識の定着につながり、良かったと思います。(講義スタイル)
- ・ 教員が幅広い知識を持っていること
- ・ 組織に関する基本的知識を吸収出来たこと。
- ・ 他業界のケースによる 知識増
- ・ 正しい知識の修得になった
- ・ 知識の定着に大変参考になった
- ・ 長期間 1 グループで一つの課題にとり組むことで、他の人が持っている、知識や技術から得ることが多かった
- ・ データを予測するには、経験や知識が必要であると分かった点。
- ・ 巾広い知識が得られた。
- ・ 深い知識を個々のテーマに関連づけて分かりやすく説明があった
- ・ ベンチャー企業にとって必要な知識が、本を読み、まとめることで、理解でき、さらにディスカッションの中で、身に染みていく所が非常に良かった。
- ・ 他授業で学んだ知識の活用が出来ること

【キーワード「得る」の評価点に関する自由意見】

- ・ 新しい視点を得ることが出来た。又 考えさせられる授業であった。
- ・ エレベータースピーチは得るものが多かった。
- ・ オリジナルのテキストは要領を得たものだった
- ・ 技法として、人間関係を学ぶ機会を得た。
- ・ 繰り返し、同じケースについて考察することにより、違う視点での理解が得られた。

- ・ グループワークによって新たな視点を得られた。
- ・ 経営に関する新たな知見が得られた点。
- ・ 小売店業についての知識が得られた。
- ・ 高名な 教員にお会い出来たこと。機会を得られたこと。
- ・ 財務、組織、マーケティングの観点を総合的に分析する機会を得られたこと。
- ・ 事後課題で自社を対象にとり組んで行くと、授業の理解に加え、実際の業務において得られるものが多かった。
- ・ 自分では思いも寄らない視点、考え方を得られた。
- ・ 授業の目的である教養を得るために適切で有効なテキストが用意されたこと
- ・ 人生の教訓となる考えを得られたこと、
- ・ 戦略面で自分では考えつかない案より気づきを得られる。
- ・ 組織における重要な知見が得られる。
- ・ 他社からのコメントで気づきの機会を得られた。
- ・ 長期間 1 グループで一つの課題にとり組むことで、他の人が持っている、知識や技術から得ることが多かった
- ・ ディスカッションや、全体のディスカッションで色々な意見が得られた。
- ・ 統計の仕事への応用のし方のヒントをテキストから得ました。
- ・ 巾広い知識が得られた。
- ・ 複数の教員陣による指導を得られたこと
- ・ 法務（契約）について考える機会を得た。
- ・ 簿記はにが手意識がありましたが、使うことを目的にする方法論を得ました。

【キーワード「思う」の評価点に関する自由意見】

- ・ M7～M8 のプレゼンテーションは大変興味深いと思った。
- ・ アメリカに行きたいと強く思った。
- ・ 課題提出を踏まえ、教員からのショートレクチャーが良かった。但し、毎回ではなかったので、継続すべきだと思う。
- ・ 課題をこなすための努力をしていくうちに様々な事が身についたと思う
- ・ 企業を見るときの視点に幅が出来たように思う
- ・ 教科書 が良い物を選んでもと思った。
- ・ グループディスカッションの量が丁度良いと思った
- ・ ゲストスピーカーの選択、タイミングがすばらしかったと思われる。
- ・ ケログ賞など、学生をうまく、ほめて、モチベーションを上げる工夫がされていると思った。
- ・ コーポレートファイナンスの知識の差がああっても誰もが充足する授業だったと思います
- ・ 自分で考えさせられるところが、知識の定着につながり、良かったと思います。(講義スタイル)
- ・ 自分では思いも寄らない視点、考え方を得られた。
- ・ シマノと日本電工のケースは 一生忘れられないと思います
- ・ 市民として、職業人として、行政にももう少し積極的に関与すべきであると感じた事は進歩であったと思う。
- ・ シラバスの内容から少しずれても、その日のディスカッションの充実を目指す授業も良いと思った
- ・ 説明が非常に丁寧で、分かりやすかったと思います、
- ・ 教員の生きる姿勢がまさに MBA スクールにふさわしいと思った
- ・ ディスカッションの意見がとても役立ったので、この制度はとても良いと思いました。

- ・ テキストはとても 丁寧だと思います、
- ・ 途中のモジュールでの事後課題を出しても良いと思う。
- ・ 何度かくり返し行なうことで必要なことを習得出来たと思います
- ・ 日常で使われている統計. 資料を例として説明していただければ理解しやすいと思います。
- ・ 篠本教員は教え方が上手だと思います。
- ・ 話をされていて、また 話を聞いている、教員の人間性が素晴らしい。教員のような深みのある話が出来るとなりたいと思う。一年間ずっと続いていても良いと思える授業だった。

【キーワード「実際」の評価点に関する自由意見】

- ・ ERP の実際について知ることが出来た。
- ・ 今まで習得した ツールなどを実際に使え、理解を深められた点。
- ・ いろいろな視点の分析ツールを学び、実際に使ってみることが出来たこと。
- ・ 机上の空論やソフトだけではなく、実際の現場の教えが理解出来た
- ・ 具体的な実際の企業再生について学べた。
- ・ 経営分析の手法を実際に活用する方法を学ぶことが出来た。
- ・ 様々なツールを実際に使用して作業出来た点
- ・ 事後課題で自社を対象にとり組んで行くと、授業の理解に加え、実際の業務において得られるものが多かった。
- ・ 実際にディベートを体験出来たこと
- ・ 実際にどのように使われるか分かった点。
- ・ 実際にどのように統計が用いられているか理解出来た
- ・ 実際にワークを行った点
- ・ 実際の企業活動に則した内容で非常に良かった。
- ・ 実際の企業をケースに用いている点
- ・ 瀬戸教員の授業では産業連関の逆行列を実際に自分の手で計算出来た点
- ・ 戦略に関する理解が図られ、実際に学んだ内容を活用出来そうである。
- ・ ビジネスプランを作成する時、自分の会社ではすぐに出来るが、実際その機能を使わないと大変と知ることが出来たこと。
- ・ リーダーシップに関して、理論ではなく実際のケースを紹介している点
- ・ 理論と実際の企業を結びつけることが なかなかできなかった。
- ・ 理論を現実のケースにあてはめることで実際の企業の行動の意味を知ることが出来た。
- ・ 理論を理論で終わらせず、実際に活用する方法を学べた点

【キーワード「話」の評価点に関する自由意見】

- ・ IPO を目指す会社経営者の話が聞けたこと。
- ・ 石屋製菓の社長さんの話を聞くことが出来たことが、企業をコンプライアンスを考える上で役に立った
- ・ 色々な教員の話を聞ける点
- ・ 外部教員の方からいただいた貴重な話が、とてもありがたかったです。
- ・ 外部教員の話が聞けて良かった、
- ・ 企業法務の現場の話を知ることが出来た点は有意義であった。
- ・ クラスに入ったら（教室）に入ったら 英語しか話せない雰囲気
- ・ グループディスカッションの論点が明確で話しやすかった。
- ・ 教員の実務経験に裏打ちされた お話
- ・ 教員の話し方（授業後、なぜか元気が出る点）
- ・ 事前課題でやった内容をグループディスカッションで話しあえたこと

- ・ 実務の話が多く、内容の理解が早まった。
- ・ 授業はウイットに富んでおり、話自体は楽しい
- ・ 教員の CEO としての 経験に基づく話しや分析は納得性が高く非常に参考になったし、刺激になった。
- ・ 教員の経験に裏付けられた基調なお話が聞けたこと。
- ・ 教員の実体験した再生事業のお話。
- ・ 教員の实務経験からお話は非常に為になった
- ・ 教員の話が面白く、授業にあきることがなかった点
- ・ 教員の話が大変熱く、とても良かった
- ・ 教員の話し方があきさせない内容で楽しく聴講した。
- ・ 教員の話が楽しかった
- ・ 教員の話しが分かりやすかった点（全体的に）
- ・ 教員の話はとても面白かった。
- ・ 通常では お会いできないゲストから素張らしい話が聞ける
- ・ ディスカッションのまとめとして教員が話してくれる内容が分かりやすかった点
- ・ 特別教員の貴重なお話をお聴きすることが出来たこと。
- ・ 話をしている、また 話を聞いていて、教員の人間性がすばらしい。教員のような深みのある話が出来るとなりたいと思う。一年間ずっと続いていても良いと思える授業だった。
- ・ 三井観光開発の再建話等、事実に基づいた話が多かった点
- ・ 吉村教員の話し方が好きです。
- ・ リアルな現場の話聞くことが出来た点（三井観光の再生について）
- ・ 私には全く 無知の 生産に関する話を聞くことができて 楽しかった。

【キーワード「時間」の改善点に関する自由意見】

- ・ 1 回 1 回のグループワークの時間が短い。
- ・ 各分析のディスカッション時間がもっとあると良かったです。
- ・ 課題の量が多くて、予定時間内に良質なものは難しいと思います。
- ・ 環境経営の実践している企業訪問、(時間的に利●あるか?)
- ・ 教員個人の得意分野に時間を割き過ぎている。もっとバランス良くして欲しい。
- ・ クイズの量が多く全体をやりきるのに時間がかかった。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少しあると良かったです。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少し欲しい
- ・ グループディスカッションは有意義であるか？発表・質疑応答の時間をもっと欲しい
- ・ グループで作業する時間、理解不十分な点を確認する時間が欲しかった
- ・ グループディスカッションの後の質疑応答時間をもう少し長くして欲しい
- ・ グループの発表時間がもっと長い方が詳しい説明ができると思います。
- ・ グループワーク等を通じて、知識の確認・定着をできる時間が欲しかった。
- ・ グループワークの時間が、もう少しだけ欲しい。→事前課題時点で、差が大きい
- ・ ケースの量が多く、ディスカッション時間内に終わらせるのがたいへんだだったので、ケースの量がもう少し少ない方がいいと思いました。
- ・ ケース分析にあまり時間を割くことができなかったのもう少し時間をかけて、やってみて良かったです。
- ・ ケースレポートへのコメントに充分時間をかけていただいていると思うが、もっと具体的な指摘（改善点）をいただきたかった

- ・ 授業の時間配分
- ・ 最後の個人発表の時間を守るよう、リードして欲しかった。
- ・ 最初の二乗偏差にもう少し時間にゆとりが欲しかった。
- ・ 時間管理
- ・ 時間数がもう少しあると良い。
- ・ 時間内に終わらず、かけ足になってしまう部分があったのが残念です。
- ・ 時間守って下さい。
- ・ 時間を超過する時は次回に回して欲しかった。
- ・ 事後課題に対してのディスカッションがしたい。時間をとってもらって教えて欲しい。
- ・ 事前課題のレビューなどフィードバックを授業中にもっと時間を割いて欲しい。
- ・ じっくり考える時間があった方が良い。
- ・ 質問をすべて受けることは時間が足りなくなるので、少し切っても良かったのでは
- ・ 質問をする時間をしっかりとったほうが良かった。
- ・ 授業時間 シラバス通りに。
- ・ 授業内容のわりに時間が短じかく、理解がおいつかなかった。量をへらすか、時間を長くすることか出来ればもっといいと思いました。
- ・ 授業の時間内に終わらせるための力が働かないこと
- ・ 学生の中で話しの長い人がいるので、一定の時間がすぎれば説明を強制終了させるとの措置が必要です。
- ・ 教員から個人的アドバイスを受けられる時間があると良かった。
- ・ 全体ディスカッションにもう少し時間が欲しい
- ・ 全体ディスカッションの時間を多めにとったら もっと 良かった。
- ・ ○○教員の説明の時間をもっと欲しかった
- ・ ディスカッションの時間をもっとあると良かった。
- ・ ディスカッションの時間をもっと長いと良かった。
- ・ ディスカッションの時間をもう少し増やして欲しい
- ・ ディベートの時間が短い
- ・ ディベートの時間配分や会場の一考をお願いします。
- ・ ねりこみ時間を確保したスケジューリングをすること
- ・ プレゼンテーション時間をもう少し多く取って欲しい
- ・ プレゼンテーションの時間を厳守して欲しい
- ・ ほとんどの授業は札幌サテライトで行うことが可能であるとする。移動時間（小樽←→札幌）の負担も社会人には大きい。札幌サテライトでの講義を強く望む。
- ・ もう少し 時間を かけて やりたい 前・後期とか。
- ・ もっと、ディスカッションの時間を多くして欲しい。
- ・ もっと議論する時間が欲しかった。
- ・ もっと時間が欲しい
- ・ もっとディスカッションの時間をとりたかった。
- ・ 予習時間をもう少し作るべきでした。

【キーワード「欲しい」の改善点に関する自由意見】

- ・ （重）回帰分析の結果の見方（Excel）もレジュメにして欲しい
- ・ ERP の話にフォーカスして欲しい。
- ・ ERP を主軸にもってくる必要があったのかがまったくわからなかった。ERP とかだいの関連がもっと分かるようにして欲しい。
- ・ グループワークの全体ディスカッションを少しやって欲しかった。
- ・ M1～M2 くらいがむずかしすぎて、ついていけなかった。進め方や、初めて学ぶ人のことを

考慮して欲しい。

- ・ パワーポイント資料を事前に欲しい、
- ・ パワーポイントを使って説明して欲しい、
- ・ t分布の説明がもっと欲しい
- ・ イノベーション論ではなく戦略論であることを事前に示して欲しかった
- ・ 色々な例をもう少し示して欲しかった
- ・ 外人教員も1度位参加して欲しかった
- ・ 外部レポート専門家（プレゼンテーションなど）を招いて欲しい。
- ・ 各チームづくりの組合せをチェックして同一にならない様にして欲しい、
- ・ 各発表に対して意見を言って欲しい
- ・ 企業活動の実務に関わる具体例を多くして欲しい コンテンツビジネスの権利処理など、
- ・ 技術的な話が多すぎる（科目名に“技術”という言葉を入れて欲しい
- ・ 教員個人の得意分野に時間を割き過ぎている、もっとバランス良くして欲しい、
- ・ 教室でみんなが集っているから出来ることに取り組んで欲しい。
- ・ 具体的な 内容をもう少し 盛り込んで 欲しかったです。
- ・ グループ、ディスカッションの組み合わせが重複しないようにして欲しい
- ・ グループ課題では、個人の参加度合に差があるため、課題提出の方法を改善して欲しい。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少し欲しい
- ・ グループディスカッションは有意義であるか？発表・質疑応答の時間をもっと欲しい
- ・ グループディスカッションを多くして欲しい
- ・ グループで作業する時間、理解不十分な点を確認する時間が欲しかった
- ・ グループで事業をする課題も欲しかった
- ・ グループでのディスカッションをもう少し長くして欲しい
- ・ グループディスカッションの後の質疑応答時間をもう少し長くして欲しい
- ・ グループワーク等を通じて、知識の確認・定着をできる時間が欲しかった、
- ・ グループワークの時間が、もう少しだけ欲しい。→事前課題時点で、差が大きい
- ・ グループワークを行う機会を増やして欲しい
- ・ 掲示板にもう少し教員が入って下さって欲しかった。
- ・ ケース I・ケース II を通じ 北海道もしくは北海道発の企業をとりあげて欲しかった。（北海道本社にはこだわらないが）
- ・ ケース以外にも具体例がもっと欲しい、
- ・ ケースの資料が読みにくかった（PDF ファイルがうまく開けないなど）→できれば配布して欲しい、
- ・ ケースの論点を明確にして欲しい、
- ・ ケース分析はモデル解答も示して欲しかった。
- ・ 授業テキストが当日にアップされるので せめて前日アップにして欲しい
- ・ ○○教員の説明をもっと現実的な話をして欲しかった、
- ・ サービス業も本例として取り上げて欲しい
- ・ 最後の個人発表の時間を守るよう、リードして欲しかった、
- ・ 最終的には改善されたが、質問をとって欲しかった
- ・ 最終レポは個人単位にして欲しい、
- ・ 最初の二乗偏差にもう少し時間にゆとりが欲しかった、
- ・ 次回ディスカッションのテーマをケース配布時に教えて欲しい。自分の考えをまとめてくれるし、スムーズにグループワークに入れるため。
- ・ 時間を超過する時は次回に回して欲しかった、
- ・ 事後課題・事前課題がもっと欲しかった
- ・ 事後課題に対しての具体的な「赤」の指摘をもっとみたかったし教えて欲しい。

- ・ 事後課題に対してのディスカッションがしたい。時間をとってもらって教えて欲しい。
- ・ 事後課題へのコメントをもう少し細かく書いて欲しい または、全体的な講評をして欲しい
- ・ 事後課題をアップしたものにはフィードバックが欲しい。
- ・ 事後課題をもっと早く返却して欲しい。同じ間違いを次のレポートでもしてしまうため。
- ・ 事前課題とグループワークの課題を統一して欲しい。予じめ踏み込んだ用意が可能になる。
- ・ 事前課題において、目的や課題を明確に指示して欲しい。
- ・ 事前課題の解答に対する講評が欲しい。(全体的な)
- ・ 事前課題のレビューなどフィードバックを授業中にもっと時間を割いて欲しい。
- ・ 事前課題をもう少し負荷をかけて欲しい
- ・ 実例を使って欲しい
- ・ 自分で、どのようにすれば良いのか適切な教材が欲しい
- ・ 重回帰分析をもう少しわしくやって欲しかった。
- ・ 授業内容に関連した、ベストプラクティスを紹介して欲しい
- ・ 授業の中にもっとグループワークを取り入れて欲しかった
- ・ 授業を受けるために必要な最低限のレベルを示して欲しい。
- ・ 初回授業の事前課題をもう少し早く発表して欲しかった。
- ・ 事例が大手メーカーのみであった 道内の中小企業を事例に取り入れて欲しかった
- ・ 事例研究でのグループディスカッションが欲しい
- ・ 推薦図書も教えて欲しい
- ・ すべて札幌サテライトで行って欲しかった
- ・ 教員がこの時点で こう予測して ぴったり当てたとの事例を示して欲しかった。
- ・ 教員方の意見を統一しておいて欲しかったです。
- ・ 教員からのコメントがもう少し欲しかった。
- ・ 教員の採点をスピーディーに行って欲しい
- ・ 全体ディスカッションにももう少し時間が欲しい
- ・ 前半のモジュールから 実際の財務諸表を教材として使って欲しかった。
- ・ ○○教員の説明の時間をもっと欲しかった
- ・ 中小企業の事例を元に授業を具体化して欲しかった。
- ・ 中盤のモジュールで、ワークが少ない回があり、できれば毎回参加する事のある構成にして欲しかった。
- ・ 伝え方にももう少し工夫が欲しいところです。
- ・ ディスカッサンタントも分けて欲しかった
- ・ ディスカッションの時間をもう少し増やして欲しい
- ・ ディスカッションの時のツールをもっと分かりやすくして欲しい。
- ・ テキストに沿って、テキストの内容をもっと活かして欲しい
- ・ できれば検定について、少しでも触れて欲しかった。
- ・ テストの答案が返却されるのが M8 時であり、復習するには遅すぎるため改善して欲しい。
- ・ 日本語を多くして欲しかった
- ・ ネットが つながる 環境にして欲しい。
- ・ バラのプリントが多すぎて管理しづらい せめてヘッタかフッタにモジュール数を入れて欲しい。
- ・ パワーポイントの字が小さいことがあった。→スライドを分けるなど工夫して欲しい。
- ・ 半年間、同じテーマ、同じメンバーは苦しい、あきる→2回に分けて欲しい
- ・ ビジネスプランの作り方のレクチャーをもう少しして欲しい。
- ・ ビジネスプラン発表のグループを2週で分けて欲しかった
- ・ ビジネス文書の書き方のワークを多くして欲しい

- ・ プランの前提条件を広げすぎず、せばめすぎずにして欲しい。
- ・ プレゼンテーション技術や文責、コミュニケーション能力を高められるようカリキュラムして欲しい。 →個人のプレゼンテーションに対する評価、フィードバックが欲しい!!
- ・ プレゼンテーション時間をもう少し多く取って欲しい
- ・ プレゼンテーションの時間を厳守して欲しい
- ・ ベストレポートをその都度公開して欲しかった（後半になって、最初の分から全て公開されました）
- ・ ポイントをもっと絞って欲しい
- ・ マーケティングを先にやって欲しかった。
- ・ 身近な事例（国内の中小企業等）がもう少し欲しかった。
- ・ もう少し ゆっくり話して欲しい。
- ・ もう少し大きな声で話して欲しい時があった
- ・ もう少しディスカッションを入れて欲しかったです、
- ・ もう少し早くレポート・テストが返ってきて欲しかった
- ・ もっと、ディスカッションの時間を多くして欲しい。
- ・ もっと議論する時間が欲しかった。
- ・ もっとグループ調査、テーマをもう2つ程欲しかった。
- ・ もっと後日の課題についての解説を詳しくして欲しかった
- ・ もっと時間が欲しい
- ・ もっと自信を持って欲しい。丁寧で分かりやすいのだから。
- ・ レポート作成のポイントをもう少し明確して欲しい

【キーワード「ケース」の改善点に関する自由意見】

- ・ 5期生と同じケースを使用している場合で、（視点が違って）参考になるものは読んでみたかったです。（5期生のケログ賞レポートなど）
- ・ TOYOTA (M7) のケースの様に、自由に考えることを中間モジュールを入れてはどうでしょうか
- ・ アサヒビールのケース分析にはあまり満足できなかった、もっと詳しく財務分析を出来たら良かった
- ・ 各Mで目的とするところにあったケースが選ばれると、ケースを通じた理解がもっと深まったと思う。
- ・ ケース、グループディスカッションから得るものがない、むしろテキストだけでも良い
- ・ ケースⅠ・ケースⅡを通じ 北海道もしくは北海道発の企業をとりあげて欲しかった。（北海道本社にはこだわらないが）
- ・ ケース以外にも具体例がもっと欲しい。
- ・ ケース資料を充実させる
- ・ ケースとモジュールの目的の整合性がもう少しあったら良かったと思います。
- ・ ケースについての戦略の範囲を固定していただければ助かります。例えば海外は除くとか。
- ・ ケースの企業選定には問題があると思う
- ・ ケースの資料が読みにくかった（PDFファイルがうまく開けないなど） →できれば配布して欲しい。
- ・ ケースの目的は大むね理解しているつもりだが、解説があればレポートの修正・再検討により助かった。
- ・ ケースの量が多く、ディスカッション時間内に終わらせるのがたいへんだだったので、ケースの量がもう少し少ない方がいいと思いました。
- ・ ケースの量がやや多く 消化不良の部分があったため、ケースを厳選していただければと

思います。

- ケースの論点を明確にして欲しい。
- ケース分析にあまり時間を割くことができなかつたので もう少し時間をかけて、やってみたかったです。
- ケース分析の模範回答などがあれば良かった。
- ケース分析はモデル解答も示して欲しかった。
- ケース分析を3本~4本やりたい
- ケースレポートの評価について、もっと細かい所までチェックして具体的な実例などを示せば分かりやすかつたと思う。
- ケースレポートの分析内容に対するコメント
- ケースレポートのレクチャー
- ケースレポートへのコメントに充分時間をかけていただいていると思うが、もっと具体的な指摘（改善点）をいただきたかつた
- ケースワークをより重視した方が良い。
- ケースをもう少しつつこんでやってみたかったです。
- ケースを読みやすく
- 次回ディスカッションのテーマをケース配布時に教えて欲しい。自分の考えをまとめてくれるし、スムーズにグループワークに入れるため。
- 事前課題のケースの文章が分かりにくかつた、
- 失敗したケースもみてみたかつた。
- 教員の意見（ケースの戦略を教員ならどうするか）を聞きたかつた
- 全体的にケースの日本語訳が変な場合が多くて、大変読みづらかつたです。もう少しわかり易く日本語訳するか、ケース 이슈を変えないで、わかりやすいものに書き変えるか、教材として昇華させていただきたいと思いました。
- 前半モジュールで、レクチャーとケースが結びつかく理解が不足している点。
- 戦略価値評価を M3 あたりでやり、M4 はケース分析+評価をあわせてやると良いのでは。
- 第一課題はケースとのシナジーが生じる反面、自由度が減り、ケースに類似した内容になつてしまった。
- 道内中小企業をケースに取り上げて欲しい
- 内容はとても為になる。その為 事前のケースをもう少し、分かりやすいケースを使い、設問内容を明確にしておけば ディスカッションも深まる。
- 幅広い業種、大きさの企業のケース分析を行うべきと考えます。(現状：北海道の製造業、中小企業のみ)
- 北海道の企業もみてみたいケースがあつた。
- ボリュームを少々減らしても 回数（ケース分析）の件数をもっと増やした方が主旨にあうように思われる。
- 翻訳のケースはもう少し読みやすくお願いしたい。
- 毎回ケースを扱うと、もっと身近に感じられたのではないか。
- マシン演習を使ってケース分析を行う方が良い
- もう少し 実際のケースを見てみたかつた
- もう少し、事前課題などでケース・判例を読み、それに基づいて授業を受けたかつた。
- もう少し新しいケース+α 課題と関係なくても参考ケースの紹介
- もっとケースを使ってやりたかつた。
- もっとケースをやりたかつた（サービス業とかも）
- 理論のフレームとケースの関係をもう少し分かりやすく。
- 分かりづらいケース（M1）があつたので、内容を変えたほうが良いかもしれない

【キーワード「グループワーク」の改善点に関する自由意見】

- ・ 1回1回のグループワークの時間が短い。
- ・ 企業診断のようなものをグループワークでやりたかった。
- ・ グループワーク、やる人とやらない人に差がありすぎる
- ・ グループワーク後の各グループの発表をする時、各グループごとに質疑もあった方が良い
- ・ グループワークが問題をともに解くという形だったので、自由な討議という感じではなかった。
- ・ グループワークで個人へのかたよりを是正する方法が難しかった。
- ・ グループワーク等を通じて、知識の確認・定着をできる時間が欲しかった。
- ・ グループワークと授業の温度差をなくすよう、学生に答えさせてはいかがでしょう。
- ・ グループワークに問題あり（何もしない人が同じ評価は不満です）
- ・ グループワークの課題が事前に分かっていた後が予習しやすい
- ・ グループワークの際、得意な分野のみ行おうとする人がいる。実体として分担作業になるので、予め、わり振られていても良いかと思う。
- ・ グループワークの時間が、もう少しだけ欲しい。→事前課題時点で、差が大きい
- ・ グループワークの進め方の案提示
- ・ グループワークのテーマが多過ぎる
- ・ グループワークのフォロー（個人+グループで）
- ・ グループワークのメンバーに問題がある場合がある
- ・ グループワークはスキルの差が大きく後半での実施は個人に負担が大きいとの印象をうけたので前半に実施する方が良いと考える
- ・ グループワークを行う機会を増やして欲しい
- ・ グループワークを行うことで学生間の理解度の差を縮められると思う
- ・ グループワークをもっと導入した方がいいと思う。
- ・ 個人ワークとグループワークの提出も分かりにくい
- ・ 最後のグループワークの発表は2日前に渡り行くことを言うべきであった。
- ・ 座学ではなく、他の方法で楽しめる授業を演出して頂きたい。活動・作業・グループワークを中心に。
- ・ 次回ディスカッションのテーマをケース配布時に教えて欲しい。自分の考えをまとめてくれるし、スムーズにグループワークに入れるため。
- ・ 事前課題とグループワークの課題を統一して欲しい。予じめ踏み込んだ用意が可能になる。
- ・ 授業の中にもっとグループワークを取り入れて欲しかった
- ・ 資料（テキスト）の配布が遅く理解前にグループワークとなる
- ・ レクチャー課題→グループワークの方が理論の理解がすすむ
- ・ レクチャーの後にグループワークした方が理解しやすいと思います

【キーワード「ディスカッション」の改善点に関する自由意見】

- ・ グループワークの全体ディスカッションを少しやって欲しかった。
- ・ ある判決について賛成・反対の立場からディスカッション・ディベートをする回数を増やすと、より理解が深まるのではないか。
- ・ 各分析のディスカッション時間がもっとあると良かったです。
- ・ 簡単な事後レポート。（ディスカッションをもとに、戦略を立て直す。）などの課題があるとより理解が深まったのではないかと思う。
- ・ グループ・ディスカッションをさらにとり入れる方が良いと思う。（現状：M7のみ→各モジュールでグループディスカッションを行う。）
- ・ グループディスカッションの時間がもう少しあると良かったです。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少し欲しい

- ・ グループディスカッションは有意義であるか？発表・質疑応答の時間をもっと欲しい
- ・ グループディスカッションを多くして欲しい
- ・ グループディスカッションを増やした方が良いのでは？
- ・ グループでのディスカッションをもう少し長くして欲しい
- ・ グループディスカッションが マンネリ気味となった。他の科目の課題に追われて十分な準備ができず、実のあるグループディスカッションとならないこともあった。
- ・ グループディスカッションの後の質疑応答時間をもう少し長くして欲しい
- ・ ケース、グループディスカッションから得るものがない、むしろテキストだけでも良い
- ・ ケースの量が多く、ディスカッション時間内に終わらせるのがたいへんだったので、ケースの量がもう少し少ない方がいいと思いました。
- ・ 次回ディスカッションのテーマをケース配布時に教えて欲しい。自分の考えをまとめてくれるし、スムーズにグループワークに入れるため。
- ・ 事後課題に対してのディスカッションがしたい。時間をとってもっと教えて欲しい。
- ・ 事前課題で、精読だけでなく、簡単なメモを見ると、ディスカッションにスムーズに入れたのではないかと思う。
- ・ 事前課題に基づいてディスカッションするが、量が多く、ディスカッションで●●しにくい。
- ・ 実際にマーケティングをやっている企業の方に話してもらって それを題材にして、グループディスカッションなどができるとさらに良いと思う。
- ・ 事例研究でのグループディスカッションが欲しい
- ・ 全体ディスカッションにももう少し時間が欲しい
- ・ 全体ディスカッションの時間を多めにとったら もっと 良かった。
- ・ 前半のモジュールはディスカッションがなく 退屈だった。
- ・ ディスカッションが後半の方が良かった。
- ・ ディスカッションがもっとあると良かった。
- ・ ディスカッションの時間がもっとあると良かった。
- ・ ディスカッションの時間がもっと長いと良かった。
- ・ ディスカッションの時間をもう少し増やして欲しい
- ・ ディスカッションの時のツールをもっと分かりやすくして欲しい。
- ・ ディスカッションの例題がもっと分かりやすいと良かった。
- ・ テーマを決めて、グループディスカッションがあっても良い。
- ・ 当科目とビジネスプラン I は関連性が高いとは思いますが、あくまでも別の課目であるので当授業の際にビジネスプラン I のテーマについてディスカッションするのは抵抗を感じる。
- ・ 内容はとても為になる。その為 事前のケースをもう少し、分かりやすいケースを使い、設問内容を明確にしておけば ディスカッションも深まる。
- ・ プレゼンテーションのやり方について もっとディスカッションをしたかった
- ・ もう少しディスカッション機会
- ・ もう少しグループディスカッションを取り入れても良かった。
- ・ もう少しディスカッションを入れて欲しかったです、
- ・ もっと、ディスカッションの時間を多くして欲しい。
- ・ もっとディスカッションの時間をとりたかった。

【キーワード「内容」の改善点に関する自由意見】

- ・ 2名の教員の内容が少し はなれていた気がします。
- ・ グループワークでの内容をもっと密にできれば良かった点
- ・ グループワークの内容を、もう少し検討していただければと思います。

- ・ M7、M8 の内容充実
- ・ アジアの話を行うと授業内容がブレる。北海道経済に特化すべき。
- ・アントレプレナーシップの系譜とリーダーシップとの内容差がもう少しあると良い。
- ・ 海外のビジネス・スクールのトピックについて、授業中に触れられる場面がありましたが、日本のビジネス・スクールにおける授業内容、それぞれの学校の特色等についてもご紹介いただきたかったです。
- ・ 会計・組織・マーケティング分析が別個に行われやすく、フレーム間の整合を保つのが難しい ホワイトボードの内容を消してから次のフレームに進むことが一因となっている、すぐにEラーニングにアップして授業中に確認できるようにするなどの工夫が必要
- ・ 科目名と内容が不一致
- ・ 具体的な 内容をもう少し 盛り込んで 欲しかったです。
- ・ 具体的な授業内容の活用
- ・ ケースレポートの分析内容に対するコメント
- ・ 事前課題、事後課題の指定内容について、Eラーニング上に明示いただけると良かったと思います。
- ・ 事前の公開レポートについて、どうも適切とは思えないものがあり、授業内容を理解する上で判断に迷ったことがあった。
- ・ 授業内容に関連した、ベストプラクティスを紹介して欲しい
- ・ 授業内容のわりに時間が短じかく、理解がおいつかなかった。量をへらすか、時間を長くすることか出来ればもっといいと思いました。
- ・ 授業内容を実践する場
- ・ 授業の内容について再考した方が良い
- ・ シラバスで周知されている内容が、授業における重点と合っていないように感じました。
- ・ シラバスで周知されている内容と、各Mの内容に差があった。しかしこれは、理解を深めるための教員の工夫であると理解している。
- ・ 教員1人で担当して頂きたい。→内容や評価方法で不一致では？
- ・ 第一課題はケースとのシナジーが生じる反面、自由度が減り、ケースに類似した内容になってしまった。
- ・ 地産地消のテーマでは 内容が似てくる
- ・ ディベート形式よりも、グループの検討内容（問題点、戦略）を素直に発表し、質疑応答を行った方が効果があったのではないかと。
- ・ テキストに沿って、テキストの内容をもっと活かして欲しい
- ・ 内容が現実的ではなく、本当に必要なことを聞いても答えてくれない
- ・ 内容がもりだくさんで、全てを理解しながらシラバスどおり消化するのは難かしそう。
- ・ 内容の把握をもう少し進めたかった
- ・ 内容はとても為になる。その為 事前のケースをもう少し、分かりやすいケースを使い、設問内容を明確にしておけば ディスカッションも深まる。
- ・ パワーポイントの内容をつくり込む
- ・ フィードバックが遅いため、自分が授業内容を理解できているかどうか分かりづらい。
- ・ もう一步、踏み込んだ内容の授業も受けてみたい。
- ・ もう少し多くの内容について授業が出来なかったか。
- ・ レポートのフィードバックについてどういう内容が良く、どういった部分が整合(授業と)していないのか示されるべき
- ・ 分かりづらいケース (M1) があったので、内容を変えたほうが良いかもしれない

【キーワード「課題」の改善点に関する自由意見】

- ・ ビジネスプラン II ではないが、ビジネスプラン I にも個人課題をやらせるべき。

- ビジネスプランと課題がかぶってわかりにくい.
- ビジネスプランと関係のない題材で授業を行い、事後課題とビジネスプランに連動させるとよい
- Eラーニングにアップする課題ではない事前課題についてはその存在を忘れやすい（こちらの問題でもあります）→事前に一覧表で〆切を出してもらえるとありがたいです.
- 各課題の提出時期と テーマの進行が調整しづらかった.
- 学生の実力差が大きいので、初心者向けの課題があると良い.
- 課題 の意図と効果が明確であったら良かった
- 課題が多すぎるので減らしたほうが 効率が上がると思います.
- 課題の書き方が最初わからなかった
- 課題のシートが分かりづらかった。
- 課題の量が多くて、予定時間内に良質なものは難しいと思います.
- 課題をもっと出した方が良い. もの足りない
- 簡単な事後レポート. (ディスカッションをもとに、戦略を立て直す.) などの課題があると より理解が深まったのではないと思う.
- 教員からの事後課題のフィードバックが少ない
- グループ課題では、個人の参加度合に差があるため、課題提出の方法を改善して欲しい.
- グループで事業をする課題も欲しかった
- グループディスカッションが マンネリ気味となった。他の科目の課題に追われていて十分な準備ができず、実のあるグループディスカッションとならないこともあった.
- グループワークの課題が事前に分かっていた後が予習しやすい
- グループワークの時間が、もう少しだけ欲しい。→事前課題時点で、差が大きい
- 最終課題のグルーピングを指定することで競争が生まれたと思う.
- 採点のフィードバックが遅いと感じた。特に第1課題の採点がまだである.
- 事後課題・事前課題をもっと欲しかった
- 事後課題で何が求められているのかが 良く分かりませんでした
- 事後課題に対しての具体的な「赤」の指摘をもっとみたかったし教えて欲しい.
- 事後課題に対してのディスカッションがしたい。時間をとってもっと教えて欲しい.
- 事後課題の解説が長すぎる
- 事後課題の評価（全体の）と、他の人の「このレポートを参考に」というのをあげてもらいたかった.
- 事後課題の評価、フィードバックは行うべきだと思います.
- 事後課題のフィードバックが後半に行くにつれなくなった
- 事後課題のフォローが不足、消化不良で終わってしまった
- 事後課題へのコメントをもう少し細かく書いて欲しい または、全体的な講評をして欲しい
- 事後課題へのフォローが短く 何がだめなのかわからない。
- 事後課題をアップしたものにはフィードバックが欲しい.
- 事後課題をもっと早く返却して欲しい。同じ間違いを次のレポートでもしてしまうため.
- 事前課題、事後課題の指定内容について、Eラーニング上に明示いただけると良かったと思います.
- 事前課題で、精読だけでなく、簡単なメモを見ると、ディスカッションにスムーズに入れたのではないと思う.
- 事前課題とグループワークの課題を統一して欲しい。予じめ踏み込んだ用意が可能になる.
- 事前課題と授業項目とが必ずしも一致していないように思う.
- 事前課題なり事後課題なりをそれなりに出した方が良いのでは.
- 事前課題において、目的や課題を明確に指示して欲しい.

- ・ 事前課題についての意見発表をしてはいかがでしょうか。
- ・ 事前課題に基づいてディスカッションするが、量が多く、ディスカッションで●●しにくい。
- ・ 事前課題の解答に対する講評が欲しい。(全体的な)
- ・ 事前課題のケースの文章が分かりにくかった、
- ・ 事前課題のボリュームが多いので、解答のヒントをエクセルの練習問題だけではなくワード等でアップされていると良かった。
- ・ 事前課題のレビューなどフィードバックを授業中にもっと時間を割いて欲しい。
- ・ 事前課題一つ一つのテーマを明確にしてはどうか。(SWOT、4P、3C、…)後のモジュールは前回までのを全て使うなど
- ・ 事前課題を出した方が良い。
- ・ 事前課題をもう少し負荷をかけて欲しい
- ・ 事前の課題が参考になった
- ・ 初回授業の事前課題をもう少し早く発表して欲しかった。
- ・ 第一課題はケースとのシナジーが生じる反面、自由度が減り、ケースに類似した内容になってしまった。
- ・ 他の課題も含めてボリュームが多すぎるため十分な資料を作れなかった。
- ・ たまにはレポート形式の課題があっても良かったかも、
- ・ 長文課題までに短文を書く練習が必要だと思った
- ・ 道州制につながる、事前課題 (いきなりレポートは ステップがない)
- ・ 毎日提出した事後課題に対するフィードバックが全くない点に不満を覚えます。
- ・ もう少し、事前課題などでケース・判例を読み、それに基づいて授業を受けたかった。
- ・ もう少し新しいケース+α課題と関係なくとも参考ケースの紹介
- ・ もっと後日の課題についての解説を詳しくして欲しかった
- ・ レクチャー課題→グループワークの方が理論の理解がすすむ

【キーワード「多い」の改善点に関する自由意見】

- ・ 覚えることが多くて混乱した
- ・ 学生が多すぎる
- ・ 課題が多すぎるので減らしたほうが 効率が上がると思います。
- ・ 課題の量が多くて、予定時間内に良質なものは難しいと思います。
- ・ 企業活動の実務に関わる具体例を多くして欲しい コンテンツビジネスの権利処理など、
- ・ 技術的な話が多すぎる (科目名に“技術”という言葉を入れて欲しい)
- ・ クイズの量が多く全体をやりきるのに時間がかかった。
- ・ グループ数が多いければ、より多様な理解ができたと思う。
- ・ グループディスカッションを多くして欲しい
- ・ グループワークのテーマが多過ぎる
- ・ ケースの量が多く、ディスカッション時間内に終わらせるのがたいへんだったので、ケースの量がもう少し少ない方がいいと思いました。
- ・ ケースの量がやや多く 消化不良の部分があったため、ケースを厳選していただければと思います。
- ・ サービス業の事例を多く取り上げて頂きたかった。
- ・ 事前課題に基づいてディスカッションするが、量が多く、ディスカッションで●●しにくい。
- ・ 事前課題のボリュームが多いので、解答のヒントをエクセルの練習問題だけではなくワード等でアップされていると良かった。
- ・ 質問が多く 全員参加型。

- ・ 質問をはぐらかされることが多く、本当に大事なことを聞けない。
- ・ 全体ディスカッションの時間を多めにとったら もっと 良かった。
- ・ 全体的にケースの日本語訳が変な場合が多くて、大変読みづらかったです。もう少しわかり易く日本語訳するか、ケースイシューを変えないで、わかりやすいものに書き変えるか、教材として昇華させていただきたいと思いました。
- ・ 他の課題も含めてボリュームが多すぎるため十分な資料を作れなかった。
- ・ 多変量解析の具体的手法や手順についての講義があると良かった。
- ・ 日本語を多くして欲しかった
- ・ 話し方が早すぎて 聞きとりづらいことが多かった。
- ・ バラのプリントが多すぎて管理しづらい せめてヘッタかフッタにモジュール数を入れて欲しい。
- ・ ビジネス文書の書き方のワークを多くして欲しい
- ・ プレゼンテーション時間をもう少し多く取って欲しい
- ・ 文の誤字が多い。
- ・ もう少し多くの内容について授業が出来なかったか。
- ・ もっと、ディスカッションの時間を多くして欲しい。

【キーワード「事前課題」の改善点に関する自由意見】

- ・ Eラーニングにアップする課題ではない事前課題についてはその存在を忘れやすい（こちらの問題でもあります）→事前に一覧表で〆切を出してもらえるとありがたいです。
- ・ グループワークの時間が、もう少しだけ欲しい。→事前課題時点で、差が大きい
- ・ 事後課題・事前課題がもっと欲しかった
- ・ 事前課題、事後課題の指定内容について、Eラーニング上に明示いただけると良かったと思います。
- ・ 事前課題で、精読だけでなく、簡単なメモを見ると、ディスカッションにスムーズに入れたのではないかと思う。
- ・ 事前課題とグループワークの課題を統一して欲しい。予じめ踏み込んだ用意が可能になる。
- ・ 事前課題と授業項目とが必ずしも一致していないように思う。
- ・ 事前課題なり事後課題なりをそれなりに出した方が良いのでは。
- ・ 事前課題において、目的や課題を明確に指示して欲しい。
- ・ 事前課題についての意見発表をしてはいかがでしょうか。
- ・ 事前課題に基づいてディスカッションするが、量が多く、ディスカッションで●●しにくい。
- ・ 事前課題の解答に対する講評が欲しい。（全体的な）
- ・ 事前課題のケースの文章が分かりにくかった、
- ・ 事前課題のボリュームが多いので、解答のヒントをエクセルの練習問題だけではなくワード等でアップされていると良かった。
- ・ 事前課題のレビューなどフィードバックを授業中にもっと時間を割いて欲しい。
- ・ 事前課題一つ一つのテーマを明確にしてはどうか。（SWOT、4P、3C、…）後のモジュールは前回までのを全て使うなど
- ・ 事前課題を出した方が良い。
- ・ 事前課題をもう少し負荷をかけて欲しい
- ・ 初回授業の事前課題をもう少し早く発表して欲しかった。
- ・ 道州制につながる、事前課題（いきなりレポートは ステップがない）
- ・ もう少し、事前課題などでケース・判例を読み、それに基づいて授業を受けたかった。

【キーワード「レポート」の改善点に関する自由意見】

- ・ 5 期生と同じケースを使用している場合で、(視点が違って) 参考になるものは読んでみたかったです。(5 期生のケログ賞レポートなど)
- ・ 外部レポート専門家 (プレゼンテーションなど) を招いて欲しい。
- ・ 各レポートに対して 直接指導していただければ良かったと思います。
- ・ 簡単な事後レポート。(ディスカッションをもとに、戦略を立て直す。) などの課題があると より理解が深まったのではないかと思う。
- ・ ケースの目的は大むね理解しているつもりだが、解説があればレポートの修正・再検討により助かった。
- ・ ケースレポートの評価について、もっと細かい所までチェックして具体的な事例などを示せば分かりやすかったと思う。
- ・ ケースレポートの分析内容に対するコメント
- ・ ケースレポートのレクチャー
- ・ ケースレポートへのコメントに充分時間をかけていただいていると思うが、もっと具体的な指摘 (改善点) をいただきたかった
- ・ 事後課題の評価 (全体の) と、他の人の「このレポートを参考に」というのをあげてもらいたかった。
- ・ 事後課題をもっと早く返却して欲しい。同じ間違いを次のレポートでもしてしまうため。
- ・ 事前の公開レポートについて、どうも適切とは思えないものがあり、授業内容を理解する上で判断に迷ったことがあった。
- ・ 自分が得た学びをもう少し定着させるために、A41P ぐらいのレポートがあっても良かった。
- ・ たまにはレポート形式の課題があっても良かったかも、
- ・ 道州制につながる、事前課題 (いきなりレポートは ステップがない)
- ・ ベストレポート等の優秀なレポートについては 評価結果も公表していただいた方が、そのレポートのどのようところが優れているのかわかって良いと感じました。
- ・ ベストレポートに対する教員の簡単なコメント・ここが良い というようなことを知りたい。
- ・ ベストレポートをその都度公開して欲しかった (後半になって、最初の分から全て公開されました)
- ・ 他の人が出したレポートも読んでみたかった (小樽市立病院、バランススコアカード)
- ・ もう 1 モジュールを最終レポートに当てていただくと、最後まで皆さんと共有でき又、教員からさらに深いアドバイスがいただけるのではないかと考えます。
- ・ もう少し早くレポート・テストが返ってきて欲しかった
- ・ 良いレポートの公開 (すべて公開だと 参考にしにくい)
- ・ 良いレポートの紹介
- ・ レポート作成のポイントをもう少し明確して欲しい
- ・ レポートについてのフィードバックがあったら、なお良かったと思います。(自分の記述を反省できた。)
- ・ レポートの評価については、開講期間を通じて基準が一定ではなかったような印象がありました。
- ・ レポートのフィードバックがもう少し早いと良かったと思う
- ・ レポートのフィードバックについてどういう内容が良く、どういった部分が整合 (授業と) していないのか示されるべき
- ・ レポート返却後に財務分析についての補講があるとありがたかった

【キーワード「グループ」の改善点に関する自由意見】

- ・ 1 回 1 回のグループワークの時間が短い。

- ・ ビジネスプランとこの授業の両方で半年も同一グループのディスカッションは飽きる→ビジネスプラン自体に飽きる。
- ・ M3 と M4 でグループを入れ替えた方が、新たな視点がでて良いのでは。
- ・ 企業診断のようなものをグループワークでやりたかった。
- ・ グループ、ディスカッションの組み合わせが重複しないようにしてほしい
- ・ グループ、ディスカッションをさらにとり入れる方が良いと思う。(現状：M7のみ→各モジュールでグループディスカッションを行う。)
- ・ グループ課題では、個人の参加度合に差があるため、課題提出の方法を改善してほしい。
- ・ グループ数が多いければ、より多様な理解ができたと思う。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少しあると良かったです。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少し欲しい
- ・ グループディスカッションは有意義であるか？発表・質疑応答の時間をもっと欲しい
- ・ グループディスカッションを多くしてほしい
- ・ グループディスカッションを増やした方が良いのでは？
- ・ グループで作業する時間、理解不十分な点を確認する時間が欲しかった
- ・ グループで事業をする課題も欲しかった
- ・ グループでのディスカッションをもう少し長くしてほしい
- ・ グループディスカッションが マンネリ気味となった。他の科目の課題に追われていて十分な準備ができず、実のあるグループディスカッションとならないこともあった。
- ・ グループディスカッションの後の質疑応答時間をもう少し長くしてほしい
- ・ グループの温度差が激しい。(やる気がないチームは本当はない。)
- ・ グループの人数をもう少し減らす。
- ・ グループの発表時間がもっと長い方が詳しい説明ができると思います。
- ・ グループワーク、やる人とやらない人に差がありすぎる
- ・ グループワーク後の各グループの発表をする時、各グループごとに質疑もあった方が良い
- ・ グループワークが問題をともに解くという形だったので、自由な討議という感じではなかった。
- ・ グループワークで個人へのかたよりを是正する方法が難しかった。
- ・ グループワーク等を通じて、知識の確認・定着をできる時間が欲しかった。
- ・ グループワークと授業の温度差をなくすよう、学生に答えさせてはいかがでしょう。
- ・ グループワークに問題あり(何もしない人が同じ評価は不満です)
- ・ グループワークの課題が事前に分かっていた後が予習しやすい
- ・ グループワークの際、得意な分野のみ行おうとする人がいる。実体として分担作業になるので、予め、わり振られていても良いかと思う。
- ・ グループワークの時間が、もう少しだけ欲しい。→事前課題時点で、差が大きい
- ・ グループワークの進め方の案提示
- ・ グループワークのテーマが多過ぎる
- ・ グループワークのフォロー(個人+グループで)
- ・ グループワークのメンバーに問題がある場合がある
- ・ グループワークはスキルの差が大きく後半での実施は個人に負担が大きいとの印象をうけたので前半に実施する方が良いと考える
- ・ グループワークを行う機会を増やしてほしい
- ・ グループワークを行うことで学生間の理解度の差を縮められると思う
- ・ グループワークをもっと導入した方がよいと思う。
- ・ ケース、グループディスカッションから得るものがない、むしろテキストだけでも良い
- ・ 個人ワークとグループワークの提出も分かりにくい
- ・ 最後のグループワークの発表は 2 日前に渡り行くことを言うべきであった。

- ・ 座学ではなく、他の方法で楽しめる授業を演出して頂きたい。活動・作業・グループワークを中心に。
- ・ 次回ディスカッションのテーマをケース配布時に教えて欲しい。自分の考えをまとめてくれるし、スムーズにグループワークに入れるため。
- ・ 事前課題とグループワークの課題を統一して欲しい。予じめ踏み込んだ用意が可能になる。
- ・ 実際にマーケティングをやっている企業の方に話してもらって それを題材にして、グループディスカッションなどができるとさらに良いと思う。
- ・ 授業の中にもっとグループワークを取り入れて欲しかった
- ・ 資料（テキスト）の配布が遅く理解前にグループワークとなる
- ・ 事例研究でのグループディスカッションが欲しい
- ・ 全てのモジュールでグループ発表をするべき
- ・ ディベート形式よりも、グループの検討内容（問題点、戦略）を素直に発表し、質疑応答を行った方が効果があったのではないかな。
- ・ テーマを決めて、グループディスカッションがあっても良い。
- ・ ビジネスプラン発表のグループを2週で分けて欲しかった
- ・ もう少しグループディスカッションを取り入れても良かった。
- ・ もう少しグループでやる作業があれば良かったです。
- ・ もっとグループ調査、テーマをもう2つ程欲しかった。
- ・ やらない人にグループ内でマイナス評価をつけるシステムがあっても良いと思う
- ・ レクチャー課題→グループワークの方が理論の理解がすすむ
- ・ レクチャーの後にグループワークした方が理解しやすいと思います

【キーワード「事後課題」の改善点に関する自由意見】

- ・ ビジネスプランと関係のない題材で授業を行い、事後課題とビジネスプランに連動させるとよい
- ・ 教員からの事後課題のフィードバックが少ない
- ・ 事後課題・事前課題がもっと欲しかった
- ・ 事後課題で何が求められているのかが 良く分かりませんでした
- ・ 事後課題に対しての具体的な「赤」の指摘をもっとみたかったし教えて欲しい。
- ・ 事後課題に対してのディスカッションがしたい。時間をとってもらって教えて欲しい。
- ・ 事後課題の解説が長すぎる
- ・ 事後課題の評価（全体の）と、他の人の「このレポートを参考に」というのをあげてもらいたかった。
- ・ 事後課題の評価、フィードバックは行うべきだと思います。
- ・ 事後課題のフィードバックが後半に行くにつれなくなった
- ・ 事後課題のフォローが不足、消化不良で終わってしまった
- ・ 事後課題へのコメントをもう少し細かく書いて欲しい または、全体的な講評をして欲しい
- ・ 事後課題へのフォローが短く 何がだめなのかわからない。
- ・ 事後課題をアップしたものにはフィードバックが欲しい。
- ・ 事後課題をもっと早く返却して欲しい。同じ間違いを次のレポートでもしてしまうため。
- ・ 事前課題、事後課題の指定内容について、Eラーニング上に明示いただけると良かったと思います。
- ・ 事前課題なり事後課題なりをそれなりに出した方が良いのでは。
- ・ 毎日提出した事後課題に対するフィードバックが全くない点に不満を覚えます。

【キーワード「行う」の改善点に関する自由意見】

- ・ ビジネスプランと関係のない題材で授業を行い、事後課題とビジネスプランに連動させるとよい
- ・ アジアの話を行うと授業内容がブレる。北海道経済に特化すべき。
- ・ 会計・組織・マーケティング分析が別個に行われやすく、フレーム間の整合を保つのが難しい。ホワイトボードの内容を消してから次のフレームに進むことが一因となっている、すぐにEラーニングにアップして授業中に確認できるようにするなどの工夫が必要
- ・ グループ。ディスカッションをさらにとり入れる方が良いと思う。(現状：M7のみ→各モジュールでグループディスカッションを行う。)
- ・ グループワークの際、得意な分野のみ行おうとする人がいる。実体として分担作業になるので、予め、わり振られていても良いかと思う。
- ・ グループワークを行う機会を増やして欲しい
- ・ グループワークを行うことで学生間の理解度の差を縮められると思う
- ・ 最後のグループワークの発表は2日前に渡り行うことを言うべきであった。
- ・ 最終テストをペーパーだけにせず、実践テストも行えば良い
- ・ 事後課題の評価、フィードバックは行うべきだと思います。
- ・ 事後課題のフィードバックが後半に行くにつれなくなった
- ・ 授業について行けなかったです
- ・ すべて札幌サテライトで行って欲しかった
- ・ 教員の採点をスピーディーに行って欲しい
- ・ ディベート形式よりも、グループの検討内容(問題点、戦略)を素直に発表し、質疑応答を行った方が効果があったのではないか。
- ・ 幅広い業種、大きさの企業のケース分析を行うべきと考えます。(現状：北海道の製造業、中小企業のみ)
- ・ ほとんどの授業は札幌サテライトで行うことが可能であると考えます。移動時間(小樽←→札幌)の負担も社会人には大きい。札幌サテライトでの講義を強く望む。
- ・ マシン演習を使ってケース分析を行う方が良い

【キーワード「ビジネスプラン」の改善点に関する自由意見】

- ・ ビジネスプラン II ではないが、ビジネスプラン I にも個人課題をやらせるべき。
- ・ ビジネスプラン I との整合性を考えているようなので、必修とすべきだと思います。
- ・ ビジネスプランと課題がかぶってわかりにくい。
- ・ ビジネスプランと関係のない題材で授業を行い、事後課題とビジネスプランに連動させるとよい
- ・ ビジネスプランとこの授業の両方で半年も同一グループのディスカッションは飽きる→ビジネスプラン自体に飽きる。
- ・ 当科目とビジネスプラン I は関連性が高いとは思いますが、あくまでも別の課目であるので当授業の際にビジネスプラン I のテーマについてディスカッションするのは抵抗を感じる。
- ・ 何か1つの完成された事例(ビジネスプラン)の紹介
- ・ ビジネスプランの業種をそれぞれ自分の会社に関連付けると面白かったかもしれないと思います。
- ・ ビジネスプランの作り方のレクチャーをもう少しして欲しい。
- ・ ビジネスプランのテーマではない方が良い。プランが未熟なのでツールの活用がすべりになり中途半ばな感じがする。
- ・ ビジネスプラン発表のグループを2週で分けて欲しかった

【キーワード「学生」の改善点に関する自由意見】

- ・ 1人1人の学生の進み具合も見て頂きたかった。
- ・ 学生が多すぎる
- ・ 学生の実力差が大きいので、初心者向けの課題があると良い。
- ・ グループワークと授業の温度差をなくすよう、学生に答えさせてはいかがでしょう。
- ・ グループワークを行うことで学生間の理解度の差を縮められると思う
- ・ 採点の基準が4段階のため、差のつかない評点となっている 学生側に 配慮した事であるうが、不必要だと思う。
- ・ 学生の（質問）反応に反応しすぎ
- ・ 学生からのコメントを授業中に引き出すようにしたら良い。授業が続くときつい。
- ・ 学生側の発表する場面を入れると良いと思う。
- ・ 学生の中で話しの長い人がいるので、一定の時間がすぎれば説明を強制終了させるとの措置が必要です。
- ・ 教員自身のテクニックで、学生とワークしてもらえとなお良し
- ・ もう少し参加型の授業が良いが学生のレベル差を考えると難しい。
- ・ もっと学生の内発的動機付けがなされれば良かった
- ・ ワークの目的をはっきりと理解していない学生もいた。テキストには説明文だけではなく、具体例があれば、そういった学生も目的を理解しやすいのかもしれない、

【キーワード「グループディスカッション」の改善点に関する自由意見】

- ・ グループ・ディスカッションをさらにとり入れる方が良いと思う。（現状：M7のみ→各モジュールでグループディスカッションを行う。）
- ・ グループディスカッションの時間がもう少しあると良かったです。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少し欲しい
- ・ グループディスカッションは有意義であるか？発表・質疑応答の時間をもっと欲しい
- ・ グループディスカッションを多くして欲しい
- ・ グループディスカッションを増やした方が良いのでは？
- ・ グループディスカッションが マンネリ気味となった。他の科目の課題に追われていて十分な準備ができず、実のあるグループディスカッションとならないこともあった。
- ・ グループディスカッションの後の質疑応答時間をもう少し長くして欲しい
- ・ ケース、グループディスカッションから得るものがない、むしろテキストだけでも良い
- ・ 実際にマーケティングをやっている企業の方に話してもらって それを題材にして、グループディスカッションなどができるとさらに良いと思う。
- ・ 事例研究でのグループディスカッションが欲しい
- ・ テーマを決めて、グループディスカッションがあっても良い。
- ・ もう少しグループディスカッションを取り入れても良かった。

【キーワード「フィードバック」の改善点に関する自由意見】

- ・ 教員からの事後課題のフィードバックが少ない
- ・ 個人の提出物に対するフィードバックがなく、自分の認識度がつかめなかった。
- ・ 採点のフィードバックが遅いと感じた。特に第1課題の採点がまだである。
- ・ 事後課題の評価、フィードバックは行うべきだと思います。
- ・ 事後課題のフィードバックが後半に行くにつれなくなった
- ・ 事後課題をアップしたものにはフィードバックが欲しい。
- ・ 事前課題のレビューなどフィードバックを授業中にもっと時間を割いて欲しい。
- ・ すみやかなフィードバック。
- ・ フィードバックが遅いため、自分が授業内容を理解できているかどうか分かりづらい。
- ・ プレゼンテーション技術や文責、コミュニケーション能力を高められるようカリキュラム

して欲しい。→個人のプレゼンテーションに対する評価、フィードバックが欲しい!!

- ・ 毎日提出した事後課題に対するフィードバックが全くない点に不満を覚えます。
- ・ レポートについてのフィードバックがあったら、なお良かったと思います。(自分の記述を反省できた。)
- ・ レポートのフィードバックがもう少し早いと良かったと思う
- ・ レポートのフィードバックについてどういう内容が良く、どういった部分が整合(授業と)していないのか示されるべき

【キーワード「モジュール」の改善点に関する自由意見】

- ・ TOYOTA (M7) のケースの様に、自由に考えることを中間モジュールを入れてはどうでしょう
- ・ グループ、ディスカッションをさらにとり入れる方が良いと思う。(現状：M7のみ→各モジュールでグループディスカッションを行う。)
- ・ ケースとモジュールの目的の整合性がもう少しあったら良かったと思います。
- ・ 最初の3モジュールぐらい、到達目標がよ良く分からなかった
- ・ 事前課題一つ一つのテーマを明確にしてはどうか。(SWOT、4P、3C、…)後のモジュールは前回までのを全て使うなど
- ・ 全てのモジュールでグループ発表をするべき
- ・ 全員発表は良いと思う 最後のモジュールも2コマでok
- ・ 前半のモジュールから 実際の財務諸表を教材として使って欲しかった。
- ・ 前半のモジュールはディスカッションがなく 退屈だった。
- ・ 前半モジュールで、レクチャーとケースが結びつかく理解が不足している点。
- ・ 中盤のモジュールで、ワークが少ない回があり、できれば毎回参加する事のある構成にして欲しかった。
- ・ バラのプリントが多すぎて管理しづらい せめてヘッタかフッタにモジュール数を入れて欲しい。
- ・ もう1モジュールを最終レポートに当てていただくと、最後まで皆さんと共有でき又、教員からさらに深いアドバイスがいただけるのではないかと考えます。
- ・ モジュールとテキストの対応が分かりづらい

【キーワード「説明」の改善点に関する自由意見】

- ・ パワーポイントを使って説明して欲しい。
- ・ t分布の説明がもっと欲しい
- ・ グループの発表時間がもっと長い方が詳しい説明ができると思います。
- ・ ○○教員の説明をもっと現実的な話をして欲しかった。
- ・ システム演習の意味が無いと感じた、10分程の説明だけでもいいのでは?
- ・ 詳細な説明の際の板書が分かりづらい。
- ・ 学生の中で話しの長い人がいるので、一定の時間がすぎれば説明を強制終了させるとの措置が必要です。
- ・ 説明が非常に分かりにくい
- ・ ○○教員の説明の時間をもっと欲しかった
- ・ 特許について、分かりやすい判例を使って説明していただけるとより理解が深まったと思う。
- ・ 何のための手続きなのか明確にした上で説明する
- ・ 分析ツールの使い方についてももう少し詳しい説明があっても良かった。
- ・ 流通チャネルの説明には、今一步納得感がありません。
- ・ ワークの目的をはっきりと理解していない学生もいた。テキストには説明文だけではなく、

具体例があれば、そういった学生も目的を理解しやすいのかもしれない、

【キーワード「使う」の改善点に関する自由意見】

- ・ Eラーニングを使っていたら、さらに良いと思います。
- ・ Eラーニングをもう少し使えたら良かったと思います。
- ・ パワーポイントを使って説明して欲しい。
- ・ 原価計算を、目標設定や改善に使うに当たり、具体例を示して それに整合性が合う授業であれば興味がわき、理解しやすい
- ・ 現実に即して理論を使う。
- ・ 事前課題一つ一つのテーマを明確にしてはどうか。(SWOT、4P、3C、…)後のモジュールは前回までのを全て使うなど
- ・ 実例を使い良い・悪い文章の分析ができれば実際に書く時に有効だと思います。
- ・ 実例を使って欲しい
- ・ 前半のモジュールから 実際の財務諸表を教材として使って欲しかった。
- ・ 特許について、分かりやすい判例を使って説明していただくとより理解が深まったと思う。
- ・ 内容はとても為になる。その為 事前のケースをもう少し、分かりやすいケースを使い、設問内容を明確にしておけば ディスカッションも深まる。
- ・ マシン演習を使ってケース分析を行う方が良い
- ・ もっとケースを使ってやりたかった..

【キーワード「評価」の改善点に関する自由意見】

- ・ 教員によって評価の仕方に違いがあるので全員分を3人で評価すべき。
- ・ グループワークに問題あり (何もしない人が同じ評価は不満です)
- ・ ケースレポートの評価について、もっと細かい所までチェックして具体的な実例などを示せば分かりやすかったと思う。
- ・ 事後課題の評価 (全体の) と、他の人の「このレポートを参考に」というのをあげてもらいたかった。
- ・ 事後課題の評価、フィードバックは行うべきだと思います。
- ・ 教員1人で担当して頂きたい。→内容や評価方法で不一致では？
- ・ 戦略価値評価をM3あたりでやり、M4はケース分析+評価をあわせてやると良いのでは。
- ・ 発想力や着眼点のユニークさなどに対する評価がもう少し高くても良い。
- ・ プレゼンテーション技術や文責、コミュニケーション能力を高められるようカリキュラムして欲しい。→個人のプレゼンテーションに対する評価、フィードバックが欲しい
- ・ ベストレポート等の優秀なレポートについては 評価結果も公表していただいた方が、そのレポートのどのようところが優れているのかわかって良いと感じました。
- ・ やらない人にグループ内でマイナス評価をつけるシステムがあっても良いと思う
- ・ レポートの評価については、開講期間を通じて基準が一定ではなかったような印象がありました。

【キーワード「示す」の改善点に関する自由意見】

- ・ 3つの分析フレームの構造を示すプレゼンターム。
- ・ イノベーション論ではなく戦略論であることを事前に示して欲しかった
- ・ 色々な例をもう少し示して欲しかった
- ・ 解答例を示して。
- ・ 具体的な業務分担、システム設計の考え方を示していただきたかったと思います。
- ・ ケース分析はモデル解答も示して欲しかった。

- ・ ケースレポートの評価について、もっと細かい所までチェックして具体的な事例などを示せば分かりやすかったと思う。
- ・ 原価計算を、目標設定や改善に使うに当たり、具体例を示して それに整合性が合う授業であれば興味がわき、理解しやすい
- ・ 個人の職業に応じて、そうした業界の財務的特徴等を示してみたいかでしょう。
- ・ 授業を受けるために必要な最低限のレベルを示して欲しい。
- ・ 教員がこの時点で こう予測して ぴったり当てたとの事例を示して欲しかった。
- ・ レポートのフィードバックについてどういう内容が良く、どういった部分が整合(授業と)していないのか示されるべき

【キーワード「企業」の改善点に関する自由意見】

- ・ ERPを実際に導入している企業担当者の声の紹介
- ・ 環境経営の実践している企業訪問、(時間的に利●あるか?)
- ・ 企業活動の実務に関わる具体例を多くして欲しい コンテンツビジネスの権利処理など、
- ・ 企業事例は情報としてやや古い感じである
- ・ 企業診断のようなものをグループワークでやりたかった。
- ・ ケース I・ケース II を通じ 北海道もしくは北海道発の企業をとりあげて欲しかった。(北海道本社にはこだわらないが)
- ・ ケースの企業選定には問題があると思う
- ・ 最終のディベートのテーマを企業の戦略などのほうが良かった(道州制は興味が少ない為)
- ・ 実際にマーケティングをやっている企業の方に話してもらって それを題材にして、グループディスカッションなどができるとさらに良いと思う。
- ・ 事例が大手メーカーのみであった 道内の中小企業を事例に取り入れて欲しかった
- ・ 大企業ではなく中小企業を！(上場会社で)
- ・ 例えばマクドナルド、2位のモスと比べて10倍以上の年商で比較にならない もう少し比較しやすい企業で業界2位などの企業のほうが良かったと思う。
- ・ 中小企業の事例を元に授業を具体化して欲しかった。
- ・ 道内中小企業をケースに取り上げて欲しい
- ・ 幅広い業種、大きさの企業のケース分析を行うべきと考えます。(現状:北海道の製造業、中小企業のみ)
- ・ 北海道の企業もみてみたいケースがあった。
- ・ 身近な事例(国内の中小企業等)がもう少し欲しかった。
- ・ 悪い企業の勉強も興味があります

【キーワード「具体」の改善点に関する自由意見】

- ・ 企業活動の実務に関わる具体例を多くして欲しい コンテンツビジネスの権利処理など、
- ・ 具体的な内容をもう少し盛り込んで欲しかったです。
- ・ 具体的な業務分担、システム設計の考え方を示していただきたかったと思います。
- ・ 具体的な授業内容の活用
- ・ 具体例を沢山用意していただきたい
- ・ ケース以外にも具体例がもっと欲しい。
- ・ ケースレポートの評価について、もっと細かい所までチェックして具体的な事例などを示せば分かりやすかったと思う。
- ・ ケースレポートへのコメントに充分時間をかけていただいていると思うが、もっと具体的な指摘(改善点)をいただきたかった
- ・ 原価計算を、目標設定や改善に使うに当たり、具体例を示して それに整合性が合う授業であれば興味がわき、理解しやすい

- ・ 事後課題に対しての具体的な「赤」の指摘をもっとみたかったし教えて欲しい。
- ・ 数値を参照できる形でもう少し具体的に
- ・ 多変量解析の具体的手法や手順についての講義があると良かった。
- ・ 中小企業の事例を元に授業を具体化して欲しかった。
- ・ 理論を具体的におとしこんだフロー等をみたかった
- ・ ワークの目的をはっきりと理解していない学生もいた。テキストには説明文だけではなく、具体例があれば、そういった学生も目的を理解しやすいのかもしれない、

【キーワード「テーマ」の改善点に関する自由意見】

- ・ 各課題の提出時期と テーマの進行が調整しづらかった。
- ・ グループワークのテーマが多過ぎる
- ・ 最終のディベートのテーマを企業の戦略などの方が良かった（道州制は興味が少ない為）
- ・ 次回ディスカッションのテーマをケース配布時に教えて欲しい。自分の考えをまとめてくれるし、スムーズにグループワークに入れるため。
- ・ 事前課題一つ一つのテーマを明確にしてはどうか。（SWOT、4P、3C、…）後のモジュールは前回までのを全て使うなど
- ・ 地産地消のテーマでは 内容が似てくる
- ・ テーマを決めて、グループディスカッションがあっても良い。
- ・ 当科目とビジネスプラン I は関連性が高いとは思いますが、あくまでも別の課目であるので当授業の際にビジネスプラン I のテーマについてディスカッションするのは抵抗を感じる。
- ・ 半年間、同じテーマ、同じメンバーは苦しい、あきる→2回に分けて欲しい
- ・ ビジネスプランのテーマではない方が良い。プランが未熟なのでツールの活用がすべりになり 中途半ばな感じがする。
- ・ もっとグループ調査、テーマをもう2つ程欲しかった。

【キーワード「必要」の改善点に関する自由意見】

- ・ 「分析」→「解決策」→「実際のビジネスへの適用」←ここの部分が見えなかった。どうすべきかもう一段階の討論必要では。
- ・ ERP の概要を理解する必要があるだろうが特定のソフトの操作手順を覚える必要はどうか？
- ・ ERP を主軸にもってくる必要があったのかがまったくわからなかった。ERP とかだいの関連がもっと分かるようにして欲しい。
- ・ 会計・組織・マーケティング分析が別個に行われやすく、フレーム間の整合を保つのが難しい ホワイトボードの内容を消してから次のフレームに進むことが一因となっている、すぐにEラーニングにアップして授業中に確認できるようにするなどの工夫が必要
- ・ 経営者として必要な知識なのか甚だ疑問
- ・ 採点の基準が4段階のため、差のつかない評点となっている 学生側に 配慮した事であろうが、不必要だと思う。
- ・ 授業を受けるために必要な最低限のレベルを示して欲しい。
- ・ 学生の中で話しの長い人がいるので、一定の時間がすぎれば説明を強制終了させるとの措置が必要です。
- ・ 長文課題までに短文を書く練習が必要だと思った
- ・ 内容が現実的ではなく、本当に必要なことを聞いても答えてくれない
- ・ 他の授業にも言えることと思われるが、昨年からの更新も必要。

【キーワード「実際」の改善点に関する自由意見】

- ・ 「分析」→「解決策」→「実際のビジネスへの適用」←ここの部分が見えなかった。どうすべきかもう一段階の討論必要では。
- ・ ERP を実際に導入している企業担当者の声の紹介
- ・ 産業連関表の実際の活用法について、もっと詳しく知りたかった。
- ・ 実際にマーケティングをやっている企業の方に話してもらって それを題材にして、グループディスカッションなどができるとさらに良いと思う。
- ・ 実際のイノベーション活動とどのように結びついていくのかが知りたかった。
- ・ 実例を使い良い・悪い文章の分析ができれば実際に書く時に有効だと思います。
- ・ 生産管理の理論が実際の現場でどのように活用されているのかという点の授業がもっとあれば良い。
- ・ 前半のモジュールから 実際の財務諸表を教材として使って欲しかった。
- ・ もう少し 実際のケースを見てみたかった
- ・ もっと、実際の仕事の中での例を沢山知りたかった。

【キーワード「全体」の改善点に関する自由意見】

- ・ グループワークの全体ディスカッションを少しやって欲しかった。
- ・ クイズの量が多く全体をやりきるのに時間がかかった。
- ・ 事後課題の評価（全体の）と、他の人の「このレポートを参考に」というのをあげてもらいたかった。
- ・ 事後課題へのコメントをもう少し細かく書いて欲しい または、全体的な講評をして欲しい
- ・ 事前課題の解答に対する講評が欲しい。（全体的な）
- ・ 全体が理解できるレベルで、
- ・ 全体ディスカッションにもう少し時間が欲しい
- ・ 全体ディスカッションの時間を多めにとったら もっと 良かった。
- ・ 全体的にケースの日本語訳が変な場合が多くて、大変読みづらかったです。もう少しわかり易く日本語訳するか、ケースイシューを変えないで、わかりやすいものに書き変えるか、教材として昇華させていただきたいと思いました。
- ・ 全体の到達目標や、各Mの目的をもう少しクリアーにした方が、伝わりやすかったと思います。

【キーワード「テキスト」の改善点に関する自由意見】

- ・ ケース、グループディスカッションから得るものがない、むしろテキストだけでも良い
- ・ 授業テキストが当日にアップされるので せめて前日アップにして欲しい
- ・ 資料（テキスト）の配布が遅く理解前にグループワークとなる
- ・ テキストが絶版で、古書店でないと購入できない点。
- ・ テキストに沿って、テキストの内容をもっと活かして欲しい
- ・ テキストの提示が遅かった
- ・ モジュールとテキストの対応が分かりづらい
- ・ もっとテキストを読み込めば良かった。
- ・ ワークの目的をはっきりと理解していない学生もいた。テキストには説明文だけではなく、具体例があれば、そういった学生も目的を理解しやすいのかもしれない、

【キーワード「資料」の改善点に関する自由意見】

- ・ Eラーニングにアップされる資料がごちゃごちゃしていたから、まとめる
- ・ パワーポイント資料を事前に欲しい、
- ・ ケース資料を充実させる

- ・ ケースの資料が読みにくかった（PDF ファイルがうまく開けないなど）→できれば配布して欲しい。
- ・ 資料（テキスト）の配布が遅く理解前にグループワークとなる
- ・ 資料が適切で良かった
- ・ 資料は授業の1週間前にはEラーニングでアップする
- ・ 教員の意図は理解したが、やはり授業のパワーポイントの資料は事前配布して下さるとありがたい。
- ・ 他の課題も含めてボリュームが多すぎるため十分な資料を作れなかった。
- ・ 配布される資料のパワーポイントが小さすぎて読みづらかった

【キーワード「発表」の改善点に関する自由意見】

- ・ 各発表に対して意見を言って欲しい
- ・ グループディスカッションは有意義であるか？発表・質疑応答の時間をもっと欲しい
- ・ グループの発表時間がもっと長い方が詳しい説明ができると思います。
- ・ グループワーク後の各グループの発表をする時、各グループごとに質疑もあった方が良い
- ・ 最後のグループワークの発表は2日前に渡り行うことを言うべきであった。
- ・ 最後の個人発表の時間を守るよう、リードして欲しかった。
- ・ 事前課題についての意見発表をしてはいかがでしょうか。
- ・ 初回授業の事前課題をもう少し早く発表して欲しかった。
- ・ 全てのモジュールでグループ発表をするべき
- ・ 学生側の発表する場面を入れると良いと思う。
- ・ 全員発表は良いと思う 最後のモジュールも2コマでok
- ・ ディベート形式よりも、グループの検討内容（問題点、戦略）を素直に発表し、質疑応答を行った方が効果があったのではないかと。
- ・ ビジネスプラン発表のグループを2週で分けて欲しかった

5. 4 成績評価

5. 4. 1 履修者数と単位取得者数

本節は、「成績評価」の集計結果と分析結果で、本専攻の在学生および修了生の質を保証するためのものである。平成21年度前期開講科目に履修登録した学生数と単位取得者数を表8に示す。

表8 平成21年度履修者数と単位取得者数

| | 科目名(旧カリ名) | 科目名(新カリ名) | 平成18年度以前生 | | 平成19年度以降生 | | 合計 | |
|----|---------------------|---------------------|-----------|--------|-----------|--------|------|--------|
| | | | 履修者数 | 単位取得者数 | 履修者数 | 単位取得者数 | 履修者数 | 単位取得者数 |
| 1 | 経営戦略 | マネジメントと戦略 | | | 40 | 38 | 40 | 38 |
| 2 | 企業会計の基礎 | 企業会計の基礎 | | | 40 | 38 | 40 | 38 |
| 3 | 組織と人的資源管理 | 組織行動のマネジメント | | | 39 | 37 | 39 | 37 |
| 4 | マーケティング・マネジメント | マーケティングマネジメント | | | 39 | 37 | 39 | 37 |
| 5 | 情報の処理と活用 | 情報活用とビジネスライティング | | | 40 | 38 | 40 | 38 |
| 6 | アントレプレナーの系譜とリーダーシップ | アントレプレナーの系譜とリーダーシップ | | | 23 | 21 | 23 | 21 |
| 7 | 調査研究とデータ解析の技法 | 統計分析の基本 | | | 34 | 33 | 34 | 33 |
| 8 | 予算管理と業績評価 | 予算管理と業績評価 | | | 32 | 30 | 32 | 30 |
| 9 | ベンチャー起業論 | ベンチャー企業 | | | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 10 | ビジネス英語の実践 | 初級ビジネス英語 | | | 15 | 15 | 15 | 15 |
| 11 | 会計情報と経営分析 | 戦略的ファイナンス | | | 24 | 24 | 24 | 24 |
| 12 | 企業の社会的責任と経営倫理 | ビジネス法務の基礎 | | | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 13 | 事業革新と企業戦略 | 経営戦略とイノベーション | | | 34 | 32 | 34 | 32 |
| 14 | 顧客満足経営 | 顧客志向経営 | | | 28 | 28 | 28 | 28 |
| 15 | パブリック・マネジメント | パブリックマネジメント | | | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 16 | | ビジネスプランニングの技法 | | | 34 | 34 | 34 | 34 |
| 17 | | ビジネスエコノミクス | | | 13 | 12 | 13 | 12 |
| 18 | 組織運営のためのシステム構築法 | ビジネスプロセス構築 | | | 35 | 32 | 35 | 32 |
| 19 | 企業財務と税務戦略 | 企業財務と税務戦略 | | | 5 | 4 | 5 | 4 |
| 20 | 国際取引実務 | 国際取引の法務戦略 | 1 | 1 | 3 | 3 | 4 | 4 |
| 21 | 金融システムと企業発展 | 金融システムのアーキテクチャー | | | 13 | 12 | 13 | 12 |
| 22 | ライフサイエンスビジネス創造 | テクノロジービジネス創造 | | | 7 | 6 | 7 | 6 |
| 23 | 技術と事業革新 | 技術と事業革新 | 2 | 2 | 4 | 4 | 6 | 6 |
| 24 | 起業と法 | 会社設立とファイナンス | | | 15 | 11 | 15 | 11 |
| 25 | 市場調査法 | マーケティングの技法 | | | 8 | 6 | 8 | 6 |
| 26 | 生産管理 | 生産管理 | 1 | 0 | 5 | 5 | 6 | 5 |
| 27 | 組織的意思決定とIT | 組織的意思決定 | | | 20 | 19 | 20 | 19 |
| 28 | 北海道経済論・北東アジア研究 | 北海道経済と地域戦略 | | | 12 | 10 | 12 | 10 |
| 29 | 財務会計とIR戦略 | IR戦略 | | | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 30 | 経営者のための経営分析及び統計分析 | 将来予測の技術 | | | 14 | 10 | 14 | 10 |
| 31 | 知的財産の評価と活用戦略 | 知的財産の評価と活用戦略 | | | 8 | 7 | 8 | 7 |
| 32 | 環境と経営 | 環境経営戦略 | | | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 33 | 国際経営 | 国際経営 | — | — | — | — | — | — |
| 34 | 上級ビジネス英語 | 中級ビジネス英語 | — | — | — | — | — | — |
| 35 | 特殊講義 I | コーポレートファイナンス | | | 14 | 13 | 14 | 13 |

| | | | | | | | | |
|----|--------------|--------------|----|---|-----|-----|-----|-----|
| 36 | 特殊講義Ⅱ | 事業再生とリーダーシップ | 1 | 0 | 22 | 22 | 23 | 22 |
| 36 | 特殊講義Ⅲ | | — | — | — | — | — | — |
| 38 | | ビジネスプランニングⅠ | | | 38 | 38 | 38 | 38 |
| 39 | | ケーススタディⅠ | | | 38 | 38 | 38 | 38 |
| 40 | | ビジネスプランニングⅡ | 2 | 2 | 29 | 29 | 31 | 31 |
| 41 | | ケーススタディⅡ | 3 | 3 | 30 | 29 | 33 | 32 |
| 42 | ビジネス・プランⅢ | | | | | | | |
| 43 | ケース・スタディⅢ | | | | | | | |
| 44 | | ビジネスワークショップⅠ | | | 30 | 30 | 30 | 30 |
| 45 | | ビジネスワークショップⅡ | | | 30 | 30 | 30 | 30 |
| 46 | リサーチ・ワークショップ | | | | | | | |
| 合計 | | | 10 | 8 | 857 | 817 | 867 | 825 |

5.4.2 取得単位数とGPA

表8を見る限りでは多くの学生が単位を取得しており、本専攻の学習に問題を抱えている学生はいないように見える。しかし個々の学生についてGPAを計算すると異なった状況が見えてくる。ここでGPAは式(1)で計算されるもので、グレードポイント(GP)は表9のように定めている。

表9 成績表示及び成績評価基準

| 評価 | 成績評価基準 | GP | 評価内容 | 区分 |
|----|----------|----|--------------------------------|-----|
| 秀 | 100点～90点 | 4 | 授業の目的・内容の理解が特に優れている | 合格 |
| 優 | 89点～80点 | 3 | 授業の目的・内容が深く広く理解できている | |
| 良 | 79点～70点 | 2 | 授業の目的・内容が十分理解できている | |
| 可 | 69点～60点 | 1 | 授業の目的・内容が概ね理解できている | |
| 不可 | 59点以下 | 0 | 授業の目的・内容の理解が不十分である | 不合格 |
| 認 | 単位認定科目 | — | 他大学等で修得した科目を本専攻の単位として認定したことを表す | 対象外 |

$$GPA = \frac{(GP \times \text{修得単位数}) \text{の合計}}{\text{総履修登録単位数}} \dots \dots \dots (1)$$

式(1)にしたがってGPAを計算シグラフ化したものが図2および図3である。

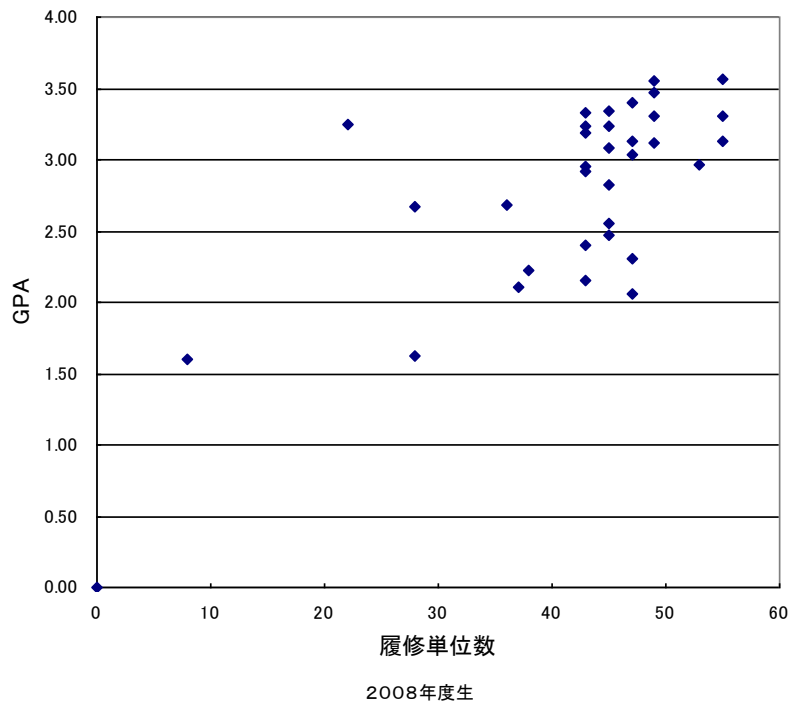


図2 2008年度生のGPAと履修単位数の様子

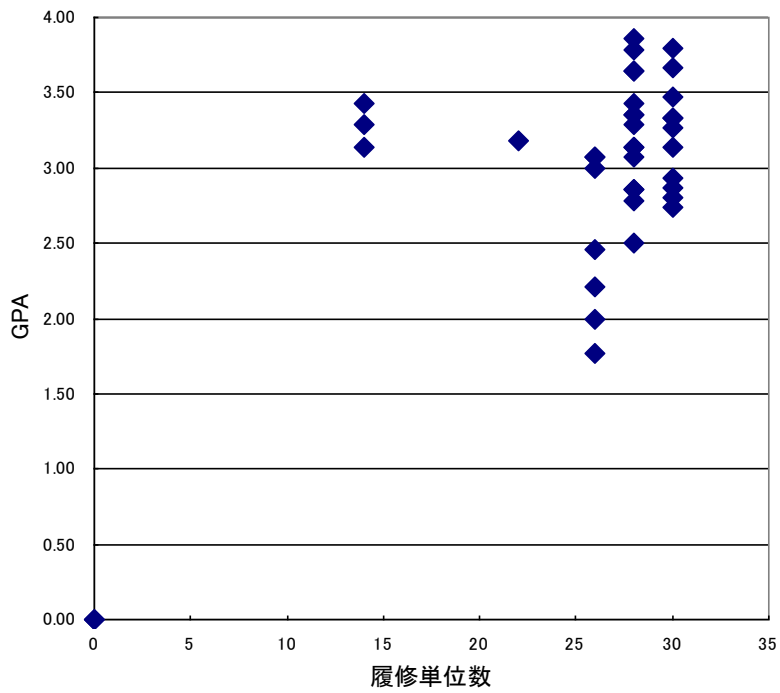


図3 2009年度生のGPAと履修単位数の様子

付録 I 平成 16 年度から平成 21 年度までの評価値の推移

付表1 評価値の推移

| 年度 | 全体の 評価値 | 9 項目の 評価値 | 評価項目の評価値 | | | 科目の評価値 | | |
|-------|------------|--------------|----------|------|------|--------|--------|------|
| | | | 最大値 | 最小値 | レンジ | 最大値 | 最小値 | レンジ |
| 16 年度 | 3.89 | 3.90 | 4.12 | 3.65 | 0.47 | 0.880 | -2.38 | 3.26 |
| 17 年度 | 4.16 | 4.16 | 4.30 | 3.85 | 0.45 | 0.88 | -2.033 | 2.91 |
| 18 年度 | 4.19 | 4.19 | 4.34 | 3.83 | 0.51 | 0.90 | -2.29 | 3.18 |
| 19 年度 | 4.27 | 4.27 | 4.44 | 3.93 | 0.51 | 1.07 | -2.20 | 3.27 |
| 20 年度 | 4.20 | 4.20* | 4.30 | 4.00 | 0.30 | 0.88 | -1.19 | 2.07 |
| 21 年度 | 4.13 | 4.20 | 4.25 | 3.93 | 0.32 | 0.63 | -1.09 | 1.72 |

*平成 20 年度からは「満足度」を除く 11 項目の平均値

付録Ⅱ 自由記述

- ・マネジメントと戦略”という科目名だが”経営戦略”などの表現の方が良いのでは。
- ・1 回休むだけで致命的に苦しくなるので、仲間と、復習がとても大切でした。思いとははなれた形で まず形にあてはめるというところが、いつもとちがって新鮮でした
- ・M3. M4 で各個人の発表を見ていると M1. M2 で手をぬいてきた人の差がはっきり 出てきていたのが 面白かったです。結局 財ムまで 1 度もやったことのない人がはじめて M4 にあたるとやはり厳しいと感じます (M4 に間に合わない方もいらっしゃいますし)
- ・1 年次から グループ分けの中で、ビジネスプランニング I、II の M2 の中で 1 人 1 回でも財務分析をやる形にした方が良いと思います
- ・改善等の具体的に記述についてもう少し説明をして欲しかった。
- ・過去も同じような改善要望があったと思うが、改善していないのでは？
- ・他の科目との温度差、レベル差があり、内容を変えるべき
- ・環境配慮の費用と利益の それぞれについて考えることができたことは環境配慮一方的な形にならなくて、良かったと思います (EMS にかたよらない形で 今後ともつづけて頂いと思います)
- ・2 人の先生の パート分けと つながりが、よりあれば良かったと思います。
- ・教科書が参考にならない。
- ・ERP は関係ない気がする。
- ・後輩に進めたいと あまり思わない
- ・ケース分析の分析ポイントの紹介。
- ・このような実務者、経営経験者の授業が欲しい
- ・プレゼンテーションの上手な教授であった
- ・苦手意識を持ってしまい 自習時間を作れませんでした。
- ・少しずつ理解できたので もう少し自習して使える様になりたいです。
- ・非常に学び、気づきが多くもてた
- ・現在のビジネス (勤務している会社での仕事) と切りはなし、本当に自ら事業化するためのプランニングとしてもっと意識する必要がある、例えば現在の仕事をやめたりした場合、等を想定して。
- ・プレゼンのやり方のレクチャーが必要
- ・企画のプレゼンになっていないし、訴える手法が欠如している
- ・北海道経済を牽引している企業を訪問し、インタビュー等したかった。又は講義の中で実例としてのレクチャーも良いのではないか？
- ・もう少しはっきり話して頂きたい。
- ・語尾が聞きとりにくい。

- 自分の学習不足で、理解不十分だったと思います。
- ゆっくりした口調で話してほしい
- 論文の書き方、発声方法など、一部あまり役に立つとは思えないような授業内容がある。
- 本当に必要な項目、求められる項目を再検討し 授業内容を構成してほしい
- 前期で学べたフォームや仕組みを大変シンプルに、わかりやすく説明していただき 大変わかりやすく ためになる授業だった。
- ●等作成をし検討し決裁しなくてはいけないが 体系的に勉強したことはなく、注意点をよく理解できた。
- 特に検討、検証する際の仕組みと注意点やBSCの具体的な例は大変勉強になりました。
- 本当に来年もうきたい位です。
- 1回の授業のボリュームがあった。1年かけて学んでいきたい実際の現場で活用してみようと思える内容と授業でした。又、事後課題が自分の組織に フィードバックさせ考えられるように工夫されており、より、授業の内容が深められた、
- 1年時にも 取れる様に した方が良いのでは？
- 1年前半から2年後半までの、体系的な授業内容の中での位置づけを示され、その中で適切な内容であったと思います。
- 20年度のシラバスに“本学で一番難易度が高い”と記載されていたので敬遠した学生が多かったと思う。非常によい授業であったので、その点が少し残念である。
- 2回目のワークから 机がないのに驚きましたが 授業のスタイルに合致していて生徒側も受け身ではられない状況をつくっているのは、良い方法だと思います。
- 3名の先生のチームワークの良さを感じました。とても素晴らしい授業であったと感謝しております。
- 4回の授業で1つの事業をつめるのはとても大変だと思いました。
- BPとのリンクのタイニングは良かったと思う。少し間述びする場合もあった。
- BPもそうですが 教科書のバージョンが2つあると 参照でまよいます。
- E-learningについては ほとんど使用していないので 評価は難しいと思います。
- Eラーニング上での確認が遅れて、この授業がとった方が望ましいことがわからず、日程を組んでしまったため 調整に苦労した。私だけとは思いますが・・・。
- Eラーニングでの議論では、単なる事後課題と異なり 皆さんの考えや体験などを知ることができ参考になりました。先生にももっと積極的に参加していただければよかったのではないかと感じています。
- Gディスカッションというものの位置づけが今一つよく理解できない。効果についてはそれなりに推測するが・・・
- M1. 2など前半は戦略的ファイナンスの意味がよくわからなかったが 原価企画のM6ごろから、標題となった理由がわかるようになり、大変有意義な授業であることがわかった。

- M4 の各自プランニングづくりは難しかった。
- M8 で終わるのが残念に思える程内容があり、楽しい講義でした。
- OBS の授業として 環境を考える事は大変重要だと思います。
- OBS 学生のレベル向上のために、更なる指導をすること。例えば、事後課題の優秀者の発表が行われているが、教官の模範回答又は回答シナリオ等を示すことにより全般的レベル向上に資すると考えます。
- OBS 最後の授業となりました。先生の体験授業を受け、OBS に入る決意をし、今の自分があります。ありがとうございました。今後も宜しくご指導願います。
- SNA 統計まで進めたら、全体として、もう少し理解がよかったかと思います。
- Very good!
- 扱った企業は財務的に優れており、問題点を捜す際 判断に迷う。
- 一番前期の中で 会社に行って実践でつかえた授業だった。逆に実務経験をもっと教えてもらう時間をとってもらえるともっと勉強になったと思う。
- イノベーションというよりは開発プロセスを内部・外部の視点からどうとらえるかについて授業のような気がしました。
- 今まで財務から逃げてましたが、個人ではやらざるを得ないので勉強になりました。
- 小樽での授業をモジュールをまとめてやってほしい (たとえば 隔週ではなく 月に1回、2モジュールでやるなど)
- お疲れ様でした ありがとうございました。
- お盆も近いので、これで成仏することにします。ありがとうございました。
- 会計事務所を見学したかった (時間が合わずできなかったのが残念)
- 会社の新任係長研修などで、1 日で簡単に説明される内容を半年かけて、じっくり学ぶことができて、大変有益であった。
- 課題・授業内容のボリュームが多かった。情報量が多かった。今後再度見直しを行って深めていきたい
- 課題に関わる時間が長すぎて大変苦痛であった。
- その割には実務への関係性はうすい様に思われる。
- 課題の締切 (特にケーススタディ) について、考慮が欲しい。
- 課題のボリュームが多すぎる。消化不良となる。
- 課題のみならず レクチャーの中でも例を出して 説明していただければイメージがしやすいです、
- 学期開始以前に簿記 3 級の取得を要請してはいかがでしょう。
- 構議の後に GW した方が議論に入りやすいと感じました。
- 紙に書いて試験を行ったのは 唯一この授業だけであったように思う。字がきたなく、漢字が全く書けなかった

- 関係性が一層理解を深めた。
- 管理会計科目は重要である。この科目の理解をより確かなものとするために、同管理会計科目
- 戦略ファイナンス”とのモジュール間のつながりがあると良いと思う。
- 管理会計の授業の様な気もしたが 工業簿記に毛が生えた程度だった
- 企業設立後の環境経営の難しさを勉強させられた講義であった。
- 今後の企業経営に環境視点が重要であると考えました。
- 企業にとって税務対策となる観点からご指導していただくと、実社会において役立つと思います。
- 基礎がない人も対象とするので、難しい面もあると思うが、具体的事象を中心とした実践的対応についての話をききたかった。（逆に基礎がないので、条文中心の概念の解説だけであるとなかなかビジネス場面に応用できるようなところまで持っていけないともいえる。）
- 教科書は難しいが、全体のレベルに合わせて説明してくれたことは良い点である。参考となるテキストをいくつか提示してもらいたかったと思います。
- 興味が深まった。
- グループディスカッション時間をもう少し短くして講義の時間をもう少し取って欲しい。
- グループ編成については、一考していただきたいと思います。
- グループワークに個人ワークも少しくわえた課題にすれば、自分の実力の向性にもうすこし役たてたと思います。個人としてグループ課題がむずかしい気がしました。
- グループワークの組み合わせによっては個人的に負担が大きい場合があるように思う。スキルや資質的な問題なので対応の方法は少ないかも知れないが、今後考慮があるとよいのでは。
- ケーススタディ形式を取り入れた方がよかった、
- ケーススタディの授業と、スケジュール的な負担感を調整していただけるとありがたい。
- ケースのその後は重要でないとのことだが、1 つくらいはその後こういう戦略をとったというような、紹介があっても良かったとも思う。それが1つの選択だという紹介であればそれが答えであると思う人はいないと思います。
- ケログの話はいらないような… 授業の内容に集中したいです。
- 現実性より論理性が求められる様に感じました。
- こういう、実社会の事例を体験談として、
- 講義内容が 概念の説明が多く、抽象的で分かりづらい。それが実際にどう役立っていくのか、とらえどころがない感じがする。とても良い先生であることは、間違いないが・・・。
- 後期も何らかの形で先生のご講義にふれられることを期待いたしております。
- 構造化の結論がすっきりと理解しづらいところが多かったが、そこと体系的に理解することが この授業の目的ではないかと考えました。
- ご教授、ありがとうございました。

- ご指導ありがとうございました！
- 個人間での取り組みの差が大きく、グループ毎に評価されることに違和感がある（第1課題）
第2課題の出来具合の差を見ると個人間の取り組みの差が大きいことがうかがえる 対人能力を伸ばす目的もあるようだが、あまりにも差が大きいうめるのは困難。
- 個人の心理状態を学問として学ぶ機会を初めて得て、大変、興味深く、今後、この授業で得たものを活用し、企業経営に、役立てたいと思います。ありがとうございました。
- 個人ワークで実現可能性レベルが 極端に低いものが見受けられた。「真面目にやれ」と思った。
- この授業のみならず、グループワークの組み合わせに問題ありと思います。寝ないで課題をやるメンバーと、家庭や仕事を理由に顔を出すだけの人が、同じ点数評価ではまずいと思います 評価者無記名のメンバー間評価、みたいなシステムなど考えないと、グループワークへのやる気が落ち、個人課題のみを欲する状況が生まれかねないと思います。
- このようなスキルは継続することが 大切だと思うので、授業が終わっても研究会の様な形で、定期的なエクササイズをしたい。
- 今回 タイミングがあわず ゲストコメンテーターの話が聞けなかったのが残念でした。
- 最高の授業でした。そして最後の授業にこれで良かったです！
- 最後の計算は手こずりそうです。
- 最初、この授業の意味がわからなかった。導入部での講義は工夫が必要だったと思う。もういなくなるらしいが、大学でも注意されたい。説明の工夫が理解に役に立ったとはいえるが。
- 才原先生の親切、丁寧な授業に大変好感が持てました
- 私の仕事の役に十分立ちそうです（コンプライアンス研修等）”
- 財務分析については、ケーススタディ I に入る前により詳細に教授していただける科目があった方がよいと思う。個人差が大きいように感じるため。
- 財ム分析の重要性は理解しているのですが、グラフ等を作るのに時間が かかってしまうのは自分にとって課題と感じた。
- サテライトでの授業はできないのでしょうか
- 参加できない、モジュールが2回あったが、1つ1つていねいに教えていただいて、わかりやすかった。大変勉強になりました。
- 産業連関分析は大変興味深かったが絶版の本を教科書とすることには疑問です。ほかの教材を指定すべき（もしくは配布すべき）
- 時間管理ができていなかった。
- M8 はシラバスでは 15 時限で終了でした。M6 で質問しましたが聞き入れられず、M8 は 16 時限迄ありました。なぜ？
- 質問のフォルダーが最後まで利用できなかった。なぜ？
- 課題の提出フォルダーの作成が遅く、画面にアップされない事もあった。

- M7 が サテライトではなく別の場所で開催されました。講義だけでしたが、理由が理解できない。
- 事後課題はいつも辛かったですが、グループワークは努めて楽しいものでした。他のメンバーから得るもの、気付がされる事が多かったです。
- 事前課題の資料が多く、理解するのに時間不足。
- 事前課題の段階では、課題の特定に行きつかず、グループ討論が役に立った。
- 事前課題はビジネスプランを考えるための理論的な課題にして欲しい。
- 実のところ期待していない授業だったが 意外にもとても楽しかった。また、実業務でも使える内容の授業でした ありがとうございます。
- 実務に活かせる内容であった。
- 私的な都合で、授業の後半は、参加するのみとなってしまう、内容をしっかりと記憶することまでできませんでした。
- 講義の内容は分かり易く、しっかりと受けるべきと反省しています。
- せっかく、受けた講義でするので後で落ちついたら、再復習しておこうと思います。半年ありがとうございます。
- 自分が勤める会社は道内企業で 290 万人の会員カードデータを保有しています。一日 70 万人くる CVS チューンです。そのデータはぼう大でそのデータのみかたを今回の分析の授業でみることが出来る様になりました。本当に 1 つの数字でも見方がかわりました。
- 自分で新規事業をたちあげることが多いなかで トップから与えられる仕事や課題をこなすことが多い。しかし、実際はそのビジネスプランを起業し、その理由と実行プランを作るためには様々な考えと行動力と、経営資源が必要ということがわかった。大変勉強になりました。
- 自分の能力が向上したと思うので、満足している。
- 重視すべき箇所がよく理解出来なかった。
- 授業内容、授業後のコミュニケーションも含め、大変役立ちました。ありがとうございます。
- 授業内容が、この範囲で終わったことについて、この先の統計分析ツールを利用する上で、不安感が残りました。先の科目との関連性を、もう少し示していただけるとありがたかったです。一方、丁寧な説明のおかげで、ほぼ、理解できないということは、なかったと思います。
- 授業に対する取り組みに温度差があり過ぎる。（スキルの優劣でなく）取り組み方が弱い人と同じチームになるとイライラしてくる。同様に真剣に取り組んでいない人に対して「何故真剣にディスカッサントしないといけないのかな？」とも思う。フリーライド防止の観点からも 内容のディスカッサントのみではなく、授業への取り組み態度の観点でもディスカッサントを取って成績に反映させて欲しい。
- 授業の後半のモジュールが難しく感じた。

- ・少人数でしか意味が無い点が学校としては悩みどころ。
- ・すばらしい授業だった
- ・すべてが正解で、すべてが不正解という見方ができるのが組織行動の深さだと感じました。
- ・瀬戸先生の科目は必習にしても良いと思う。
- ・全7回の授業は、非常に実践的且つ、判りやすくためになりました。ありがとうございました。
- ・全8回、ご教授ありがとうございました。
- ・前期4回では少ない。しかも後半2回はプレゼンを聞いている時間が長いので ちょっともったいない気がします。
- ・前期科目中、一番実りある講義でした。
- ・先生が一方的におしえる感じではなく、コミュニケーションをとりながらだったので、わかりやすかったです。
- ・先生によって評価に大きな差があり、どうすればいいのか少しまよいました。
- ・先生の講義は大変内容が豊富でしたので、個人的には本日で終わってしまうことが残念でなりません。各論をより深い形でまた先生に教えていただく機会があればと願っています。
- ・先生の適性を考えると、まったくふさわしくなかったです。
- ・先生の話がとても面白く、最後まであきらめることがなく、集中して授業にとりくめました。
- ・全体として 気づきの観点はとてもうまくいっていると思いますが、納得できる結論（問題点の整理）がなかなかできなかった様に思いました。結局は何をしたかたのかがうまく理解できませんでした。
- ・戦略ゲームは ケーススタディではなく 財務・会計の授業にしてほしい。ケース分析はケース分析だけの方がよいと思う、
- ・双方向型授業で参画意識（熱が入った）
- ・代替案の立案の必要性が、いまいち理解できない 現実の世界において AorB というのは希では？A+Bのよいところ取りを考えるはず。
- ・大変中身の濃い内容で、また実用性のある良い授業でした。内容に応じた、好事例企業やケースについて解説を交えたりするような、実例があると、理論の自社導入に役立てられるようになる。
- ・大変勉強になりました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。もしよければ、最近のケースでの分析を試みたかったです。
- ・大変有益でした。
- ・脱線が多かった
- ・楽しく学べましたが、小テストがつかかったです。
- ・短時間に先生が変更する意味が今ひとつよくわからなかった。専門性による関係だとは思いますが

ますが、その相互の関連づけが、私としてはよく理解できなかつた。

- それぞれ有意義な授業でしたが「ビジネス法務とは何か」というような授業が最初にありその後コンプライアンスなどの方がよかつたように思います。
- 長文レポートのテーマは、ビジネス・スクールに適したテーマ（例えば企業の経営スタイル等に関するもの）にするべきであると考えます。
- 定期的に顧別アドバイスを受ける仕組みを作る。聞くならどうぞと言わず フォローしてあげて欲しい。
- ディスカッションのボリュームが多過ぎて、時間内に処理できない部分があつた。分量について工夫が必要と思うのだが。
- テキストを読むだけではわからない事も、わかりやすく解説するので講義の価値がとても高く感じる。
- できれば札幌サテライトでお願いしたかつたです。
- 答案用紙（ケース）へのコメントは丁寧でよかつた。参考になつた。
- トータルに言えば満足度は高いが、盛りだくさんでデータマイニングは意味がよく分かつなかつたし、必要性についてよく理解できなかつたのですが。
- 特定の企業にかたより気味だつた気がします
- とてもおもしろい講義でした。もう少し時間をかけてじっくりと深めていければと感じました。
- とてもおもしろく学習できた。これからも 習つた方法で英語を学んで行きたい。Tankyou verry much!!
- とても楽しく有意義な授業でした。ありがとうございました。
- とてもとても、楽しく、意義があり、自分にとってためになる授業でした。本当にありがとうございました。
- とても良い教科でした。OBS にふさわしい内容だと思ひます。
- 取上げケース～現実味み乏しい。ゲーム的に感じてしまう
- 内容がありすぎて、個人的には消化しきれなかつた気がするのが残念です。
- 内容はとてもわかりやすいので、ゆっくり話してほしい。マイクは胸に付けて手をもっと有効活用すると良いと思う。
- 何の授業だかよくわからない内容であつた。ERP の話にフォーカスして欲しかつた。
- ○○先生は国で経済関係の仕事をしていたとうかがつたが、どんな仕事をしていたのか、仕事におけるエピソードなどをもう少し聞きたかつたと思ひます。
- 全体としては、とても好感が持てる、心地良く授業を受けられる科目でした。ありがとうございました。”
- 入学前に少しでも会計の勉強をすべきだつたと感じました。
- 初めて会計を学ぶ人が、スムーズに入つていけるよう、検討してほしい。

- パソコンの操作を一つ間違えると、あっという間に流れについていけなくなり、つらかった。
- はっきりと断言しない場面が多かったように感じた。この授業は学問ではなく実践を重視しているのだから、もっとかんけつ・明確に教えてほしい。またパワーポイントの構成ももっとわかりやすくしてほしい
- パワーポイントの使用・不使用に特にこだわる必要はないと思います。要は、授業の内容だと思いますので。
- パワーポイントのだるまを毎回使えば、もっと特ちょうの出るパワーポイントと内容にひきつけられると思います
- 半年ではもったいない、
- ビジネスプランについて環境経営への取り組みが良かった。
- 非常に興味深い内容でおもしろかったです。この講義は他の授業とは違った視点を得ることができると思いました。価格戦略、ゲーム理論等についてもまだまだ学びたかったです。
- 非常に楽しい授業でした。
- 非常に役に立ちました ありがとうございます。
- 評価と戦略を融合させ、従業員の行動を戦略にあう様、導くのに適している。こういった手法を、実務に活かす為にも、具体例を示して欲しい
- 表面的な検討から、経営判断の要素まで深く考えさせられたので大変ためになった。
- 分析ツールを使つての講義は難易度が高かった PC に不慣れであったため、大変、時間がかかってしまった PC の操作においては 学生の間はかなり格差が出てくるように思えた
- 分量が多いように感じる。ついて行くのが ぎりぎりであった。
- 平日の授業科目について 水曜日は、「定時退社日」などしている企業が多く、履修者側の都合に合わせ、水曜日の開講を多くしてほしい。そして、毎年同じ曜日に開講する授業があるなど、固定している傾向があるので、流動的にしてほしい。さらに言うならば、水曜日の開講を毎年変えてほしい。
- 他の科目と内容的に重複するものがあるが、それぞれの科目での位置付けの違いがもっと明確だと良いと思う。
- 他の授業でも良いのだが、自分のプレゼンをビデオにとって見てみたい。
- 本→概要→引用→所感のプロセスが良かった
- 本当は勉強になると思うが 実際の社長とかけはなれていると思う。 口当たりのいい授業だが もっといい積極性をもとめたかった。
- 難しかった の一言です。良く理解しきれず終るのが残念です。
- もう一段レベルの上のクラスもあって良いのでは と思いました。(特に金融関係者の方向けに…)
- もう少し重みづけとして 課題等を設定して欲しい。道州制をポイントとして情●ビジライを学ぶようなストーリーにあった課題などの設定が足りていないと思う。

- ・もう少し事例をいっぱい。
- ・用語がわかりづらい印象があるのでレジュメがもっと詳しいとよかったのでは
- ・予算と業績の勘合は 自社を見直す上で役に立ちました。時間配分をもう少し考えていただきたい。ケースの数 スライドにすべてを盛り込まず、+αの資料で示すなど。
- ・理解しきれていない点が、自分自身不満です。来年 レカレントで取るかもしれませんがその際は よろしくお願いします
- ・理解度にバラつきがある中で工夫されているのはよく伝わってきました。講師の問題というよりも、科目の持ち方として、もう少し中程度の人にフォーカスした授業内容となれば、もっとよいかと思います。そのためには、補習的な、キャッチアップの機会を別途設けることが必要だと思います。
- ・履修する学生のレベルにばらつきが大きかった。 プレ授業があれば、統計や数学が苦手な学生についていけるのでは？
- ・理論の軸が多すぎて理解が追いつきませんでした。
- ・レポート、事後課題の返却等が遅すぎる様に思います。遅くとも次モジュールまでには返却されるべきと考えます。
- ・レポートなど大変ですが、実力になる実感がある。BP と CS で1ヶ月毎の授業となるが 続けて講義があると、より効果的に学習出来ると思う。
- ・私の仕事柄、この授業の内容は大いに役立ち スキルアップできた。
- ・私はこの授業で気付いたことを すぐに実際の商品開発につかっています。それ位、この授業は活用できるすばらしい授業だったと思います。

最終ケースレポートはグループ課題でしたが、全く協力しない人物もおります。グループを組んでさまざま討議することは有益と思いますが、例えば討議はグループ、課題提出は個人別としてもらいたい。偶然決められた 7人グループとして提出、レポート点が80点だったとして、7人全員80点もらうようであれば 正直アホらしくてやってられません。2, 3人が本気で仕上げようとがんばるパターンが多く見うけられます、これはケーススタディのみではなく 全ての講義

5.5 自己評価

自己評価は、教育活動実施記録と学生による授業評価、教員による同僚評価（実施された場合）に基づいて行っており、平成21年度に開講した科目について自己評価書が提出されている。本報告書には、評価項目「V 自己評価レポート」を教員氏名、担当科目名とともに公開することとしている。

- ・「区分」基本科目 「科目名」マネジメントと戦略

「担当教員」 李 濟民

この科目は、経営者および事業レベルのマネジャ達の基本的役割を理解しながら、経営戦略の策定や遂行に必要な理論および分析ツールを学習することを目的としている。モジュール毎に代表的な戦略ツールの習熟とそのツールを利用して次のモジュールの前半で関連事例を分析しディスカッションを行うやり方によって、より深くケース分析を行うことができた。さらにモジュール7においては 籾本先生に一部講義とケースディスカッションを担当してもらった。ただ、一部のケースが前年と同じものを使用してしまったことは次年度に向けて改善すべき点だと思う。

・「区分」 基本科目 「科目名」 企業会計の基礎

「担当教員」 堺 昌彦

講義の焦点となるトピックと連動するケースと演習を組み込むことで、会計に対する関心の呼び起こしと知識の習得に一定の成果がみられた。しかし、これらの教材の開発は未だ十分とはいえず、まだフィードバックも受講生のニーズに必ずしも沿えていない側面がある。教材とフィードバックについてさらなる見直しと開発が必要である。

・「区分」 基本科目 「科目名」 組織行動のマネジメント

「担当教員」 出川 淳

本授業の目的は“組織行動のマネジメント”に関する基礎的な知識と実践的知見の習得である。このため、実際の組織マネジメントに際して有用性の高いと考えられる複数の理論を紹介し、そのうえで本授業における推奨理論を明確にすることをを行った。その結果、一定の成果は上げられたようだが、なお、講義の内容や有効性を高めるための研究・工夫等が必要と認識している。具体的には、より広範な理論および事例を調査し、質の高い講義や資料を実現していくとともに、限られた時間で履修生の理解を効率的に高めるための授業の進め方等に対する工夫も研究しなければならない。

・「区分」 基本科目 「科目名」 マーケティングマネジメント

「担当教員」 近藤公彦

理論とケースを統合的に活用し、ケース分析ではグループワークとプレゼンテーション、クラスディスカッションを効果的に実施することができた。

次年度に向けての改善点としては、ケースに関連した企業からゲスト・コメンテーターを招き、学生のケース分析のプレゼンテーションに関して当事者の観点からコメントをいただくことにより、学生の知見と洞察をさらに深めたい。

・「区分」 基本科目 「科目名」 情報活用とビジネスライティング

「担当教員」 奥田和重

「文書作成スキル」のモジュールでのグループワークとディスカッションを予定通りの実施する

ことが出来なかったので、レクチャーの時間配分を見直す必要がある。また、レポートを執筆する前のモジュール1・2終了時にA4版レポート1枚程度のレポートを課し、段階的に執筆できるようにする。

・「区分」基礎科目 「科目名」アントレプレナーの系譜とリーダーシップ

「担当教員」瀬戸 篤

初めて自著（未出版）原稿を分割して事前配布し行った講義であるが、反響は大きく、同時に学生諸君からの指摘により何をもって＜アントレプレナーの系譜＞と講義すべきかがよくわかった。これらの成果を発展させて、原著に戻る後期『ベンチャー企業』へと結びつけたい。

・「区分」基礎科目 「科目名」統計分析の基本

「担当教員」西山 茂

代表値、散布度など分布の特性、正規分布の活用など基礎的事柄は理解の浸透が見られた。コース終盤では、回帰分析など統計分析の現場に近い素材を、チーム討論を行いつつ学習させた。クラス全体としては概ね満足のできる水準に達したと思われる。しかしながら、基礎的概念を完全理解するまでの時間に個人差があり、ピラミッド型の授業進行の中で理解の深浅が徐々に拡大する傾向が認められる。より経営現場に密着した問題への取り組み方を希望する学生も一部にいる。授業の到達度目標をもう一度見直しすと同時に、インターネット授業、DVDへのコピーサービスによる補習メディアも活用しながら、チーム作業の比重を高める方向を検討しているところである。

・「区分」基礎科目 「科目名」予算管理と業績評価

「担当教員」乙政 佐吉

授業の目的を達成する上で、レクチャーによる基本的事項の理解、ケース・スタディによる考察、事後課題による内省という授業の進め方自体に問題はなかったと考える。しかしながら、授業を進める際の、レジュメの作り方、授業内容のボリューム、話し方、討論の仕方、タイム・マネジメントには改善の余地が認められる。これらの点については実践と反省を繰り返しながら改善していきたい。

・「区分」基礎科目 「科目名」ベンチャー企業

「担当教員」瀬戸 篤

学生の課題レポートにおいてもっとも反響が大きいホンダについて、ホンダ創設期に入社し直接、本田宗一郎と藤沢武雄の下で直接働いた経験ある仙台在住の元ホンダ専務をM8最終講義にお招きして、学生へのレクチャーとディスカッションをおこなった結果、非常に高い反響を得た。その講義内容があまりにも充実していたため、後段に用意されていた「ホンダにおける開発プロセス論」については分割し、H22年度前期開講『技術と事業革新』において再度レクチャーいただく予定である。

・「区分」基礎科目 「科目名」初級ビジネス英語

「担当教員」浦島 久

やっと参加者の英語レベルにあまり差がなくなったことで、授業が進めやすくなった。限られた時間数ですが、実践的な英語を楽しくそして効率的に学ぶ機会は提供出来ているのではないかと思います。

・「区分」基礎科目 「科目名」ビジネス法務の基礎

「担当教員」中村 秀雄、和田 健夫、道野 真弘

総合的な見地からビジネス関係法務を理解してもらうべく、教員間の連携を高める必要があるだろう。

ディスカッション、グループワークをもう少し取り入れるべく、努力したい。

・「区分」基礎科目 「科目名」経営戦略とイノベーション

「担当教員」玉井 健一

イノベーション論における複眼的な見方を講義することができた。ただし、本講義の目指すイノベーション論の全体像をはっきりさせてほしいという要望もあったので、この点に留意しながら講義内容を再検討したい。

・「区分」基礎科目 「科目名」顧客志向経営

「担当教員」松尾 睦

概ね計画通りの授業を実施することができた。今年度は、学生の意欲と能力が高かったため、スムーズに授業を運営することができた。今後は、地元企業、中小企業のケースを増やす努力をしたい。

・「区分」基礎科目 「科目名」パブリックマネジメント

「担当教員」相内 俊一

修了生に病院 PFI のケースを紹介してもらい、この講義の目指している水準を受講生に感じてもらうことができた。今後も、公務員である修了生などに講義に出てきてもらって、現場での価値判断や、パブリックマネジメントを学んでからの取り組みの変化などについて話してもらうつもりである。カバーする領域の広い講義だが、これまでのところ、受講生の満足度を下げずに進めてきていると自己評価している。

受講生、修了生、それに教員が相互に刺激し合って講義の質を高めていきたい。

・「区分」基礎科目 「科目名」ビジネスプランニングの技法

「担当教員」齋藤 一郎、出川 淳、山本 充

本授業では、ビジネスプランニングにおいて必要とされる各種分析技法をオムニバス形式で取り上げ、それぞれの技法の理論的なアウトラインとともに、実際にツールとして活用する能力を涵養することを主たる目的としている。2009年度では、①ビジネスプランニングの概要、②業界構造分析、③バリューチェーン分析、④市場分析、⑤ターゲティング、⑥利益モデルとモデリング、⑦SWOT分析、⑧戦略策定とRBVを順次取り上げ、履修者からは、事前課題の出題方法や提出物に対する改善を求められつつも、総じて一定の評価を得ることができた

他方、当該授業においては標準的かつ体系的なテキストが未だ公開されてはならず、MBAホルダーとして最低限、身につけるべき分析技法の選択や、各種技法の演習方法、あるいは実践科目との連携に関して、なお一考の余地を残している。

これらの問題への対処としては、次年度から演習支援のためのソフトウェアを導入したグループワーク運営を実施に移すとともに、テキストの公開、授業で取り上げる分析手法の入れ替えなどを通して、授業内容の改善に引き続き取り組んでいく。

・「区分」**基礎科目** 「科目名」**ビジネスエコノミクス**

「担当教員」**西山 茂、瀬戸 篤**

授業展開に当たっては、市場構造分析、価格・製品戦略の基礎となるゲーム理論、部分分析を超えた産業連関分析まで、最新の経済学からOBSの教育方針である「新規事業開発、ベンチャー起業と成長発展戦略を立案・実行等」に直接つながるトピックスを選別した。その結果、個々の学生間には経済学履修経験の違いによる到達度格差が認められたものの、全体としては概ね授業の目的・目標を達成した。

経済分析の知見と経営戦略との結びつきに目標を限定して授業設計を行ったことが効果的な学習を可能にし、極めて高い授業評価結果になったものと思われる。また、産業連関分析では、普段目に見えない産業間の相互依存関係が計量把握可能であり、農業自由化の影響が広範囲な産業全体に及ぶことを全員が計算のうえ確認した。

21年度はCOOP さっぽろが採ったデフレ時代の「値上げ戦略」を話題に最近の新聞、経済誌等の記事を教材として活用したが、よりヒストリカルな観点から類似ケースを活用することで、一層適切な意思決定分析に繋がる。組織論については21年度も時間的制約から割愛せざるをえなかった。こうしたことから、講義プランについては、質量の選択、テキストの編成、授業範囲の選択の各面から見直しを進めているところである。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**ビジネスプロセス構築**

「担当教員」**奥田 和重、出川 淳、田中 豊、石田 加奈子、立石 寿郎**

ケーススタディの中でERPがほとんど取り上げられないので、ERP導入による業務改革という趣旨が理解されていないようである。これが評価を全体的に低下させている要因になっていると思われる。これを改善するためには、ERPと業務改革の関連性をケーススタディの中で明確にする必要があるであろう。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**企業財務と税務戦略**

「担当教員」 富樫 正浩

税務という分野は、一定の会計知識が前提となるため、シラバスにおいても厳しい受講要件を課しているが、今年の履修者は、会計知識のレベルは一定ではなかったものの、極めて意欲的に受講し、それぞれの知識レベルに応じて理解しようと努めていた。

その結果、前年に引き続き、履修者全員が最終試験で高得点を獲得することができ、全体の理解度が高かったと思われる。

次年度も、同様のレベルでの授業を行っていきたいと考えている。

・「区分」 発展科目 「科目名」 国際取引の法務戦略

「担当教員」 中村 秀雄

国際取引の法務分野では、国ごとに、案件ごとに様々な法律が関係してくる。この授業ではとにかく、落とし穴はどこにでもある、ということを学んでもらいたかった。特に経営者は日本を標準に考えてはいけない。このことは実例を通して学んでもらえたと思う。また実務家による M&A の経験談も、興味深く受取ってもらった。

この授業は問題の所在を予知して、心しておくべきところを予め知って、心構えをする必要があることを、知ってもらうことを目指しており、実際の問題を解くものではない。いわば地震予知のようなもので、実際の方策は土地土地によって異なる。そこをどのように分かってもらえるか、もっと工夫がいると感じている。

・「区分」 発展科目 「科目名」 金融システムのアーキテクチャー

「担当教員」 齋藤 一郎

本授業では、企業家が事業を手がける際に直面する資金調達に伴う困難をシステムティックに解決する“場”としての金融システムの基本的な性格や、企業家の潜在的な発展能力に見合った資金仲介（あるいは資金媒介）のあり方についての理解を深めることを目的としている。

授業では、履修者の金融システムに関する基礎的な知見に相当なばらつきがみられるため、講義を主体として展開してきた。講義の中では、適宜、今日的なトピックスを取り上げるよう心掛けてきたが、「授業運営における双方向性の確保」という点で不断の取り組みが求められている。

学生による授業評価では、「ディスカッション」を除く評価項目について 4 点以上の評価を得ており、授業運営の方法に改善の余地を残しつつも、学生からは総じて一定程度の評価を得ることができたと思慮される。

来年度は、今年度に引き続き「授業運営における双方向性の確保」という点に鑑みて、講義内容を精査するとともに、履修者自身によるレポートの作成・発表とそれを巡るディスカッションの時間を確保し、座学による知識の吸収と実践の場での応用力の向上を両立させていきたい。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**テクノロジービジネス創造**

「担当教員」**瀬戸 篤、守内 哲也**

今年度よりこれまでのM4－7を一新して、知財・財務・戦略的提携・出口の4分野に関し首都圏および札幌から我が国を代表する専門家4名を、外部レクチャーとして本講義にお招きした。そして、各専門レクチャーと学生全員からのコメント・質問を必ず実施して、その後、本講義講師の瀬戸と守内がそれぞれ商学と医学の視点から解説コメントする方式を全面的に採用した。その結果、学生と外部レクチャーとのディスカッションは、M1－3の事前講義における事前把握もあり飛躍的に発展したと感ぜられた。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**技術と事業革新**

「担当教員」**瀬戸 篤、武田 立**

指定課題図書を対象とする精度の高い事前課題を学生諸君に求めるとともに、「なぜ、課題レポートが必要か?」「なぜ、指定課題図書は重要か?」「指定課題図書から、何を学ぶべきか?」という疑問に重点的に回答する形式の授業運営を目指した。

その結果、事前課題に対する全員の取り組み姿勢は、従来の「やらねばならない」から「なるほどだからこうなのか」へと大きく変化したように思われる。今後も、こうした説明が欠かせないことを確信した。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**会社設立とファイナンス**

「担当教員」**寺嶋 典裕、佐藤 等**

本年度に関しては、バックグラウンド、今後の事業・業務等を考慮すると全く受講に適さないような学生の受講があった。そのような学生は講義に対しての参画、寄与も低く、ベンチャー、起業といった側面ではマインド・能力に難があり、ディスカッションを中心として講義を進めようとする本授業の主旨に反し、その雰囲気損なうものであった。

発展科目は本来的には各受講生の今後の業務等に直接的に役立つものであるべきであり、上記のような学生の受講は、本人にとっても満足度が低く、教員サイドとしても非常に迷惑なものであり、お互いにとって不幸な結果に終わる可能性が高いと考えられる。したがって次年度においては、受講に際して事前にプロフィール、受講理由等を内容とした受講希望のレポートの提出等により受講生を絞り込むことも検討する必要があると考えている。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**マーケティングの技法**

「担当教員」**山本 充**

授業科目の課題である事業計画の策定においては供給者（事業者）側の視点から種々の戦略を考える傾向が強くなる。これは時間的制約の中で事業計画の妥当性を確保するため二次データを中心とした根拠情報への依存度が高いことに起因すると考えられる。本科目では消費者や顧客（つまり

需要)側に立脚した情報収集を習慣づけることを意図している。これをさらに強化するには、商品購入という意思決定行動がいくつかの段階をもつ選択行動であることを常に意識させる教育が必要であると感じ、選択行動の分析ツールを授業で取り上げようとする。

また、一連のリサーチプロセスの実践に加え、統計解析や多変量解析の手法を取り上げたいが、授業の時間的制約からうまく取り入れられていないので、この点についても少なくとも統計的検定などは実践させるように組み込むことを考える。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**生産管理**

「担当教員」**奥田 和重**

事前・事後課題のレポートについては、従前通りの対応で良いと思われる。一方、ディスカッションの機会を増やすためには、履修者が少人数であることから従前の講義形式ではなく、履修生同士のディスカッションを促すためにゼミ形式の授業としたほうがよいと思われる。また、機会があれば工場見学も実施したい。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**組織的意思決定**

「担当教員」**出川 淳**

対人コミュニケーションや論理思考の知見を真に理解し、それらを履修生が自らの実際に使えるスキルとして身につけるという点について、昨年度よりは知見の獲得において若干向上がみられたと考えているが、改善すべき点も残っている。具体的には、履修生が必要としているスキルをより効率的に身に付けられるようにするための質的な改善と、知見を身につける(つまり、しっかりと覚えて確かな知識とする)ことを実現するための、事前課題・事後課題のより有効な実施内容等に関する工夫である。前者については、コーチングのためのコミュニケーション等を候補として考えている。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**北海道経済と地域戦略**

「担当教員」**下川 哲央、小田 福男**

科目開始年度から試行錯誤と改善を続けているが、M1以前の独自の事前情報収集(Moduleゼロ(M0)レベル)で①履修仮登録制(3月下旬までにE-Learningに登録)の採用、②目的に対するM0小レポート提出、により、履修予定者のある程度の資質・目的意識の事前把握を行っており、それを授業設計に役立てる方法を探っている。

授業内容についての履修生相互の啓発・気付き等の共有を促し、過重な事後課題を避け、引き続き全員「4以上」レベルへの到達を確実に目指す。⇒「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」(山本五十六)が教育指導上の座右の銘。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**IR戦略**

「担当教員」**松本 康一郎**

受講生が5名という少数ではあったが、受講生からは、全科目の平均値を上回る評価を得た。2010年3月期連結決算より、上場会社に対して国際財務報告基準(IFRS)の任意適用が認められている。このことを踏まえて、2010年度は、2009年度までの授業以上に、企業経営におけるIR戦略の重要性を解き明かしていきたい。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**将来予測の技術**

「担当教員」**西山 茂**

投資、研究開発、販売などについて経営戦略を選択するためには将来予測が欠かせない。21度は前年度よりも一層広い範囲からデータ例を採りあげたうえで、GDP予測を最終レポート課題とした。統計ソフトとしてRを解説・使用した。しかし、ボックス・ジェンキンスのARIMA分析については、少なからぬ割合の履修者に理解不足の点が残りと、最終レポート課題を提出しない履修者も複数発生した。その理由としては、①エクセルによる解説からRを用いた実習に移る段階で急に難解になったとの印象を与えた、②ビジネスワークショップ中間発表会前後の時機に重要な話題をとりあげ、一度の欠席がその後の内容理解に大きく影響した、③1年次前期「統計分析の基本」未履修者が受講する場合、予備知識に不十分さが見受けられた、等の理由を指摘できる。22年度は授業ノートをモジュール別に再編集し補修教材としての利便性を高め、また統計ソフトRの基本操作を初回モジュールで解説するなど授業進行を工夫する。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**知的財産の評価と活用戦略**

「担当教員」**才原 慶道**

知的財産と呼ばれるものには多種多様なものがあり、企業活動には各種の知的財産法がさまざまな形でかかわってくる。この授業では、いわゆる知的財産法のうち、技術の保護・表現の保護という観点から、主に特許法と著作権法を取り上げた。限られた時間の中で、知的財産法の全体像を示すことは困難な作業ではあったが、少なくとも両法の要点については押さえることができたと思う。また、学生の興味をひきそうな話題を織り交ぜながら、企業等の現場において、実際に問題になりそうな事柄を可能な限り盛り込み、授業が平板なものにならないよう配慮した。論点が多岐にわたったが、随時、質疑に応じるなど、学生の理解を助けるよう努めたつもりである。知的財産法の基礎的な知識については伝えることができたと思う。この授業が、今後、学生が知的財産法を学んでいくきっかけになったとすれば幸いである。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**環境経営戦略**

「担当教員」**山本 充、八木宏樹**

環境経営は、自社の事業活動全体を網羅的かつ包括的に環境管理することが中心的になるが、環境管理に伴い発生するメリット・デメリットをどのようにマネジメントするかが難しい。無駄の発見による費用削減効果と環境対応による費用増加が収益構造に影響することを事業計画当初から見込むことで環境側面を考慮した事業運営が可能となる。しかし、一方では環境配慮がな

い事業により生み出される商品が市場において価格優位性を有し、市場のグリーン化の抑制要因となっている。このため、内部の環境管理だけでは環境経営の持続的運営が困難となり、市場のグリーン化への働きかけが必要となる。このような活動を推進する事業運営のあり方を学生と共に追究することが重要であると考えている。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**特殊講義Ⅰ（コーポレートファイナンス）**

「担当教員」**旗本 智之**

企業価値というわかりそうでわかりにくい概念を習得するために、細かくステップを設定して授業を行った。事前課題、小テスト、事後課題はすべて採点の上、返却した。授業でのグループディスカッションも学習効果を高めるよう、課題の設定、討論時間の管理について最大限の努力を払った。最終レポートで履修者の学習効果を評価すると、彼らは企業価値概念を正しく理解し、予測モデルを構築して企業価値を適切に評価していることが確認された。

・「区分」**発展科目** 「科目名」**特殊講義Ⅱ（事業再生とリーダーシップ）**

「担当教員」**吉村 仁、玉井 健一**

講義初年度であったが、自分として学生に教示したいことはできたのではないかと思う。E-Learning は知識の共有とコミュニケーション促進において極めて有益・有用なツールとして活用させて頂いたので、協力頂いた学生、関係者の方々に感謝する。クラスでの学生たちとの議論は楽しく、多くの新たな示唆に富み、こうした講義の場をもてたことは、自身の財産としてこれからも大切にしていきたいと考えている。

・「区分」**実践科目** 「科目名」**ビジネスプランニングⅠ**

「担当教員」**齋藤 一郎、出川 淳、山本 充**

今回の授業では1課題を全モジュールを通して実践する構成としたが、第2モジュールと第3モジュールの間隔が長く、これにより検討時間が十分与えられたことから相当な改善が見られた。この結果は初学者に対しては望ましいもののように思われるが、一方では長すぎるという意見もある。履修生の力量差が影響していることは明らかであるので、科目全体が初学者のプランニング実践に視点を置きつつ、個別のアドバイスの機会を設けることなどにより全員のスキル向上をより確実に実現する仕組みを検討する。

・「区分」**実践科目** 「科目名」**ビジネスプランニングⅡ**

「担当教員」**齋藤 一郎、出川 淳、山本 充**

2007年度の「ビジネス・プランⅡ」では、「既存企業の新規事業」および「製造小売型の新規事業」という若干特殊な（というより業界固有事情を孕んだ）形態のビジネスプランニングに取り組んでもらうことを通じて、ビジネスプランニングの総合的なスキルの向上を目的とした。

その結果、「価値の具現化」や「生産・業務プロセスの検討」などについては一定の成果があったが、「マーケティング」や「顧客満足維持・向上」、「経営環境の変化への対応」といった項目については、十分なレベルまで達しなかったようである。

したがって、2008年度以降は、本科目（来年度からは名称が「ビジネスプランニングⅡ」に変更）だけでなくその他のビジネスプラン関連科目（「ビジネスプランニングⅠ」、「ビジネスプランニングの技法」）においても、これらの点を強化するための授業内容に修正していく必要があると考えられる。

・「区分」**実践科目** 「科目名」**ケーススタディⅠ**

「担当教員」**近藤 公彦、玉井 健一、堺 昌彦**

学生間で差が出やすい財務・会計の能力を基準にグルーピングするとともに、グループ内でのディスカッション、クラスでのプレゼンテーションとディスカッションを行ったことにより、学生のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができた。

課題としては、M4のビジネス・ゲームをより効率的に授業設計することが挙げられる。

・「区分」**実践科目** 「科目名」**ケーススタディⅡ**

「担当教員」**近藤 公彦、玉井 健一、籾本 智之**

ケーススタディⅡでは、ケースの問題点発見から解決策の提示に至るまで、ケース分析に用いる理論、フレームを学生に自由に選択させている。学生の分析の自由度を高めることで、より高度なケース分析スキルを習得させることができた。

また、モジュール4において企業価値計算演習をテーマとし、推奨戦略を実行した際の財務成果を分析させることにより、財務的視点からの経営成果を推測する方法を会得させることができた。

第6章 FD 活動報告
(大学院教育開発部門)

第6章 FD 活動報告

6. 1 大学院教育開発部門の活動状況

6. 1. 1 大学院教育開発部門の活動

平成 21 年度の大学院教育開発部門会議は 3 回開催された。主な審議内容は以下のようである。

- (1) 平成 21 「年度活動方針について
- (2) 大学院 FD アンケートの実施について
- (3) 社会人受け入れに向けたカリキュラムの検討について
- (4) 大学院 GP への取組について

6. 1. 2 「大学院FDアンケート」集計結果について

教育開発センター助教 辻 義人

(1) 調査の概要

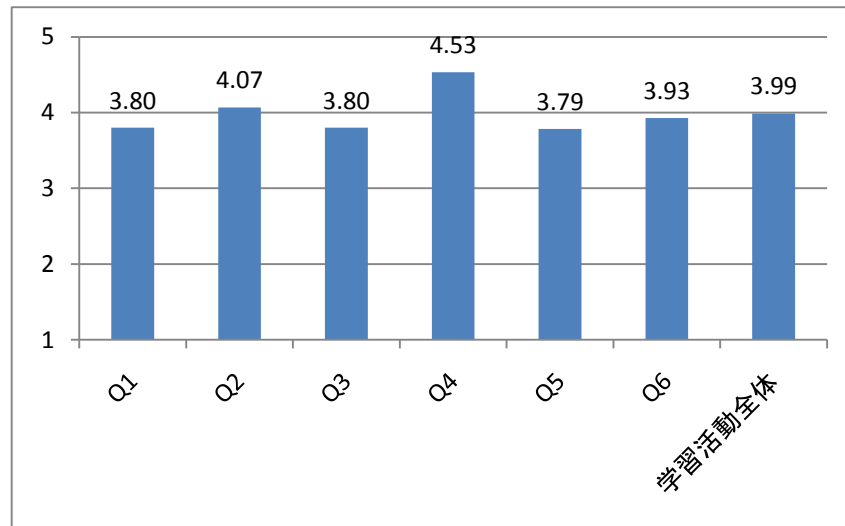
本学大学院における教育方法の改善を意図し、本学教員と履修学生を対象とした FD アンケートを実施した。調査対象は、平成 21 年度に大学院科目を担当した教員 44 名、ならびに大学院生（博士前期 22 名、博士後期 10 名）であった。

2009 年 12 月 3 日に回答用紙を配布し、2009 年 12 月 22 日まで回収した。その結果、担当教員 15 名（回収率 34.1%）、大学院生 15 名（回収率 46.9%）から回答が得られた。それぞれのアンケート結果について、詳細を以下に示す。

(2) 大学院生対象アンケートの集計結果

1. 学習・研究活動について

| | 質問項目 | 平均値 | SD | 回答数 |
|----|-----------------------|------|------|-----|
| Q1 | 興味深い科目が開講されている。 | 3.80 | 1.01 | 15 |
| Q2 | 幅広い内容の科目を選択できる。 | 4.07 | 0.80 | 15 |
| Q3 | シラバスに記載された通りの内容である。 | 3.80 | 1.01 | 15 |
| Q4 | 指導教員から十分な研究指導を受けている。 | 4.53 | 0.92 | 15 |
| Q5 | 科目の難易度は適切である。 | 3.79 | 0.80 | 14 |
| Q6 | 修了に要する講義科目の単位数は適切である。 | 3.93 | 0.83 | 14 |
| | 学習活動全体 | 3.99 | | |



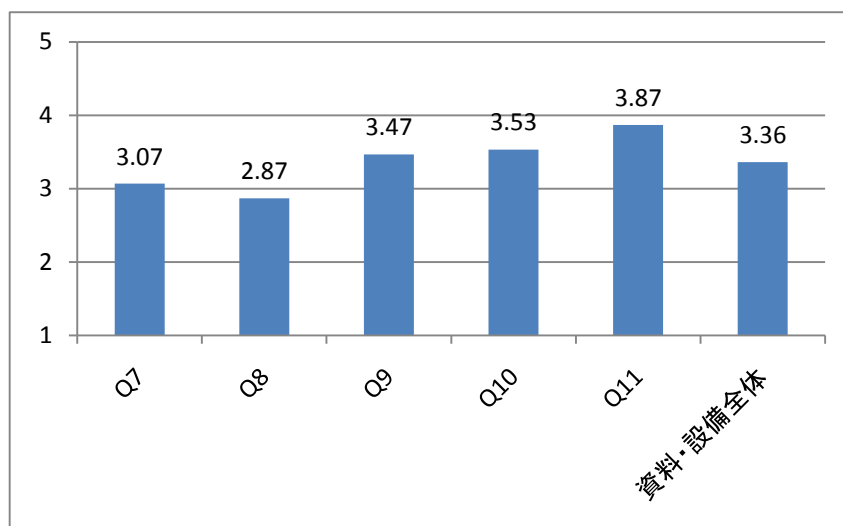
〈自由記述〉

- 科目数をもっと増やすことができれば幸いです。
- 博士後期課程は、講義科目ではなく、理論・統計・サーベイなど、学生の博士論文作成プロセスに重きを置いたコース設定（演習？）にしていきたい。
- 適切に指導できる教官が居ない。論文の評価をする教官が自分の専門に片寄り意見を言う傾向がある（勉強不足）。
- 幅広い選択肢があり、問題はないと思います。
- 学習・研究活動における不満や意見などは特にありません。

学習・研究活動に関して、特に大きな問題は見受けられなかった。特に、Q4「指導教員から十分な指導を受けている」の評定値が最も高く、学生は教員の指導に満足していることが伺える。学習活動全体の評定値も、4（やや満足）に近い。学生は、学習・研究活動について大きな不満はない模様である。

2. 資料や設備について

| | 質問項目 | 平均値 | SD | 回答数 |
|-----|-----------------------|------|------|-----|
| Q7 | 研究に必要な図書資料が整備されている。 | 3.07 | 1.16 | 15 |
| Q8 | 研究に必要な論文が整備されている。 | 2.87 | 1.19 | 15 |
| Q9 | 研究に必要なデータベースが整備されている。 | 3.47 | 1.06 | 15 |
| Q10 | 院生共同研究室は、研究活動に適している。 | 3.53 | 1.36 | 15 |
| Q11 | 学内設備(PCなど)の環境が整っている。 | 3.87 | 1.19 | 15 |
| | 資料・設備全体 | 3.36 | | |



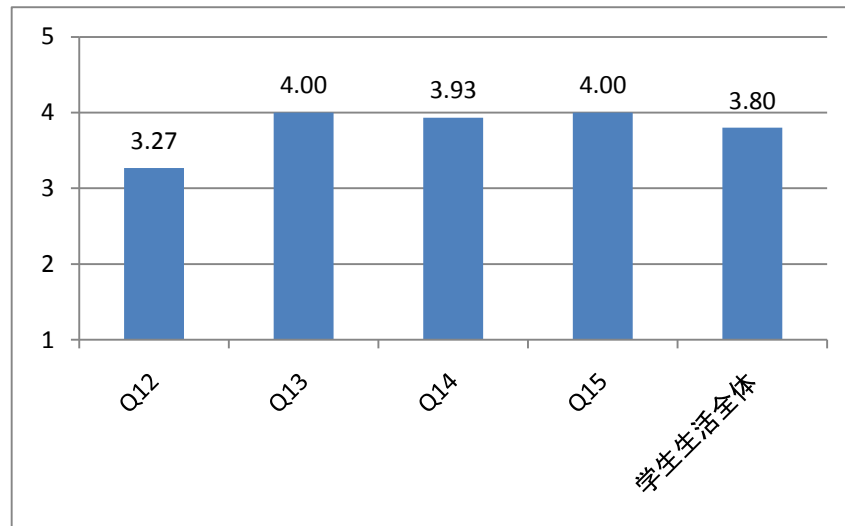
〈自由記述〉

- 図書館内の PC を少し増やしてもいいのではないかなと思います。
- EBSCO 等で対象となるフルペーパーが閲覧可能なジャーナルを増やして欲しい。
- 医療経営学に関係した論文、図書の購入をお願いする。他大学に行って調べている。
- 特に問題ありません。
- 図書館に研究に関する図書、論文資料が少ないと思う
- PC が少ない。無線 LAN が整備されれば研究室以外でも、利用できる。
- 海外文献や企業の財務データのデータベースが整っていないので、その点について改善して頂きたいと思います。
- 文献も英語の論文も少なすぎる

資料・設備に関しては、評定値が低い項目が多かった。特に「図書資料」と「論文」に関する評定値が低く、自由記述でも指摘されている。本学図書館の図書資料や論文、データベースの充実が期待されている。本学指導部がこの事態を認識され、積極的なイニシアティブをとられることを期待したい。同時に、学生の文献検索リテラシー（CiNii や、文献取り寄せサービスの利用など）についても、指導の余地があるのではないだろうか。

3. 学生生活全般について

| | 質問項目 | 平均値 | SD | 回答数 |
|-----|--------------------------|------|------|-----|
| Q12 | 研究や進路などを相談できる環境がある。 | 3.27 | 1.28 | 15 |
| Q13 | 学内の講義・ゼミ以外に、研究会などに参加したい。 | 4.00 | 0.93 | 15 |
| Q14 | 科目を決定する際、シラバスが参考になった。 | 3.93 | 0.88 | 15 |
| Q15 | 現在の大学院における学習活動に満足している。 | 4.00 | 0.76 | 15 |
| | 学生生活全体 | 3.80 | | |



〈自由記述〉

- 今年は工事があり、大変でしたが、来年以降は更に快適な環境で勉強することができると思います。
- 学生生活全般には十分満足しているので、意見等は特にありません。

学生生活全般については、Q12「研究や進路の相談環境」以外、概ね満足している結果が得られた。Q12「研究や進路の相談環境」については、評定値が低く標準偏差（SD）が高い。これは、相談できる環境にある学生の評価と、そうでない学生の評価が大きく異なっていたためと考えられる。後の意見に見られるように、大学院生は横の繋がりが、学部生と比較して希薄である傾向が伺える。今後、より利用しやすい「就職・進路の相談窓口（教員・職員など）」が必要ではないだろうか。

4. その他の意見（自由記述）

- 事務（全部ではない）に旧国立大学の体質を引き摺っている対応をする人がいる。職員の教育をお願いしたい。
- 院生の自治組織のようなものがないと大学での居場所や横の連携が取りにくい。社会人が多いので、一般の学生と全く同じようだと通学がしにくい。駐車場許可証の交付など臨機応変にしてほしい。
- 大学院生（特に後期）の駐車場は教職員と同じところでのよいのではないかと。時間なく、時に（夜6時以降）職員と同じところにやむなく置くことがあるが、必ず不愉快な張り紙が付いている。学生を「お客様」という意識がない。
- 大学院生の共同研究室にふとん、洗面道具、洋服などの家財道具をもちこみ自分の部屋のように使っている人がいます（留学生）。わりあてられている机に資料や印刷物を置いて占領しているので共同研究室を使うことができません。研究室の私有化をやめてほしいです。特に留学生にはきびしく指導してほしいです。
- 特にありません。

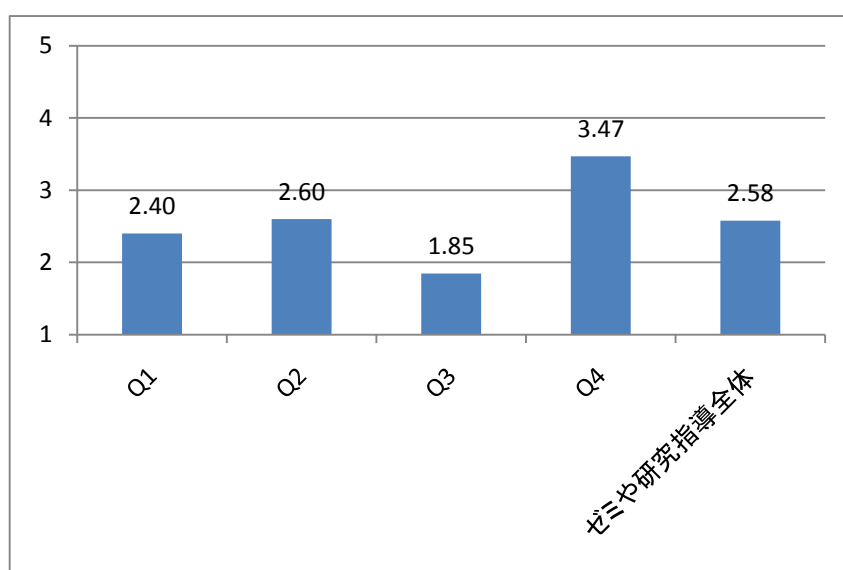
院生の共同研究室について、以前から苦情が寄せられている。共同施設の使い方について、

年に一回注意するだけでなく、継続的にチェックする体制が必要であろう。その他の意見として、職員教育について、院生の自治組織について、大学院生の駐車環境について、などが寄せられている。

(3) 教員対象アンケートの集計結果

1. ゼミや研究指導について

| 質問項目 | | 平均値 | 標準偏差 | 回答数 |
|-----------|----------------------------|------|------|-----|
| Q1 | 成績評価における共通した基準の必要性を感じる。 | 2.40 | 1.18 | 15 |
| Q2 | 授業において、さらに多くの補助(TA)が必要である。 | 2.60 | 1.30 | 15 |
| Q3 | 指導においてeラーニングシステムを利用している。 | 1.85 | 1.07 | 13 |
| Q4 | 院生に対して、より幅広い交流活動を期待している。 | 3.47 | 0.99 | 15 |
| ゼミや研究指導全体 | | 2.58 | | |



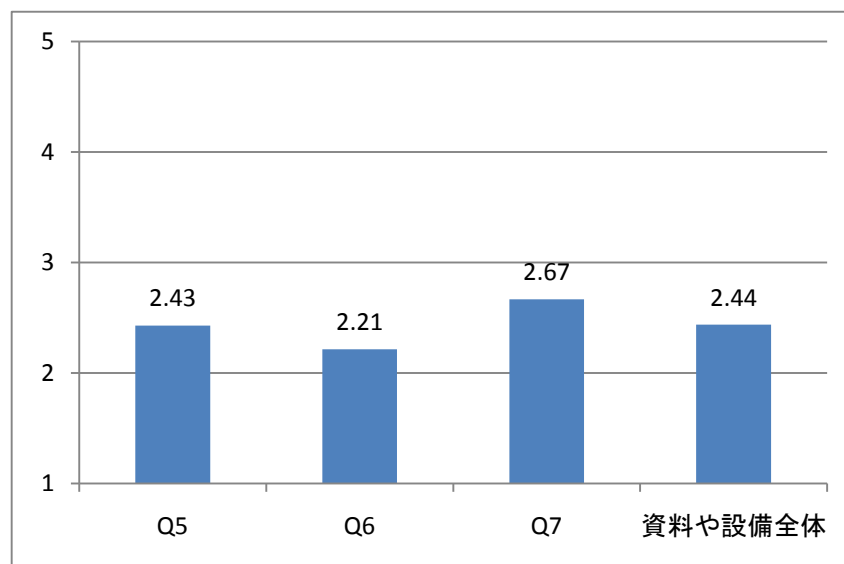
〈自由記述〉

- とにかく指導にとっても手間がかかる。まさに手とり足とりでやらないとまともな修士論文を書かせることができないと実感した。負担感が重い、他にかわって指導を分担できそうなスタッフはいないし・・・
- 前期課程では2年目に、後期課程では3年目に学生が就職活動をする場合があります。その場合、学位論文の取り組みに大きな支障をきたします。これが最大の問題であるように感じています。
- eラーニングシステムは不要である。

「院生の幅広い交流への期待」を除き、全体的に評定値が低い。あくまで私見であるが、「共通した評価基準」や「TAの増加」よりも、他の業務の負担軽減が求められているのではないだろうか。また、特にeラーニングの評価が低く、実態としてもほとんど利用されていない。このことから、eラーニングについて、根本的な見直し（機能や使い勝手など）が必要と考えられる。

2. 資料や設備について

| | 質問項目 | 平均値 | 標準偏差 | 回答数 |
|----|---------------------------|------|------|-----|
| Q5 | 研究指導に必要な資料が整備されている。 | 2.43 | 1.28 | 14 |
| Q6 | 図書資料や論文収集に関する学生の知識は十分である。 | 2.21 | 0.97 | 14 |
| Q7 | 学生の研究活動に必要な環境が、整備されている。 | 2.67 | 1.18 | 15 |
| | 資料や設備全体 | 2.44 | | |



〈自由記述〉

- ただでさえ怠惰な学生に論文検索させるのなら、もっと網羅的な電子ジャーナルを導入してほしい。
- 電子ジャーナルを充実してほしい。Science Direct や JSTOR などの電子ジャーナルサービスへ加入してほしい。
- 経済学関連の論文 DB を入れるべきである。
- 資料整備の状況は研究分野によって大きく異なるように思います。
- 研究室が十分に整備されていない印象がある。

教員の回答より、「図書館には十分な資料がない」と同時に、「院生の資料検索力は十分ではない」と考えられていることが示された。同様に、院生の研究環境についても、十分でないと認識されていることが伺える。学生対象のアンケート結果と同様、研究指導に要する資料の充実、また、院生が集中して研究できる環境の整備が必要であろう。

資料設備に関していえば、名前が挙げられている JSTOR は、アメリカ図書館協会が関わる過去の学術雑誌データベースで、セット内容の選択はともかくとして、現在たいていの大学図書館に設備されている基本的学術データベースであり、近年新設された博士課程の指導にも深く関わろう。毎年の契約料が高額な上で医師会の会報のような雑多な雑誌を含む Ebsco の契約を打ち切り、JSTOR のいずれかのセットを契約する方が本学にとって財政的にも遙かに有益ではなかろうか。また、学内各部局の残余予算の消化方法として、図書購入を行うことによって大学院教育環境の基礎的な整備を図ることも考えられないであろうか。いずれも、本学指導部のイニシアティブを期待するところである。

3. 大学院で必要なFDについて

| | 質問項目 | 平均値 | 標準偏差 | 回答数 |
|----|--------------------------|------|------|-----|
| Q8 | 授業方法の改善のため、組織的取組みが必要である。 | 2.64 | 1.01 | 14 |

〈自由記述〉

- 少人数の授業なので学生にあわせたオーダーメイド授業になる。学生の要望はその場で聞いて対応している。個人的には必要なし。
- 大学と教員が共同で研究費を出し合って、Science Direct や Jstor などの電子ジャーナルサービスへ加入すべきである。本大学今現在利用している EBSCO はとても不便である。
- まず、教員間で経験の交流をしたらいかがでしょうか？

大学院では学部と異なり、少人数を対象とした指導が多い。そのため、「組織的な取組み」の必要性はさほど感じられていないことが考えられる。ただ、大学院担当教員の横の連携について、「共同で新たなオンラインサービスへの加入」「他の教員との指導経験の交流」などの意見が見られた。

4. その他の意見について

- 現代商学専攻には、人文科学、社会科学、自然科学の授業科目と教員が含まれている。所定の単位数と学位論文についての要件が満たされれば、修了認定が与えられる仕組みになっている。しかし、修了生が、専門に学習した領域について、基礎的な理解を得ているか、疑問が残る。修了要件に、当該領域についての筆記試験の導入が検討されても良いのかも知れない。
- 電子ジャーナルの提供が不十分である。Science Direct や Jstor などのサービスは他大学の常識となっている！！
- 非常に少人数の教育であり、扱っているトピックの内容の伝授と理解が目標であり、かなり、特殊で個別的な事柄である。この目標に”組織的に”どのように取り組むのだろうか？

さほど意見の数は多くないものの、「大学院課程の教育効果の保証」、「指導に要する資料」、「少人数教育における組織化」に関する意見が寄せられた。学部教育においては、教育効果の保証が最近の重要テーマであるが、大学院における教育効果の保証については、さほど議論されていない。各大学において事情が異なるためと考えられるが、この観点については、今後、検討する価値が大いにあるものと思われる。

また、ここでも図書設備の問題が指摘されているが、これは小規模大学の本学が常に認識し、できるだけ解決を図るよう、頭を使って工夫すべき問題である。

5. 「研究指導に関する単位数」について（平成 20 年度に指導を担当された教員のみ回答）

【設問】本学では、平成 19 年度から、研究指導に関する単位数を以下のように変更しました。これは、段階的で進捗状況に合わせた研究指導の実現を意図したものです。

変更前：研究指導に関する演習（10 単位）

現在：アカデミックトレーニング（研究方法論など 4 単位）、研究指導 I～III（各 2 単位）

ここでは、上記の変更に伴う研究指導上の効果や問題についてお聞きします。

a. 段階的で進捗状況に合わせた研究指導について

〈効果〉

- 怠惰な学生に論文を書かせるにはいいシステムだと思いました。この方法でなければ、今指導している学生は 2 年で修了できないだろうと思います。
- 有益
- 半年ごとに成果が求められるため、教育効果は高まる。

〈問題点〉

- 物理的・精神的に負担
- 学科（コース）で対応がまちまち（中間報告会について）
- テーマによっては長期的な視点に立つ方が望ましいこともある。

賛否両論ながら、メリットは理解されている。その実施体制が問題ではないかと推測され、その存否の具体的な評価判断は早計であろう。

b. 正・副指導教員による指導体制の連携について

〈効果〉

- 副指導教員に要所要所で来ていただき意見を言ってもらうことで正指導教員・学生ともに学ぶ所がある。
- 有効
- 指導教員相互の連携がきちんをとれていれば有効である。

〈問題点〉

- 正・副の意見がもし割れたら学生は混乱するかも知れない（私の場合はないが）。また、正指導教員の要請がないと副指導教員は研究指導に参加しづらい。
- 院生のテーマに合わせて指導する教員が不足し、専門外の教員が対応している。
- 教員の意見が異なるとマイナスに作用するであろう。

複数教員での指導について、運用体制が整っていない様子が伺える。副指導教員に対する指導要請や、正・副で意見が割れたときの対応原則は定められているのだろうかという点を検討する必要がある。

c. 進級制限（二年次に進級するには、研究指導 I の単位取得が必要）について

- 学生に論文をまともに書かせるにはいいシステムです。

- これでよいと思います
- やむを得ないと思う。

全面的に賛成の意見が見られているとあってよい。

d. 履修細則改訂後の研究指導方針の変化について

〈具体的な取組み例〉

- 各Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに達成目標を設定してクリアさせて徐々に論文を完成させるように指導プランを組み立てた。
- とくに変更はしていません。

〈期待される成果〉

- 怠惰な学生に実力以上の論文を書かせることが出来そう。1人で書かせたら絶対無理です。

どの程度、研究指導體制に変更が見られたかは不明であるが、ステップアップ方式を取り入れるなど工夫をこらす教員がいることが伺える。

e. 履修細則の改正に関するその他の意見

- 副指導教員の役割を明確に入れる方がよいのでは？
- 大学院は専門的知識を高めるはずだが、一般教養化している。また、言語、一般は開店休業状態であり、是正すべき。

正・副指導教員制の運用体制、また、教育効果の保証に関する意見が見られた。

最後に、お忙しい中アンケートにご回答いただいた教員・院生の皆様に心より感謝したい。

編集：小樽商科大学教育開発センター

連絡先： 〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

- 小樽商科大学教育開発センター
電話 0134-27-5297

- 小樽商科大学学務課教育課程改善係
電話 0134-27-5240
FAX 0134-27-5243
e-mail kaizen@office.otaru-uc.ac.jp

ホームページ：<http://www.otaru-uc.ac.jp/hkyomu1/fdhome/index.htm>